

平成 27 年

# 全国一級河川の水質現況 詳細版

平成 28 年 8 月

国土交通省水管理・国土保全局河川環境課



## 目 次

第一章 河川水質の概要～水質改善の取組みと成果～	1
--------------------------	---

### 第二章 河川の水質現況

1. 水質汚濁に関する環境基準項目	3
(1) 水質調査地点	3
(2) 河川の流量	3
(3) 生活環境の保全に関する環境基準項目	4
1) 環境基準項目	4
2) 環境基準の満足状況	5
3) 調査地点の類型指定状況と水質状況	13
4) 調査地点のランク別水質状況	15
5) 都市河川・湖沼の水質状況の経年変化	21
(4) 人の健康の保護に関する環境基準項目	25
1) 環境基準項目	25
2) 要監視項目	27
(5) 農薬項目	29
(6) 水道関連項目（トリハロメタン生成能）	35
(7) 水生生物の保全	36
1) 環境基準項目	36
2) 要監視項目	39
2. 新しい水質指標	41
2.1 新しい水質指標(河川)	41
(1) 新しい水質指標(河川)とは	41
(2) 実施水系・地点数	42
(3) 参加者数	44
(4) 調査結果	45
(5) 「人と河川の豊かなふれあいの確保」	57
(6) 「豊かな生態系の確保」	60
(7) 「利用しやすい水質の確保」	63
(8) 「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」	66
2.2 新しい水質指標(湖沼)	68
(1) 新しい水質指標(湖沼)とは	68
(2) 実施水系・地点数	68
(3) 参加者数	69
(4) 調査結果	70
(5) 「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」	75
(6) 「豊かな生態系の確保」	78
(7) 「利用しやすい水質の確保」	81
(8) 「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」	84
3. 水生生物による簡易水質調査（水生生物調査）	86
(1) 調査の概要	86

(2) 調査結果	87
4. 身近な水環境の全国一斉調査	91
(1) 調査の概要	91
(2) 調査のまとめ	91
5. 微量化学物質（ダイオキシン類・内分泌かく乱化学物質）	93
(1) 調査概要	93
1) 対象物質	93
2) 調査地点および調査頻度	95
(2) 調査結果	96
(3) これまでの経年変化と今後の対応	98
6. 水質事故等の状況	125
(1) 水質事故の発生状況	125
(2) コイヘルペスの状況	128
(3) 水質汚濁対策連絡協議会	128

### 第三章 河川の水環境改善のための事業及び施策

1. 水質浄化対策等	129
2. 河川水量の回復	129
3. 清流ルネッサンス21・清流ルネッサンスⅡ	130
4. 湖沼の水質保全	133

参考資料1 一級河川の流量状況	135
参考資料2 環境基準（BOD又はCOD）を満足した地点の割合（水系別）	136
参考資料3 各種基準値（指針値）一覧	141
参考資料4 「水生生物による簡易水質調査」参加団体一覧	156
参考資料5 一級河川の全調査地点の水質	160
参考資料6 水系別コイヘルペス発生状況	170
参考資料7 平成27年一級河川の水質状況図	173
参考資料8 新しい水質指標による年間の総合評価	182

## 第一章 河川水質の概要～水質改善の取組みと成果～

公害問題が顕在化してきた昭和40年代以降、全国の河川では水質汚濁の著しい進行で、「汚い、臭い、遊べない」といわれる河川が多かった。国土交通省が、河川を考える上で最も重要な要素のひとつである河川水質について、年単位（1月～12月）でのとりまとめを始めたのは昭和46年であった。その当時、BOD平均値が5.0mg/lを超え、水質改善が急務であった地点は、一級河川的全調査地点の27%を占めていた。

しかし、このような一級河川の水質も、これまでの排水規制、下水道整備、河川浄化事業等の推進により徐々に改善されている。平成27年には、サケやアユが生息できる環境の目安となるBOD75%値が3.0mg/l以下である地点は、一級河川の調査地点全体の約98%を占めている。

例えば、昭和40年代の多摩川は水質悪化が進み、洗剤の泡が浮く汚濁した河川であった。その後、昭和50年代後半には、アユの遡上が確認されるまでに水質が改善され、近年では、清流といわれている四万十川の水質にも迫る良好な水質となっている。また、綾瀬川及び大和川は昭和40年代には都市化の進展に伴う水質汚濁が著しく、BOD75%値で30mg/lを超えていたが、水質改善の取組みにより確実に改善が図られ、特に大和川では、平成27年の代表地点のBOD75%値が2.0mg/lとなり、サケやアユが生息できる程度の水質になっている（図-1）。

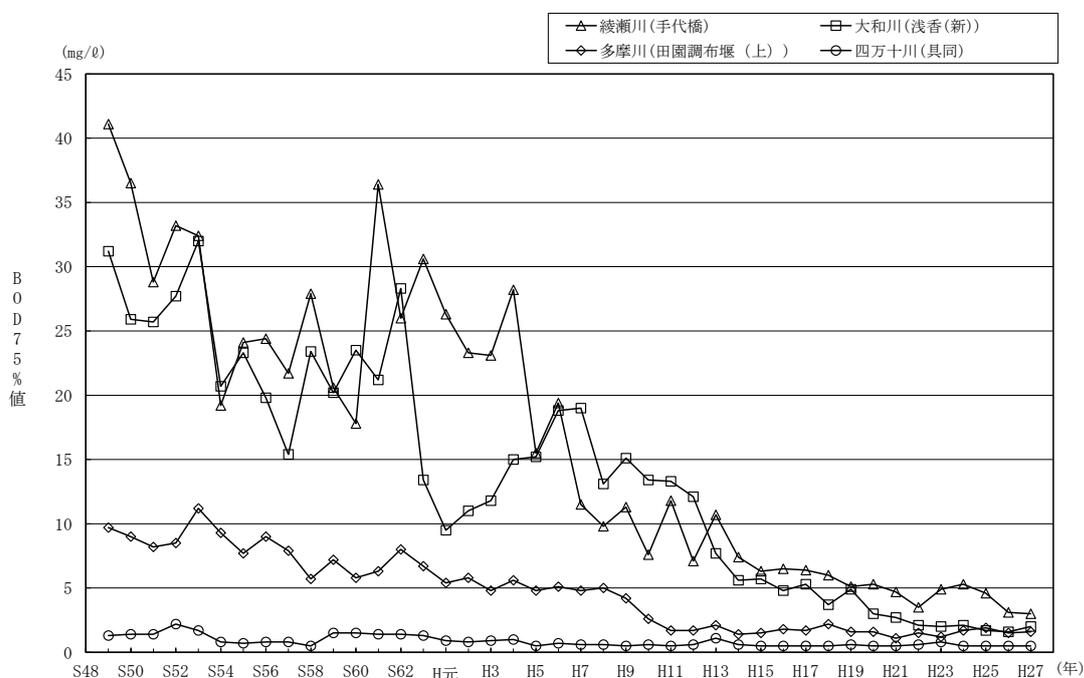


図-1 代表地点におけるBOD75%値の経年変化

このように、昭和40年代以降の水質改善の取組みの結果、汚濁の著しかった

一級河川の水質は確実に改善され、BODによる汚濁状況の調査結果によると、ほとんど全ての河川で水質は良好なものとなってきているが、都市を流れる一級河川の中・下流域及び流入支川の一部等では依然としてBOD値が高い調査地点もみられており、引き続き、各調査地点の水質と置かれている状況を踏まえて、水環境改善施策を実施していくことが求められている。

一方、湖沼の水質については、これまでの水質改善の取組みにも関わらず、閉鎖性水域のため滞留時間が長く内部生産等の影響を受けやすいため、CODの環境基準の満足率が低い。このような状況の中、平成17年6月に湖沼水質保全特別措置法の一部を改正する法律が公布された。この改正により、農地・市街地から流出する汚濁負荷対策の推進、排水規制の強化、「湖辺環境保護地区」の指定による水質浄化機能の確保を図ることとなり、水質改善のさらなる取組みが進められている。

## 第二章 河川の水質現況

### 1. 水質汚濁に関する環境基準項目

#### (1) 水質調査地点

水質調査は、昭和33年に8水系54地点において開始され、その後調査地点を増やし今日に至っている。

平成27年における一級河川の水質調査は、湖沼を含む直轄管理区間（一部指定区間を含む）の109水系1,079地点において実施している<sup>注1</sup>。直轄管理区間の河川延長が約10,590km（平成27年4月現在）であることから、平均すると延長約10kmに1地点の割合で水質調査を実施したことになる。国土交通省では、これらの地点において定期的に水質調査を実施している。

本報告では、都道府県が観測している直轄管理区間内の16地点を含め1,095地点のデータを対象にとりまとめを行った。なお、水質調査のとりまとめにあたっては平成27年1月から12月の調査結果を使用しており、地方別の値のとりまとめは、北海道開発局及び各地方整備局の管轄区域を集計単位とした。農薬項目に関するゴルフ場関連地点（排水口等）をあわせて水質調査の総検体数は、280,300検体にのぼる。

#### (2) 河川の流量

河川の水質の経年変化を評価するにあたり、水質は流量の大小の影響を受けることから、平成26年と平成27年の河川の流量を比較した。

国土交通省で実施している流量観測結果に基づき、一級河川の基準地点における年間総流出量の合計及び低水流量の合計についてまとめたものが表-1である（参考資料1参照）。

表-1 一級河川の流量状況

	平成26年	平成27年	対前年比
基準地点における年間総流出量の合計	2,581億 <sup>3</sup> m <sup>3</sup>	2,658億 <sup>3</sup> m <sup>3</sup>	103%
基準地点における低水流量*の合計	4,142m <sup>3</sup> /s	4,215m <sup>3</sup> /s	102%
備考	平成27年の年間総流出量及び低水流量の合計値は速報値である。		

\* 低水流量：一年を通じて275日はこれを下らない流量

<sup>注1</sup> 調査地点としては1,079地点であるが、平成27年に観測を行ったのは1,076地点である。川内川水系川内川/鶴田ダムST-II、鶴田ダム監視点-I、鶴田ダム監視点-ロの3地点では、観測地点の見直しを行い、現在、休止としている。

### (3) 生活環境の保全に関する環境基準項目

#### 1) 環境基準項目

生活環境の保全に関する環境基準の項目について、河川の場合は水質汚濁の代表指標であるBOD<sup>注2</sup>の75%値<sup>注3</sup>、湖沼及び海域の場合は水質汚濁の代表指標であるCOD<sup>注4</sup>の75%値及び総窒素、総リン<sup>注5</sup>の年間平均値によって整理した。

「2) 環境基準の満足状況」において、河川とは湖沼を除く地点であり、湖沼とは天然湖沼及び貯水量が1,000万立方メートル以上であり、かつ、水の滞留時間が4日間以上である人工湖を示す。ただし、人工湖であっても水域類型が河川として指定されている場合には、河川とみなす。

「4) 調査地点のランク別水質状況」においては、水域類型が河川として指定されているダム貯水池については湖沼に準じて扱うこととする。

---

<sup>注2</sup> BOD(Biochemical Oxygen Demand：生物化学的酸素要求量)とは、溶存酸素存在のもとで水中の有機物を栄養源として好気性微生物が増殖・呼吸するときに消費される酸素量で、20℃5日間で消費される溶存酸素量(mg/l)を標準とする。一般的に水質汚濁を示す代表的な指標で、水質関係の各種法令で規制項目として採用されている。

<sup>注3</sup> BOD及びCODにおける環境基準の達成状況は、公共用水域が通常の状態(河川にあつては低水流量以上の流量)にあるときの測定値によって判断することとなっている。しかし、低水流量時の水質の把握が非常に困難であるため、BOD及びCODについては測定された年度のデータのうち、75%以上のデータが基準値を達成することをもって評価することとしたものである。例えば、月一回の測定の場合、日平均値を水質の良いものから12個並べたとき、水質の良い方から9番目が75%値となる。この値が基準値に適合することをもって、当該測定地点において環境基準を達成しているとみなすこととされている。

<sup>注4</sup> COD(Chemical Oxygen Demand：化学的酸素要求量)とは、水中の有機物等を過マンガン酸カリウム(KMnO<sub>4</sub>)で化学的に酸化するとき消費される酸化剤の量を、対応する酸素量であらわしたものである。BODと同様、水質汚濁を示す代表的指標である。

<sup>注5</sup> 総窒素、総リン：総窒素(T-N)とは、窒素化合物全体を示し、総リン(T-P)はリン化合物全体を示す。窒素、リンはともに動植物の増殖に欠かせない元素であり、植物プランクトンの増殖に関与するため、富栄養化の目安となるものである。

## 2) 環境基準の満足状況<sup>注6</sup>

### ①環境基準の類型指定状況

環境基準の類型指定は、全国の一級河川109水系全てについて行われている。このうち、直轄管理区間における類型指定延長は、全体で約9,220kmであり、その内訳はA A類型区間：約980km、A類型区間：約5,780km、B類型区間：約2,100km、C類型区間：約220km、D類型区間：約110km、E類型区間：約30kmとなっている。平成27年は、1地点において新たに類型指定された。(表-2参照)。

表-2 類型指定見直し地点及び新たに類型指定された地点の一覧

地点	種別	平成26年	平成27年
松阪東大橋（櫛田川水系櫛田川）	新規	—	A

<sup>注6</sup> 環境基準の満足状況

本報告は、国土交通省が河川管理者の立場から実施した全国一級河川の水質調査結果（平成27年1月～12月）をとりまとめたものである。

本報告で「満足」とする表現を用いている理由は、水質汚濁防止法に基づき年度毎に公共用水域の水質の汚濁状況を環境基準との比較で評価する場合の「達成」とする表現と区別するためである。

②調査地点の環境基準の満足状況

平成27年における類型指定区間内の調査地点は全国で980地点（河川879地点、湖沼99地点、海域2地点）となっている<sup>注7</sup>。

これらの調査地点における環境基準を満足した地点の割合を表-3に示す。

平成27年の環境基準を満足した地点の割合は、河川は平成26年と同じ97%、湖沼は2ポイント低い42%であった。全体では平成26年より1ポイント高い92%で、過去最高の値であった。

表-3 河川、湖沼、海域別環境基準を満足した地点数及び割合

	平成26年			平成27年		
	調査地点数	満足した地点数	割合	調査地点数	満足した地点数	割合
河川	879	850	97%	879	857	97%
湖沼	99	42	42%	99	40	40%
海域	2	2	100%	2	2	100%
全体	980	894	91%	980	899	92%

これらの調査地点について、BODまたはCODの環境基準を満足した地点の割合の経年変化を、年間総流出量の合計の経年変化及び低水流量の合計の経年変化と比較したものが図-2(1)、図-2(2)である。

環境基準を満足した地点の割合は、年間総流出量の合計と同様な傾向の変動を示しつつ、経年的にみると増加の傾向を示している。

<sup>注7</sup> 調査地点としては983地点であるが、平成27年に観測を行ったのは980地点で、川内川水系川内川/鶴田ダムST-II、鶴田ダム監視点-I、鶴田ダム監視点-ロの3地点では、観測を行っていない。なお、琵琶湖については調査地点が多いことから、環境基準点のみを評価対象とした。

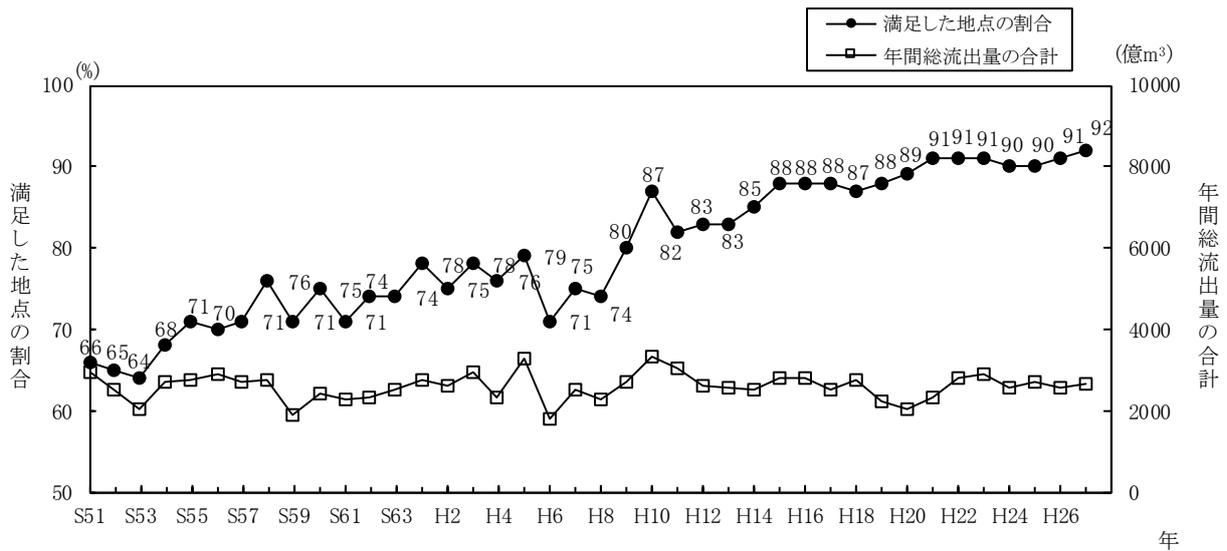


図-2(1) 一級河川(湖沼及び海域も含む。)において環境基準を満足した地点の割合と年間総流出量の合計の経年変化(全国)

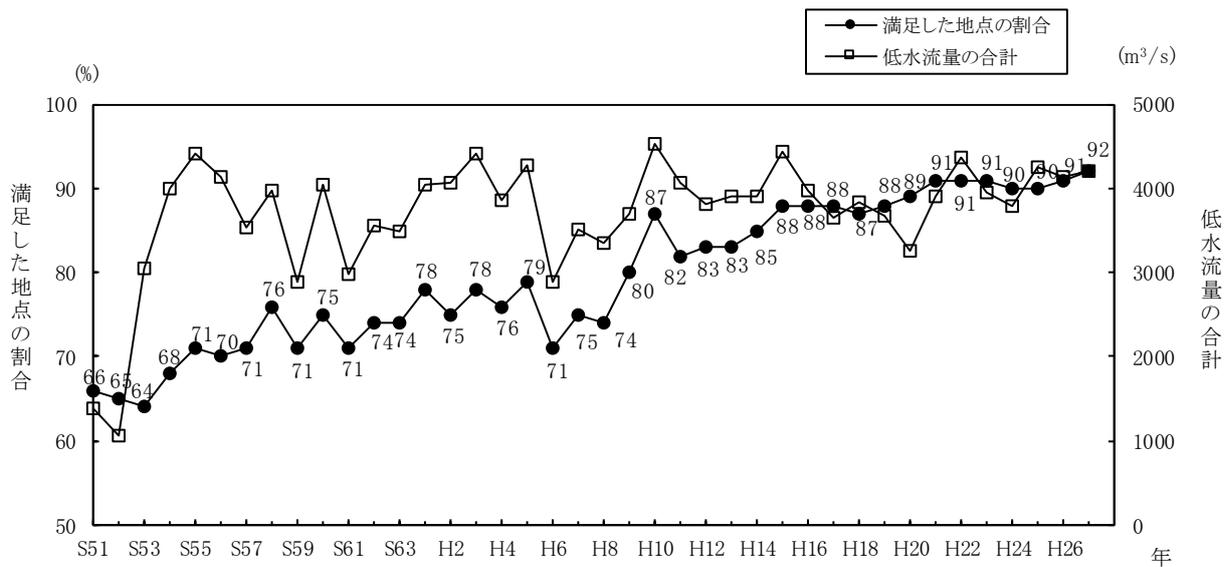
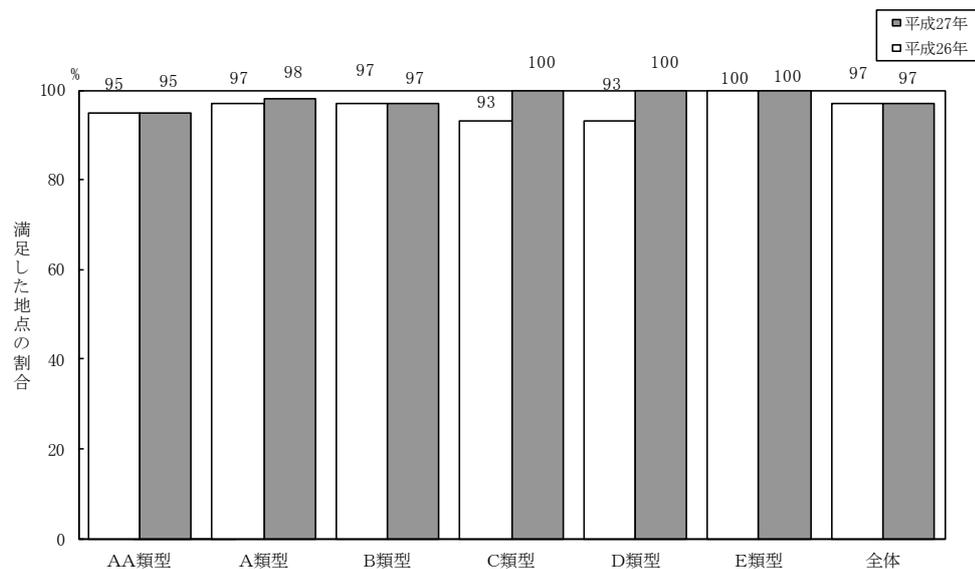


図-2(2) 一級河川(湖沼及び海域も含む。)において環境基準を満足した地点の割合と低水流量の合計の経年変化(全国)

### ③類型別の環境基準の満足状況

平成27年における類型指定区間内の調査地点980地点のうち、環境基準を満足した地点の類型別割合を、河川及び湖沼についてそれぞれ図-3(1)、図-3(2)に示す。

河川における環境基準<sup>注8</sup>を満足した地点の割合は、C類型及びD類型は増加、そのほかの類型は同程度であり、全体としては平成26年と同程度の97%であった。E類型については、前年に引き続き全ての調査地点で環境基準を満足していた。



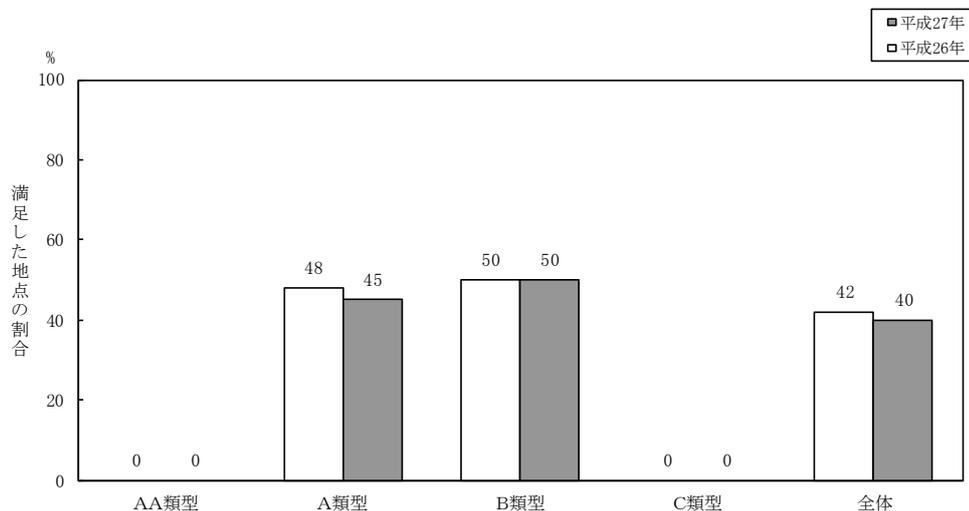
調査地点数	平成26年	93 / 98	500 / 513	197 / 204	42 / 45	13 / 14	5 / 5	850 / 879
	平成27年	93 / 98	502 / 513	198 / 204	45 / 45	14 / 14	5 / 5	857 / 879
※満足した地点数/全地点数								

図-3(1) 一級河川における環境基準を満足した地点の類型別割合 (河川)

<sup>注8</sup> 河川における環境基準

- AA類型 : BOD 1mg/ℓ以下
- A類型 : BOD 2mg/ℓ以下
- B類型 : BOD 3mg/ℓ以下
- C類型 : BOD 5mg/ℓ以下
- D類型 : BOD 8mg/ℓ以下
- E類型 : BOD 10mg/ℓ以下

また、湖沼における環境基準<sup>注9</sup>を満足した地点の割合は、A類型は減少、B類型は同じであり、全体としては平成26年より2ポイント低い40%であった。AA類型については、前年に引き続き全ての地点で環境基準を満足できなかった。



調査地点数	平成26年	満足した地点数 / 全地点数			平成27年
		0 / 11	41 / 86	1 / 2	0 / 0
	0 / 11	39 / 86	1 / 2	0 / 0	40 / 99

※満足した地点数/全地点数

図-3(2) 一級河川における環境基準を満足した地点の類型別割合 (湖沼) <sup>注10</sup>

海域は平成26年同様、2地点全てで満足していた。

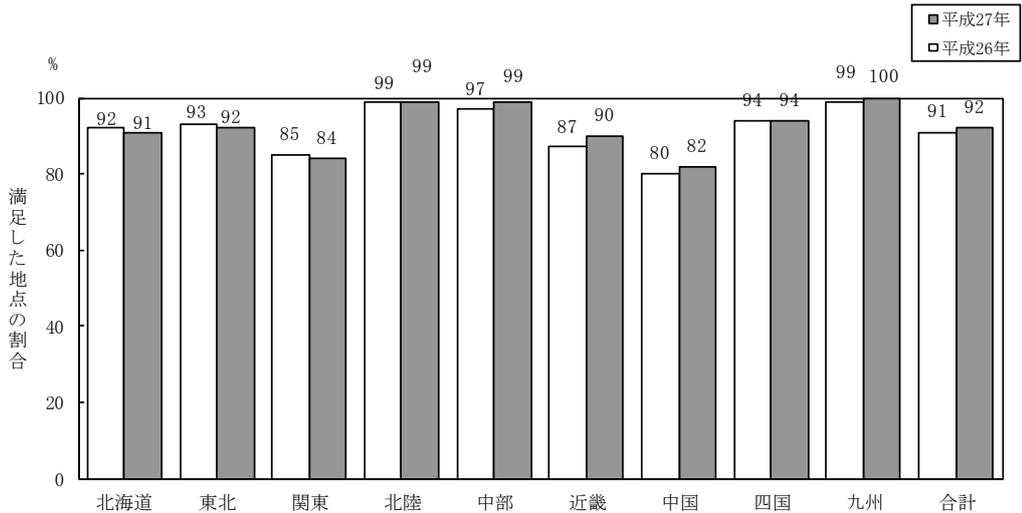
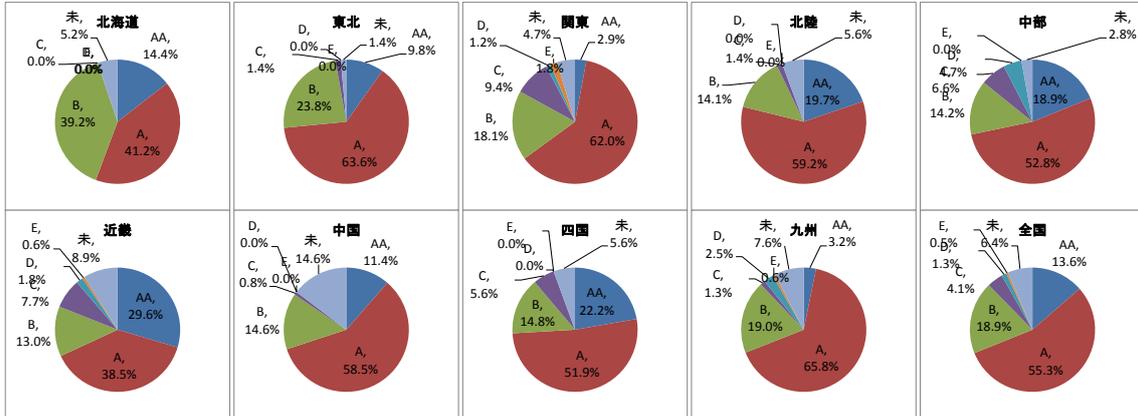
<sup>注9</sup> 湖沼における環境基準

- AA類型 : COD 1mg/ℓ以下
- A類型 : COD 3mg/ℓ以下
- B類型 : COD 5mg/ℓ以下
- C類型 : COD 8mg/ℓ以下

<sup>注10</sup> 湖沼における調査地点は102地点であるが、川内川水系川内川/鶴田ダムST-II、鶴田ダム監視点-I、鶴田ダム監視点-ロの3地点 (いずれも湖A類型) において観測を行っておらず、これを除いて集計している。

④地方別の環境基準の満足状況

各地方の類型指定割合と環境基準を満足した地点の地方別割合を図-4に示す。前年との比較では、近畿で3ポイント増加し、全体としては1ポイント増加した。



調査地点数	平成26年		平成27年						
	85 / 92	129 / 138	138 / 163	66 / 67	99 / 102	100 / 115	84 / 105	48 / 51	145 / 147

※満足した地点数/全地点数

図-4 一級河川（湖沼及び海域を含む。）における環境基準を満足した地点の地方別割合

環境基準を満足した地点の地方別割合の経年変化を図-5に示す。いずれの地方も経年的には横ばいまたは増加の傾向を示している。

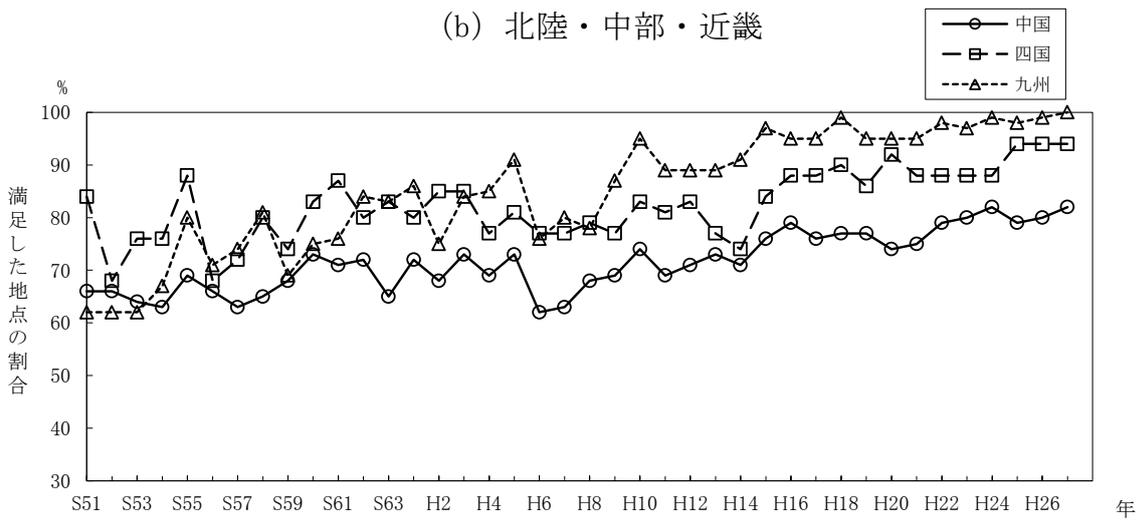
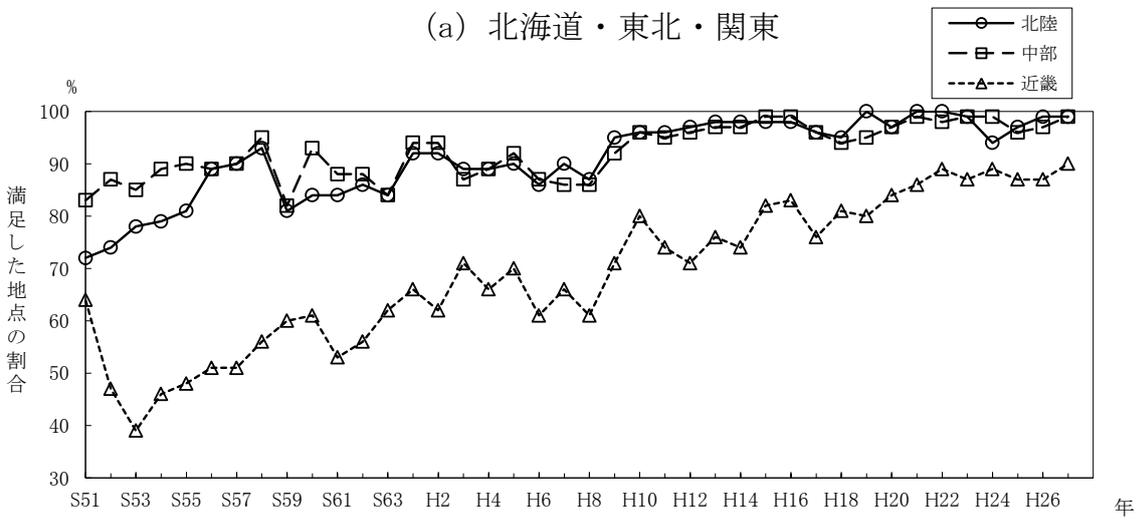
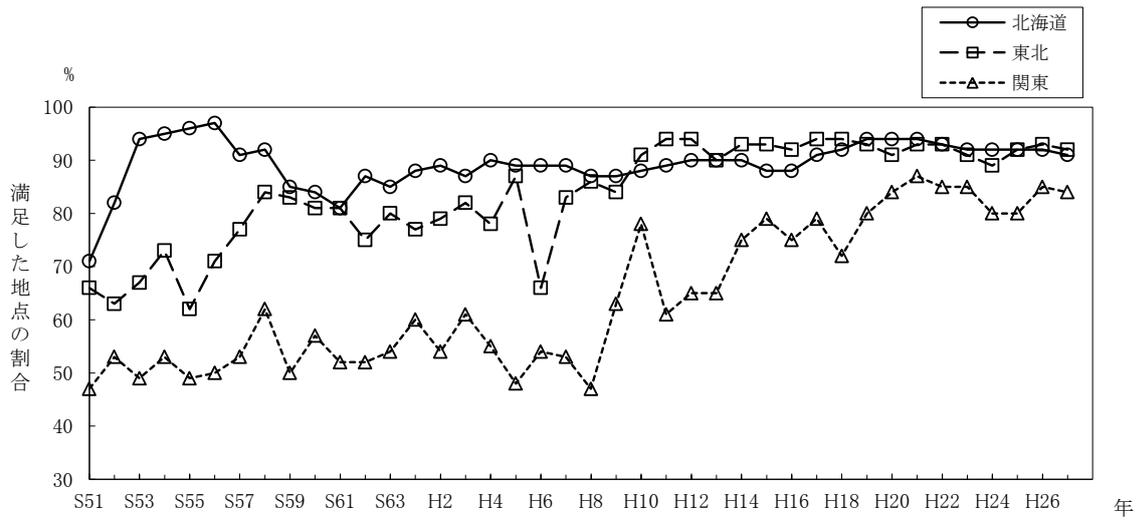


図-5 一級河川（湖沼及び海域を含む。）における環境基準を満足した地点の  
地方別割合の経年変化

⑤水系別の環境基準の満足状況

水系別の環境基準の満足状況をみると、全ての調査地点が環境基準を満足した水系数は、表-4に示すとおり、109水系中88水系であり全体の約81%にあたる。なお、水系毎の環境基準を満足した地点の割合を参考資料2に示す。

また、全ての調査地点が環境基準を満足した水系数の経年変化を図-6に示す。平成27年は前年の水系数より4水系増加した。

表-4 全ての調査地点が環境基準を満足した水系数とその割合

地方名	水系数	全ての調査地点が環境基準を満足した水系数とその割合 (%)			
		平成26年		平成27年	
		水系数	割合	水系数	割合
北海道	13	11	(85)	10	(77)
東北	12	8	(67)	8	(67)
関東	8	6	(75)	6	(75)
北陸	12	11	(92)	11	(92)
中部	13	10	(77)	12	(92)
近畿	10	7	(70)	8	(80)
中国	13	8	(62)	8	(62)
四国	8	5	(63)	5	(63)
九州	20	18	(90)	20	(100)
全国	109	84	(77)	88	(81)

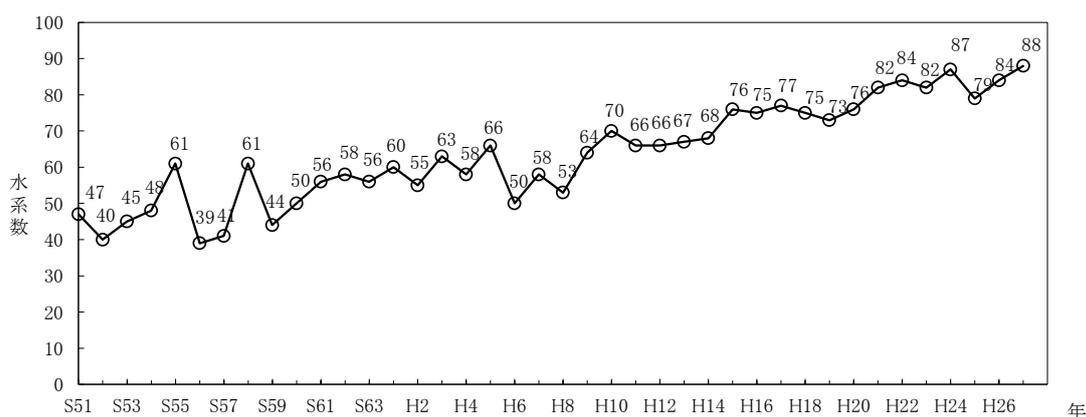
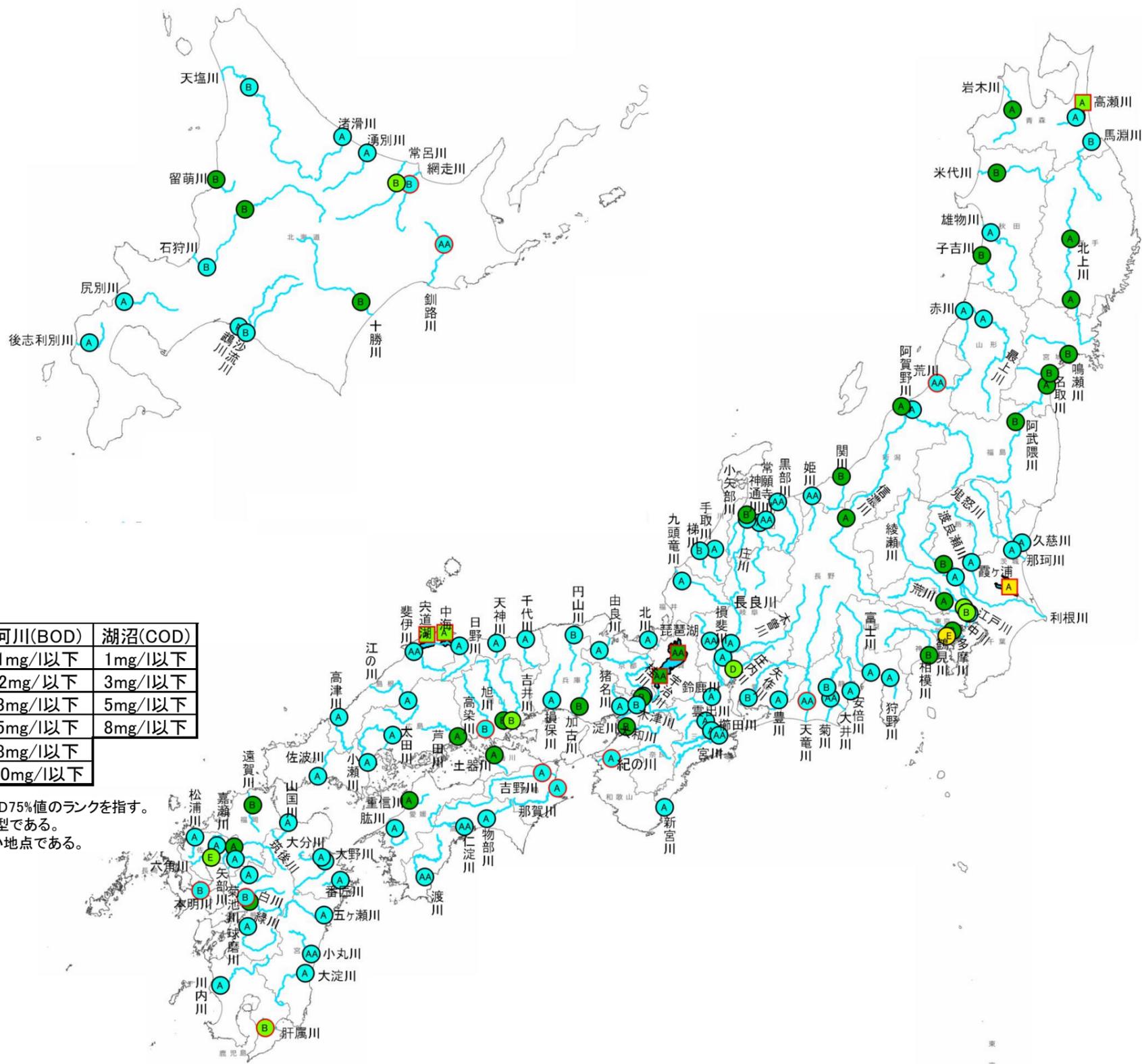


図-6 全ての調査地点が環境基準を満足した水系数の経年変化(全国)

### 3) 調査地点の類型指定状況と水質状況

一級河川の全調査地点のうち主要な地点について、各調査地点の環境基準の類型指定状況及びBOD75%値（またはCOD75%値）のランク別の水質状況を図-7に示す。全国的にみると大都市部を流れる一部の河川や湖沼を除き、概ね良好な水質が確保されていることがわかる。

なお、全調査地点の類型指定、平成27年のBOD（COD）平均値及び75%値は、「参考資料5 一級河川の全調査地点の水質」に示す。



**凡例**

ランク(BOD75%値)

- 1.0mg/l以下
- 1.1～2.0
- 2.1～3.0
- 3.1～5.0
- 5.1～8.0
- 8.0～10.0
- 10.1以上

ランク(COD75%値)

- 1.0mg/l以下
- 1.1～3.0
- 3.1～5.0
- 5.1～8.0
- 8.1以上

類型	河川(BOD)	湖沼(COD)
AA	1mg/l以下	1mg/l以下
A	2mg/l以下	3mg/l以下
B	3mg/l以下	5mg/l以下
C	5mg/l以下	8mg/l以下
D	8mg/l以下	
E	10mg/l以下	

1. ○内の色はBOD75%値、□内の色はCOD75%値のランクを指す。
2. ○または□内の記号は、環境基準の類型である。
3. ○または□は環境基準を満足していない地点である。

図-7 平成27年一級河川の水質状況図  
(河川主要地点はBOD75%値 湖沼主要地点はCOD75%値)



#### 4) 調査地点のランク別水質状況

全調査地点のうち、河川（湖沼等を除く。以下「河川」という。）におけるBODを観測した882地点<sup>注11</sup>について、BOD75%値のランク別割合を図-8に示す。

河川におけるBOD75%値のランク別割合は、1.0mg/ℓ以下が58.3%、1.1～2.0mg/ℓが32.4%と大きな割合を占める。

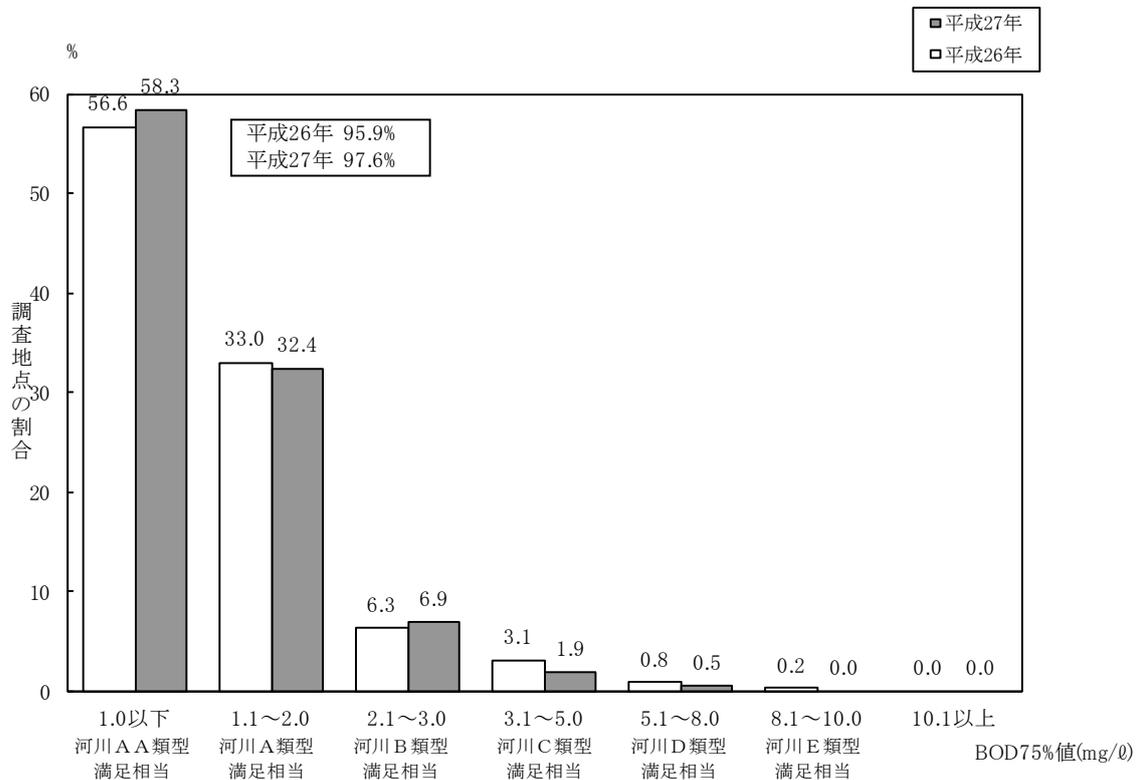


図-8 BOD75%値ランク別割合（河川）

<sup>注11</sup> 河川の調査地点としては885地点であるが、BOD観測を行わない調査地点が3地点（北上川水系北上川船田橋(1)、北上川水系雫石川滝太橋、北上川水系赤川富士見橋）ある。

湖沼、海域及びダム貯水池（以下「湖沼等」という。）における調査地点207地点<sup>注12</sup>について、COD75%値及び総窒素、総リン<sup>注13</sup>平均値のランク別割合をそれぞれ図-9(1)～図-9(3)に示す。

湖沼等における COD75%値のランク別割合は、1.1～3.0mg/ℓ の割合が64.3%と最も大きい。

総窒素平均値のランク別割合は、0.21～0.40mg/ℓ の割合が52.4%と最も大きい。

総リン平均値のランク別割合は、0.011～0.030mg/ℓ の割合が35.4%と最も大きく、次いで0.006～0.010mg/ℓ の割合が32.0%となっている。

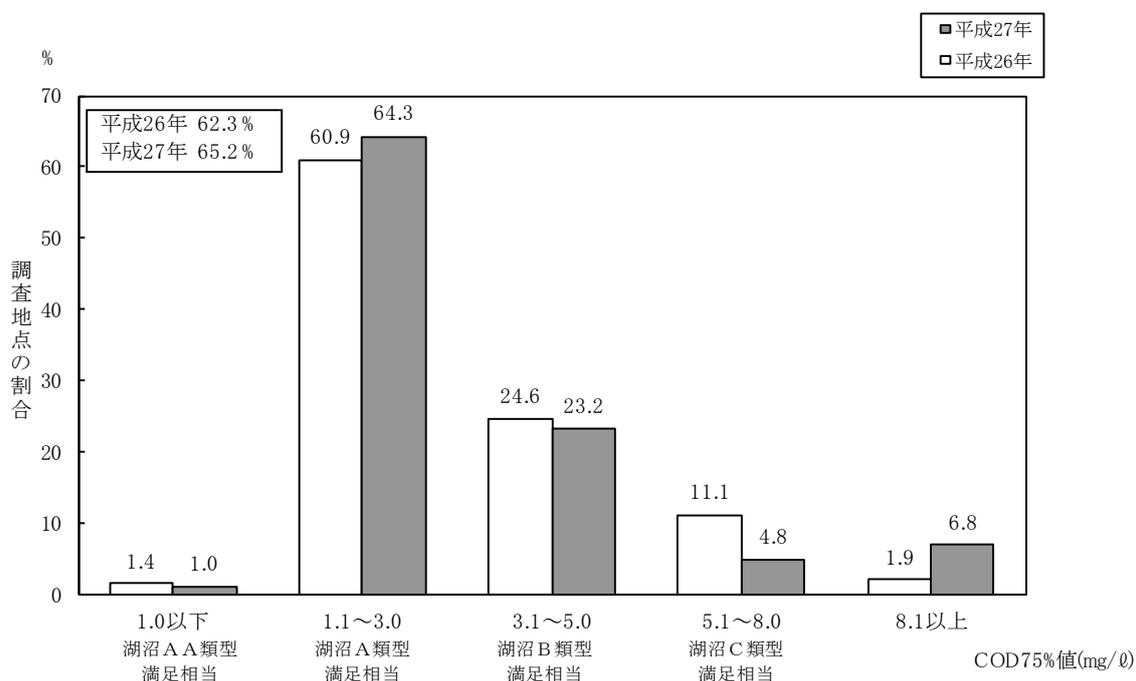


図-9(1) COD75%値ランク別割合（湖沼等）

<sup>注12</sup> 湖沼等における調査地点としては210地点であるが、3地点(川内川水系川内川/鶴田ダムST-II、鶴田ダム監視点-I、鶴田ダム監視点-ロ)で未観測である。

<sup>注13</sup> 湖沼等の閉鎖性水域においては、総窒素及び総リンは、富栄養化現象の原因物質となる。

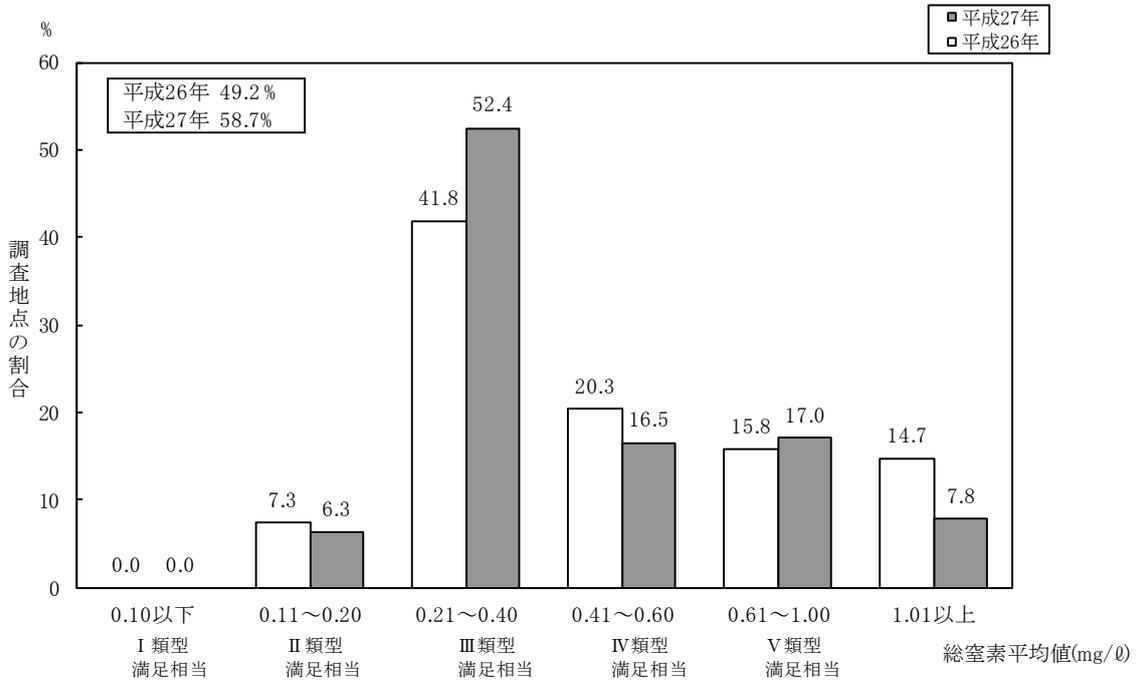


図-9(2) 総窒素平均値ランク別割合 (湖沼等)

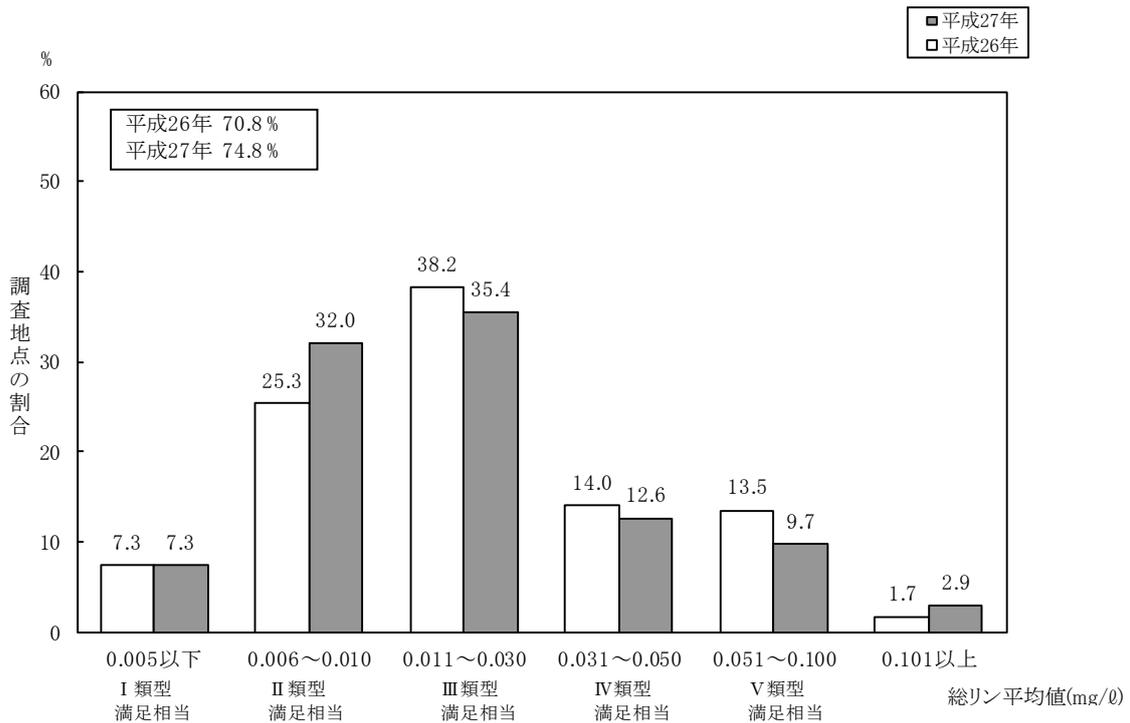


図-9(3) 総リン平均値ランク別割合 (湖沼等)

河川のBOD75%値及び総窒素、総リン平均値のランク別割合のここ10年間の経年変化を、それぞれ図-10(1)～図-10(3)に、湖沼等のCOD75%値及び総窒素、総リン平均値のランク別割合の経年変化を同様にそれぞれ図-11(1)～図-11(3)に示す。

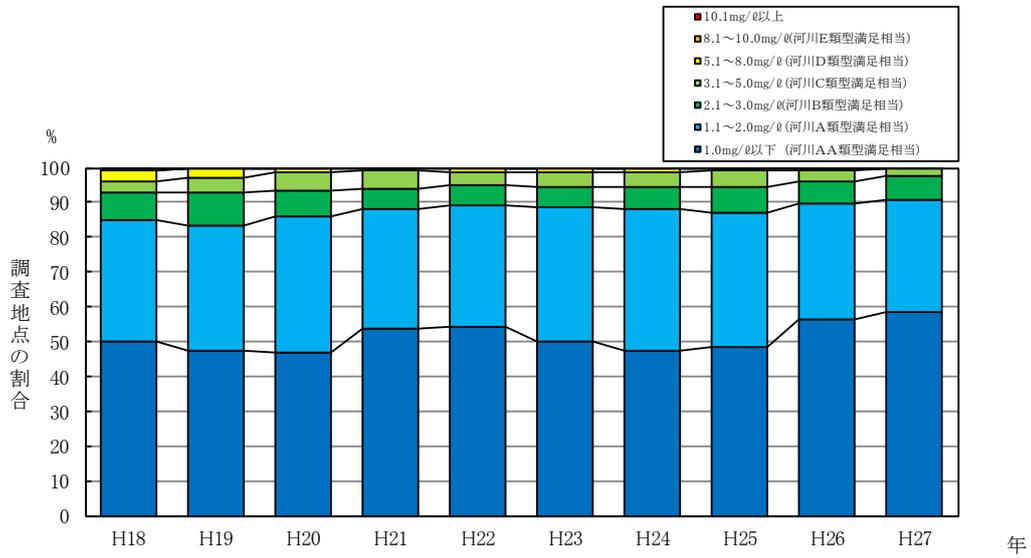


図-10(1) BOD75%値ランク別割合の経年変化(河川)

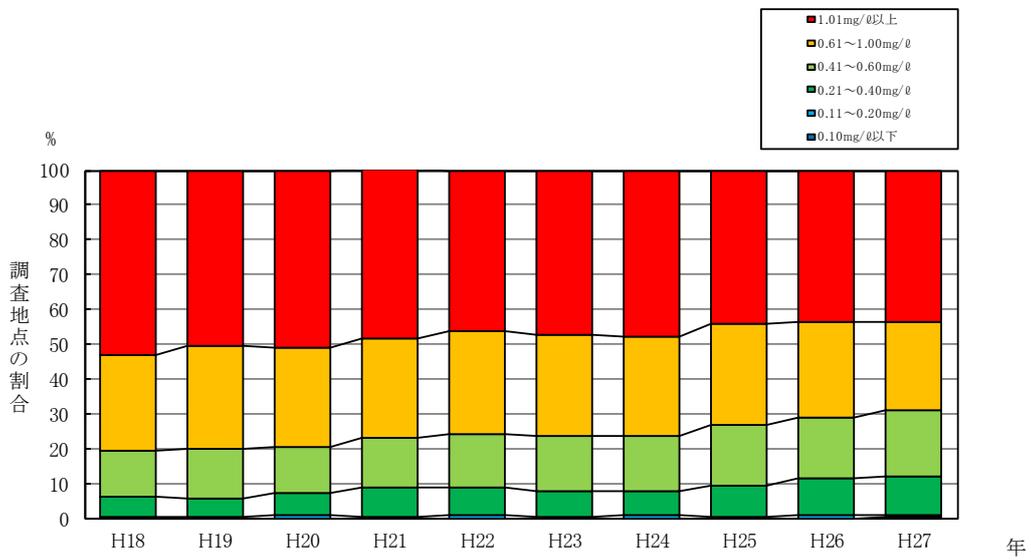


図-10(2) 総窒素平均値ランク別割合の経年変化(河川)

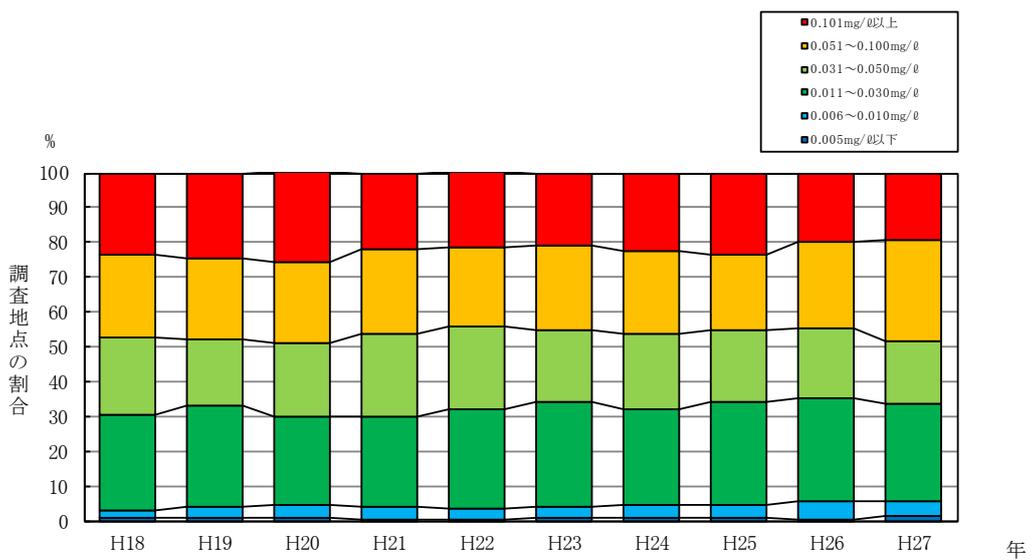


図-10(3) 総リン平均値ランク別割合の経年変化(河川)

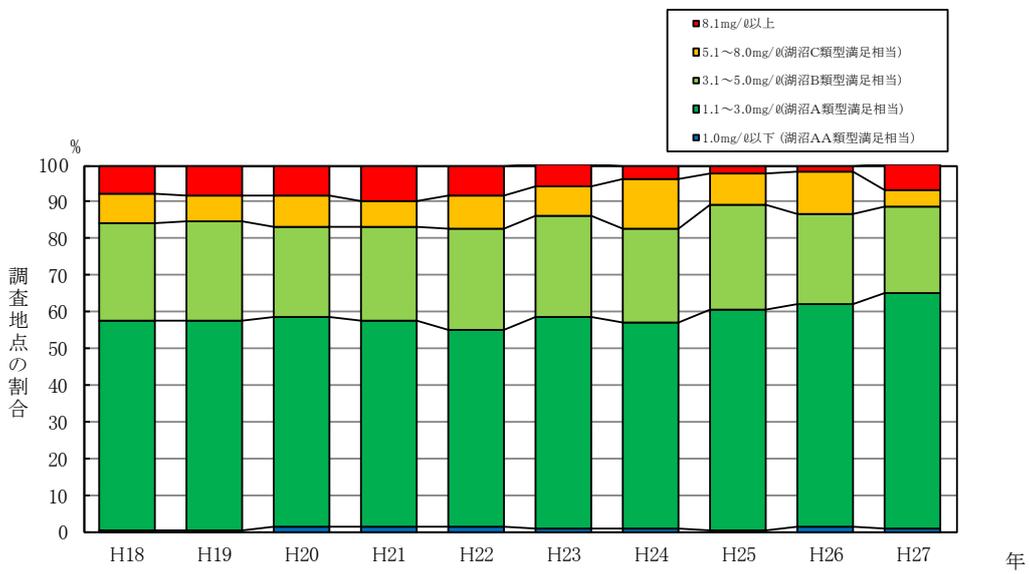


図-11(1) COD75%値ランク別割合の経年変化 (湖沼等)

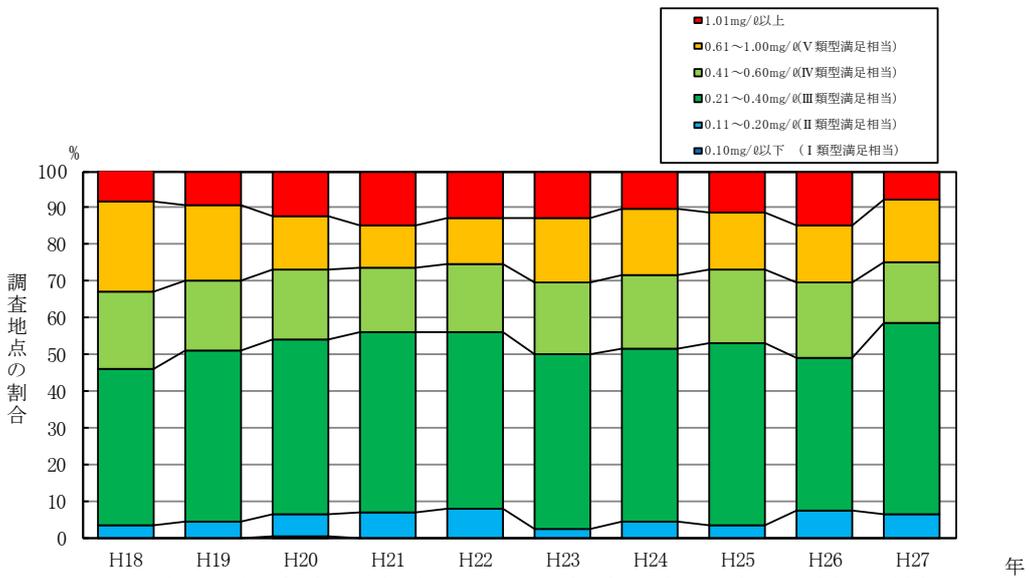


図-11(2) 総窒素平均値ランク別割合の経年変化 (湖沼等)

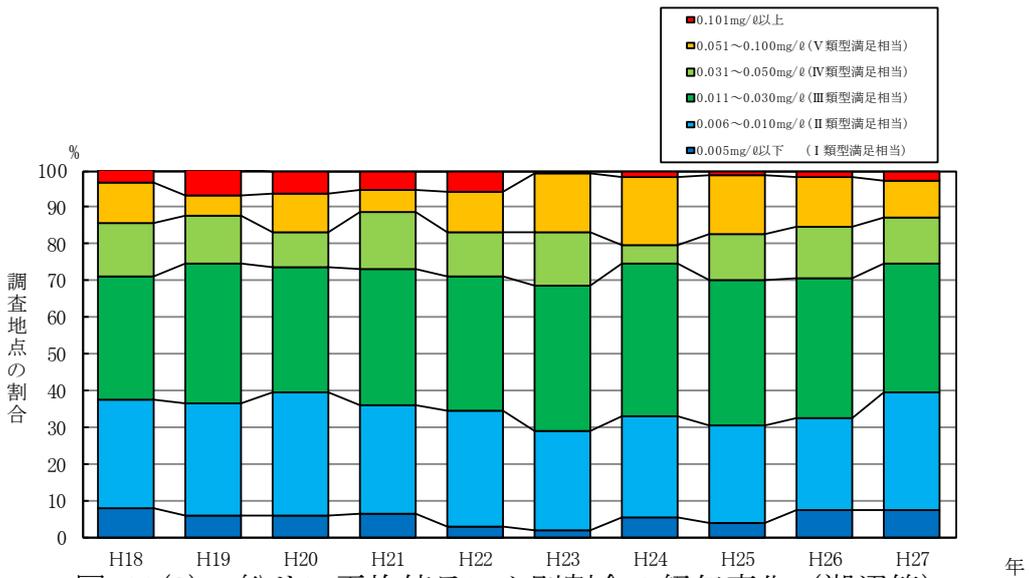


図-11(3) 総リン平均値ランク別割合の経年変化 (湖沼等)

### 5) 都市河川・湖沼の水質状況の経年変化

図-12に主な都市河川の水質について経年変化図を示した。

大和川等の都市河川の水質は、かつて汚濁が著しかったが、近年かなり改善されてきている。平成27年のBOD75%値は、多摩川（田園調布堰（上））で1.6mg/ℓ、大和川（浅香新取水口）で2.0mg/ℓ、鶴見川（大綱橋）で4.0mg/ℓ、綾瀬川（手代橋）で3.0mg/ℓとなっている。

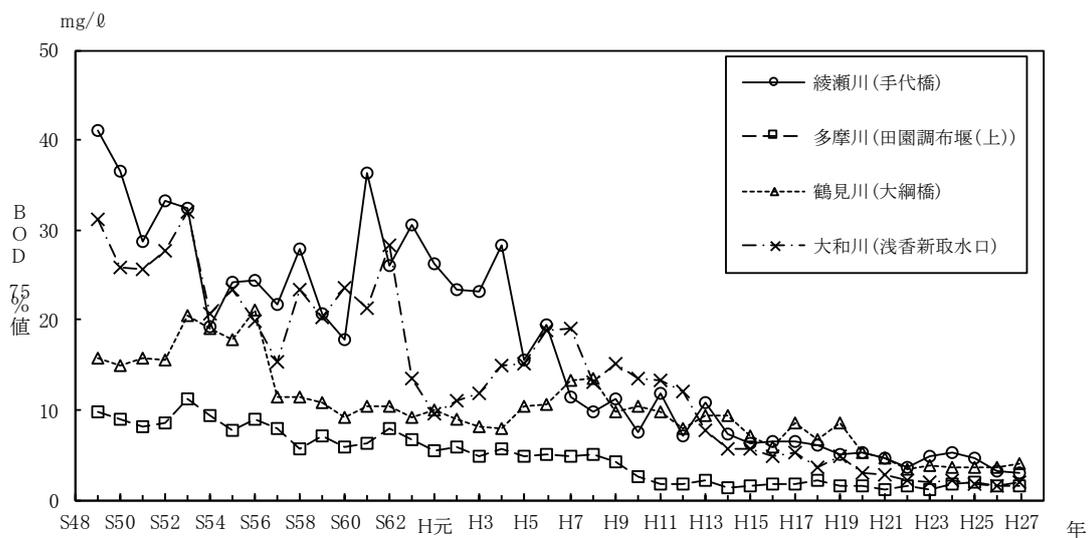


図-12 都市河川の代表地点におけるBOD75%値の経年変化

霞ヶ浦、琵琶湖、中海、宍道湖といった主要湖沼のCOD75%値及び総窒素、総リン平均値の経年変化を図-13(1)～図-13(5)に示す。

主要湖沼におけるCOD、総窒素（T-N）、総リン（T-P）の環境基準は表-5に示すとおりであり、図中に参考としてそれぞれの環境基準値を1本の実線で併記している。

主要湖沼は、環境基準を満足した地点の割合が小さい。

表-5 主要湖沼の類型と環境基準

ア. COD（化学的酸素要求量）

水系名	水域名	該当類型	環境基準（COD）
利根川	霞ヶ浦（全域）	A	3mg/ℓ
	北浦（全域（鱒川を含む））		
	常陸利根川（全域）		
淀川	琵琶湖(1)（琵琶湖大橋より北側）	AA	1mg/ℓ
	琵琶湖(2)（琵琶湖大橋より南側）		
斐伊川	中海（中海及境水道）	A	3mg/ℓ
	宍道湖（大橋川を含む）		

イ. 窒素及びリン

水系名	水域名	該当類型	環境基準
利根川	霞ヶ浦（全域）	Ⅲ	総窒素：0.4mg/ℓ 総リン：0.03mg/ℓ
	北浦（全域（鱒川を含む））		
	常陸利根川（全域）		
淀川	琵琶湖(1)（琵琶湖大橋より北側）	Ⅱ	総窒素：0.2mg/ℓ 総リン：0.01mg/ℓ
	琵琶湖(2)（琵琶湖大橋より南側）		
斐伊川	中海（中海及境水道）	Ⅲ	総窒素：0.4mg/ℓ 総リン：0.03mg/ℓ
	宍道湖（大橋川を含む）		

霞ヶ浦の湖心地点では、総リンは長期的には増加傾向にあったが、近年、減少傾向がみられる。

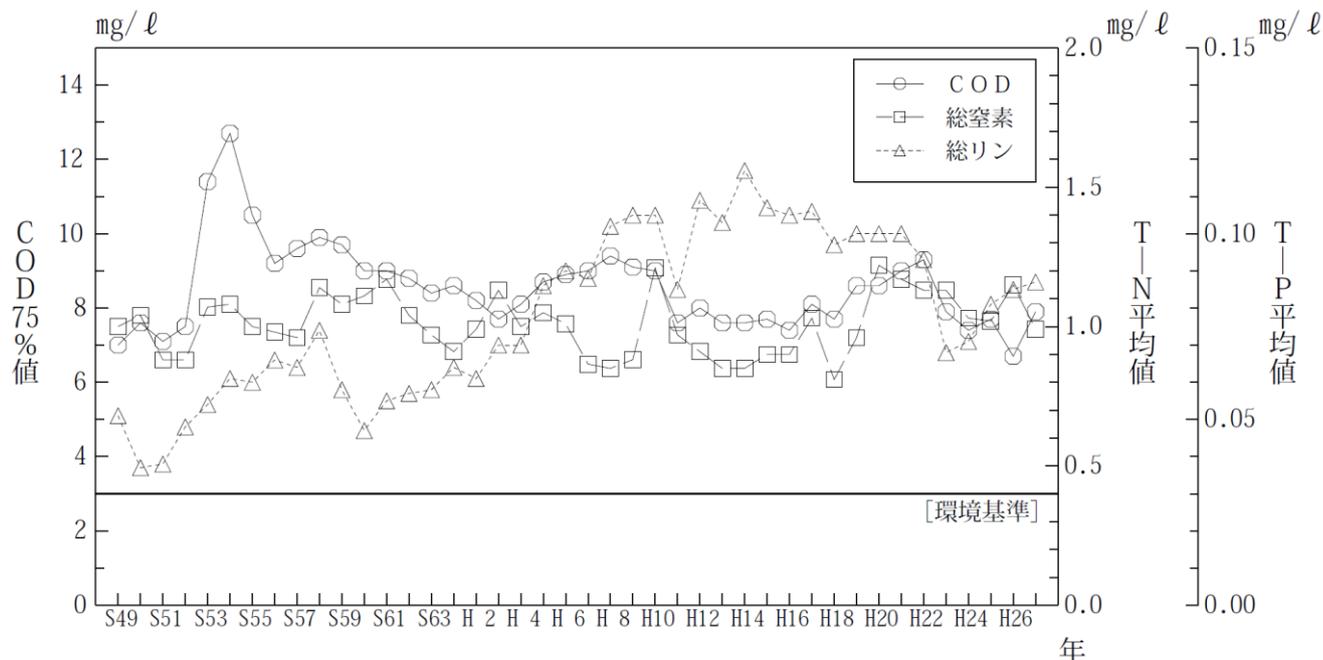


図-13(1) 主要湖沼代表地点における水質の経年変化  
霞ヶ浦 湖心（湖沼A, III）

琵琶湖の北湖安曇川沖中央地点では、CODは長期的には増加傾向を示している。総窒素については、若干変動はあるものの概ね横ばいである。総リンは環境基準を近年満足している。

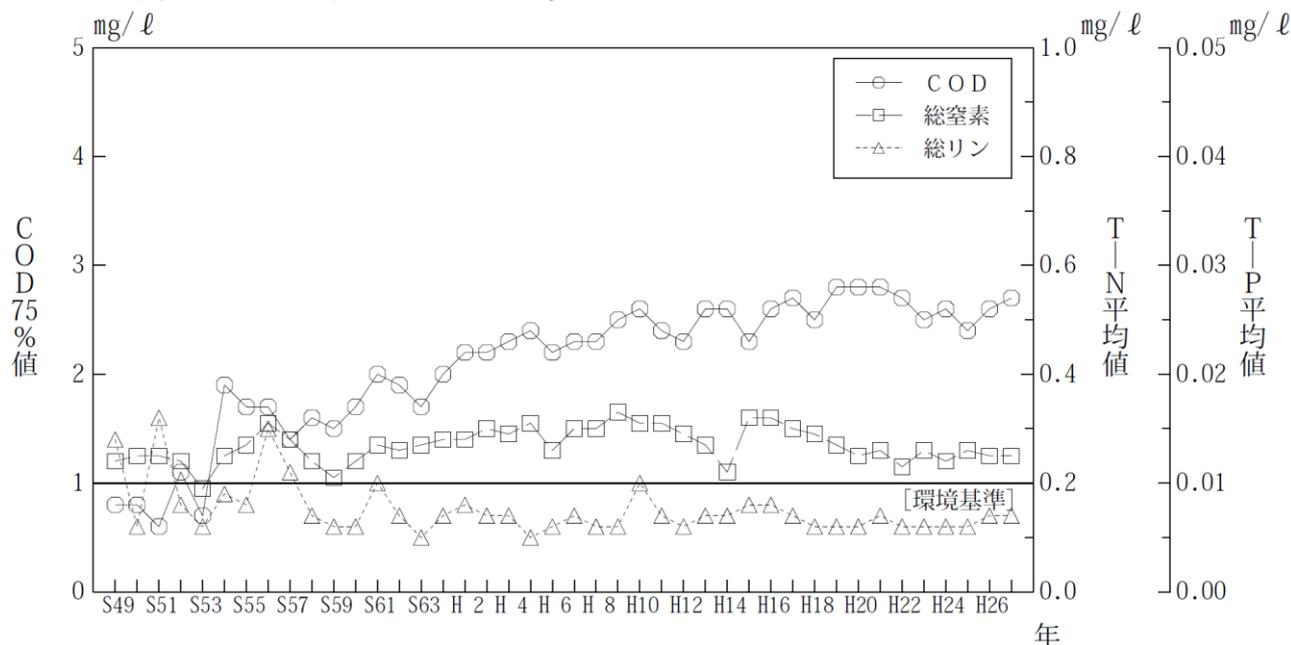


図-13(2) 主要湖沼代表地点における水質の経年変化  
琵琶湖（北湖） 安曇川沖中央（湖沼AA, II）

琵琶湖の南湖大宮川沖中央地点では、CODは近年ほぼ横ばいであったが、平成27年は低下している。

総窒素及び総リンは近年、減少傾向を示している。

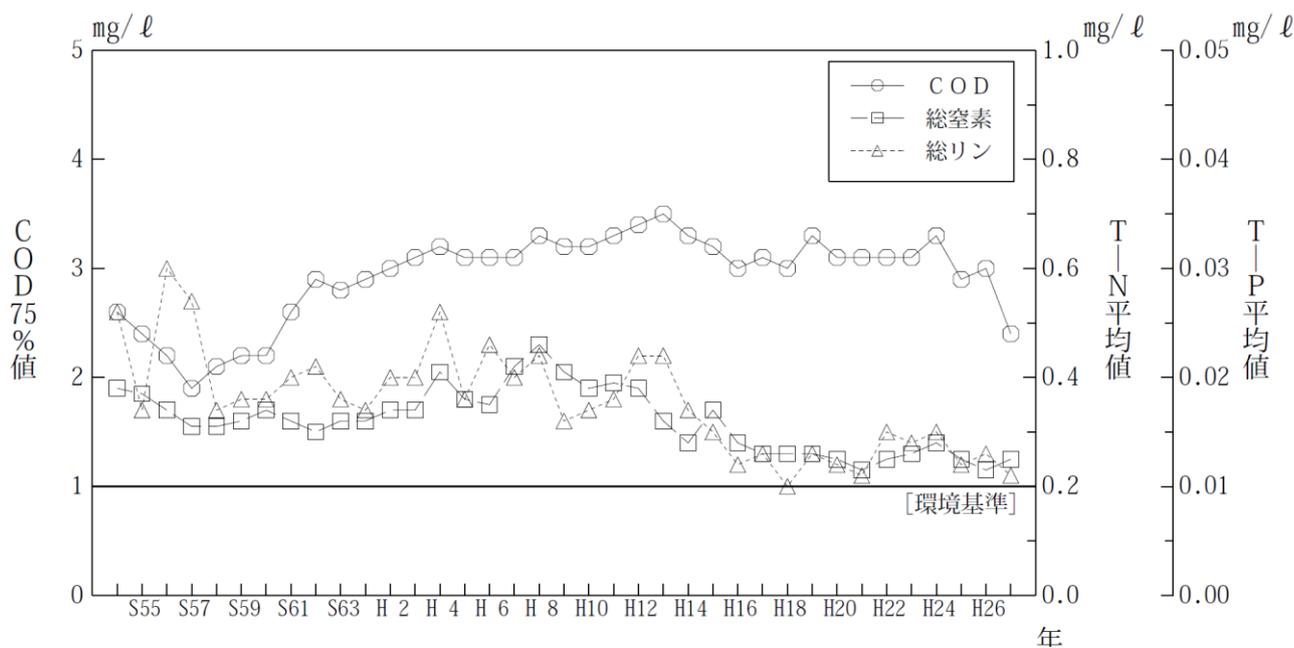


図-13(3) 主要湖沼代表地点における水質の経年変化  
琵琶湖（南湖） 大宮川沖中央（湖沼AA, II）

中海の湖心地点では、COD、総窒素及び総リンとも変動はあるものの、長期的には概ね横ばい傾向を示している。

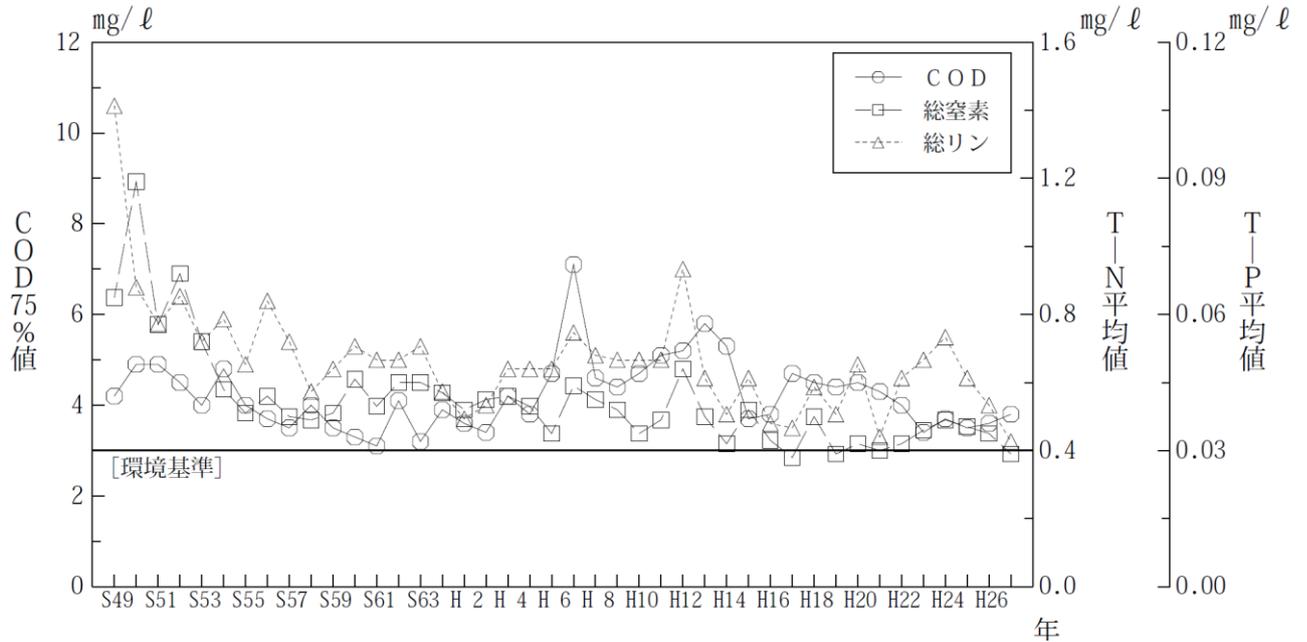


図-13(4) 主要湖沼代表地点における水質の経年変化  
中海 湖心 (湖沼A, III)

宍道湖のNo.3湖心地点では、COD、総窒素及び総リンについては、変動はあるものの、長期的には概ね横ばい傾向を示している。

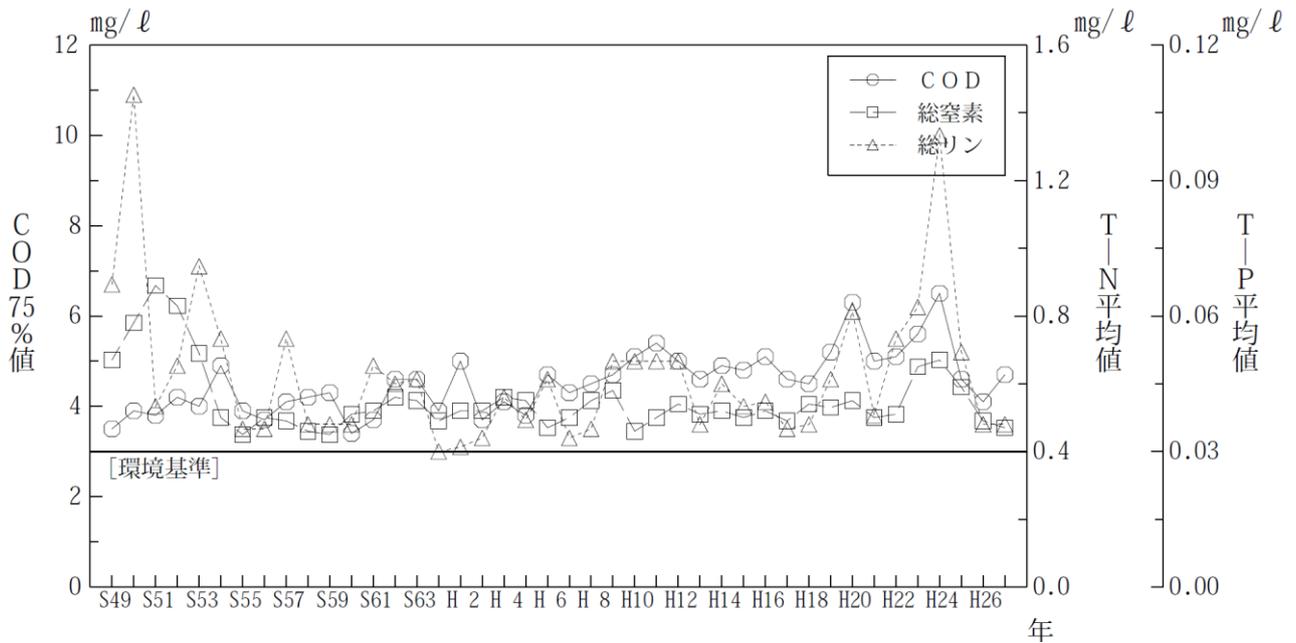


図-13(5) 主要湖沼代表地点における水質の経年変化  
宍道湖 No.3 湖心 (湖沼A, III)

(4) 人の健康の保護に関する環境基準項目

1) 環境基準項目

「人の健康の保護に関する環境基準」(以下「健康項目」という。)は、環境基本法に基づき公共用水域に一律に適用されるものとして、27項目が定められている(参考資料3参照)。

平成27年の調査結果について、表-6に項目別の調査地点数及び調査検体数を示す。

平成27年は全国860地点で調査を実施し、健康項目の総調査検体数は36,458検体にのぼっている。

このうち環境基準を満足できなかった地点は、砒素は2地点、ほう素は3地点であり、表-7のとおりである。全体では延べ5地点である。その他の調査地点においては環境基準を満足した。

環境基準を満足できなかった砒素及びほう素は自然に由来するものと推定される。

表-6 健康項目の水質調査結果

項目名	調査地点数	調査検体数	超過地点数
カドミウム	687	1,772	—
全シアン	665	1,654	—
鉛	764	2,609	—
六価クロム	675	1,690	—
砒素	758	2,534	2
総水銀	679	1,780	—
アルキル水銀	103	201	—
PCB	607	771	—
ジクロロメタン	625	1,095	—
四塩化炭素	632	1,042	—
1,2-ジクロロエタン	622	1,039	—
1,1-ジクロロエチレン	620	1,026	—
シス-1,2-ジクロロエチレン	623	1,039	—
1,1,1-トリクロロエタン	632	1,039	—
1,1,2-トリクロロエタン	619	1,025	—
トリクロロエチレン	647	1,070	—
テトラクロロエチレン	646	1,096	—
1,3-ジクロロプロペン	620	991	—
チウラム	619	943	—
シマジン	619	943	—
チオベンカルブ	619	943	—
ベンゼン	621	1,025	—
セレン	631	1,072	—
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	696	4,394	—
ふっ素	621	1,354	—
ほう素	606	1,202	3
1,4-ジオキサン	574	1,109	—
合計	16,830	36,458	5

表-7 健康項目の環境基準を満足できなかった地点

○砒素（環境基準値 0.01mg/ℓ）

地方名	水系河川名	地点名	原因	最大値	平均値
東北	北上川水系江合川	大深沢	自然由来	0.026	0.020
東北	北上川水系小鬼ヶ瀬川	天子森	自然由来	0.026	0.012

○ほう素（環境基準値 1mg/ℓ）

地方名	水系河川名	地点名	原因	最大値	平均値
東北	北上川水系江合川	大深沢	自然由来	2.12	1.78
近畿	淀川水系淀川	伝法大橋	海水の影響	1.9	1.9
四国	那賀川水系桑野川	富岡新橋	海水の影響	3.03	1.525

## 2) 要監視項目

「人の健康の保護に係る要監視項目」とは、人の健康の保護に関連する物質ではあるが、公共用水域等における検出状況等からみて、現時点では直ちに環境基準項目とせず、引き続き知見の集積に努めるべきと判断されるものであり、平成5年に選定されている（環境庁水質保全局長通知）。現在26項目となっており、各項目について指針値が設定されている（参考資料3参照）。

平成27年の調査結果について、表-8に項目別の調査地点数及び調査検体数を示す。

平成27年は全国359地点で調査を実施し、要監視項目の総調査検体数は5,958検体である。

このうち指針値を上回った地点はなかった。

表-8 要監視項目の水質調査結果

項目名	調査地点数	調査検体数	超過地点数
イソキサチオン	171	213	—
ダイアジノン	175	217	—
フェニトロチオン (MEP)	172	218	—
イソプロチオラン	179	220	—
オキシ銅 (有機銅)	156	198	—
クロロタロニル (TPN)	171	213	—
プロピザミド	158	200	—
EPN	187	243	—
ジクロロボス (DDVP)	171	214	—
フェノブカルブ (BPMC)	156	197	—
イプロベンホス (IBP)	169	211	—
クロロニトロフェン (CNP)	158	212	—
クロロホルム	191	286	—
トランス-1,2-ジクロロエチレン	124	165	—
1,2-ジクロロプロパン	127	168	—
p-ジクロロベンゼン	135	179	—
トルエン	159	232	—
キシレン	139	194	—
フタル酸ジエチルヘキシル	165	223	—
ニッケル	241	491	—
モリブデン	157	208	—
アンチモン	164	219	—
塩化ビニルモノマー	77	78	—
エピクロロヒドリン	81	91	—
全マンガン	142	765	—
ウラン	85	103	—
合計	4,010	5,958	0

(5) 農薬項目

ゴルフ場で使用される農薬による水質汚濁の防止を図るため、平成2年に「ゴルフ場で使用される農薬による水質汚濁の防止に係る暫定指導指針」が環境庁により定められた。国土交通省ではこれらの項目について水質調査を実施している。

平成2年に21項目が定められ、その後検出実態等を踏まえ、平成3年に9項目、平成9年に5項目、平成13年に10項目が追加され、平成22年度には29項目の追加と2項目の削除が行われた。平成24年度及び平成25年度には大幅な追加が行われ、平成26年12月現在で228項目となっている。

平成27年の調査結果について、表-10に地方別の調査地点数及び調査検体数を、表-11(1)～表-11(5)に項目別の調査地点数及び調査検体数を示す。

平成27年は全国の公共用水域42地点、ゴルフ場関連地点（排水口等）55地点の計97地点で調査を実施し、総調査検体数は1877検体である。

平成27年の調査では、全ての調査地点で指針値を下回っていた。

表-10 ゴルフ場使用農薬に関する総調査地点数及び調査検体数

地方名	公共用水域		ゴルフ場関連地点 (排水口等)		合 計	
	調査地点数	調査検体数	調査地点数	調査検体数	調査地点数	調査検体数
北海道	10	62	8	94	18	156
東 北	6	23	10	45	16	68
関 東	10	705	26	410	36	1115
北 陸	0	0	0	0	0	0
中 部	2	70	3	67	5	137
近 畿	4	120	0	0	4	120
中 国	4	96	5	108	9	204
四 国	2	25	2	2	4	27
九 州	4	47	1	3	5	50
全 国	42	1148	55	729	97	1877

表-11(1) ゴルフ場使用農薬の水質調査結果

項目名	調査地点数	調査検体数	超過地点数
1,3-ジクロロプロペン又はD-D	2	3	—
1-ナフタレン酢酸ナトリウム	0	0	—
EPN	4	4	—
MCPAイソプロピルアミン塩及びMCPAナトリウム塩	8	11	—
アジメスルフロン	0	0	—
アシュラム	36	51	—
アセキノシル	0	0	—
アセタミプリド	3	5	—
アセフェート	19	25	—
アゾキシストロビン	40	49	—
アバメクチン	0	0	—
アミスルフロム	2	2	—
アミトラス	0	0	—
アメトクトラジン	0	0	—
アラクロール	0	0	—
アンバム	0	0	—
イソキサチオン	34	40	—
イソキサベン	2	2	—
イソチアニル	0	0	—
イソプロチオラン	18	20	—
イブフェンカルバゾン	0	0	—
イプロジオン	28	36	—
イプロベンホス又はIBP	2	2	—
イミシアホス	0	0	—
イミダクロプリド	18	24	—
イミノクタジンアルベシル酸塩及びイミノクタジン酢酸塩	35	42	—
イミベンコナゾール	0	0	—
インダジフラム	2	2	—
インダノファン	0	0	—
インドキサカルブMP及びインドキサカルブ	0	0	—
ウニコナゾールP	0	0	—
エスプロカルブ	0	0	—
エタボキサム	0	0	—
エチクロゼート	0	0	—
エチプロール	0	0	—
エトキサゾール	0	0	—
エトキシスルフロン	7	9	—
エトフェンプロックス	15	17	—
エトフメセート	0	0	—
エトベンザニド	0	0	—
エトリジアゾール (エクロメゾール)	12	14	—
オキサジアゾン	0	0	—
オキサジアルギル	4	6	—
オキサジクロメホン	9	14	—
オキシテトラサイクリン	0	0	—
オキシ銅又は有機銅	36	45	—
オキシリニック酸	0	0	—
オリサストロビン	0	0	—
カズサホス	0	0	—
カフェンストロール	8	10	—

表-11(2) ゴルフ場使用農薬の水質調査結果

項目名	調査地点数	調査検体数	超過地点数
カルフェントラゾンエチル	0	0	—
カルブチレート	0	0	—
カルプロパミド	0	0	—
キノクラミン又はCAN	1	1	—
キャプタン	24	35	—
クミルロン	0	0	—
グルホシネート及びグルホシネートPナトリウム塩	0	0	—
クレソキシムメチル	7	8	—
クロチアニジン	27	37	—
クロマフェノジド	0	0	—
クロメプロップ	0	0	—
クロラントラニリプロール	11	13	—
クロリムロンエチル	2	2	—
クロルチアミド又はDCBM	0	0	—
クロルピリホス	15	17	—
クロルフェナピル	0	0	—
クロルフタリム	0	0	—
クロロタロニル (TPN)	33	39	—
クロロネブ	14	16	—
シアゾファミド	1	2	—
シアントラニリプロール	0	0	—
シエノピラフェン	0	0	—
ジカンバ又はMDBA、ジカンバジメチルアミン塩又はMDBAジメチルアミン塩及びジカンバカリウム塩又はMDBAカリウム塩	10	10	—
ジクロシメット	0	0	—
シクロスルファミロン	15	20	—
ジチアノン	0	0	—
ジチオピル	16	21	—
シデュロン	15	20	—
ジノテフラン	0	0	—
ジフェノコナゾール	17	22	—
シフルフェナミド	0	0	—
シフルメトフェン	0	0	—
ジフルメトリム	0	0	—
シプロコナゾール	14	19	—
シプロジニル	0	0	—
シマジン (CAT)	29	33	—
シメコナゾール	4	6	—
ジメタメトリン	0	0	—
ジメテナミド及びジメテナミドP	0	0	—
ジメトモルフ	0	0	—
シラフルオフェン	0	0	—
シロマジン	0	0	—
スピネトラム	0	0	—
スピノサド	0	0	—
スピロジクロフェン	0	0	—
スピロテトラマト	0	0	—

表-11(3) ゴルフ場使用農薬の水質調査結果

項目名	調査地点数	調査検体数	超過地点数
スピロメシフェン	0	0	—
ダイアジノン	41	48	—
ダイムロン	0	0	—
チアジニル	0	0	—
チアメトキサム	5	7	—
チウラム (チラム)	39	46	—
チオジカルブ	29	38	—
チオフアネートメチル	23	29	—
チオベンカルブ	13	14	—
チフルザミド	22	28	—
テトラコナゾール	12	18	—
テブコナゾール	33	41	—
テブフェノジド	10	16	—
テブフロキン	0	0	—
テフリルトリオン	0	0	—
トプラメゾン	0	0	—
トリアジフラム	10	10	—
トリクロピル	30	37	—
トリクロルホン (DEP)	20	22	—
トリネキサパックエチル	18	23	—
トリフルミゾール	13	16	—
トリフルラリン	0	0	—
トリフロキシストロビン	3	3	—
トルクロホスメチル	23	25	—
トルフェンピラド	0	0	—
ナプロパミド	13	15	—
ノバルロン	0	0	—
パクロブトラゾール	0	0	—
バリダマイシン	20	27	—
ハロスルフロンメチル	16	22	—
ヒドロキシイソキサゾール (ヒメキサゾール)	30	36	—
ビフェナゼート	0	0	—
ビフェントリン	0	0	—
ピフルブミド	0	0	—
ピメトロジン	0	0	—
ピラクロストロビン	0	0	—
ピラクロニル	0	0	—
ピラフルフェンエチル	0	0	—
ピリオフェノン	0	0	—
ピリダベン	0	0	—
ピリダリル	0	0	—
ピリフタリド	0	0	—
ピリブチカルブ	15	17	—
ピリフルキナゾン	0	0	—
ピリプロキシフェン	0	0	—

表-11(4) ゴルフ場使用農薬の水質調査結果

項目名	調査地点数	調査検体数	超過地点数
ピリベンカルブ	4	4	—
ピリミジフェン	0	0	—
ピリミスルファン	0	0	—
ピリミノバックメチル	0	0	—
ピロキサスルホン	0	0	—
ファモキサドン	0	0	—
フェニトロチオン (MEP)	34	40	—
フェノキサスルホン	0	0	—
フェノキサニル	0	0	—
フェリムゾン	7	8	—
フェンアミドン	0	0	—
フェントエート又はPAP	0	0	—
フェントラザミド	0	0	—
フェンピラザミン	0	0	—
フェンピロキシメート	0	0	—
フェンブコナゾール	0	0	—
フェンヘキサミド	0	0	—
ブタクロール	0	0	—
ブタミホス	11	13	—
ブトルアリン	0	0	—
ブプロフェジン	0	0	—
フラザスルフロン	23	28	—
フラメトピル	6	6	—
フルアクリピリム	0	0	—
フルオピコリド	0	0	—
フルオピラム	0	0	—
フルキサピロキサド	3	3	—
フルジオキサニル	5	7	—
フルセトスルフロン	0	0	—
フルチアニル	0	0	—
フルトラニル	24	26	—
フルフェナセット	0	0	—
フルフェノクスロン	2	2	—
フルプロパネートナトリウム塩又はテトラ ピオン	0	0	—
フルベンジアミド	13	13	—
フルポキサム	10	18	—
フルルプリミドール	1	1	—
プレチラクロール	0	0	—
プロジアミン	4	8	—
プロスルホカルブ	0	0	—
フロニカミド	0	0	—
プロパモカルブ塩酸塩	4	4	—
プロバルギット又はBPPS	0	0	—
プロピコナゾール	36	42	—
プロピザミド	28	35	—
プロヒドロジャスモン	0	0	—
プロピリスルフロン	0	0	—

表-11(5) ゴルフ場使用農薬の水質調査結果

項目名	調査地点数	調査検体数	超過地点数
ブロモブチド	0	0	—
ヘキサジノン	0	0	—
ペノキススラム	0	0	—
ベノミル	12	18	—
ペルメトリン	11	13	—
ペンシクロン	37	49	—
ベンスルタップ	10	13	—
ベンスルフロンメチル	0	0	—
ベンゾビシクロン	0	0	—
ベンチアバリカルブイソプロピル	0	0	—
ペンチオピラド	3	3	—
ペンディメタリン	18	23	—
ペントキサゾン	0	0	—
ペンフルフェン	0	0	—
ベンフルラリン (ベスロジン)	17	19	—
ベンフレセート	0	0	—
ボスカリド	18	21	—
ホセチル	19	24	—
ホラムスルフロン	2	2	—
ポリカーバメート	16	18	—
マンジプロパミド	0	0	—
マイクロブタニル	0	0	—
ミルベメクチン	0	0	—
メコプロップカリウム塩又はMCPPカリウム塩、メコプロップジメチルアミン塩又はMCPPジメチルアミン塩、メコプロップPイソプロピルアミン塩及びメコプロップPカリウム塩	43	57	—
メソトリオン	0	0	—
メタアルデヒド	0	0	—
メタゾスルフロン	0	0	—
メタフルミゾン	0	0	—
メタミホップ	0	0	—
メタラキシル及びメタラキシルM	26	32	—
メトキシフェノジド	2	4	—
メトコナゾール	3	3	—
メトミノストロビン	0	0	—
メトラクロール及びS-メトラクロール	0	0	—
メフェナセツト	0	0	—
メプロニル	23	28	—
モリネート	0	0	—
ヨウ化メチル	0	0	—
ルフェヌロン	0	0	—
レピメクチン	0	0	—
合計	1512	1877	0

(6) 水道関連項目（トリハロメタン生成能）

水道水中のトリハロメタン<sup>注14</sup>の問題（水道用水の塩素消毒の結果、発ガン性のあるトリハロメタンが発生）等を背景に、水道事業者の対応のみでは水道水質基準に適合する水道水の供給が困難となる恐れから水道水源の水質保全が強く求められていることに関連して、平成6年5月に「水道原水水質保全事業の実施の促進に関する法律」が施行された。これを受けて、国土交通省では、平成6年からトリハロメタン生成能<sup>注15</sup>の水質調査を実施している。

平成27年は、全国252地点で調査を行い、総調査検体数は1,530検体である。

図-14に各調査地点におけるトリハロメタン生成能の最大値のランク別割合の経年変化を示す。新しい水質指標の「利用しやすい水質の確保」の評価レベルにおいて、A及びBランクであるトリハロメタン生成能の最大値が100 μg/l以下の割合は長期的には横ばい傾向である。

なお、公共用水域におけるトリハロメタン生成能についての基準は定められていない。

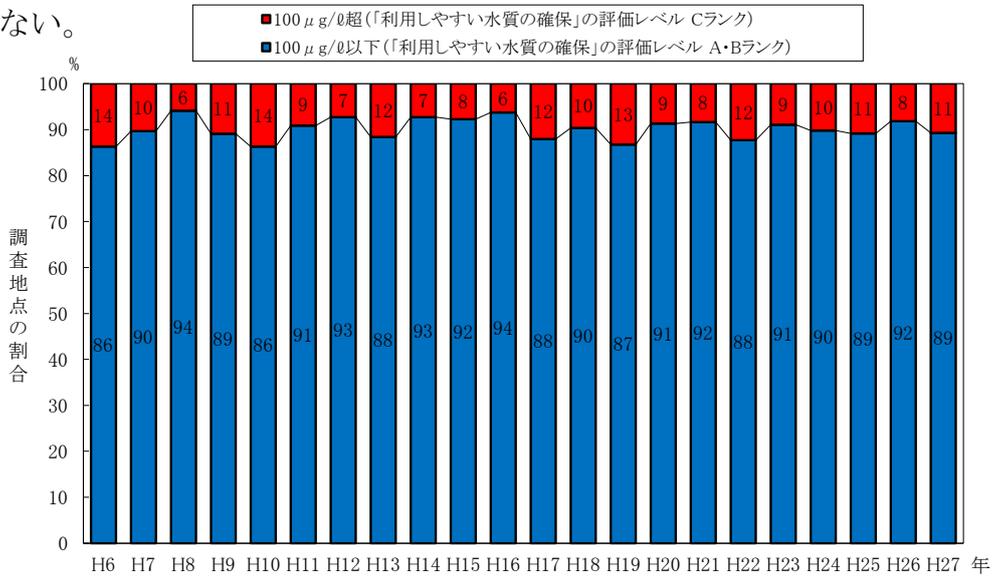


図-14 トリハロメタン生成能（最大値）のランク別割合の経年変化

注14 トリハロメタンとは、メタン(CH<sub>4</sub>)の4つの水素原子のうち3個が塩素や臭素などのハロゲン原子で置き換わった化合物である。具体的には、クロロホルム(CHCl<sub>3</sub>)、ブromoジクロロメタン(CHBrCl<sub>2</sub>)、ブromoホルム(CHBr<sub>3</sub>)、ジブromoクロロメタン(CHBr<sub>2</sub>Cl)の4物質が代表的な物質である。これらのトリハロメタンは、水道原水中に含まれるフミン質などの有機物が、浄水処理の過程で注入される塩素と反応して生じる。水道法に基づく水質基準のひとつ。

注15 トリハロメタン生成能とは、一定の条件下でその水がもつトリハロメタンの潜在的な生成量をいい、具体的には一定のpH(7±0.2)及び温度(20℃)において、水に塩素を添加して一定時間(24時間)経過した場合に生成されるトリハロメタンの量で表される。なお、トリハロメタン生成能の濃度が浄水後の水道水中のトリハロメタン濃度と一致するものではない。

表-12 トリハロメタン生成能の水質調査結果

	全調査地点数	最大値が100 $\mu$ g/lを 超えた地点数	最大値が100 $\mu$ g/lを 超えた地点数の割合
平成6年	124 地点	17 地点	13.7 %
平成7年	136 地点	14 地点	10.3 %
平成8年	153 地点	9 地点	5.9 %
平成9年	147 地点	16 地点	10.9 %
平成10年	161 地点	22 地点	13.7 %
平成11年	176 地点	16 地点	9.1 %
平成12年	179 地点	13 地点	7.3 %
平成13年	199 地点	23 地点	11.6 %
平成14年	206 地点	15 地点	7.3 %
平成15年	220 地点	17 地点	7.7 %
平成16年	208 地点	13 地点	6.2 %
平成17年	250 地点	30 地点	12.0 %
平成18年	271 地点	26 地点	9.6 %
平成19年	264 地点	35 地点	13.3 %
平成20年	254 地点	22 地点	8.7 %
平成21年	252 地点	21 地点	8.3 %
平成22年	244 地点	30 地点	12.3 %
平成23年	257 地点	23 地点	8.9 %
平成24年	256 地点	26 地点	10.2 %
平成25年	250 地点	27 地点	10.8 %
平成26年	245 地点	20 地点	8.2 %
平成27年	252 地点	27 地点	10.7 %

## (7) 水生生物の保全

## 1) 環境基準項目

平成15年11月に環境省より「水質汚濁に係る環境基準についての一部を改正する件」が告示された。これにより、生活環境の保全に関する環境基準に、公共用水域における水生生物及びその生息又は生育環境を保全する観点から全亜鉛が追加され、その基準値が設定された。基準値は魚類のえら呼吸や魚類のエサとなる水生生物（ヒラタカゲロウ等）の生息への影響を考慮して設定されたものである。河川、湖沼については、いずれも基準値は0.03mg/l以下である（参考資料3参照）。

また平成24年8月にノニルフェノール、平成25年3月には直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩が項目として追加された。

### 1-1) 全亜鉛

国土交通省では、平成16年から全国的に調査を行っている。平成27年は全国766地点（河川664地点、湖沼等102地点）で調査を行った。

図-15に全調査地点の全亜鉛のランク別割合の経年変化を示す。0.01mg/ℓ以下の割合は平成18年にかけて増加し、その後は横ばいであったが、平成25年にやや低下した。0.031mg/ℓ以上(生活環境の保全に関する環境基準(水生生物)超過)の割合は、平成23年までは徐々に減少し0.7%まで低下したが、その後は1.0%~1.2%で推移している。

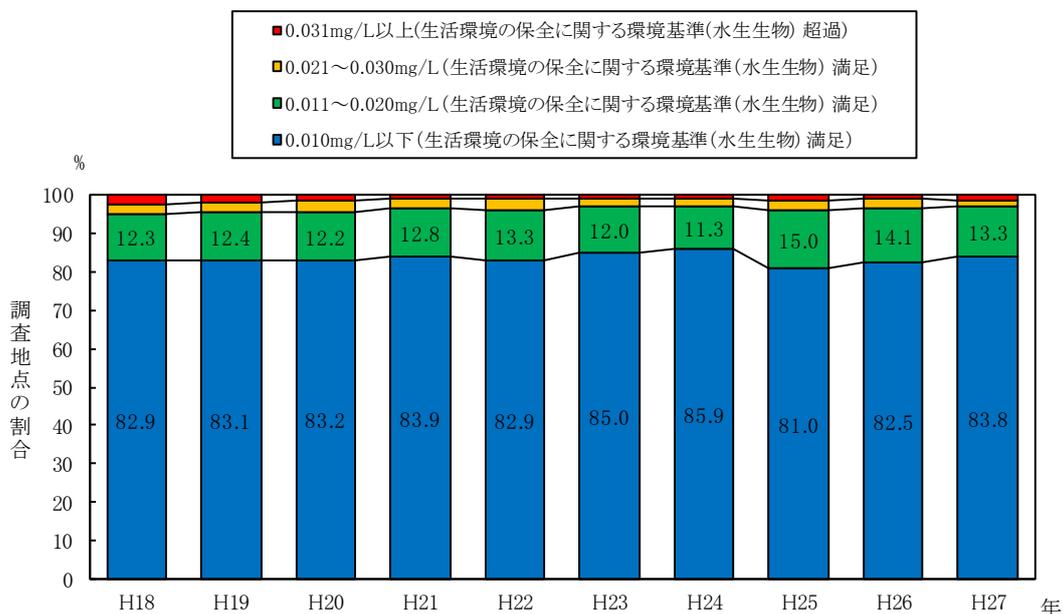


図-15 全亜鉛（年平均値）ランク別割合

河川及び湖沼等における全亜鉛のランク別割合をそれぞれ図-16(1)、図-16(2)に示す。

河川における調査地点については、0.01mg/ℓ以下の割合は平成18年にかけて増加し、その後は横ばいであったが平成25年に減少した。0.031mg/ℓ以上(生活環境の保全に関する環境基準(水生生物)超過)の割合は、平成23年までは徐々に減少し0.8%まで低下したが、その後は1.2%~1.5%で推移している。

湖沼等における調査地点については、平成17年以降、0.01mg/ℓ以下の割合が概ね95%前後で推移していたが、平成24年は99.2%まで増加し、平成25年には以前と同程度の94.1%に戻った。平成27年は99.0%であった。

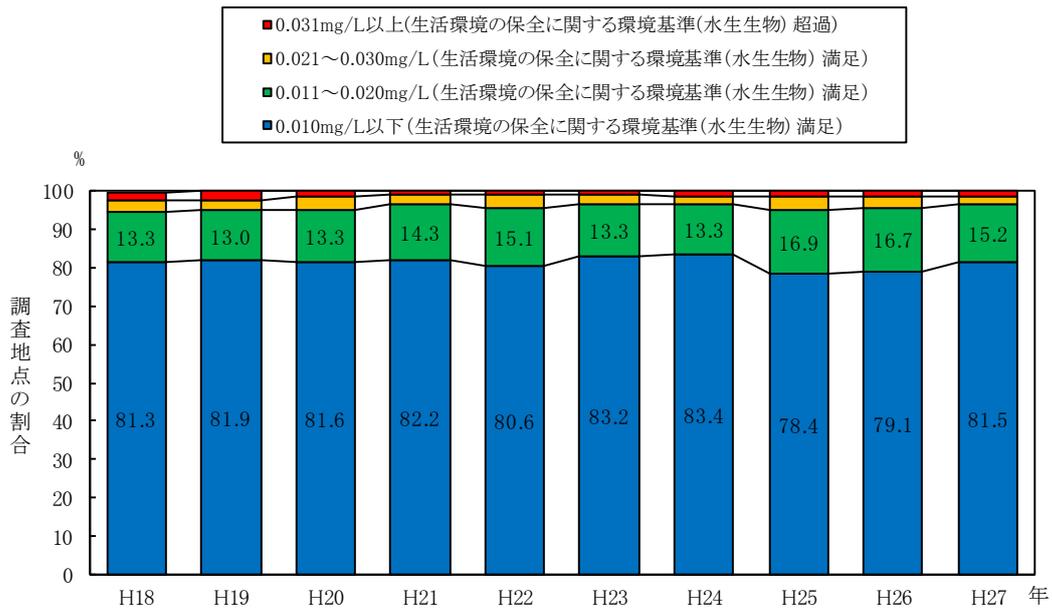


図-16(1) 全亜鉛（年平均値）ランク別割合（河川）

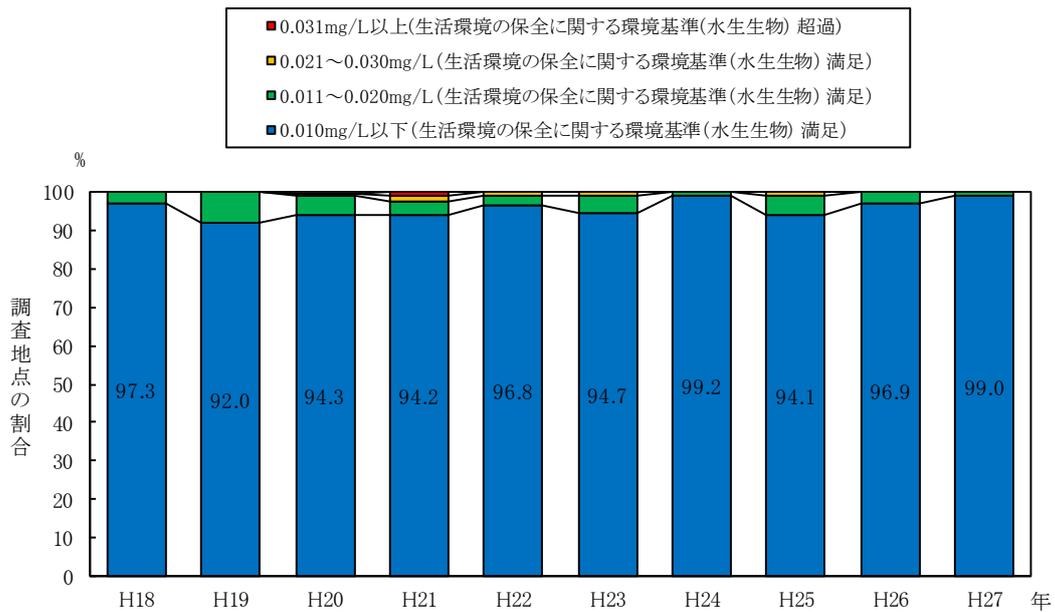


図-16(2) 全亜鉛（年平均値）ランク別割合（湖沼等）

1-2) ノニルフェノール

平成27年は全国475地点（河川435地点、湖沼等40地点）で調査を行った。

表-13に全調査地点のノニルフェノールの年間平均値についてランク別割合を示す。

表-13 ノニルフェノールのランク別割合

区分	地点数	割合
0.0006mg/L以下（生物特A）	475	100%
0.001mg/L以下（生物A）	0	0%
0.002mg/L以下（生物特B、生物B）	0	0%
0.002mg/Lより大きい	0	0%

1-3) 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩

平成27年は全国451地点（河川411地点、湖沼等40地点）で調査を行った。

表-14に全調査地点の直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩の年間平均値についてランク別割合を示す。

表-14 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩のランク別割合

区分	地点数	割合
0.02mg/L以下（生物特A）	450	100%
0.03mg/L以下（生物A）	0	0%
0.04mg/L以下（生物特B）	0	0%
0.05mg/L以下（生物B）	1	0%
0.05mg/Lより大きい	0	0%

2) 要監視項目

「水生生物の保全に係る要監視項目」とは、有用な水生生物及びその餌生物並びにそれらの生息又は生息環境の保全に関連する物質ではあるが、公共用水域等における検出状況等からみて、現時点では直ちに環境基準項目とせず、引き続き知見の集積に努めるべきと判断されるものであり、平成15年に3項目が定められた（環境省環境管理局水環境部長通知）後、平成25年3月に改正が行われ、現在6項目について指針値が設定されている（参考資料3参照）。

平成27年の調査結果について、表-15に項目別の調査地点数及び調査検体数を示す。

平成27年は全国320地点で調査を実施し、要監視項目の総調査検体数は1,280検体である。

平成27年の調査結果では、全ての調査地点で指針値を下回っていた。

表-15 水生生物の保全に係る要監視項目の水質調査結果

項目名	調査地点数	調査検体数	超過地点数
クロロホルム	191	286	—
フェノール	126	165	—
ホルムアルデヒド	88	108	—
4- <i>t</i> -オクチルフェノール	176	236	—
アニリン	179	242	—
2,4-ジクロロフェノール	180	243	—
合計	320	1280	—

## 2. 新しい水質指標

国土交通省では、河川水質管理において、住民や利水者の河川水質・河川環境に対して多様化するニーズに応えるため、平成17年3月に「今後の河川水質管理の指標について（案）」を発表した。この「河川水質管理の指標」（新しい水質指標）は、住民との協働による測定項目及び河川等管理者による測定項目からなり、平成17年度に全国規模で住民と協働で行う調査を試行し、平成18年より全ての一級河川を対象に本格的に実施している。<sup>注16</sup>

さらに、湖沼についても、平成22年3月に「今後の湖沼水質管理の指標について（案）」をとりまとめ、これに基づく調査を実施している。

### 2. 1 新しい水質指標（河川）

#### （1）新しい水質指標（河川）とは

新しい水質指標（河川）とは、人と河川のふれあいや生態系への関心など、多様な視点で河川が捉えられるようになってきている現在の状況を鑑み、河川をBODだけでなく多様な視点で評価できるように検討された指標である。評価の視点は以下の4つ。

##### ① 「人と河川の豊かなふれあいの確保」

水質に関係する分かりやすい指標（ゴミの量、透視度、川底の感触、水の臭い、糞便性大腸菌群数）により評価

##### ② 「豊かな生態系の確保」

水生生物の生息・生育・繁殖に関係する指標（呼吸に支障が無いこと、毒性が無いこと、生物が生息していること）により評価

##### ③ 「利用しやすい水質の確保」

上水利用・農業用水・工業用水・水産用水の利用に関係する指標（トリハロメタン生成能、2-MIB、ジオスミン、NH<sub>4</sub>-N）により評価

##### ④ 「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」

下流部の富栄養化や閉鎖性水域（ダム・湖沼・湾）の富栄養化への影響に関係する指標（T-N、T-P）により評価

<sup>注16</sup> 平成21年3月に「今後の河川水質管理の指標について（案）」を一部改訂し、平成21年度調査より適用している。

[http://www.mlit.go.jp/river/shishin\\_guideline/kankyo/suishitsukanri/shihyou.pdf](http://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/kankyo/suishitsukanri/shihyou.pdf)

「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」以外の視点について評価項目と評価レベルが設定されている<sup>注17</sup>。また、4つの視点のうち「人と河川の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」では、調査の一部を住民と河川管理者との協働により実施している。

## (2) 実施水系・地点数

「人と河川の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」「利用しやすい水質の確保」の平成27年の調査実施状況を表-16に示す。

「人と河川の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」では、調査を実施した水系のうち、ほとんどの水系で住民との協働調査を実施している。住民との協働調査を実施している調査地点数は、「人と河川の豊かなふれあいの確保」では202地点(全国303地点)、「豊かな生態系の確保」では184地点(全国261地点)である。

「利用しやすい水質の確保」では、該当する地点に限られるため<sup>注18</sup>、水系数・地点数ともに「人と河川の豊かなふれあいの確保」や「豊かな生態系の確保」よりも少ないが、全国136地点で実施された。

---

注17 一般的に滞留水域の水質と滞留水域に流入する河川の水質は異なり、現状の知見では下流域への影響を与える河川水質濃度を評価することは困難であることから、「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」の視点では、評価項目や評価レベルは定めていない。

注18 「利用しやすい水質の確保」は、水道水源としての利用しやすさを評価する指標項目であることから、主に上水道取水がある水域を調査対象範囲としている。

表-16 調査を実施した水系数と地点数

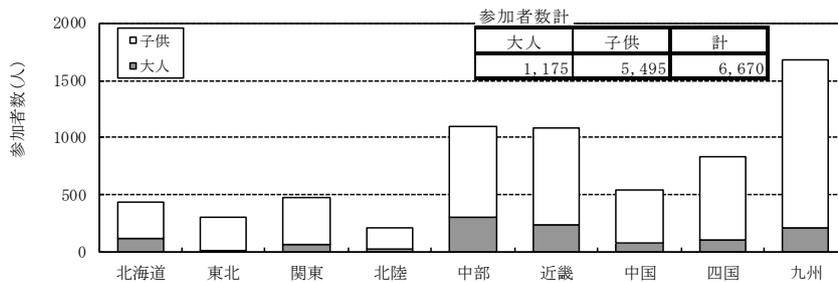
地整局 開発局	水系数	人と河川の豊かな ふれあいの確保		豊かな生態系の確保		利用しやすい 水質の確保	
		水系数	地点数	水系数	地点数	水系数	地点数
北海道	13	13 (12)	27 (19)	13 (12)	25 (18)	6	12
東北	12	8 (6)	18 (12)	6 (4)	15 (10)	6	11
関東	8	8 (5)	46 (20)	7 (5)	36 (18)	6	26
北陸	12	10 (5)	14 (5)	10 (5)	14 (5)	2	5
中部	13	12 (9)	64 (39)	11 (9)	45 (36)	8	16
近畿	10	6 (6)	25 (22)	6 (6)	22 (19)	1	12
中国	13	12 (9)	39 (25)	12 (9)	34 (22)	9	27
四国	8	4 (3)	12 (9)	4 (3)	16 (9)	3	6
九州	20	20 (20)	58 (51)	20 (20)	54 (47)	15	21
全国	109	93 (75)	303 (202)	89 (73)	261 (184)	56	136

※ ( ) 内は、住民と協働して調査を実施した水系数と地点数と示す。

### (3) 参加者数

住民との協働による測定を実施する「人と河川の豊かなふれあいの確保」の視点による調査では6,670人、「豊かな生態系の確保」の視点による調査では6,026人の住民の参加を得て実施した。どの地方でも子供(15歳以下)の割合が多かった(図-17)。

【人と河川の豊かなふれあいの確保】



【豊かな生態系の確保】

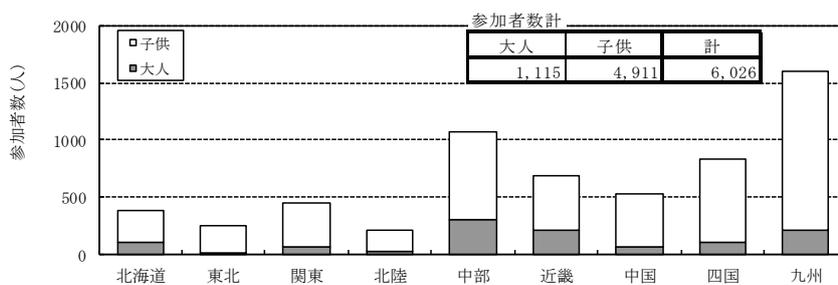


図-17 調査に参加した住民の数(延べ人数)※

※例えば、1人が2つの地点を調査した場合は、2人として集計している。

「人と河川の豊かなふれあいの確保」の調査にあたって住民参加が多かった地点は、表-17のとおりである。

表-17 参加者数が特に多かった調査地点

順位	都道府県	河川名(水系名)/調査地点	参加者数
1	大阪府	大和川(大和川水系)/浅香	295
2	三重県	雲出川(雲出川水系)/小戸木橋	231
3	愛媛県	重信川(重信川水系)/中川原橋	197
4	大分県	乙津川(大野川水系)/水辺の楽校	177
5	香川県	土器川(土器川水系)/高速道路橋	153

※表中の参加者数は、年間通した延べ人数。年間に複数回の調査を実施した調査地点がある。

#### (4) 調査結果

##### ①新しい水質指標(河川)による全国の調査地点の総合評価結果

平成27年に実施した新しい水質指標(河川)による調査結果を基に、「人と河川の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」「利用しやすい水質の確保」の3つの視点ごとに、全国の調査地点の総合的な評価<sup>注19</sup>を行い、年間の総合評価ランクを全国マップ(図-18(1)～図-18(3))に示した。

年間の総合評価ランクが最も高いAランク(青丸)の地点は、表-18に示すように、「人と河川の豊かなふれあいの確保」の視点については約24%(73地点/303地点)、「豊かな生態系の確保」の視点については約62%(161地点/261地点)、「利用しやすい水質の確保」の視点については約75%(102地点/136地点)となった。

一方、年間の総合評価ランクが最も低いDランク(赤丸)の地点は、「人と河川の豊かなふれあいの確保」の視点については約4%(11地点/303地点)、「豊かな生態系の確保」の視点については約2%(5地点/261地点)となった。また、「利用しやすい水質の確保」では評価ランクが最も低いCランク(黄色丸)の地点は、約10%(14地点/136地点)となった。

表-18 新しい水質指標(河川)による年間の総合評価ランク別の地点数

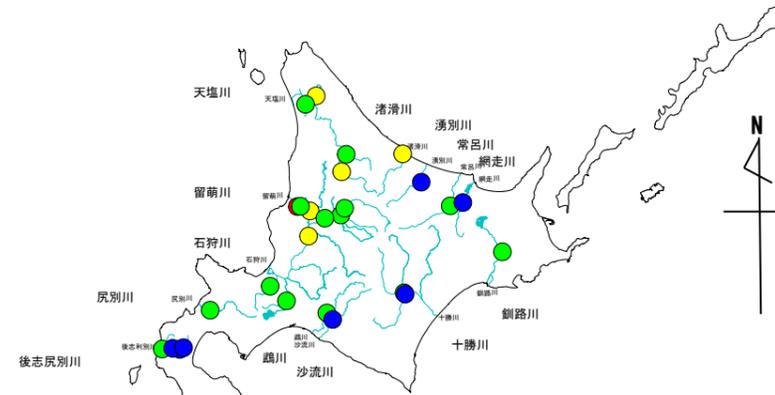
	人と河川の豊かなふれあい		豊かな生態系		利用しやすい水質	
	地点数	割合	地点数	割合	地点数	割合
Aランク	73 (48)	24%	161 (123)	62%	102	75%
Bランク	130 (93)	43%	82 (53)	31%	20	15%
Cランク	89 (54)	29%	13 (6)	5%	14	10%
Dランク	11 (7)	4%	5 (2)	2%		
計	303 (202)	100%	261 (184)	100%	136	100%

※ ()内は、住民と協働で調査した地点数。四捨五入による端数処理のため内訳の合計が100%にならないことがある。

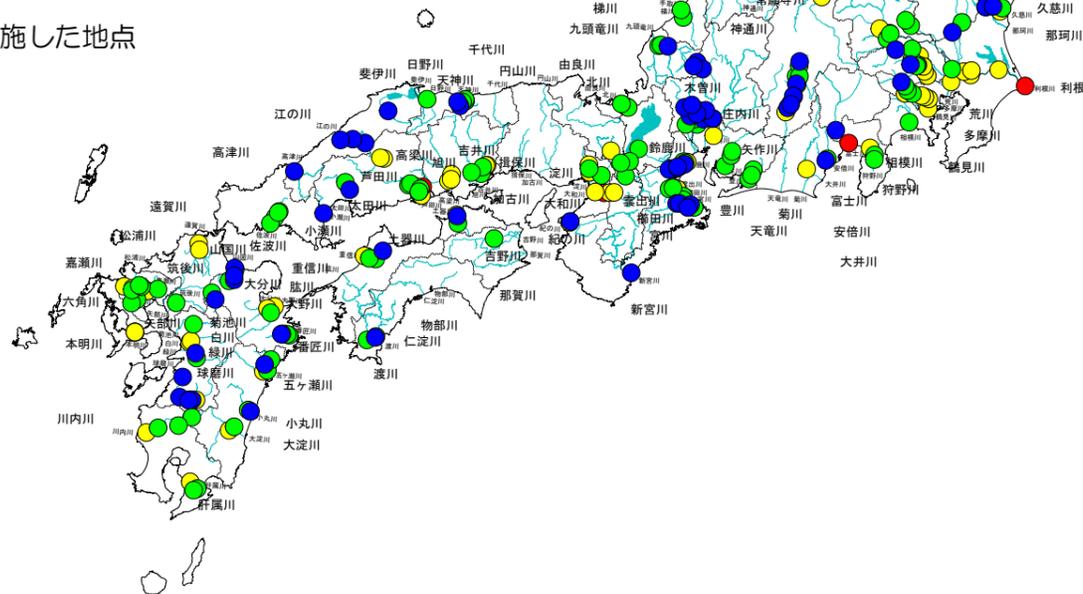
<sup>注19</sup> 評価項目ごとにA～Dランクの4段階(「利用しやすい水質の確保」はA～Cランクの3段階)の評価ランクを決めた上で、まず調査回ごとに最も低い項目別評価ランクを、その地点のその調査時の総合評価ランクとした。次に、1年間の調査時の総合評価ランクのうち、「人と河川の豊かなふれあいの確保」では最頻出のランク、「豊かな生態系の確保」では最低ランク、「利用しやすい水質の確保」では95%値に該当するランクを、その地点の年間の総合評価ランクとした。評価方法の詳細は「今後の河川水質管理の指標について(案)」参照。

# 平成27年「人と河川の豊かなふれあいの確保」調査結果

凡例	ランク	ランクのイメージ	説明	地点数※	割合
●	A		顔を川の水につけやすい (泳ぎたいと思うきれいな川)	73 (48)	24%
●	B		川の中に入って遊びやすい	130 (93)	43%
●	C		川の中には入れないが、川に近づくことができる	89 (54)	29%
●	D		川の水の魅力がなく、川に近づきにくい	11 (7)	4%
計				303 (202)	100%



※ ( ) 内は、住民と協働で調査を実施した地点



凡例	
●	A 顔を川の水につけやすい(泳ぎたいと思うきれいな川)
●	B 川の中に入って遊びやすい
●	C 川の中には入れないが、川に近づくことができる
●	D 川の水の魅力がなく、川に近づきにくい

※あくまでも水質に関する指標により評価した結果であり、流れの状態や、川岸・川底の形状などの安全性については考慮していません。  
 ※水浴場水質判定基準（環境省）における油膜の有無やCOD等の評価項目、その他の有害物質等による評価は行っていません。

図-18 (1) 平成 27 年「人と河川の豊かなふれあいの確保」調査結果



# 平成27年「利用しやすい水質の確保」調査結果

凡例	ランク	説明	地点数	割合※
●	A	より利用しやすい	102	75%
●	B	利用しやすい	20	15%
●	C	利用するためには高度な処理が必要	14	10%
計			136	100%

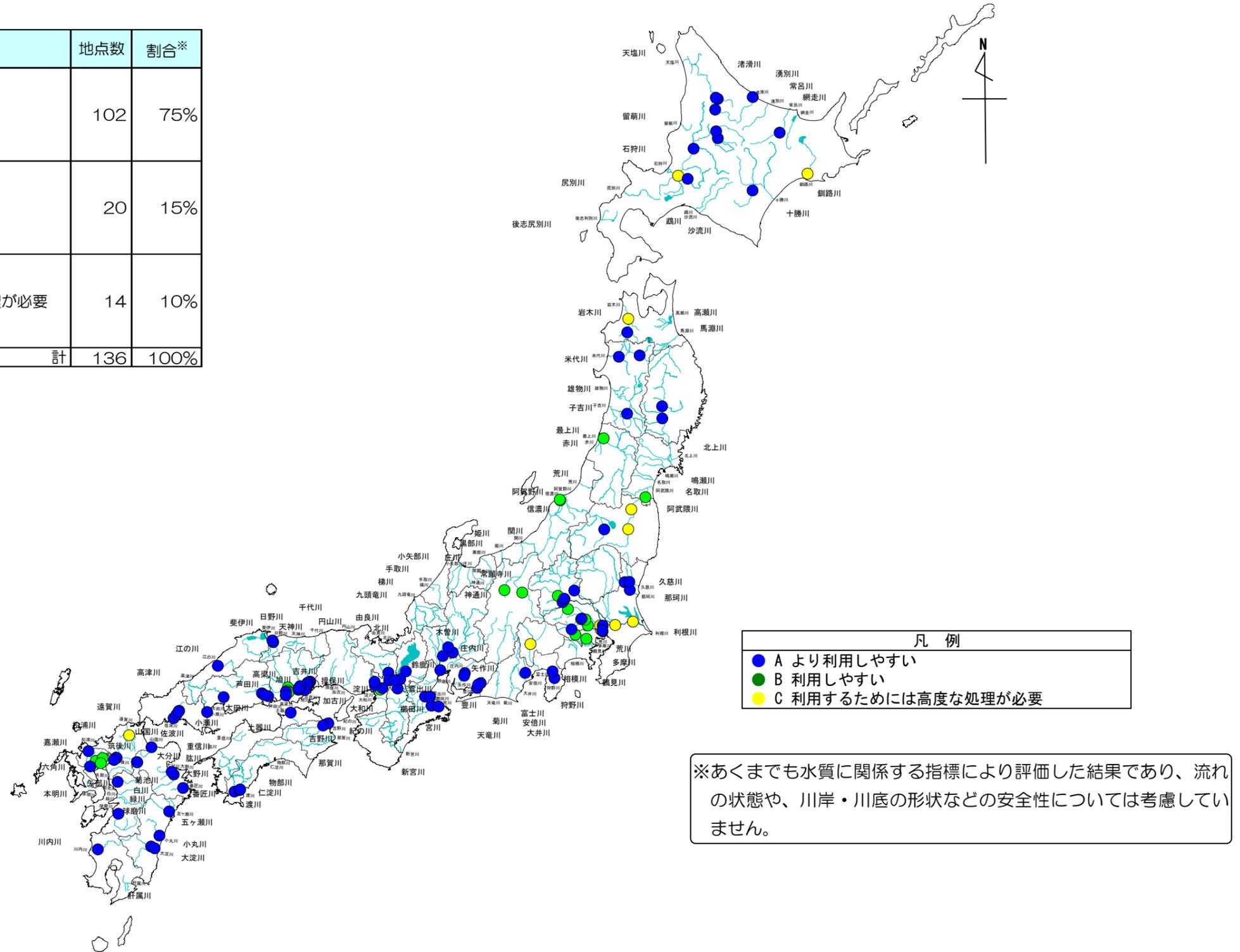


図-18 (3) 平成27年「利用しやすい水質の確保」調査結果

**コラム：川の魅力アップ ～新しい水質指標での評価結果より～**

新しい水質指標による評価は、平成17年より毎年、数多くの調査地点で行われてきました。

調査当初と現在の評価を比較すると、評価が良くなっている調査地点も多数あります（表①）。「人と河川の豊かなふれあいの確保」では、平成17年と比べて2ランクアップした調査地点が全国で8地点ありました（図①）。

今後も引き続き調査を続けることで、調査地点の水質の状況が経年的に比較できます。結果を活用して評価ランクが下がってしまっている原因を確認できれば、更なる水質改善に繋がると考えられます。

※表①は、「人と河川の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」「利用しやすい水質の確保」のいずれかの視点について平成17年と平成27年に同じ調査地点で実施されているものを対象に整理しました。

※ランク変動は、年間の総合評価ランクを数値（A=4、B=3、C=2、D=1）に置き換えて平成17年からの変動を表しています（例：H17年D→H27年Aの場合は3ランクアップ）。

※表①の凡例は、下図の通りです。

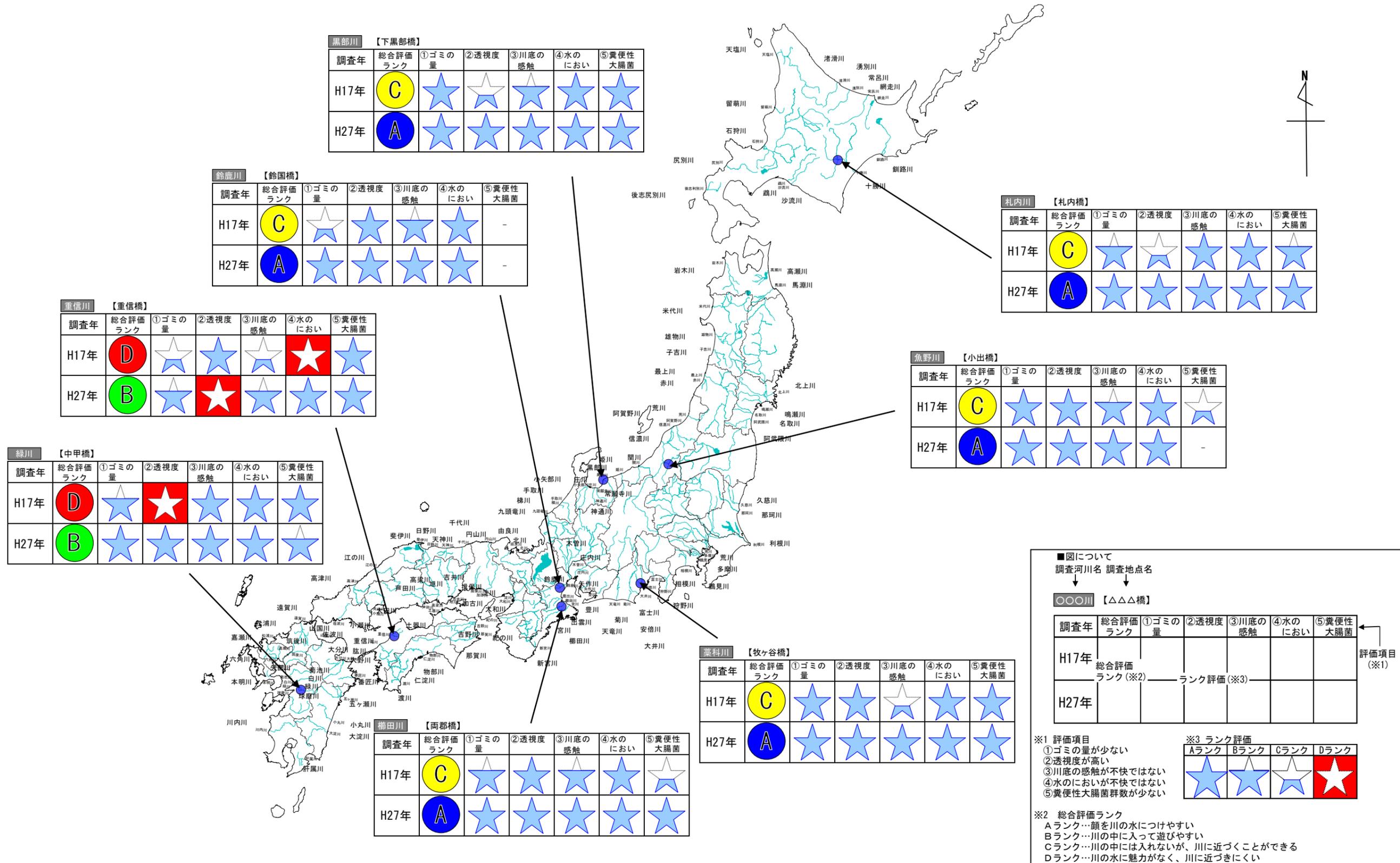
【凡例】	
年間評価ランク	■Aランク、■Bランク、■Cランク、■Dランク
ランク変動	:(ランクアップ) ↑3、↑2、↗1 :(変動なし) ⇄0 :(ランクダウン) ↘-1、↓-2、↓-3

表① 年間評価ランクの変動状況一覧表(1/2)

地整局 開発局	水系名	河川名	地点名	年間評価ランク				ランク変動						
				ふれあい		生態系		利用		ふれあい	生態系	利用		
				H17年	H27年	H17年	H27年	H17年	H27年					
北海道	沙流川	沙流川	長知内橋	B	A	B	A	-	-	↑	1	1	-	
		十勝川	札内川	札内橋	C	A	A	A	-	-	↑	2	0	-
	十勝川	十勝川	十勝大橋	C	B	B	A	-	-	↑	1	1	-	
		渚滑川	渚滑川	ウツツ橋	-	C	A	A	A	A	-	0	0	0
	石狩川	石狩川	永山橋	-	B	-	A	A	A	A	-	-	0	-
		豊平川	幌平橋下流	A	B	A	A	A	A	-	↓	-1	0	-
	天塩川	天塩川	土別橋上流	B	C	C	A	-	-	↓	-1	2	-	
		名寄川	日進橋上流	B	B	A	A	-	-	↑	0	0	-	
	鶴川	鶴川	穂別橋	B	B	A	A	-	-	↑	0	0	-	
	網走川	網走川	大正橋	B	A	A	A	-	-	↑	1	0	-	
	釧路川	釧路川	愛国浄水場取水口	-	-	-	-	A	C	-	-	-	-2	
	十勝川	札内川	南帯橋	-	-	-	-	A	A	-	-	-	0	-
		天塩川	名寄川	真勲別頭首工	-	-	-	-	A	A	-	-	-	0
	東北	阿武隈川	阿武隈川	天神橋	B	C	-	-	-	-	↓	-1	-	-
北上川		北上川	紫波橋	B	D	A	A	-	-	↓	-2	0	-	
赤川		赤川	羽黒橋	C	C	A	A	A	-	↑	0	0	-	
阿武隈川		阿武隈川	阿久津	-	-	-	-	B	C	-	-	-	-1	-
			丸森	-	-	-	-	B	B	-	-	-	-	0
			黒岩	-	-	-	-	B	C	-	-	-	-	-1
岩木川	岩木川	上岩木橋	-	-	-	-	A	A	-	-	-	0		
関東	久慈川	山田川	東橋	B	C	B	B	-	-	↓	-1	0	-	
		久慈川	富岡橋	B	A	B	B	A	A	-	1	0	0	
	荒川	荒川	久下橋	C	B	A	-	C	-	↓	1	-	-	
		都幾川	東松山橋	B	B	B	-	A	-	↑	0	-	-	
		入間川	入間大橋	-	C	-	-	B	C	-	-	-	-1	-
			落合橋(入)	-	B	-	-	A	A	-	-	-	-	0
	那珂川	那珂川	野口	A	A	A	-	A	A	↑	0	-	0	
	富士川	富士川	富士川橋	B	D	A	A	-	-	↓	-2	0	-	
	利根川	鳥川	岩倉橋	B	D	B	B	B	A	-	↓	-2	0	1
			江戸川	流山橋	-	-	-	-	B	A	-	-	-	1
		小貝川	三谷橋	C	B	B	B	-	-	↑	1	0	-	
		神流川	神流川橋	B	B	B	B	A	A	↑	0	0	0	
			藤武橋	A	B	B	B	-	A	A	↑	-1	0	-
		利根川	布川	-	C	-	B	B	C	-	-	-	-1	
多摩川	多摩川	永田橋	B	B	-	B	-	-	↑	0	-	-		
		多摩川原橋	B	C	-	C	-	-	-	↑	-1	-	-	
		多摩水道橋	B	C	-	D	-	B	-	↑	-1	-	-	
		新二子橋	B	C	-	B	-	-	-	↑	-1	-	-	
	鶴見川	鶴見川	亀の子橋	C	C	-	D	-	-	↑	0	-	-	
那珂川	那珂川	下国井	-	-	-	-	A	A	-	-	-	0		
江戸川	江戸川	新葛飾橋	-	-	-	-	B	A	-	-	-	1	-	
	渡良瀬川	赤岩用水取水口(左岸)	C	B	A	A	A	A	↑	1	0	0		
富士川	富士川	富士橋	-	-	-	-	C	C	-	-	-	0		
北陸	黒部川	黒部川	下黒部橋	C	A	A	A	-	-	↑	2	0	-	
	庄川	庄川	大門大橋	A	A	A	A	-	-	↑	0	0	-	
		信濃川	信濃川	長生橋	C	D	-	B	-	-	↓	-1	-	
	魚野川	魚野川	十日町橋	C	D	-	B	-	-	↓	-1	-	-	
			小出橋	C	A	A	B	-	-	↑	2	-1	-	
			千曲川	生田	-	-	-	-	B	B	-	-	-	0
	犀川	犀川	睦橋	-	-	-	-	C	B	-	-	-	1	
	神通川	神通川	神通大橋	B	B	B	A	-	-	↑	0	1	-	
	阿賀野川	阿賀野川	馬越橋	-	-	-	-	A	A	-	-	-	0	
	中部	安倍川	蘆科川	牧ヶ谷橋	C	A	-	A	-	-	↑	2	-	-
富川		富川	度会橋	B	A	A	B	-	-	↑	1	-1	-	
櫛田川		櫛田川	櫛田橋	B	B	B	-	-	-	↑	0	-	-	
			両郡橋	C	A	D	B	-	A	↑	2	2	-	
大井川		大井川	神座	C	C	-	A	-	-	↑	0	-		
木曾川		長良川	藍川橋	B	A	-	A	A	A	↑	1	-	0	
		木曾川	木曾川橋	A	B	-	-	-	-	↑	-1	-	-	
揖斐川		揖斐川	鷺田橋	-	A	A	A	-	-	-	-	0	-	
矢作川		矢作川	明治頭首工	-	B	B	B	-	-	-	-	0	-	
鈴鹿川		安楽川	和泉橋	-	A	B	B	-	-	-	↑	0	-	
	内部川	河原田橋	-	B	B	A	-	-	-	↑	1	-	-	
		鈴鹿川	勸進橋	-	A	B	A	-	-	-	↑	1	-	
	庄野橋	B	A	B	B	-	-	-	↑	1	0	-		
鈴鹿川	鈴鹿川	鈴国橋	C	A	B	-	-	-	↑	2	-	-		
近畿	北川	北川	高塚橋	B	B	B	A	-	-	↑	0	1	-	
	淀川	宇治川	宇治橋	B	B	B	B	-	-	↑	0	0	-	
		桂川	渡月橋	B	C	B	B	-	-	↑	-1	0	-	

表① 年間評価ランクの変動状況一覧表(2/2)

地整局 開発局	水系名	河川名	地点名	年間評価ランク						ランク変動							
				ふれあい		生態系		利用		ふれあい	生態系	利用					
				H17年	H27年	H17年	H27年	H17年	H27年								
近畿	淀川	猪名川	桑津橋	A	C	B	B	-	-	↓	-2	⇒	0	-			
			野洲川	野洲川大橋	B	B	C	B	B	A	⇒	0	⇒	1	1		
			淀川	鳥飼大橋	C	B	C	B	C	-	⇒	1	⇒	1	-		
			宇治川	宇治川御幸橋	-	-	-	-	B	A	-	-	⇒	-	1		
			桂川	宮前橋	-	-	-	-	C	B	-	-	⇒	-	1		
			木津川	木津川御幸橋	-	-	-	-	C	A	-	-	⇒	-	2		
中国	吉井川	吉井川	熊山橋	B	B	B	B	A	A	⇒	0	⇒	0	0			
			高津川	高津川	B	A	A	A	-	-	⇒	1	⇒	0	-		
			高梁川	高梁川	B	C	B	B	A	B	⇒	-1	⇒	0	-1		
			佐波川	佐波川	B	B	B	A	-	A	⇒	0	⇒	1	-		
			小瀬川	小瀬川	B	A	A	A	-	A	⇒	1	⇒	0	-		
			太田川	太田川	B	B	A	A	-	-	⇒	0	⇒	0	-		
			旭川	旭川	B	-	B	-	A	A	-	-	⇒	0	0		
			江の川	江の川	-	-	A	-	A	A	-	-	⇒	0	0		
			四国	吉野川	吉野川	高瀬橋	A	-	-	-	B	A	-	-	⇒	-	1
旧吉野川	市場橋	C				-	-	-	C	A	-	-	⇒	-	2		
重信川	重信川	重信橋				D	B	C	B	-	-	↑	2	⇒	1	-	
		出合橋				C	C	C	C	B	-	⇒	0	⇒	0	-	
		拝志大橋				B	B	A	C	-	-	⇒	0	↓	-2	-	
		中川原橋				C	C	D	C	-	-	⇒	0	⇒	1	-	
渡川	後川	後川橋				B	B	B	A	-	A	⇒	0	⇒	1	-	
		四万十川				具同	A	A	A	A	-	A	⇒	0	⇒	0	-
土器川	土器川	祓川橋				B	B	A	A	-	-	⇒	0	⇒	0	-	
		丸亀橋				C	-	C	-	B	A	-	-	⇒	-	1	
九州	遠賀川	遠賀川				溝堀	C	C	C	B	-	-	⇒	0	⇒	1	-
			五ヶ瀬川	五ヶ瀬川	-	C	B	A	-	A	-	-	⇒	-	1		
			山国川	山国川	大瀬川	C	B	A	A	-	-	⇒	1	⇒	0	-	
					柿坂	A	B	-	B	-	-	⇒	-1	⇒	-	-	
					城井橋	A	B	A	B	-	-	⇒	-1	⇒	-1	-	
					上曽木	A	A	-	B	-	-	⇒	0	⇒	-	-	
			下宮永	A	A	B	B	-	-	⇒	0	⇒	0	-			
			大分川	大分川	B	C	B	A	A	A	-	-	⇒	-1	1	0	
			大野川	乙津川	水辺の楽校	C	C	C	B	-	-	⇒	0	⇒	1	-	
					大野川	白滝橋	B	B	B	B	A	A	⇒	0	⇒	0	0
			筑後川	筑後川	台霧の瀬	-	B	B	A	-	-	-	-	⇒	1	-	
					白川	白川	B	C	B	-	-	-	⇒	-1	⇒	-	-
			番匠川	番匠川	代継橋	B	C	B	-	-	-	-	⇒	-1	⇒	-	-
					上岡	A	B	-	A	-	-	-	-	⇒	-1	⇒	-
			矢部川	矢部川	池船スポーツ公園	B	B	-	B	-	-	-	⇒	0	⇒	-	-
					船小屋	B	B	B	A	-	-	⇒	0	⇒	1	-	
			緑川	緑川	中甲橋	D	B	A	A	-	-	↑	2	⇒	0	-	
			六角川	半津川	妙見橋	C	C	B	A	-	-	⇒	0	⇒	1	-	
			菊池川	菊池川	中富	C	B	A	A	-	-	⇒	1	⇒	0	-	
			遠賀川	彦山川	中島	-	-	-	-	C	C	-	-	⇒	-	0	
			松浦川	松浦川	久里橋	-	-	-	-	A	A	-	-	⇒	-	0	
			川内川	川内川	釜淵	-	-	B	-	A	A	-	-	⇒	-	0	
			筑後川	筑後川	三隈大橋	B	-	-	-	A	A	-	-	⇒	-	0	
瀬ノ下	C	-			A	-	B	A	-	-	⇒	-	1				
菊池川	菊池川	島内堰	B	-	A	-	A	A	-	-	⇒	-	0				
		白石	-	-	-	-	A	A	-	-	⇒	-	0				



図① 「人と河川の豊かなふれあいの確保」評価ランクの平成17年から平成27年の変化（2ランクアップの調査地点）

②新しい水質指標(河川)による総合評価の最低ランクの原因の推定

新しい水質指標(河川)による総合評価結果のうち最低ランクの地点について、項目別評価ランクを示した(図-19(1)~図-19(3))。

「人と河川の豊かなふれあいの確保」については、総合評価ランクが最も低いDランクであった11地点のうち、利根川の銚子大橋は「ゴミの量」と「透視度」、大和川の河内橋は「透視度」と「水のにおい」の評価ランクが低い時期があったことが原因であった。他の地点は「透視度」の評価ランクが低い時期があったことが原因であった。

「豊かな生態系の確保」については、総合評価ランクが最も低いDランクであった5地点は「水生生物の生息」の評価ランクが低い時期があったことが原因であった。

「利用しやすい水質の確保」については、総合評価ランクが最も低いCランクであった14地点のうち、4地点では「トリハロメタン生成能」と「アンモニア性窒素(NH<sub>4</sub>-N)」、4地点では「トリハロメタン生成能」、4地点では「アンモニア性窒素(NH<sub>4</sub>-N)」、2地点では「トリハロメタン生成能」、「2-MIB」と「アンモニア性窒素(NH<sub>4</sub>-N)」の評価ランクが低い時期があることが原因であった。

表-19 総合評価の最低ランクの原因

水質指標	評価項目	地点数
人と河川の豊かなふれあいの確保	ゴミの量	1
	透視度	11
	川底の感触	0
	水のにおい	1
	糞便性大腸菌	0
	計	13
豊かな生態系の確保	DO	0
	NH <sub>4</sub> -N	0
	水生生物の生息	5
	計	5
利用しやすい水質の確保	トリハロメタン生成能	10
	2-MIB	2
	ジ'オスミン	0
	NH <sub>4</sub> -N	10
	計	22

※重複している地点もあるため、最低ランク数と表中の計は一致しない水質指標がある。

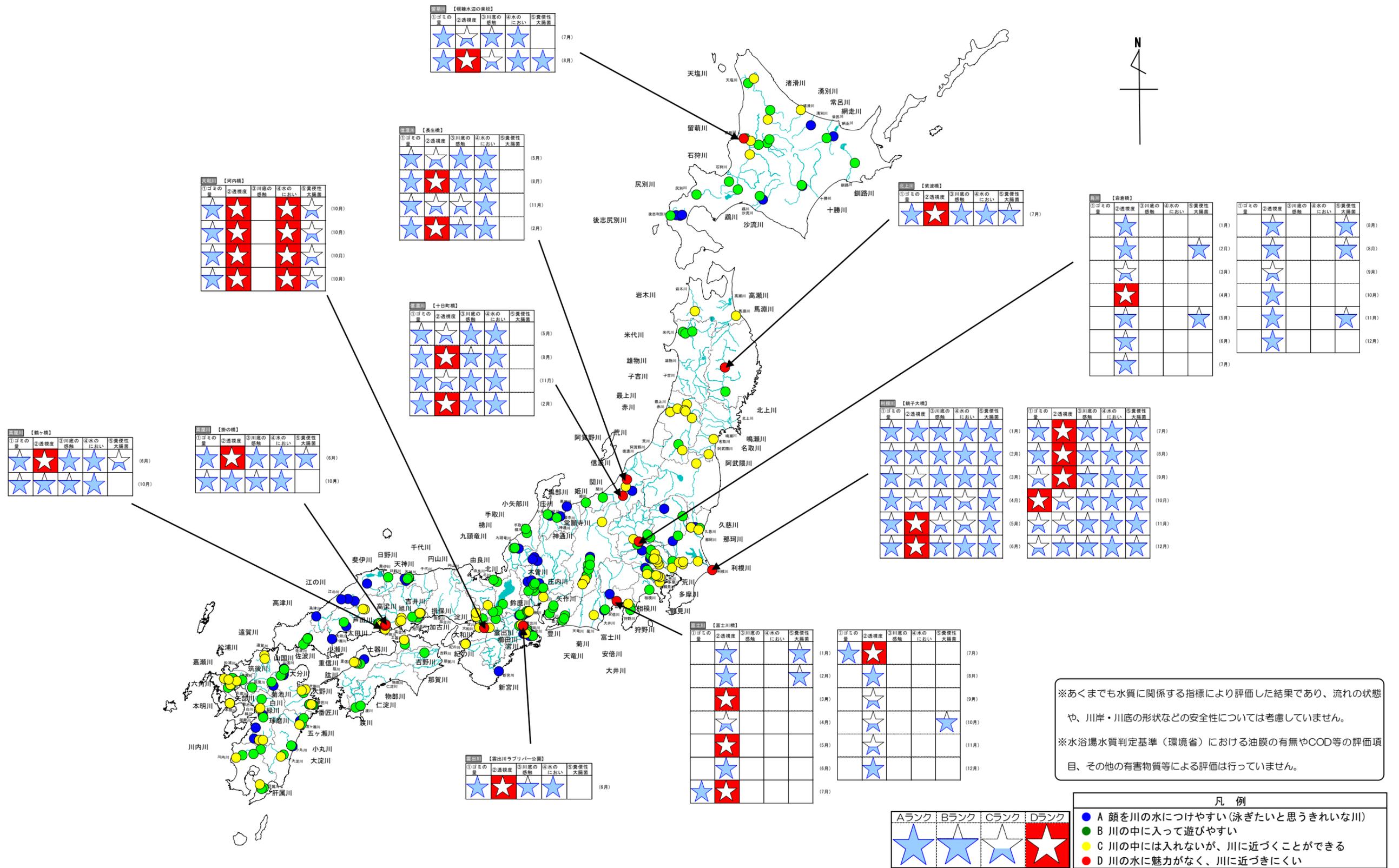


図-19 (1) 平成 27 年「人と河川の豊かなふれあいの確保」調査結果 D ランクの要因分析

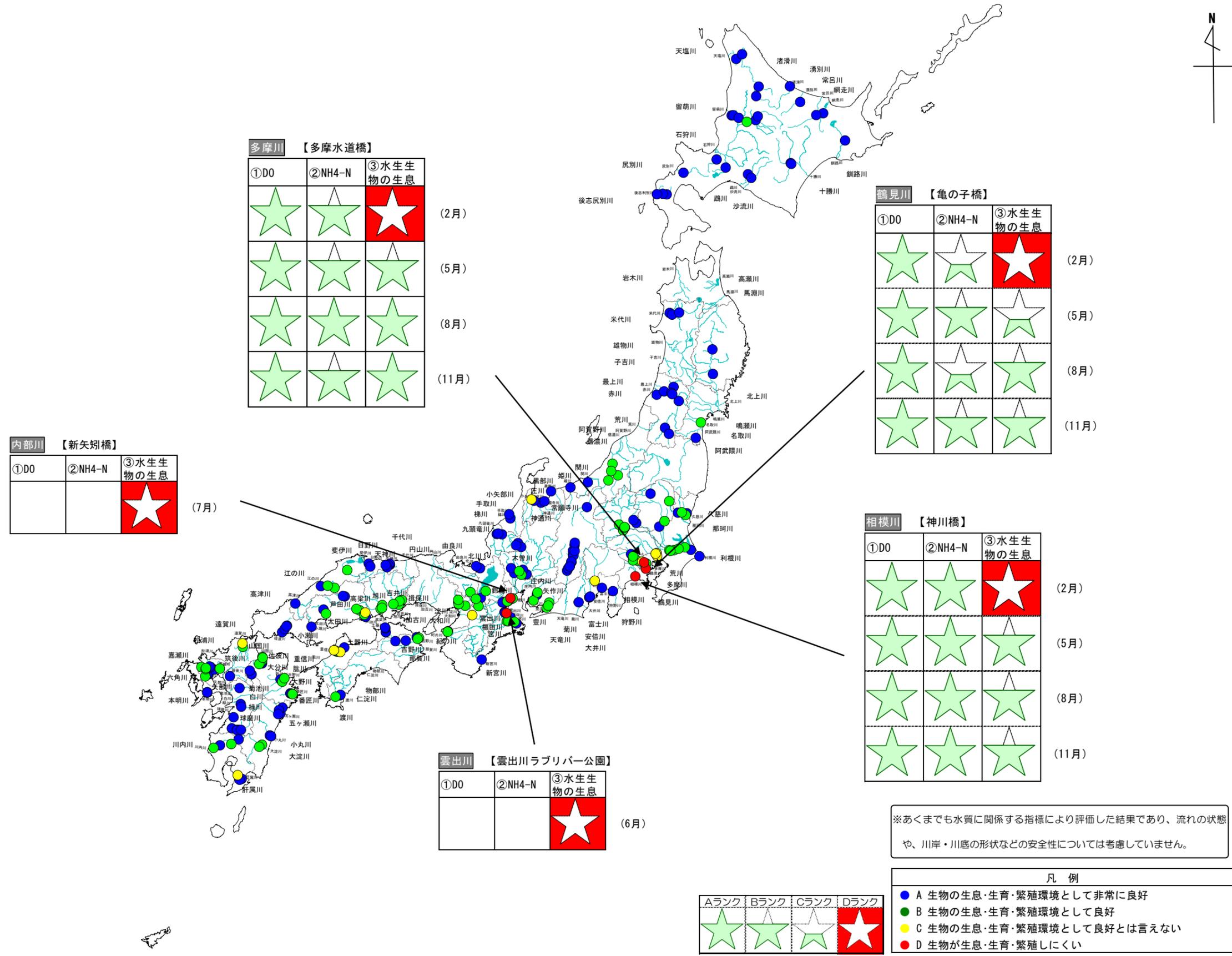


図-19 (2) 平成27年「豊かな生態系の確保」調査結果 Dランクの要因分析

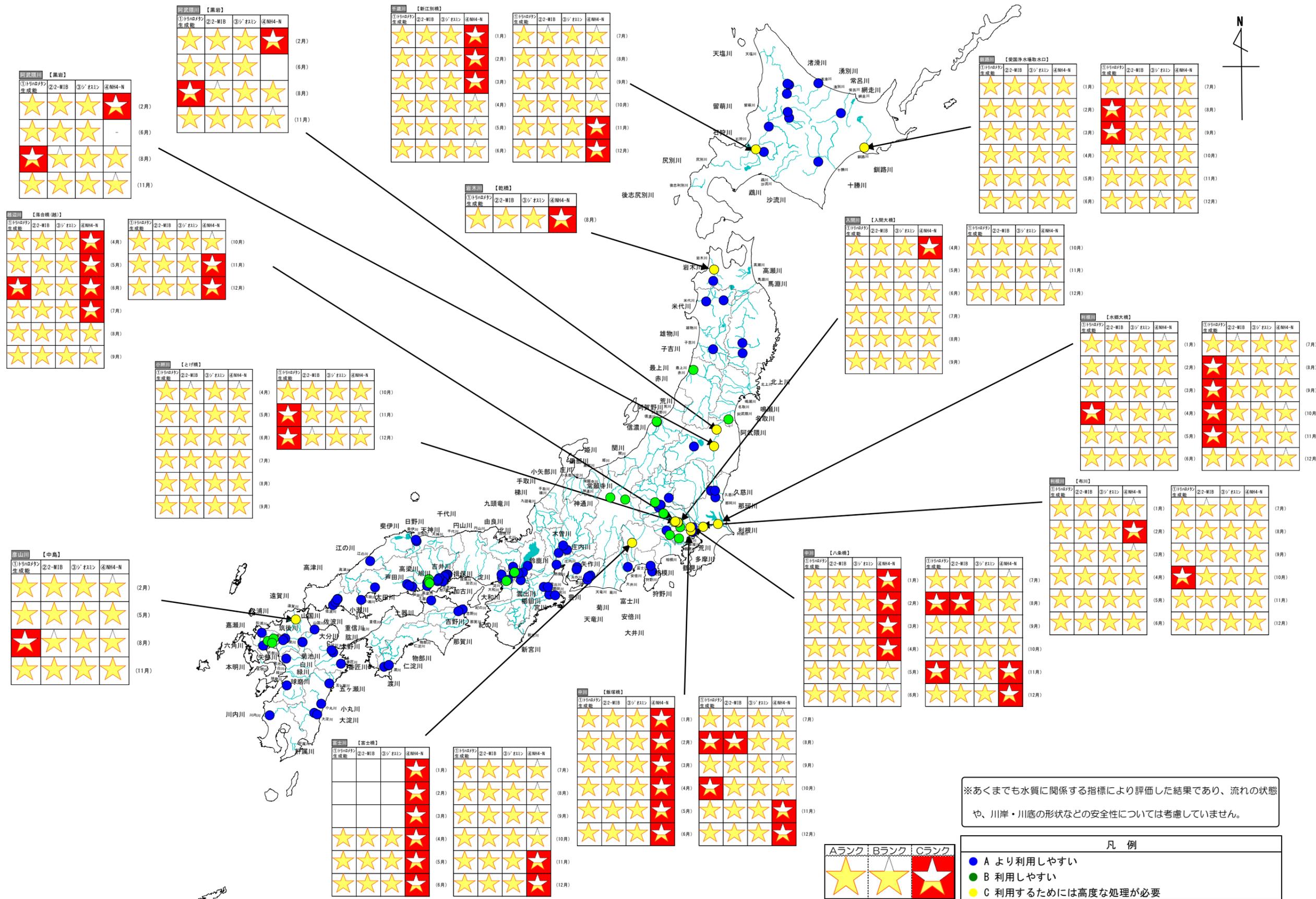


図-19 (3) 平成27年「利用しやすい水質の確保」調査結果 Cランクの要因分析

(5) 「人と河川の豊かなふれあいの確保」

① 評価項目と評価レベル

「人と河川の豊かなふれあいの確保」は、快適性や安全性といった、人が河川とふれあう際に、河川水質が確保すべき機能を評価するための視点である。

評価項目として、「ゴミの量」「透視度」「川底の感触」「水のおい」「糞便性大腸菌群数」の5つが設定されており、このうち糞便性大腸菌群数以外の4項目は、住民と河川管理者とが協働で調査する項目である。

各評価項目の評価レベルは表-20に示すとおりであり、評価は調査回ごとに最も低い項目別評価ランクをその地点のその調査時の総合評価ランクとしている。1年間の調査時の総合評価ランクのうち、年間を通じて最も頻度の高かったランクをその地点の年間の総合評価ランクとしている。

表-20 「人と河川の豊かなふれあいの確保」の評価項目と評価レベル  
(赤枠内は住民と協働調査)

ランク	説明	ランクのイメージ	評価項目と評価レベル					地域特性項目 当該河川・地点の特性や地域住民のニーズに応じて独自に設定
			全国共通項目				糞便性大腸菌群数 (個/100mL)	
			ゴミの量	透視度 (cm)	川底の感触	水のおい		
A	顔を川の水につけやすい (泳ぎたいと思うきれいな川)		川の中や水際にゴミは見あたらな いまたは、ゴミはあるが 全く気にならない	100以上	快適である	不快でない	100以下	
B	川の中に入って遊びやすい		川の中や水際にゴミは目につくが、我慢できる	70以上	不快感がない		1000以下	
C	川の中には入れないが、川に近づくことができる		川の中や水際にゴミがあつて不快である	30以上	不快である	水に鼻を近づけると不快な臭いを感じる	1000を超えるもの	
D	川の水に魅力がなく、川に近づきにくい		川の中や水際にゴミがあつてとても不快である	30未満				水に鼻を近づけるととても不快な臭いを感じる

## ②年間の総合評価ランク

地点の年間の総合評価について、全地点数に占める各評価ランクの地点数の割合を、地方別に図-20に示す。

地方により内訳の違いが大きかったが、全国の合計では、Aランクの地点が約24%、A、Bランクの地点を合わせると約67%であった。地方ごとに見ると、北海道地方、北陸地方、中部地方、四国地方では、AランクとBランクの地点が約70%以上を占めていた。

【人と河川の豊かなふれあいの確保】

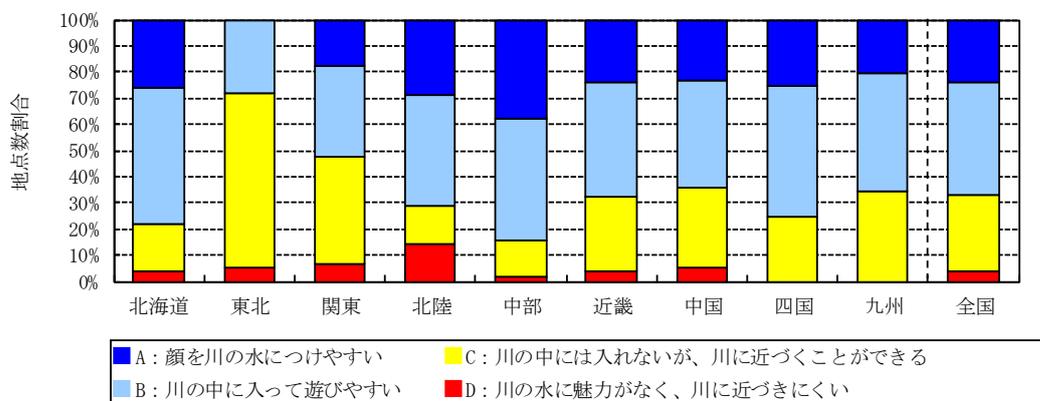


図-20 年間の総合評価ランク別割合（人と河川の豊かなふれあいの確保）

### ③年間の評価項目評価ランク

5つの評価項目それぞれについて、全地点数に占める各評価ランクの地点数の割合を、地方別に図-21に示す。

Dランクと評価された地点の割合に着目すると、全国では、「ゴミの量」が約6%、「透視度」が約9%となっていた。東北地方では「ゴミの量」「透視度」がDランクと評価された地点の割合が約20%以上となっていた。中国地方では「透視度」がDランクと評価された地点の割合が約20%以上となっていた。四国地方では、「透視度」がDランクと評価された地点の割合が約40%以上となっていた。

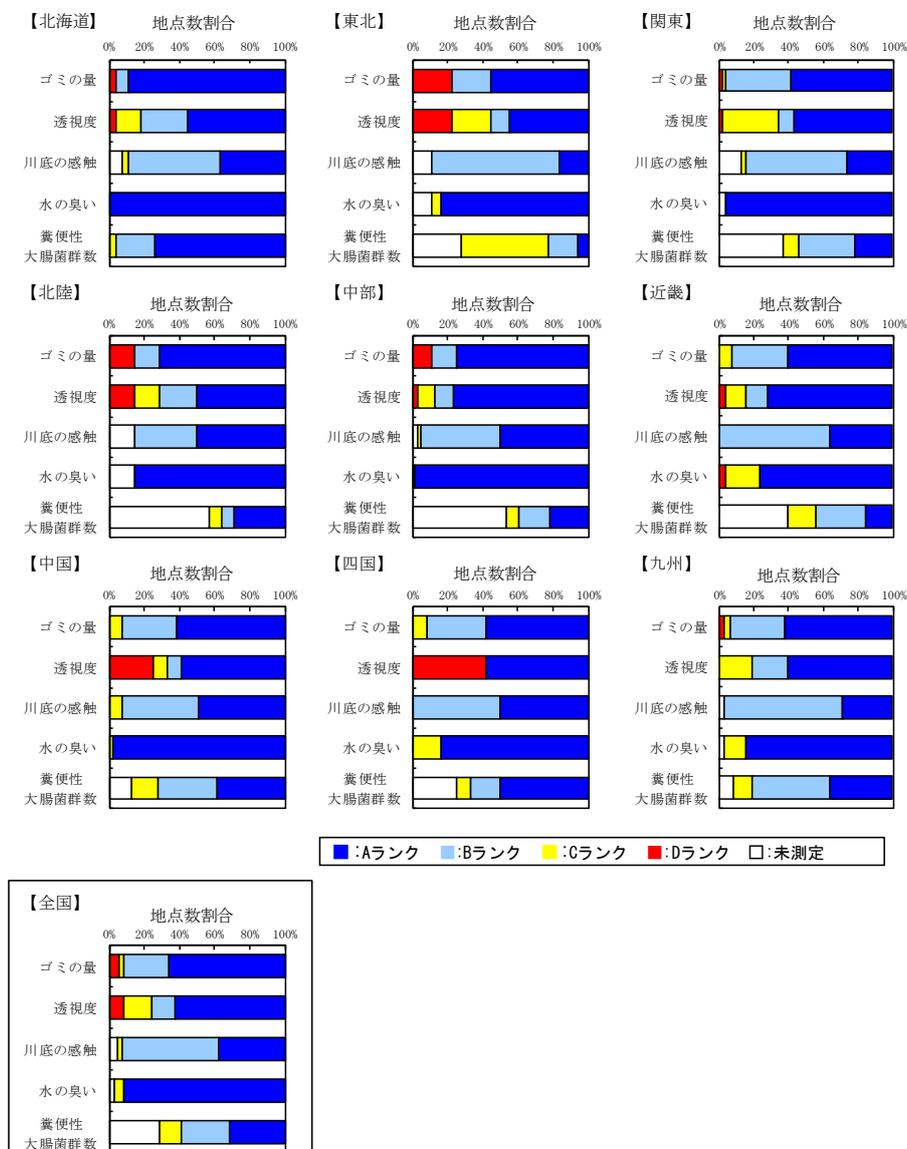


図-21 年間の評価項目のランク別割合（人と河川の豊かなふれあいの確保）

(6) 「豊かな生態系の確保」

①評価項目と評価レベル

「豊かな生態系の確保」は、動植物の生息や生育、繁殖といった、河川の健全な生態系を確保する上で、河川水質が満たすべき機能を評価するための視点である。

評価項目として、「溶存酸素(DO)」「アンモニア性窒素(NH<sub>4</sub>-N)」「水生生物の生息」の3つが設定されており、このうち「水生生物の生息」は、住民と河川管理者とが協働で調査する項目である。

各評価項目の評価レベルは表-21に示すとおりであり、評価は調査回ごとに最も低い項目別評価ランクをその地点のその調査時の総合評価ランクとしている。1年間の調査時の総合評価ランクのうち、年間を通じて最も低かったランクをその地点の年間の総合評価ランクとしている。

表-21 「豊かな生態系の確保」の評価項目と評価レベル  
(赤枠内は住民と協働調査)

ランク	説明	評価項目と評価レベル			地域特性項目 当該河川・地点の特性や地域住民のニーズに応じて独自に設定
		全国共通項目			
		DO(mg/L)	NH <sub>4</sub> -N(mg/L)	水生生物の生息	
A	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好	7以上	0.2以下	I. きれいな水 ・カワゲラ ・ナガレトビケラ等	・住民と共に独自に設定 ・文献等から設定
B	生物の生息・生育・繁殖環境として良好	5以上	0.5以下	II. 少しきたない水 ・コガタシマトビケラ ・オオシマトビケラ等	
C	生物の生息・生育・繁殖環境として良好とは言えない	3以上	2.0以下	III. きたない水 ・ミズムシ ・ミズカマキリ等	
D	生物が生息・生育・繁殖しにくい	3未満	2.0を超えるもの	IV. 大変きたない水 ・セスジユスリカ ・チョウバエ等	

## ②年間の総合評価ランク

地点の年間の総合評価について、全地点数に占める各評価ランクの地点数の割合を、地方別に図-22に示す。

全国的にAあるいはBランクである地点の割合が高く、全国の合計では、Aランクの地点が約62%、A、Bランクの地点を合わせると約93%であった。地方ごとに見ると、全ての地方でAランクとBランクの地点が概ね70%以上を占めていた。

### 【豊かな生態系の確保】

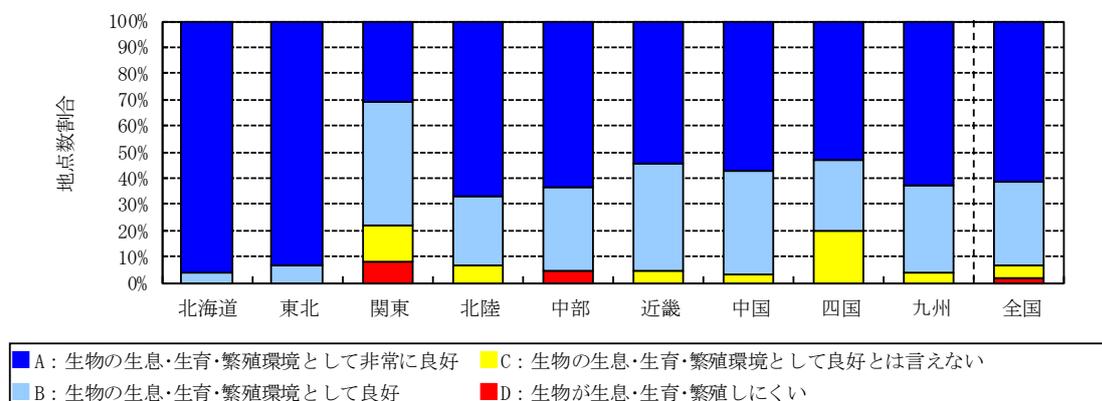


図-22 年間の総合評価ランク別割合 (豊かな生態系の確保)

### ③年間の評価項目評価ランク

3つの評価項目それぞれについて、全地点数に占める各評価ランクの地点数の割合を、地方別に図-23に示す。

全国を合わせてみると、「DO」は測定を行った約90%の地点でAランクであった。「NH<sub>4</sub>-N」「水生生物の生息」は測定を行った約90%以上の地点でBランク以上であった。地方ごとに見ると、関東地方は「水生生物の生息」がDランクである地点の割合が多い。

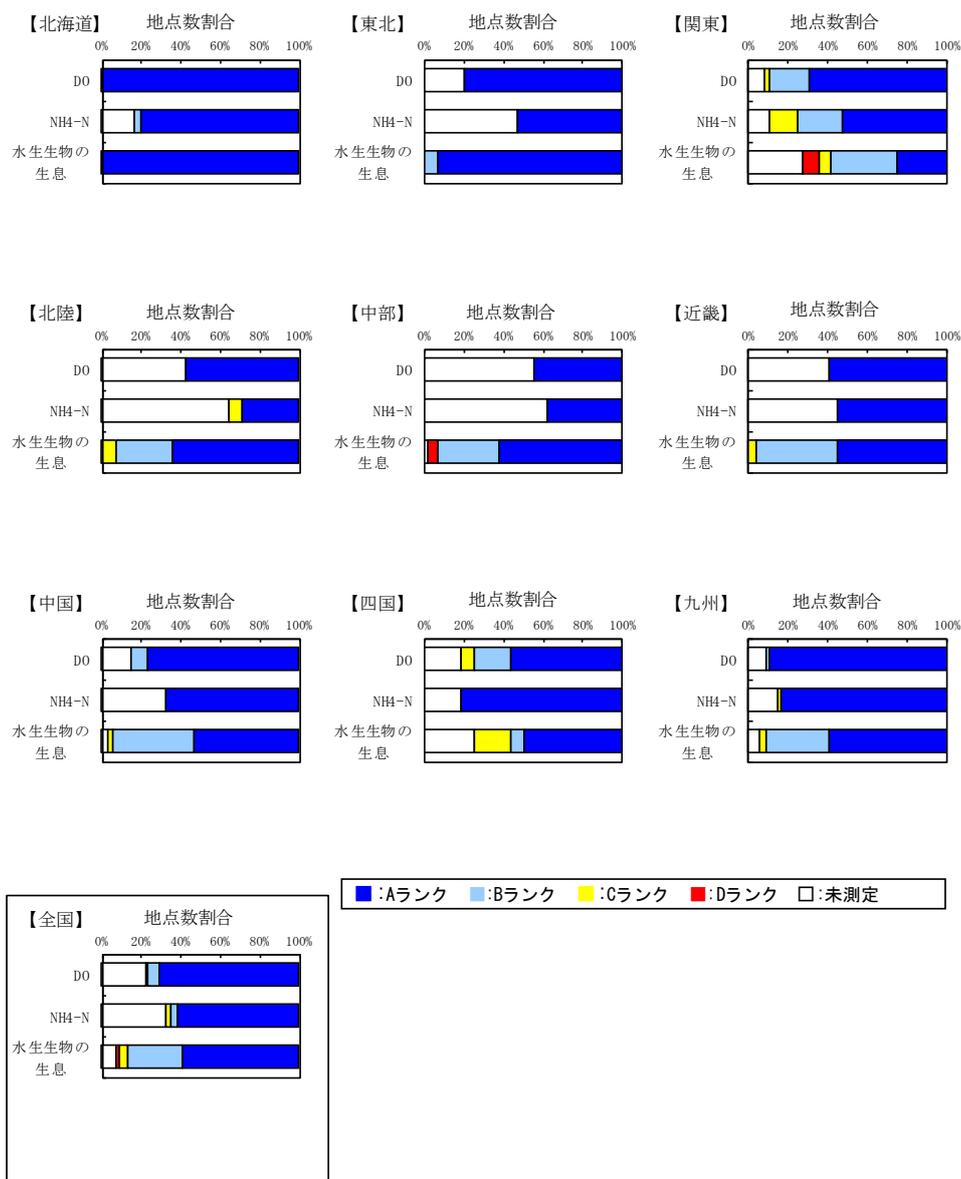


図-23 年間の評価項目のランク別割合（豊かな生態系の確保）

(7) 「利用しやすい水質の確保」

① 評価項目と評価レベル

「利用しやすい水質の確保」は、現状において特に水質的課題が顕著である「上水利用」に注目し、安全性や快適性、維持管理性（浄水処理管理）といった、河川水質が確保すべき機能を評価するための視点である。

評価項目として、「トリハロメタン生成能」「2-MIB」「ジオスミン」「アンモニア性窒素(NH<sub>4</sub>-N)」の4つが設定されている。

各評価項目の評価レベルは表-22に示すとおりであり、評価は調査回ごとに最も低い項目別評価ランクをその地点のその調査時の総合評価ランクとしている。1年間の調査時の総合評価ランクのうち、年間を通じて95%値に該当するランクをその地点の年間の総合評価ランクとしている。

表-22 「利用しやすい水質の確保」の評価項目と評価レベル

ランク	説明	評価項目と評価レベル				
		全国共通項目				地域特性項目
		安全性	快適性		維持管理性	当該河川・地点の特性 や地域住民のニーズに 応じて独自に設定
トリハロメタン 生成能 ( $\mu\text{g/L}$ )	2-MIB ( $\text{ng/L}$ )	ジオスミン ( $\text{ng/L}$ )	NH <sub>4</sub> -N ( $\text{mg/L}$ )			
A	より利用しやすい	100以下	5以下	10以下	0.1以下	文献等から設定
B	利用しやすい		20以下	20以下	0.3以下	
C	利用するためには高度な 処理が必要	100を超えるもの	20を超えるもの	20を超えるもの	0.3を超えるもの	

## ②年間の総合評価ランク

地点の年間の総合評価について、全地点数に占める各評価ランクの地点数の割合を、地方別に図-24に示す。

全国的にAあるいはBランクである地点の割合が高く、全国の合計では、Aランクの地点が約75%、A、Bランクの地点を合わせると約90%であった。地方ごとに見ると、全ての地方でAランクとBランクの地点が概ね70%以上を占めていた。

しかし、東北地方、関東地方ではCランクの地点の割合が他の地方に比べ大きかった。

### 【利用しやすい水質の確保】

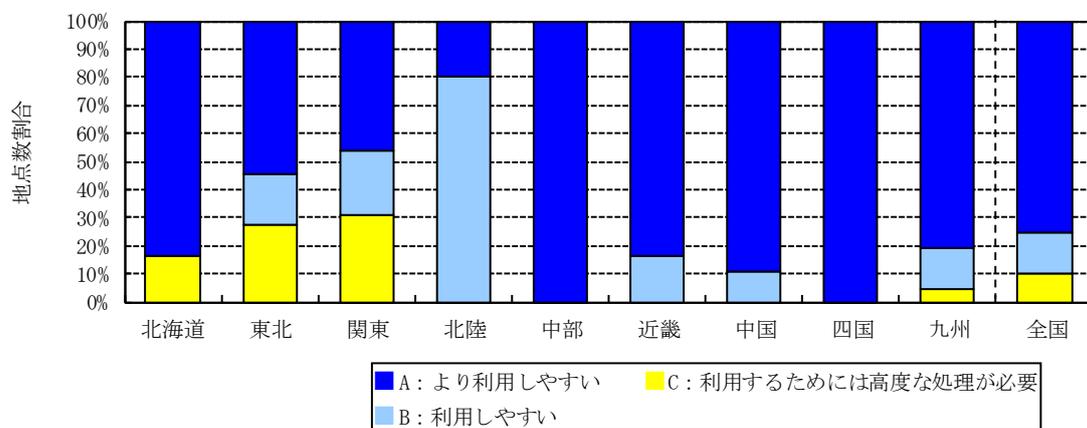


図-24 年間の総合評価ランク別割合 (利用しやすい水質の確保)

### ③年間の評価項目評価ランク

4つの評価項目それぞれについて、全地点数に占める各評価ランクの地点数の割合を、地方別に図-25に示す。

全国を合わせてみると、「トリハロメタン生成能」は約93%、「2-MIB」は約93%、「ジオスミン」は約99%、「NH<sub>4</sub>-N」は約79%の地点でAランクであった。地方ごとに見ると、東北地方、関東地方は「トリハロメタン生成能」「NH<sub>4</sub>-N」がCランクである地点の割合が多かった。

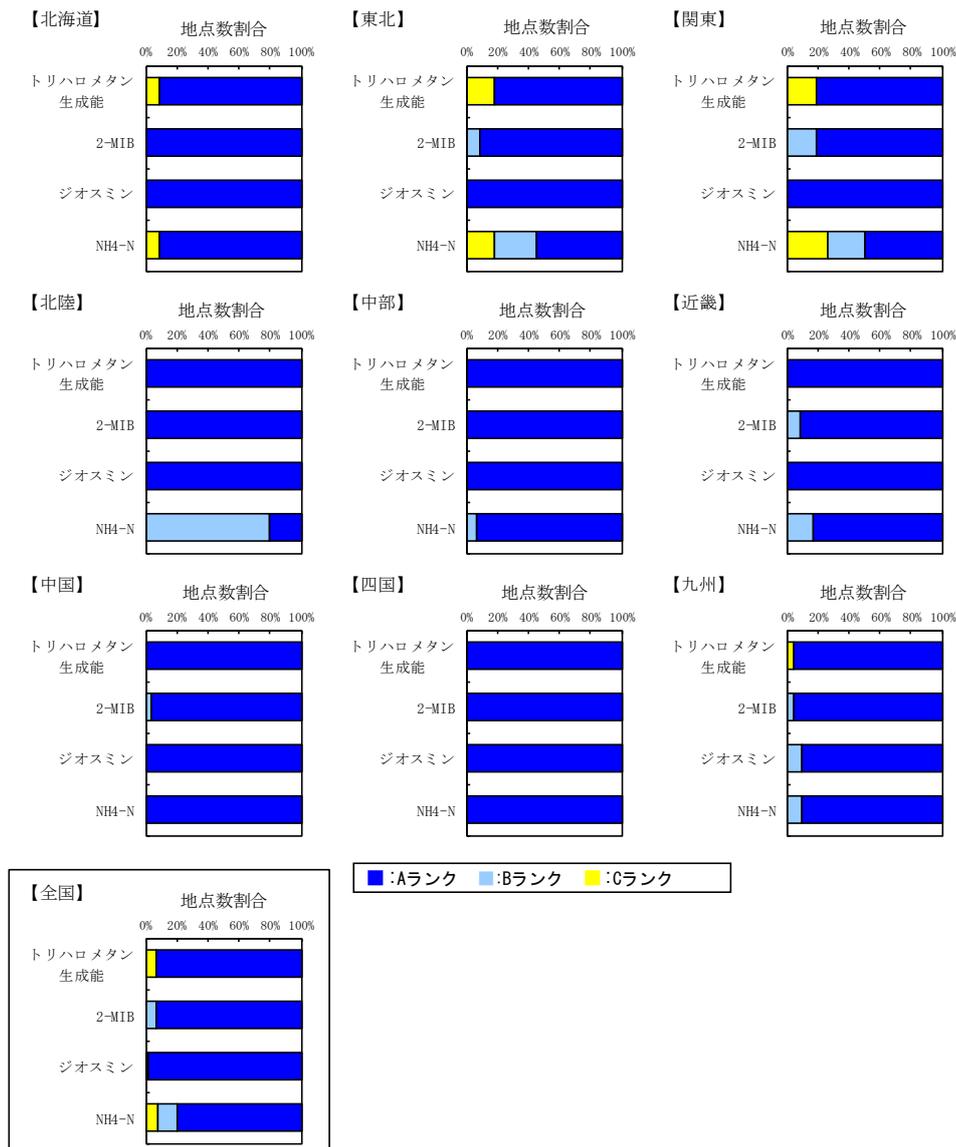


図-25 年間の評価項目のランク別割合 (利用しやすい水質の確保)

(8) 「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」

①指標項目

「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」は、河川の下流域、特に閉鎖性水域などの滞留水域の富栄養化を意識した水質管理を行う視点で設定されており、富栄養化状態を直接的に表す「総窒素 (T-N)」「総リン (T-P)」を指標項目として設定している。

なお、一般的に滞留水域の水質と滞留水域に流入する河川の水質は異なり、現状の知見では、下流域へ影響を与える河川水質濃度を評価することは困難であることから、「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」の視点では、評価項目、評価ランク及び評価レベルは定めていない。

②年間の地点平均値の濃度範囲

地点のT-N、T-P年平均値について、全地点数に占める各濃度範囲の地点数の割合を図-26に示す。

T-Nは、全国を合わせてみると、約46%の地点が年平均値1mg/ℓ以下であった。地方ごとに見ると、関東地方以外の地方では1mg/ℓ以下の地点が過半数を占めていた。逆に、関東地方では1mg/ℓ以下の地点は約5%であり、約30%の地点が3mg/ℓを超えていた。

T-Pは、全国を合わせてみると、約37%の地点が年平均値0.05mg/ℓ以下であった。地方ごとに見ると、北海道地方、東北地方、北陸地方、中部地方、近畿地方では0.05mg/ℓ以下の地点が過半数を占めていた。

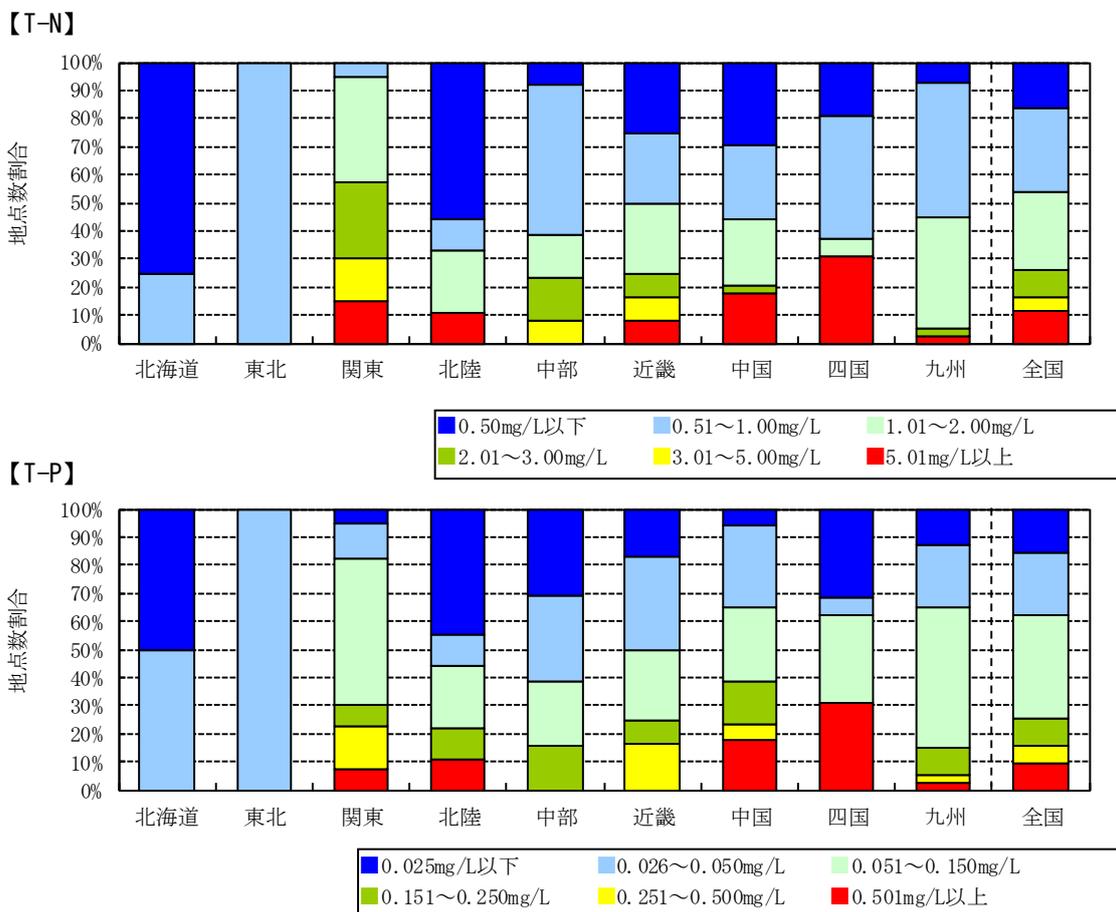


図-26 年間の地点平均値の濃度範囲別割合

(下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保)

※新しい水質指標の調査として測定された調査データのみを対象。

## 2. 2 新しい水質指標(湖沼)

### (1)新しい水質指標(湖沼)とは

新しい水質指標(湖沼)とは、人と湖沼のふれあいや生態系への関心など、多様化する湖沼の課題に対応した湖沼水質管理を実施するために多様な視点を踏まえ、湖沼をCODなどの環境基準だけでなく多様な視点で評価できるように検討された指標である。評価の視点は、「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」「利用しやすい水質の確保」「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」の4つにわたり、「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」以外の視点について評価項目と評価レベルが設定されている。

また、4つの視点のうち「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」では、調査の一部は住民と河川管理者との協働により実施している。

新しい水質指標(湖沼)は、平成22年3月に「今後の湖沼水質管理の指標について(案)」(国土交通省河川局河川環境課)としてとりまとめられ、これに基づく調査が、同年より全国の湖沼を対象に実施されている。

### (2)実施水系・地点数

「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」「利用しやすい水質の確保」の平成27年の調査実施状況を表-23に示す。

「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」では、調査を実施した調査地点のうち、住民との協働調査を実施している調査地点数は、「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」では9地点(全国14地点)、「豊かな生態系の確保」では6地点(全国15地点)である。

「利用しやすい水質の確保」では、該当する地点に限られるため<sup>注20</sup>、水系数・地点数ともに「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」や「豊かな生態系の確保」よりも少なく全国9地点で実施された。

---

<sup>注20</sup> 「利用しやすい水質の確保」は、水道水源としての利用しやすさを評価する指標項目であることから、主に上水道取水がある水域を調査対象範囲としている。

表-23 調査を実施した湖沼数と地点数

地整局 開発局	人と湖沼の豊かな ふれあいの確保		豊かな生態系の確保		利用しやすい 水質の確保	
	湖沼数	地点数	湖沼数	地点数	湖沼数	地点数
北海道	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0	0
東北	0 (0)	0 (0)	3 (0)	3 (0)	3	3
関東	2 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	2	5
北陸	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0	0
中部	1 (1)	5 (5)	1 (1)	5 (5)	0	0
近畿	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0	0
中国	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0	0
四国	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0	0
九州	3 (2)	4 (2)	3 (1)	5 (1)	1	1
全国	9 (5)	14 (9)	9 (2)	15 (6)	6	9

※ () 内は、住民と協働して調査を実施した湖沼数と地点数を示す。

### (3)参加者数

住民との協働による測定を実施する「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」の視点による調査では291人、「豊かな生態系の確保」の視点による調査では238人の住民に参加を得て実施した(図-27)。

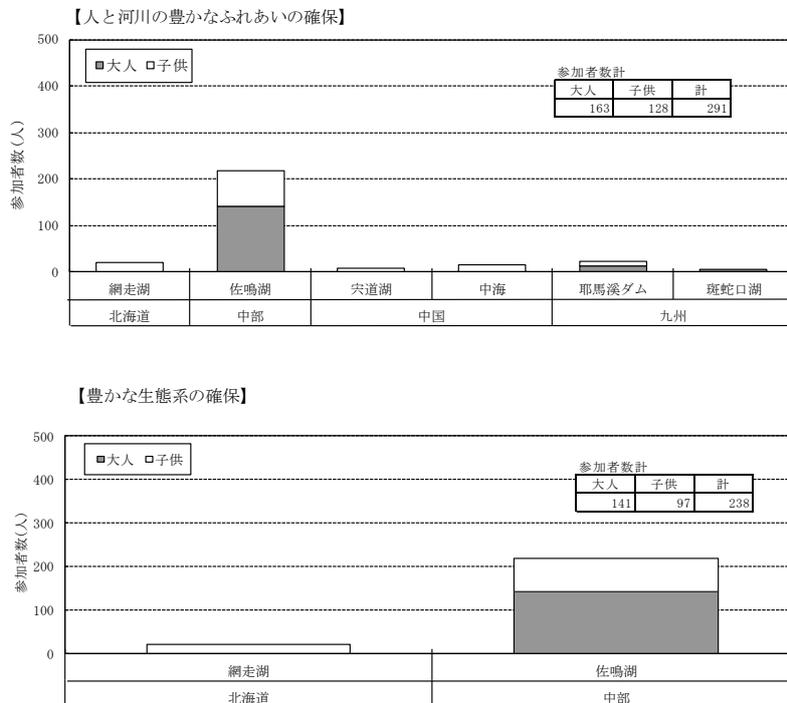


図-27 調査に参加した住民の数(延べ人数)

※例えば、1人が2つの地点を調査した場合は、2人として集計している。

#### (4) 調査結果

##### ①新しい水質指標(湖沼)による全国の調査地点の総合評価結果

平成27年に実施した新しい水質指標(湖沼)による調査結果を基に、「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」「利用しやすい水質の確保」の3つの視点ごとに、全国の調査地点の総合的な評価<sup>注21</sup>を行い、「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」の年間の総合評価ランクを全国マップ(図-28)に示した。

年間の総合評価ランクが最も高いAランクの地点は、表-24に示すように、「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」の視点については約29%(4地点/14地点)、「豊かな生態系の確保」の視点については水質(底層DO、NH<sub>4</sub>-N<sup>注22</sup>)による評価では約87%(13地点/15地点)、生物による評価では0%(0地点/6地点)、「利用しやすい水質の確保」の視点については約22%(2地点/9地点)となった。

一方、年間の総合評価ランクが最も低いDランクの地点は、「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」の視点については0地点、「豊かな生態系の確保」の視点については水質(底層DO、NH<sub>4</sub>-N)による評価では約7%(1地点/15地点)、生物による評価<sup>注23</sup>では約33%(2地点/6地点)となった。また、「利用しやすい水質の確保」では評価ランクが最も低いCランクの地点は、約78%(7地点/9地点)となった。

表-24 新しい水質指標(湖沼)による年間の総合評価ランク別の地点数

	人と湖沼の豊かなふれあい		豊かな生態系				利用しやすい水質				
	地点数	割合	水質		生物		地点数	割合			
			地点数	割合	地点数	割合					
Aランク	4	(2)	29%	13	(6)	87%	0	(0)	0%	2	22%
Bランク	3	(2)	21%	0	(0)	0%	3	(3)	50%	0	0%
Cランク	7	(5)	50%	1	(0)	7%	1	(1)	17%	7	78%
Dランク	0	(0)	0%	1	(0)	7%	2	(2)	33%		
計	14	(9)	100%	15	(6)	100%	6	(6)	100%	9	100%

※ ( ) 内は、住民と協働で調査した地点数。四捨五入による端数処理のため内訳の合計が100%にならないことがある。

注21 評価項目ごとにA～Dランクの4段階(「利用しやすい水質の確保」はA～Cランクの3段階)の評価ランクを決めた上で、まず調査回ごとに最も低い項目別評価ランクを、その地点のその調査時の総合評価ランクとする。ただし、「豊かな生態系の確保」については、生物の生息は各湖沼で設定される指標項目であることから、その項目を除いた底層DO、NH<sub>4</sub>-Nで評価することを基本とし、生物の生息については、単独で評価している。1年間の調査時の総合評価ランクのうち、「人と河川の豊かなふれあいの確保」では最頻ランク、「豊かな生態系の確保」では、底層DO、NH<sub>4</sub>-Nによる評価は最低ランク、生物の生息は、最高ランクをその地点の年間の総合評価ランクとする。「利用しやすい水質の確保」では95%値に該当するランクを、その地点の年間の総合評価ランクとする。評価方法の詳細は「今後の湖沼水質管理の指標について(案)」参照。

注22 NH<sub>4</sub>-Nは、底層DOと同一の調査地点(採水位置)での測定値で評価している。

注23 網走湖では「ヤマトシジミ」、佐鳴湖では「水辺の植生」を指標とした評価をしている。

ランク	ランクのイメージ	説明	地点数*	割合
A		顔を湖沼の水につけやすい (泳ぎたいと思う きれいな湖沼)	4 (2)	29%
B		湖沼の中に入って 遊びやすい	3 (2)	21%
C		湖沼の中には入れないが、湖沼に近づくことができる	7 (5)	50%
D		湖沼の水に魅力がなく、湖沼に近づきにくい	0 (0)	0%
計			14 (9)	100%

※ ( )内は、住民と協働で調査を実施した地点

湖沼名	調査地点名	年間ランク
さよの湖 きゅうらぎ (厳木ダム)	K-1	A
	K-2	A

湖沼名	調査地点名	年間ランク
しんじこ 六道湖	斐川なぎさ公園	B

湖沼名	調査地点名	年間ランク
なかうみ 中海	本庄水辺の楽校	B

湖沼名	調査地点名	年間ランク
やばけい 耶馬溪ダム	YL-1	A

湖沼名	調査地点名	年間ランク
はんじゃくこ 斑蛇口湖	ボート場艇庫	A

湖沼名	調査地点名	年間ランク
あばしりこ 網走湖	女満別キャンプ場	C

湖沼名	調査地点名	年間ランク
てががわ 手賀川	布佐下	C

湖沼名	調査地点名	年間ランク
かすみがうら にしうら 霞ヶ浦 (西浦)	沖宿	B

湖沼名	調査地点名	年間ランク
さなるこ 佐鳴湖	①漕艇場	C
	②入野漁協船着場	C
	③接触酸化施設	C
	④佐鳴八景歌碑	C
	⑤西岸時計塔前	C

※あくまでも水質に関する指標により評価した結果であり、湖岸・湖底の形状などの安全性については考慮していません。  
※水浴場水質判定基準（環境省）における油膜の有無やCOD等の評価項目、その他の有害物質等による評価は行っていません。

図-28 新しい水質指標（湖沼）による「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」調査結果

## ②新しい水質指標(湖沼)による総合評価の最低ランクの原因の推定

新しい水質指標(湖沼)による総合評価結果のうち最低ランクの地点について、項目別評価ランクを示した(図-29(1)~図-29(2))。

なお、「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」については、総合評価ランクが最も低いDランクであった調査地点はなかった。

「豊かな生態系の確保」については、総合評価ランクが最も低いDランクであった3地点のうち、2地点が「水生生物の生息」、1地点が「底層DO」の評価ランクが低いことが原因であった。

「利用しやすい水質の確保」については、総合評価ランクが最も低いCランクであった7地点のうち、3地点が「トリハロメタン生成能」、4地点が「トリハロメタン生成能」、「2-MIB」、「ジオスミン」の評価ランクが低いことが原因であった。

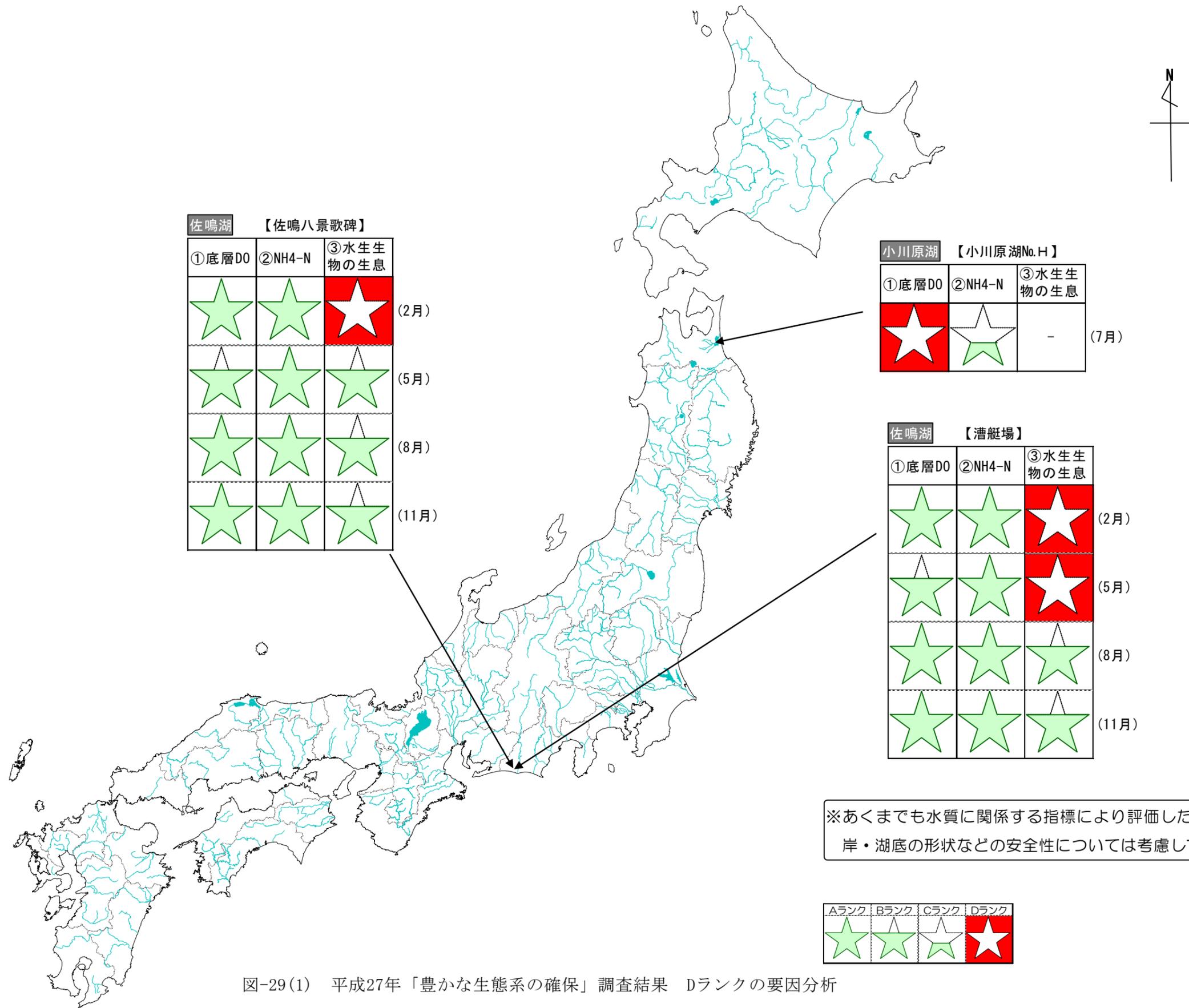


図-29(1) 平成27年「豊かな生態系の確保」調査結果 Dランクの要因分析

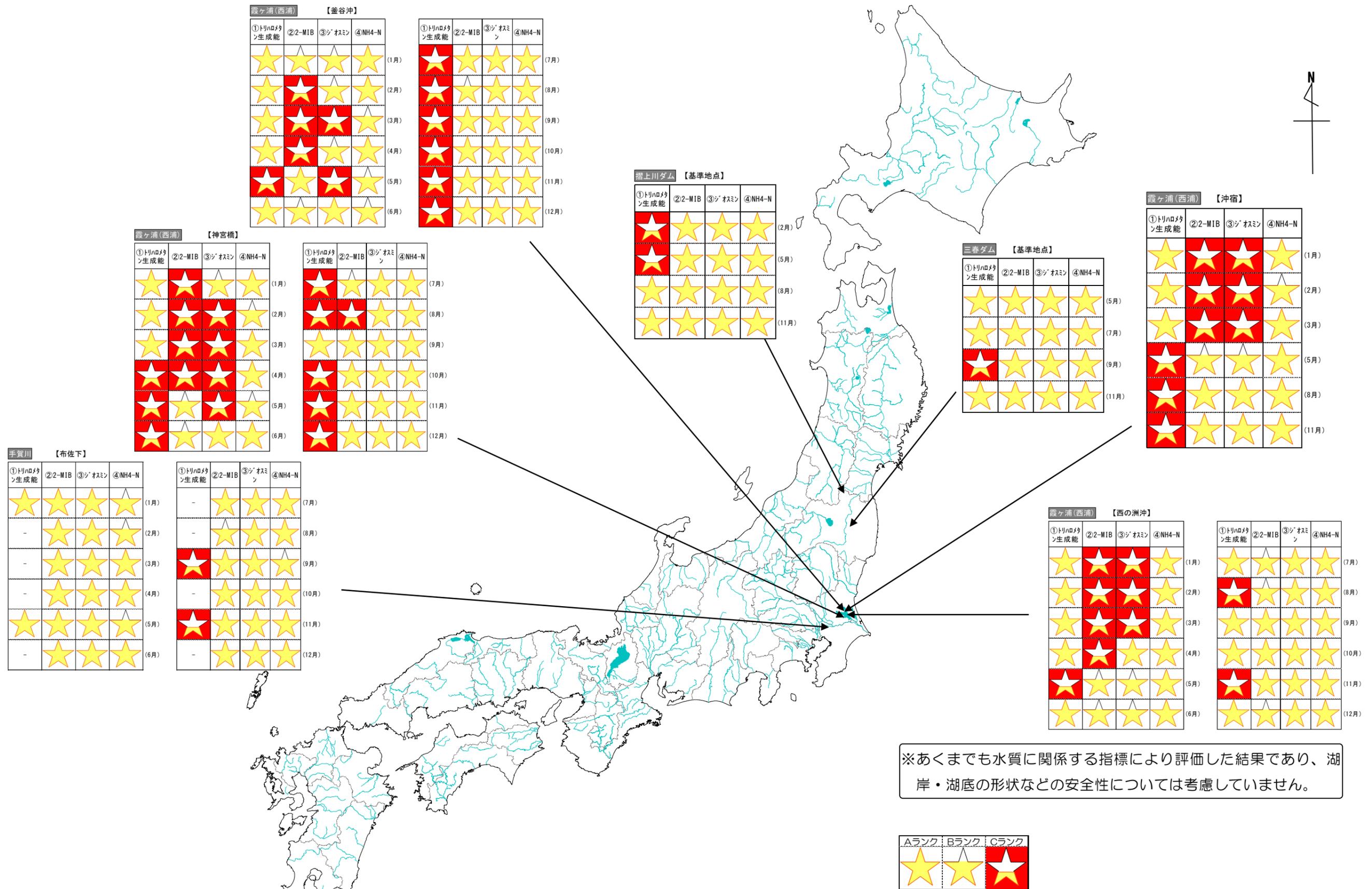


図-29(2) 平成27年「利用しやすい水質の確保」調査結果 Cランクの要因分析

(5) 「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」

① 評価項目と評価レベル

「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」は、快適性や安全性といった、人が湖沼とふれあう際に、湖沼水質が確保すべき機能を評価するための視点である。

評価項目として、「ゴミの量」「透視度」「湖底の感触」「水のおい」「アオコ発生」「糞便性大腸菌群数」の6つが設定されており、このうち糞便性大腸菌群数以外の5項目は、住民と河川管理者が協働で調査する項目である。

各評価項目の評価レベルは表-25に示すとおりであり、評価は、調査回ごとに最も低い項目別評価ランクをその地点のその調査時の総合評価ランクとしている。1年間の調査時の総合評価ランクのうち、年間を通じて最も頻度の高かったランクをその地点の年間の総合評価ランクとしている。

表-25 「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」の評価項目と評価レベル  
(赤枠内は住民と協働調査)

ランク	説明	ランクのイメージ	評価項目と評価レベル						
			全国共通項目					地域特性項目	
			ゴミの量	透視度 (cm)	湖底の感触	水のおい	アオコ発生	糞便性大腸菌群数 (個/100mL)	
A	顔を湖沼の水につけやすい		湖沼の中や水際にゴミは見あたらないまたは、ゴミはあるが全く気にならない	50以上	快適である	不快でない	アオコは確認できない	100以下	・住民と共に独自に設定 ・文献等から設定
B	湖沼の中に入って遊びやすい		湖沼の中や水際にゴミは目につくが、我慢できる	25以上	不快感が無い		肉眼では水面にアオコが確認できないが、水をくんで肉眼でよく見ると確認できる	1000以下	
C	湖沼の中には入れないが、湖沼に近づくことができる		湖沼の中や水際にゴミがあって不快である	25未満	不快である	水に鼻を近づけて不快なおいを感じる	アオコがうっすらと筋状に発生していて、水面にわずかに散らばり肉眼で確認できる	1000を超えるもの	
D	湖沼の水に魅力がなく、湖沼に近づきにくい		湖沼の中や水際にゴミがあってとても不快である			水に鼻を近づけてとても不快なおいを感じる	アオコが湖面や湖岸の表面を広く覆い、かたまりもできている		

## ②年間の総合評価ランク

地点の年間の総合評価について、全地点数に占める各評価ランクの地点数の割合を、湖沼別に図-30に示す。

湖沼により内訳の違いが大きかったが、全国の合計では、Aランクの地点が約29%、A、Bランクの地点を合わせると約50%であった。湖沼ごとにみると、耶馬溪湖、斑蛇口湖、さよの湖（厳木ダム）ではAランクと評価された地点があった。

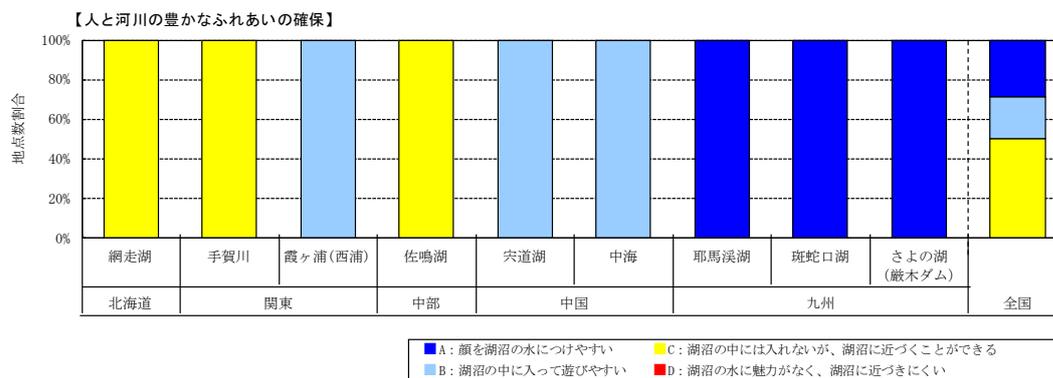


図-30 年間の総合評価ランク別割合（人と湖沼の豊かなふれあいの確保）

### ③年間の評価項目評価ランク

6つの評価項目それぞれについて、全地点数に占める各評価ランクの地点数の割合を、湖沼別に図-31に示す。

全国を合わせてみると、「水のおい」「アオコの発生」「糞便性大腸菌群数」の測定を行った約90%以上の地点でAランクであった。湖沼ごとにCランク以下の項目をみると、網走湖、手賀川、佐鳴湖では「透視度」であった。

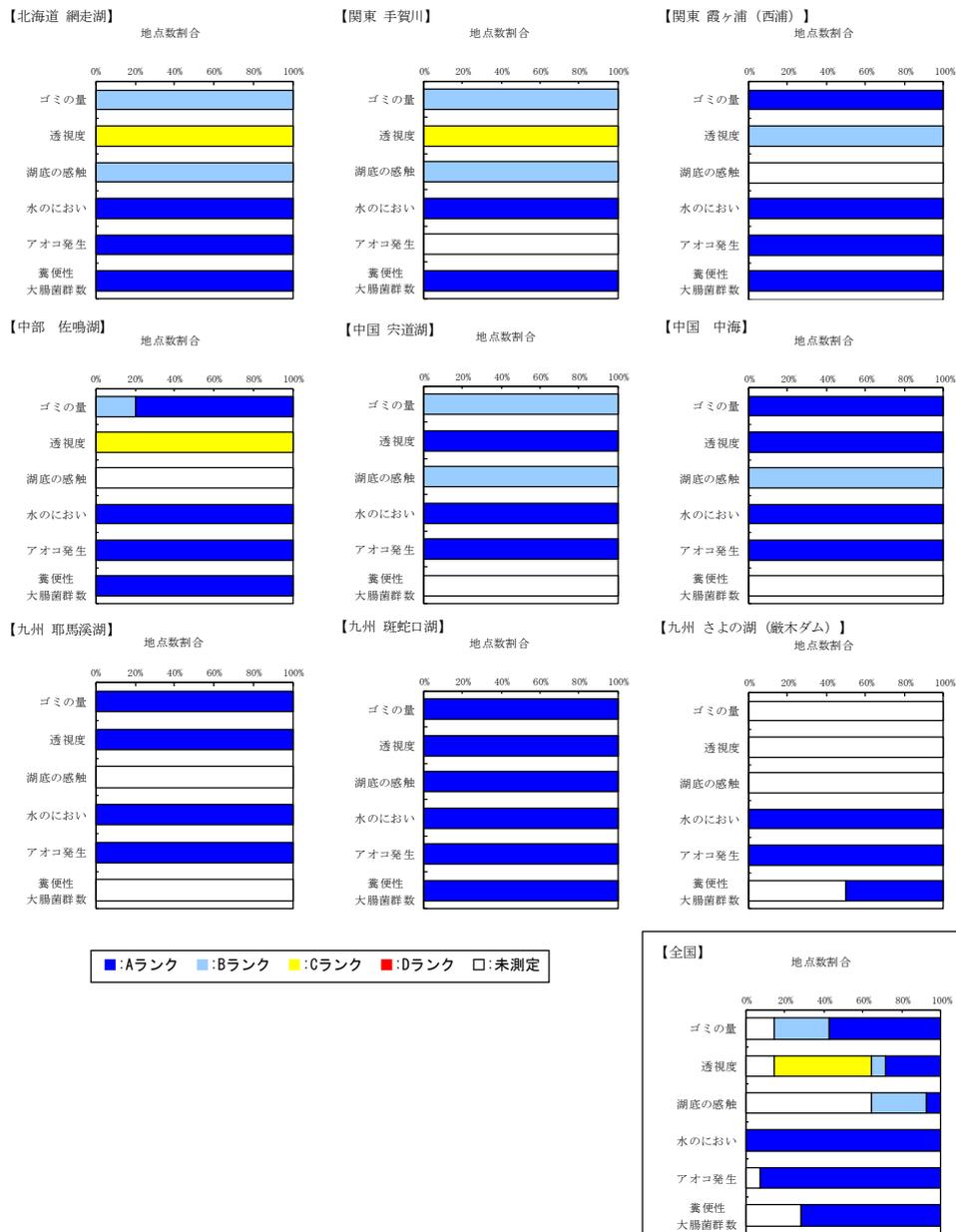


図-31 年間の評価項目のランク別割合（人と湖沼の豊かなふれあいの確保）

(6) 「豊かな生態系の確保」

① 評価項目と評価レベル

「豊かな生態系の確保」は、動植物の生息や生育、繁殖といった、湖沼の健全な生態系を確保する上で、湖沼水質が満たすべき機能を評価するための視点である。

評価項目として「底層 DO」「アンモニア性窒素 (NH<sub>4</sub>-N)」「生物の生息」の3つが設定されており、このうち水生生物の生息は、住民と河川管理者とが協働で調査する項目である。

各評価項目の評価レベルは表-26 に示すとおりであり、評価は、調査回ごとに最も低い項目別評価ランクをその地点のその調査時の総合評価ランクとしている。ただし、「生物の生息」は各湖沼で設定される指標項目であることから、その項目を除いた「底層 DO」、「NH<sub>4</sub>-N」で評価することを基本とし、「生物の生息」については、単独で評価している。1年間の調査時の総合評価ランクのうち、「底層 DO」、「NH<sub>4</sub>-N」による評価では最低ランク、「生物の生息」は最高ランクをその地点の年間の総合評価ランクとしている。

表-26 「豊かな生態系の確保」の評価項目と評価レベル  
(赤枠内は住民と協働調査)

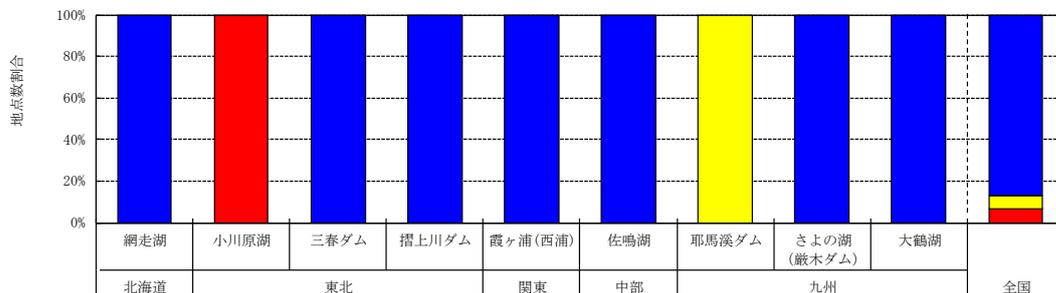
ランク	説明	評価項目と評価レベル			
		全国共通項目			地域特性項目
		底層DO (mg/L)	NH <sub>4</sub> -N (mg/L)	生物の生息 (各湖沼で設定)	当該湖沼・地点の特性や 地域住民のニーズに応じて 独自に設定
A	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好	7以上	0.2以下	独自の評価レベル	・住民と共に独自に設定 ・文献等から設定
B	生物の生息・生育・繁殖環境として良好	5以上	0.5以下	独自の評価レベル	
C	生物の生息・生育・繁殖環境として良好とは言えない	3以上	2.0以下	独自の評価レベル	
D	生物が生息・生育・繁殖しにくい	3未満	2.0を超えるもの	独自の評価レベル	

## ②年間の総合評価ランク

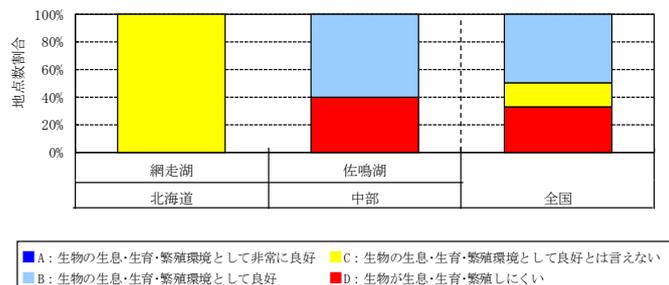
地点の年間の総合評価について、全地点数に占める各評価ランクの地点数の割合を、湖沼別に図-32に示す。

水質（底層D0、NH<sub>4</sub>-N）による評価では、全国の合計で見ると、Aランクの地点の割合が約87%であった。生物による評価では、Aランクの地点はなく、Bランクの地点の割合が約50%であった。

【豊かな生態系の確保（水質）】



【豊かな生態系の確保（生物の生息）】



■ A: 生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好 ■ C: 生物の生息・生育・繁殖環境として良好とは言えない  
 ■ B: 生物の生息・生育・繁殖環境として良好 ■ D: 生物が生息・生育・繁殖しにくい

図-32 年間の総合評価ランク別割合（豊かな生態系の確保）

### ③年間の評価項目評価ランク

3つの評価項目それぞれについて、全地点数に占める各評価ランクの地点数の割合を、湖沼別に図-33に示す。

湖沼ごとにDランクの項目をみると、小川原湖では「底層DO」、佐鳴湖では「水生生物の生息」であった。

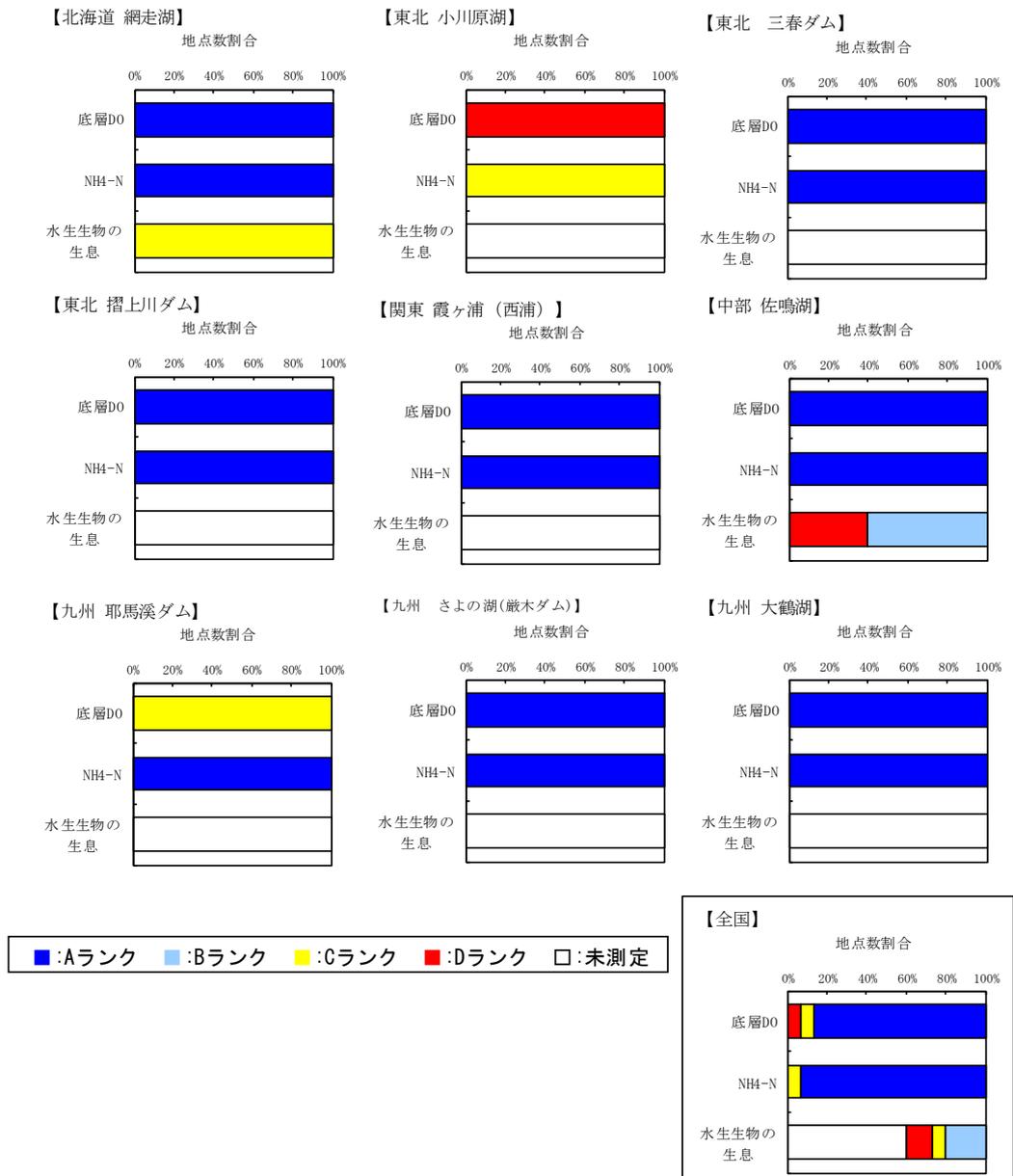


図-33 年間の評価項目のランク別割合（豊かな生態系の確保）

(7) 「利用しやすい水質の確保」

①評価項目と評価レベル

「利用しやすい水質の確保」は、上水利用に注目し、安全性や快適性、維持管理性(浄水処理管理)といった、湖沼水質が確保すべき機能を評価するための視点である。

評価項目として「トリハロメタン生成能」「2-MIB」「ジオスミン」「アンモニア性窒素 (NH<sub>4</sub>-N)」の4つが設定されている。

各評価項目の評価レベルは表-27 に示すとおりであり、評価は、調査回ごとに最も低い項目別評価ランクをその地点のその調査時の総合評価ランクとしている。1年間の調査時の総合評価ランクのうち、年間を通じて95%値に該当するランクをその地点の年間の総合評価ランクとしている。

表-27 「利用しやすい水質の確保」の評価項目と評価レベル

ランク	説明	評価項目と評価レベル				
		全国共通項目				地域特性項目
		安全性	快適性		維持管理性	当該湖沼・地点の特性や地域住民のニーズに応じて独自に設定
		トリハロメタン生成能 (μg/L)	2-MIB (ng/L)	ジオスミン (ng/L)	NH <sub>4</sub> -N (mg/L)	
A	より利用しやすい	100以下	5以下	10以下	0.1以下	文献等から設定
B	利用しやすい		20以下	20以下	0.3以下	
C	利用するためには高度な処理が必要	100を超えるもの	20を超えるもの	20を超えるもの	0.3を超えるもの	

## ②年間の総合評価ランク

地点の年間の総合評価について、全地点数に占める各評価ランクの地点数の割合を、湖沼別に図-34に示す。

全国的にCランクである地点の割合が高く、全国の合計では、Aランクの地点が約22%であった。

湖沼ごとにみると、浅瀬石川ダム、さよの湖(厳木ダム)がAランクであった。三春ダム、摺上川ダム、手賀川、霞ヶ浦(西浦)、北浦は、いずれもCランクであった。

### 【利用しやすい水質の確保】

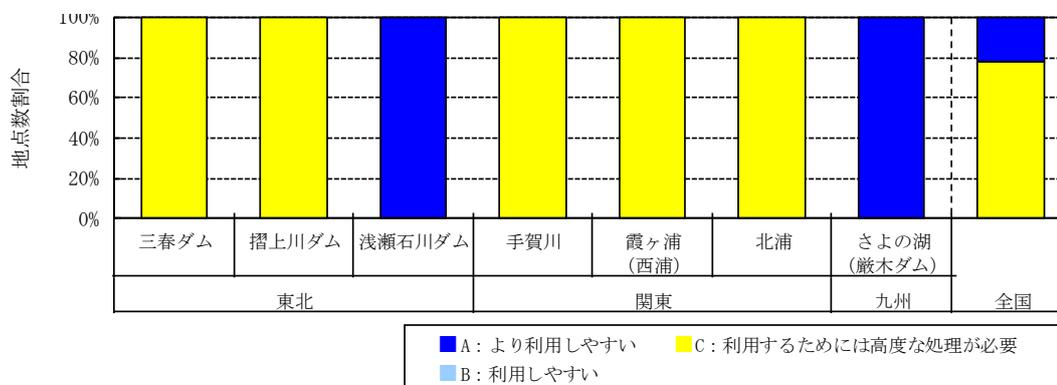


図-34 年間の総合評価ランク別割合 (利用しやすい水質の確保)

### ③年間の評価項目評価ランク

4つの評価項目それぞれについて、全地点数に占める各評価ランクの地点数の割合を、湖沼別に図-35に示す。

全国を合わせてみると、「トリハロメタン生成能」はAランクと評価された地点が約22%であった。「2-MIB」はAランクと評価された地点が約33%であった。「ジオスミン」「NH<sub>4</sub>-N」はAランクと評価された地点が約44%であった。

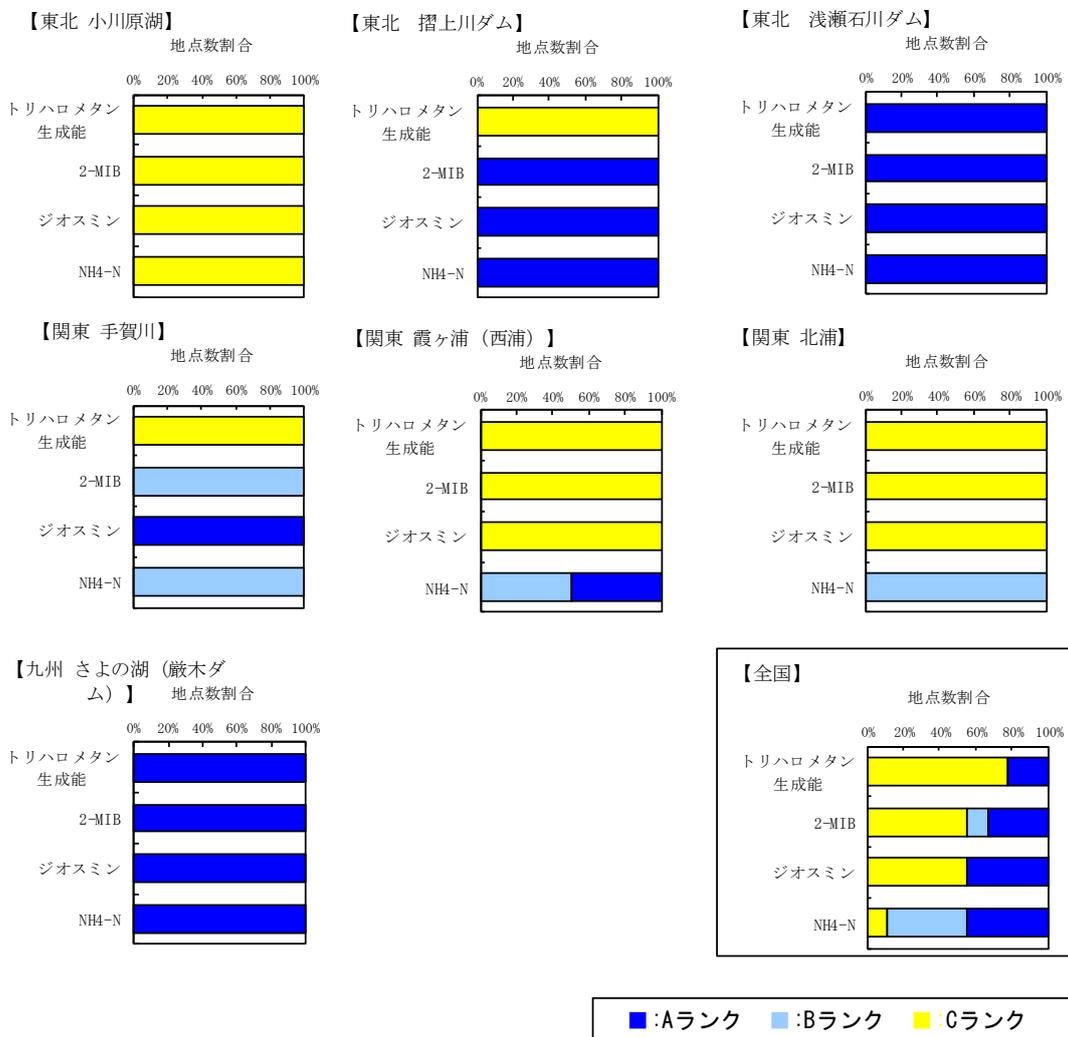


図-35 年間の評価項目のランク別割合 (利用しやすい水質の確保)

(8) 「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」

①指標項目

「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」は、下流部の富栄養化や閉鎖性水域の富栄養化への影響、アオコの放流や、ダム貯水池では冷水放流、濁水放流の長期化等による下流部への影響を意識した水質管理を行う視点で設定されている。指標項目としては、富栄養化状態を直接的に表す「総窒素 (T-N)」「総リン (T-P)」を設定している。

なお、水質管理の対象とする湖沼ごとに様々な評価項目が想定され、全国共通の評価項目を設定することが容易でないことから、「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」の視点では、評価項目や評価レベルは定めていない。

②年間の地点平均値の濃度範囲

地点のT-N、T-P年平均値について、全地点数に占める各濃度範囲の地点数の割合を図-36に示す。

T-Nは、全国を合わせてみると約69%の地点が年平均値1mg/ℓ以下であった。

T-Pは、全国を合わせてみると、約55%の地点が年平均値0.05mg/ℓ以下であった。

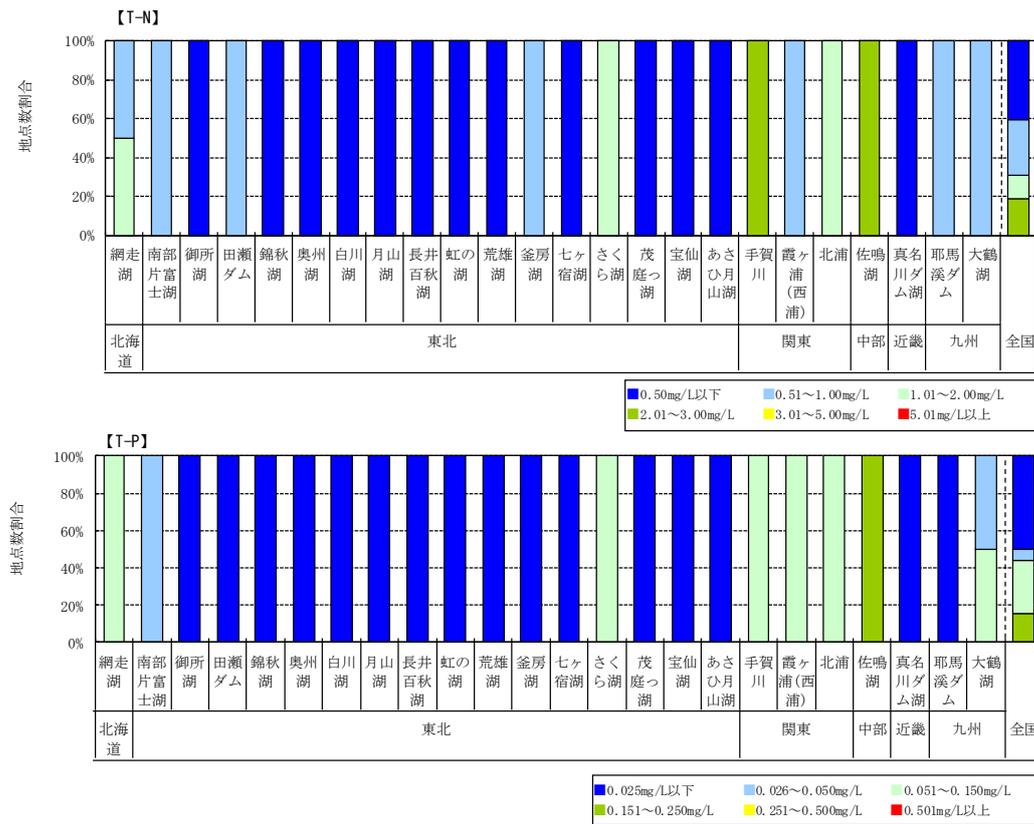


図-36 年間の地点平均値の濃度範囲別割合  
(下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保)

※新しい水質指標の調査としてT-N、T-Pが同時に測定された調査データのみを対象とした。

### 3. 水生生物による簡易水質調査（水生生物調査）

#### （1）調査の概要

サワガニ、カワゲラ等の河川に生息する水生生物は、水質汚濁の長期的・複合的な影響を反映していると考えられており、これらを指標とした水質の簡易調査は、誰でも調査に参加できるという利点を持っている。

国土交通省では、全国の一級河川において、小学生、中学生、高校生及び一般市民等の参加を得て、昭和59年度から継続して水生生物による水質の簡易調査を実施している。

平成27年の調査は、全国の一級河川のうち105水系264河川、503地点において、小学生・中学生・高校生の参加が得やすいよう夏休みを中心に、主に5～11月に実施した。過去5年間の参加人数及び調査地点数を図-37に示す。近年は概ね横ばい傾向が続いている。

（参加団体）	448団体（参考資料4参照）	
（参加人員）	16,596人	
小・中学生	12,206人	（73.5%）
その他の学校	1,085人	（6.5%）
その他	3,305人	（19.9%）

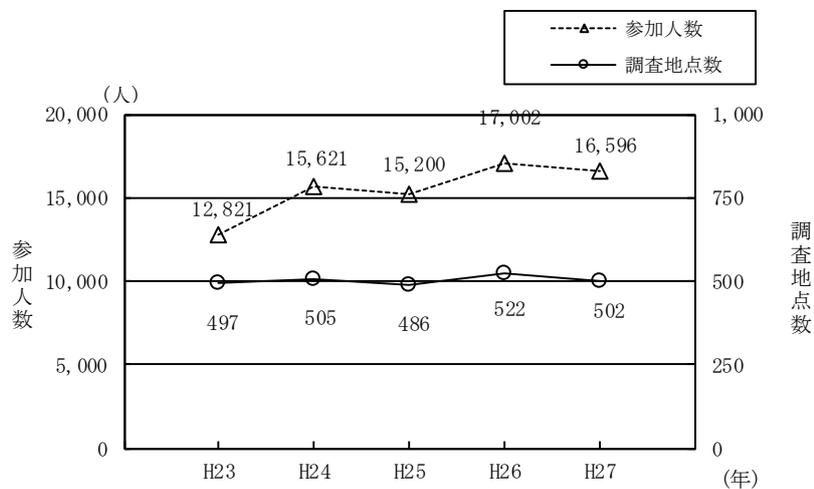


図-37 水生生物調査参加人数及び調査地点数の推移（一級河川）

(2) 調査結果

表-28に示す水生生物を指標<sup>注24</sup>として水のきれいさやきたなさの程度を調査した。その結果を表-29に示す。きれいな水と判定された地点割合は63%であった。きれいな水と判定された地点割合は2ポイント増加し、ややきれいな水と判定された地点割合は3ポイント減少した。

表-28 指標生物

I. きれいな水の生物	II. ややきれいな水の生物
カワゲラ類 ナガレトビケラ類 ヤマトビケラ類 ヒラタカゲロウ類 ヘビトンボ ブユ類 アミカ類 ナミウズムシ サワガニ ヨコエビ類	コガタシマトビケラ類 オオシマトビケラ ヒラタドロムシ類 ゲンジボタル コオニヤンマ カワニナ類 ○ヤマトシジミ ○イシマキガイ
III. きたない水の生物	IV. とてもきたない水の生物
ミズムシ ミズカマキリ シマイシビル タニシ類 ○イソコツブムシ類 ○ニホンドロソコエビ	ユスリカ類 チョウバエ類 エラミミズ サカマキガイ アメリカザリガニ

※○は汽水域の生物である。

※平成24年からは指標生物の一部が変更されている。

表-29 水生生物による水質調査結果（判定別割合）

判定内容	地点割合 (%)	
	平成26年	平成27年
きれいな水	61	63
ややきれいな水	32	29
きたない水	4	3
とてもきたない水	1	2
判定不能	2	3

※四捨五入の関係で、合計が100にならないことがある。

※判定不能：指標生物が見つからなかった場合など

地方別の水質調査結果判定別割合を図-38(1)、図-38(2)に示す。

<sup>注24</sup> 水生生物の指標に関して、平成11年に、建設省（現国土交通省）と環境庁（現環境省）で指標となる生物の種類や集計方法といった調査方法の見直しを行った。国土交通省と環境省が連携して、平成11年から新しい調査方法に基づいて調査を行っている。また平成24年からは指標生物の一部が変更されている。

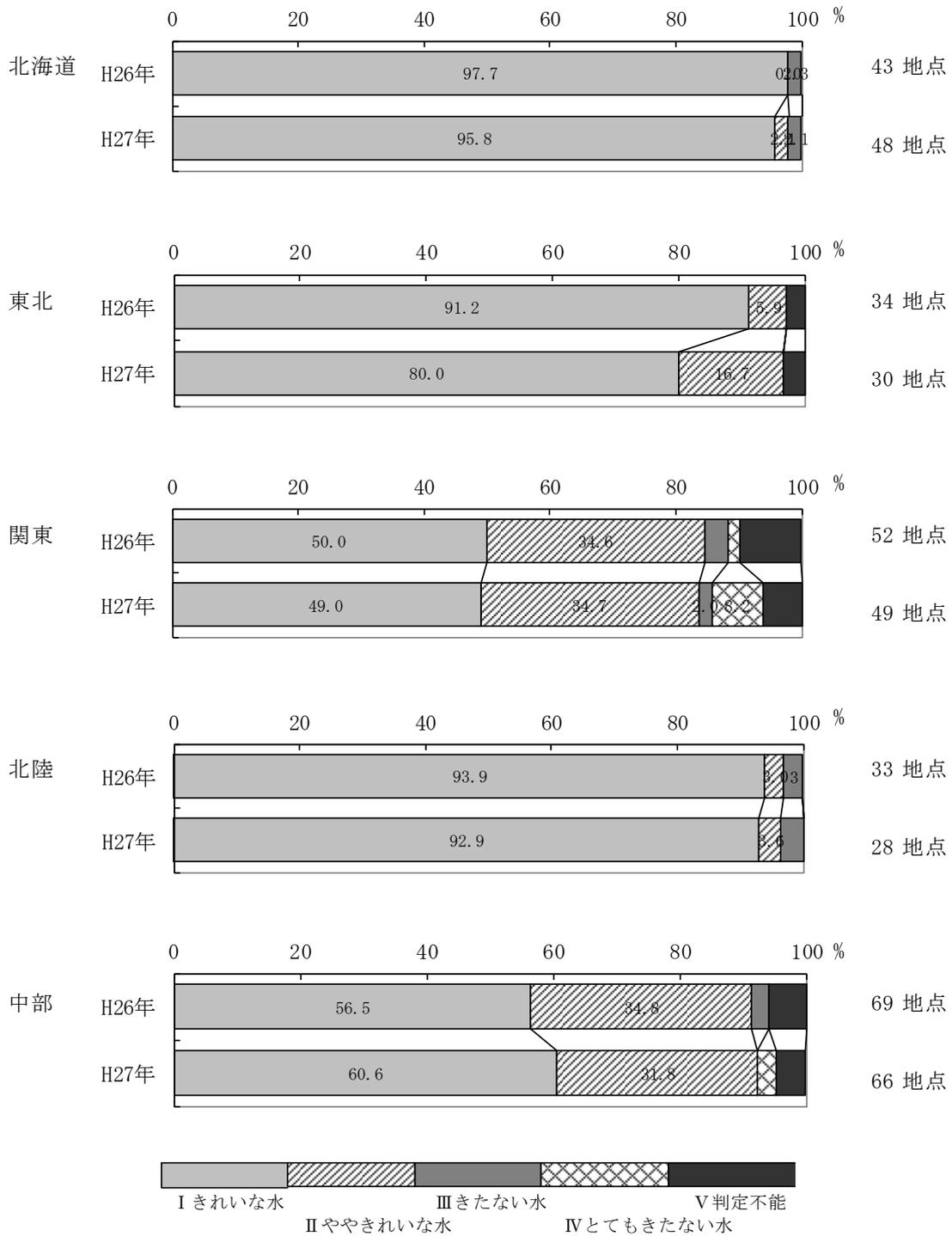


図-38(1) 水生生物による水質調査結果（地点割合）

※地方別の値のとりまとめは、開発局及び各地方整備局の管内を集計単位とした。

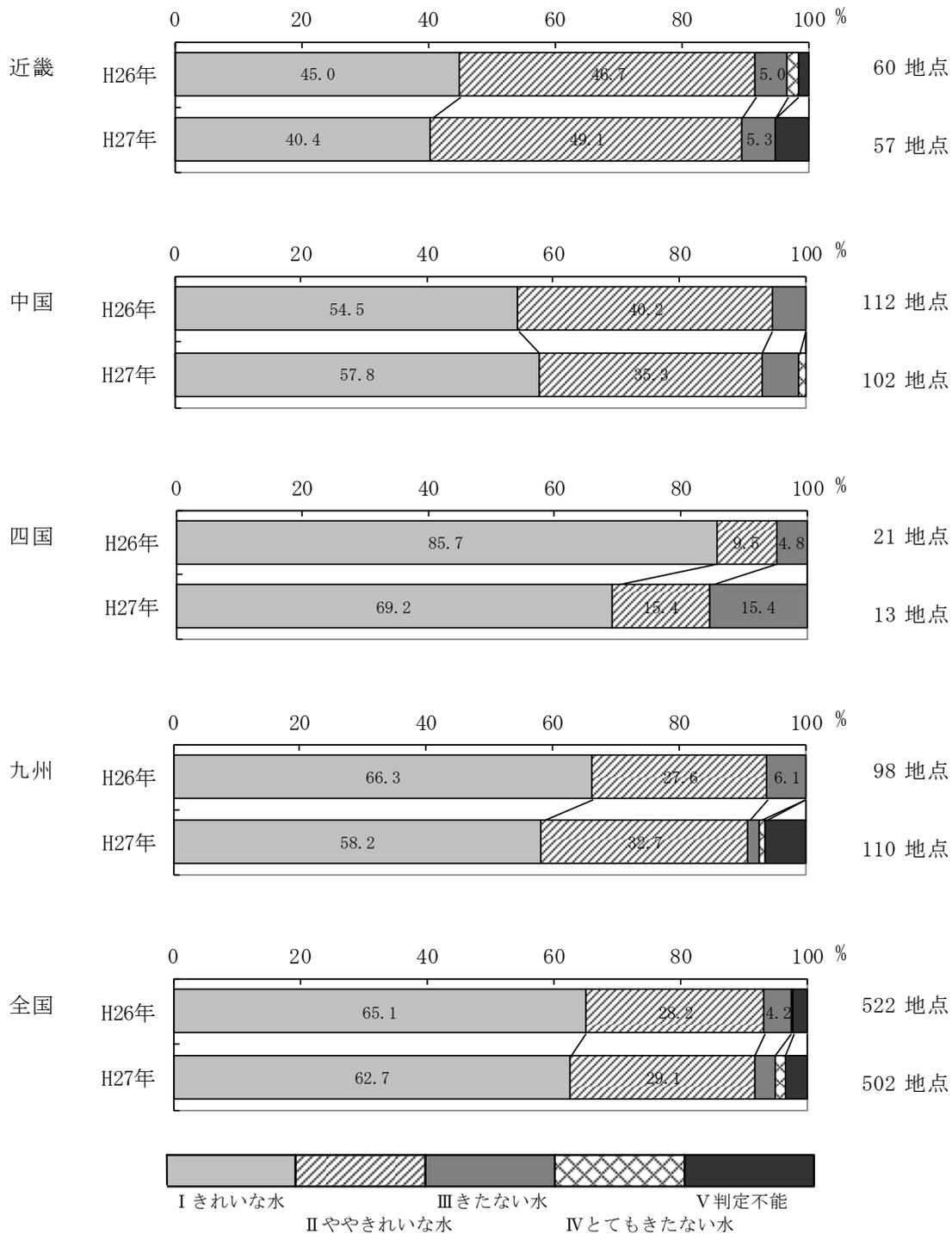


図-38(2) 水生生物による水質調査結果（地点割合）

※地方別の値のとりまとめは、開発局及び各地方整備局の管内を集計単位とした。

また、主要地点における水生生物による水質調査結果を図-39に示す。



図-39 平成27年 一級河川の水生生物による水質調査結果

#### 4. 身近な水環境の全国一斉調査

##### (1) 調査の概要

河川や水辺など身近な水環境の保全や再生に関する市民の意識が高まる中、1980年代半ばから、市民や学校の子供たちによる身近な川の一斉調査が多摩川・荒川の流域や霞ヶ浦・琵琶湖の流域など全国各地で行われてきた。

平成16年からは、市民団体等が協働で全国の河川や水辺など身近な水環境の水質を一斉に調査し、「全国水環境マップ」としてとりまとめた結果を公表している。

平成27年の調査の概要は以下のとおりである。

表-30 身近な水環境の全国一斉調査の概要

	全国統一日に 実施された調査	国内で実施された 全ての調査	備考
調査日	平成27年6月7日(日)	平成27年5月9日 ～7月20日	—
参加団体数	428団体 (個人参加含む)	771団体	平成26年は 792団体
調査地点数	2,749地点	5,842地点	平成26年は 5,544地点

##### (2) 調査のまとめ

平成27年調査では全国的によい天気恵まれたところが多かったようである。

CODの水質結果では、全国のデータの割合がCOD0～3mg/L未満が37%、3～6mg/L未満が37%、6mg/L以上が26%となった。この結果は定点調査された水質結果だけに基づくものではなく、新規参加者の調査地点や従来の調査地点から変更したものも含めている。傾向としては、都市河川で調査が実施されることが多いが、全体の37%の地点において、COD値が0～3mg/l未満という結果になっている。

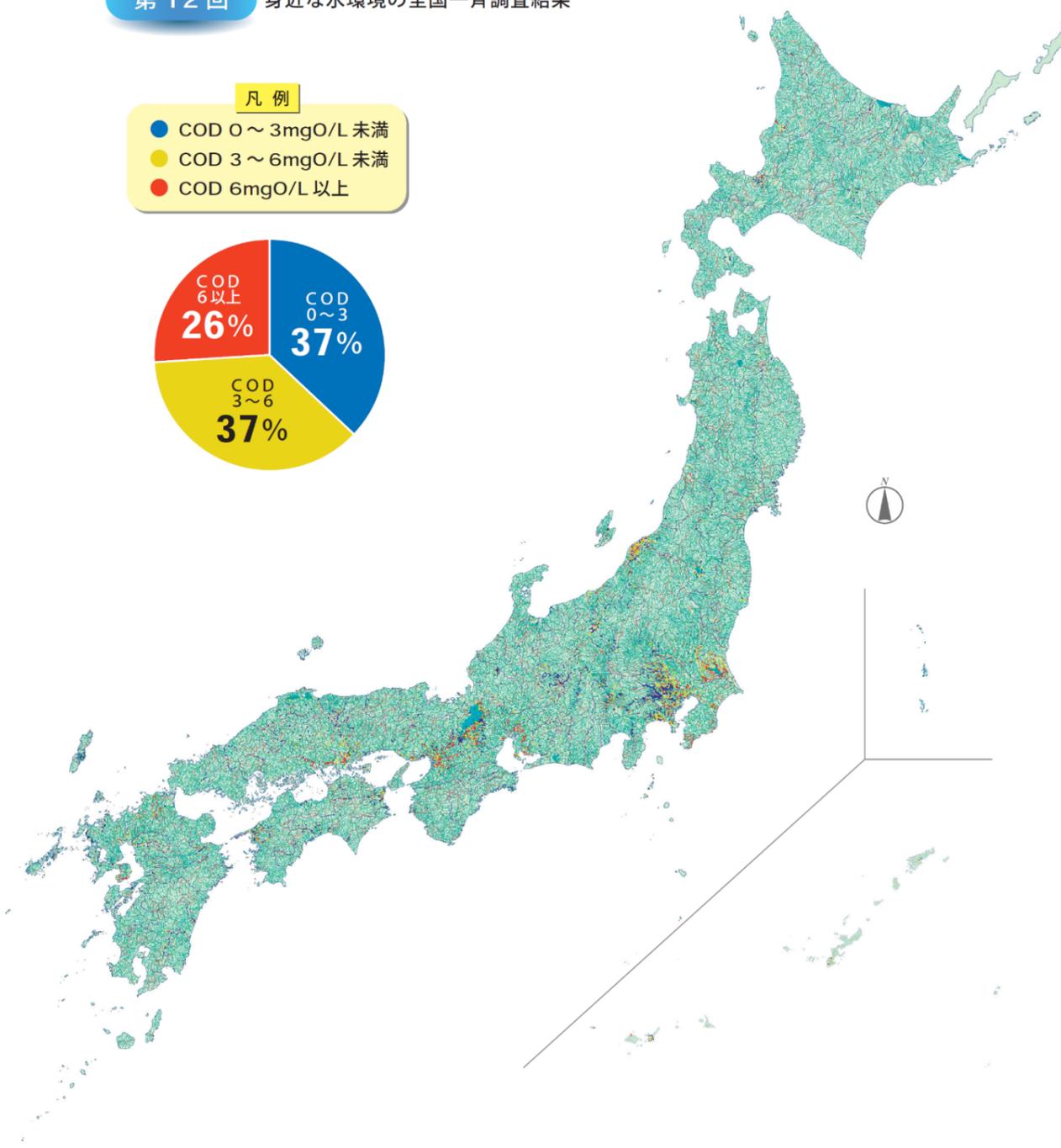
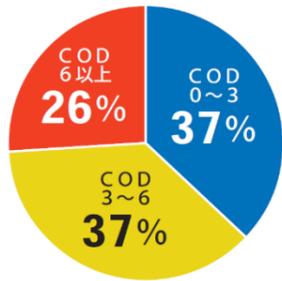
平成27年の全国水環境マップを図-40に示す。

# 2015全国水環境マップ

第12回 身近な水環境の全国一斉調査結果

凡例

- COD 0～3mgO/L 未満
- COD 3～6mgO/L 未満
- COD 6mgO/L 以上



# 2004全国水環境マップ

第1回 身近な水環境の全国一斉調査結果  
水質調査の結果と分布

凡例

- COD 0～3mgO/L 未満
- COD 3～6mgO/L 未満
- COD 6mgO/L 以上



調査地点数と結果の推移

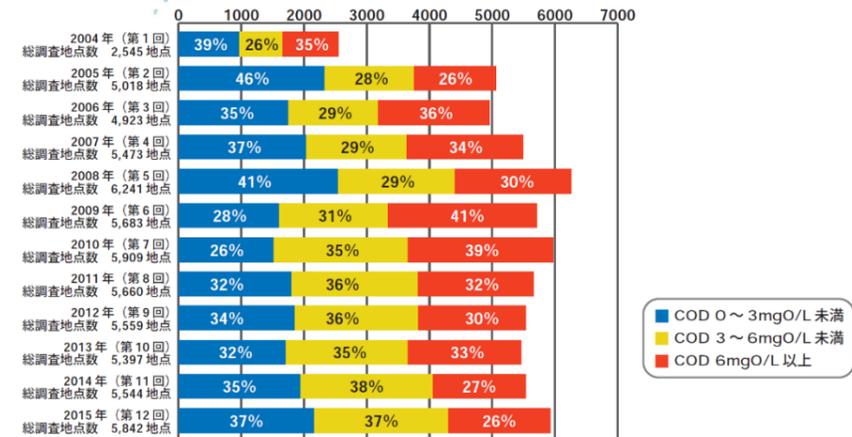


図-40 全国水環境マップ

## 5. 微量化学物質（ダイオキシン類・内分泌かく乱化学物質）

### （1）調査概要

国土交通省では、「ダイオキシン類対策特別措置法」で定義されているダイオキシン類については平成11年度から、内分泌かく乱化学物質<sup>注25</sup>として疑いのある物質については平成10年度から、全国一級水系で継続的に調査を実施している。

ダイオキシン類については、平成15年度に、それまでの調査を基に、監視地点、監視頻度、精度管理等の考え方を取りまとめた「河川、湖沼等におけるダイオキシン類常時監視マニュアル（案）」を作成し、以降はこのマニュアルに基づき調査を実施している（平成17年3月改訂）。

一方、内分泌かく乱化学物質については、平成10年度より全国一級河川直轄管理区間における実態調査、河川への流入実態調査等を実施している。また、平成14年12月には、それまでの調査結果を踏まえて、内分泌かく乱化学物質に関する調査の考え方をとりまとめ、以後の調査は「調査の考え方」に基づいて調査が行われている。「調査の考え方」はその後、平成20年4月改訂により対象物質の見直し、平成24年5月改訂により重点調査濃度等の見直しが行われている。また平成25年3月改定により、対象項目が見直された。

平成27年度の調査は以下のとおり実施した。なお、本調査結果は(独)水資源機構による調査結果を含む。

### 1) 対象物質

#### ① ダイオキシン類

「ダイオキシン類対策特別措置法」で定義されているダイオキシン類であるポリ塩化ジベンゾーパラジオキシン（PCDD）、ポリ塩化ジベンゾフラン（PCDF）及びコプラナーポリ塩化ビフェニル（Co-PCB）の3種類の化合物群について調査を行った。図-41に示すように、これらの化合物群は、いずれもベンゼン環を2つ有する化合物で、ベンゼン環に置換した塩素原子の数や位置の違いによって複数の同族体や異性体が存在する。また、環境中の存在量は微量であるが、毒性が強く、焼却、農薬等の製造、パルプの塩素漂白などで非意図的に生成し、残留性が高い物質である。

異性体ごとに毒性が異なるため、世界保健機関（WHO）によって提案されたTEF（毒性等価係数）を用い、各化合物の濃度をTEQ（毒性等量）で示したものを合計して、毒性を評価した。また、複数回測定した地点においては、

---

<sup>注25</sup> 内分泌系に影響を及ぼすことにより、生体に障害や有害な影響を引き起こす外因性の化学物質。

水質は各回のTEQ合計値を平均し、底質は各回のTEQ合計値の最高値を抽出して、毒性を評価した。なお、平成20年4月にダイオキシン類対策特別措置法施行規則が改正され、排出基準に係るTEFがWHO-1998 TEFからWHO-2006 TEFに変更されたため、平成20年度以降の調査結果はWHO-2006 TEFを使用している。

各化合物の濃度の分析値を確定するに当たっては、学識経験者等の意見を踏まえて測定値の精度について検討を行った。

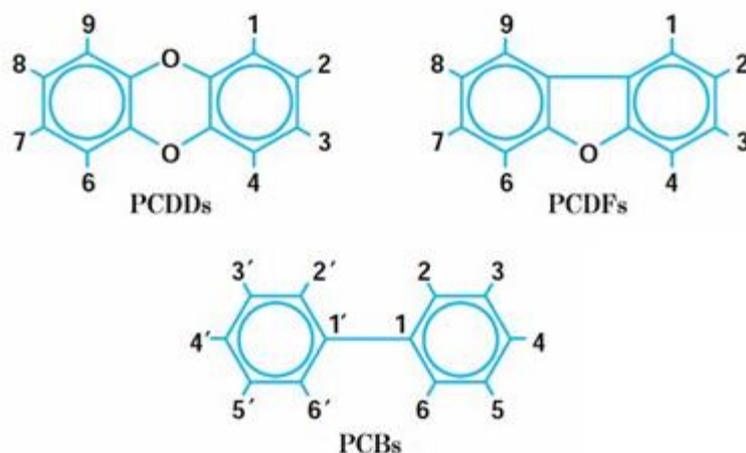


図-41 ダイオキシン類の構造図

## ② ベンゾ(a)ピレン

「内分泌かく乱化学物質調査の考え方(案)」(平成20年4月)において、内分泌かく乱化学物質の調査対象物質及び調査頻度を整理した際、ベンゾ(a)ピレンはExTEND2005<sup>注26)</sup>において、リスク評価の対象となっていないことから、平成20年度調査より内分泌かく乱化学物質調査の対象からは除くこととなった。

ただし、IARCの発がん性評価でグループ1の「発がん性物質」に分類されること、また、ダイオキシン類様の作用を及ぼすことが知られていることから、ダイオキシン類の底質調査と併せて調査を継続することとしている。

注26 ExTEND2005: 環境省では、平成10年(1998年)5月「内分泌攪乱化学物質問題への環境庁の対応方針について—環境ホルモン戦略計画SPEED'98—」を策定し(平成12年11月改訂)、化学物質の内分泌系への作用に関する研究、環境実態調査、試験法の開発等を推進した。この成果を受け、平成17年3月に「化学物質の内分泌かく乱作用に関する環境省の今後の対応方針について—ExTEND 2005—」を策定し、野生生物の観察、基盤的研究、影響評価、情報提供とリスクコミュニケーション等を推進してきた。  
 なお、環境省では、ExTEND2005におけるこれまでの取組状況を踏まえて、内分泌かく乱作用に関する検討を発展的に推進することとしており、リスク管理の検討に向けて評価手法の確立と評価の実施を加速化することをねらいとする「EXTEND2010」を平成22年7月に策定している。

### ③ 内分泌かく乱化学物質

4物質（ビスフェノールA、17β-エストラジオール、エストロン、o,p'-DDT）について調査を行った。

これらの物質を選定した理由等については表-32に示すとおりである。

## 2) 調査地点および調査頻度

### ① ダイオキシン類

基準監視地点については、全国の一級水系における、順流最下流の環境基準点（順流最下流に環境基準点がない場合は最下流の環境基準点）に加えて、国土交通省が直轄管理している湖沼の代表地点などを選定している。補助監視地点については、基準監視地点を補完するため、ダイオキシン類濃度が比較的高濃度となる可能性がある地点を選定している。

また、基準監視地点又は補助監視地点において、過去に要監視濃度<sup>注27</sup>を超えた地点を重点監視状態にある地点（以下、重点監視地点という。）としている。なお、重点監視地点において、8回連続して要監視濃度以下の値を観測した場合は、一般の監視地点に戻している。

監視頻度については、基準監視地点（一般）は毎年1回（秋に実施）、補助監視地点（一般）は3年毎に1回（秋に実施）、重点監視地点は毎年4回（四半期に1回）、調査を実施している。

表-31 ダイオキシン類の基準値

地点	環境基準	要監視濃度
水質	1pg-TEQ/l	0.5pg-TEQ/l
底質	150pg-TEQ/g	75pg-TEQ/g

### ② ベンゾ(a)ピレン

ベンゾ(a)ピレンについては全国の一級水系におけるダイオキシン類の底質調査と併せて調査を実施しているが、特に要監視濃度を設けておらず、調査頻度は6年に1回としている。

### ③ 内分泌かく乱化学物質

全国の一級水系における、順流最下流の環境基準点（順流最下流に環境基準点がない場合は最下流の環境基準点）に、河川の状況・特性から特に

<sup>注27</sup> 環境基準（水質1pg-TEQ/l、底質150pg-TEQ/g）の1/2

必要と考えられる地点を加えて選定している。

このうち、国土交通省が重点的に調査を実施する際の目安として定めた重点調査濃度を、過去の調査で超えた地点を重点調査地点と呼び、それ以外の地点を一般調査地点と呼んでいる。重点調査濃度は表-32に示すとおりである。

一般調査地点の調査頻度は6年に1回（秋に実施）とし、重点調査地点の調査頻度は、毎年1回（秋に実施）としている。ただし、重点調査の対象となった物質が3回連続して重点調査濃度以下となった場合には、次年度より一般調査地点に戻すこととしている。

表-32 内分泌かく乱化学物質の調査対象物質及びその選定理由等

物質名	選定理由	調査頻度 (一般)	重点調査 濃度 <sup>※1</sup>
4-tert-オクチルフェノール <sup>※2</sup>	ExTEND2005等によると、哺乳類には明らかな内分泌かく乱作用は認められなかったが、魚類に対しては内分泌かく乱作用を有することが推測されるとされている。	6年に 1回	0.992 $\mu\text{g}/\ell$
ノニルフェノール <sup>※2</sup>			0.608 $\mu\text{g}/\ell$
ビスフェノールA			24.7 $\mu\text{g}/\ell$
17 $\beta$ -エストラジオール			0.0015 $\mu\text{g}/\ell$
エストロン			0.0016 $\mu\text{g}/\ell$
o,p'-DDT			0.0145 $\mu\text{g}/\ell$

※1 「内分泌かく乱化学物質調査の考え方（案）（平成25年3月改訂）に基づく重点調査濃度。

平成25年度以降は平成25年3月改訂の考え方（案）に基づき調査を行っている。

※2 平成25年度以降は内分泌かく乱化学物質の調査対象物質ではなくなった。

## （2）調査結果

### ① ダイオキシン類

#### i) 基準監視地点（一般）

基準監視地点（一般）では、平成27年度調査で、水質123地点、底質125地点で調査を実施した。調査の結果、水質で要監視濃度を超えた地点はなかった。よって、来年度以降新規に重点監視地点として年4回の調査を実施する地点はなく、引き続き基準監視地点（一般）として毎年1回秋に調査を

実施することとする。

ii) 補助監視地点（一般）

補助監視地点（一般）では、平成27年度調査で、水質83地点、底質97地点で調査を実施した。調査の結果、水質で要監視濃度を超えた地点はなかった。よって、来年度以降新規に重点監視地点として年4回の調査を実施する地点はなく、引き続き3年に1回秋に調査を実施することとする。

iii) 重点監視地点

平成27年度調査では、表-33に示すとおり、水質19地点が重点監視地点となっており、年4回の調査を実施した。この内、水質については11地点が要監視濃度を超え、そのうち5地点は環境基準も超えた。

また、表-34に示すとおり、過去に要監視濃度を超える値が観測されたものの、それ以降、8回以上連続して要監視濃度以下の値が観測されることにより、平成28年度より重点監視状態を解除することとなった地点は1地点あった。

よって、平成28年度調査では、表-35に示すとおり、計18地点を水質に係る重点監視地点として、年4回の調査を行うこととする。

② ベンゾ(a)ピレン

平成27年度は、表-36に示すとおり、計17地点において調査を実施し、計10地点において検出された。

③ 内分泌かく乱化学物質

平成27年度は、一般調査地点12地点、重点調査地点8地点、合計で20地点において調査を実施した。調査結果は、表-37に示すとおり、調査対象物質のいずれか一つでも検出された地点は19地点あり、そのうち、5地点で重点調査濃度を超える物質があった。物質別に重点調査濃度を超えた地点を見てもみると、エストロンの5地点となっている。

また、表-38に示すとおり、平成26年度調査で重点調査濃度を超える物質のあった地点のうち、1地点は今回の調査では重点調査濃度を超過しなかった。

### (3) これまでの経年変化と今後の対応

#### ① ダイオキシン類

ダイオキシン類に関する実態調査の平成18年度から平成27年度までの全調査地点数に対する環境基準超過地点数及び要監視濃度超過地点数の割合(水質)の経年変化を見ると、図-42に示すとおり、水質に関して明確な減少傾向は見られない。なお、底質に関しては、これまで環境基準を超えた地点はなく、平成14年度に綾瀬川槐戸橋で要監視濃度を超えたのみである。

また、現在設定されている地点とほぼ同一の基準監視地点での調査を開始した平成14年度以降を対象とし、最近10カ年である平成18年度から平成27年度の基準監視地点における濃度ヒストグラムの経年変化からは、図-43、図-44に示すとおり、水質に関しては減少傾向が示唆されるが、底質には明確な減少傾向は見られない。

#### ② ベンゾ(a)ピレン

ベンゾ(a)ピレンに関する実態調査を開始した平成10年度から今回までの全調査地点数に対する検出地点数の割合の経年変化には、図-45に示すとおり、明確な減少傾向は見られない。なお、平成10年夏調査の検出率が100%であるが、調査地点は1地点のみである。平成10年秋調査以降、複数地点で調査を行っている。

#### ③ 内分泌かく乱化学物質

内分泌かく乱化学物質に関する実態調査を開始した平成10年度から今回までの全調査地点数に対する検出地点数の割合の経年変化を見ると、図-46に示すとおり、明確な減少傾向は見られない。

また、図-47に示すとおり全調査地点数に対する重点調査濃度超過地点数の割合の経年変化についても明確な減少傾向は見られない。

内分泌かく乱化学物質に関しては、現在まで生態系全般に対する影響が明らかになっておらず、環境基準も設定されていないが、生物の生殖等への影響が考えられていること及び社会の関心が高いことから、将来的な対策等のためのデータの蓄積を図ることが重要である。

表-33 平成27年度ダイオキシン類に関する実態調査結果まとめ

		調査地点数		要監視濃度超過地点数		環境基準超過地点数	
		水質	底質	水質	底質	水質	底質
基準監視地点	(一般)	123	125	0	0	0	0
	(重点)	8	3	5	0	1	0
	計	131	128	5	0	1	0
補助監視地点	(一般)	83	97	0	0	0	0
	(重点)	11	2	6	0	4	0
	計	94	99	6	0	4	0
合計		225	227	11	0	5	0
重点監視地点		19	5	11	0	5	0

※年に複数回調査をしている地点については、水質については年平均値で、底質については年最大値で要監視濃度及び環境基準からの超過を評価している。

※重点監視地点は、基準監視地点（重点）と補助監視地点（重点）の合計である。

表-34 平成27年度のダイオキシン類重点監視地点調査結果

	都道府県名	水系名	河川名	調査地点	基準/補助	水質/底質	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度				H15年度				H16年度				H17年度				H17年度 重点監視地点	H18年度				H19年度				H20年度				H21年度				H22年度				H23年度			
							冬期	秋期	秋期	秋期	冬期	春期	夏期	秋期	冬期	春期	夏期	秋期	冬期	春期	夏期	秋期	冬期	春期	夏期		秋期	冬期	春期	夏期	秋期	冬期	春期	夏期	秋期	冬期														
関東	茨城県	利根川	小貝川	文巻橋	基準	水質	—	<b>0.76</b>	<b>0.74</b>	0.32	—	0.32	<b>0.56</b>	<b>0.51</b>	0.093	0.29	0.33	0.26	0.13	<b>0.57</b>	0.23	0.28	0.086	継続	0.43	<b>0.75</b>	0.41	0.22	0.31	0.31	0.28	0.19	<b>0.94</b>	0.47	0.43	0.23	0.49	0.48	0.30	0.32	0.28	0.40	0.47							
関東	埼玉県	利根川	中川	潮止橋	補助	水質	—	—	—	—	—	—	—	0.33	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	<b>0.77</b>	—	<b>0.87</b>	<b>1.0</b>	<b>0.99</b>	<b>0.68</b>	<b>2.4</b>	0.30	<b>1.2</b>	<b>0.54</b>	<b>0.81</b>	<b>0.92</b>	0.36	0.33	<b>1.8</b>	<b>1.2</b>	0.47	0.45	<b>1.4</b>	<b>0.72</b>	0.34	<b>0.61</b>		
関東	東京都	利根川	中川	飯塚橋	基準	水質	—	<b>1.0</b>	<b>0.93</b>	<b>0.61</b>	—	<b>0.53</b>	<b>0.95</b>	0.44	0.48	0.29	0.48	<b>0.57</b>	0.15	<b>1.2</b>	<b>0.79</b>	0.46	0.23	継続	<b>1.5</b>	<b>1.4</b>	<b>0.83</b>	<b>1.2</b>	<b>0.91</b>	<b>1.4</b>	<b>1.2</b>	<b>0.80</b>	<b>2.1</b>	0.49	<b>0.62</b>	<b>0.74</b>	<b>1.0</b>	<b>1.2</b>	<b>0.78</b>	0.44	<b>1.4</b>	<b>1.1</b>	0.44	<b>1.0</b>	<b>1.5</b>	<b>0.86</b>	<b>0.52</b>	<b>0.61</b>		
関東	東京都	利根川	中川	高砂橋	補助	水質	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	<b>2.3</b>	<b>0.60</b>	0.39	<b>0.76</b>	<b>1.1</b>	<b>0.88</b>	<b>1.2</b>	0.45	<b>1.2</b>	<b>0.63</b>	0.32	<b>1.5</b>	0.41	0.36	0.40	0.48		
関東	埼玉県	利根川	横瀬川	横瀬橋	補助	水質	<b>5.0</b>	<b>1.2</b>	<b>2.2</b>	0.46	—	<b>0.94</b>	<b>0.89</b>	<b>0.79</b>	<b>0.62</b>	<b>0.73</b>	<b>0.53</b>	0.33	0.29	<b>1.5</b>	<b>0.67</b>	0.42	0.28	継続	<b>3.0</b>	<b>1.3</b>	<b>0.70</b>	<b>0.64</b>	<b>2.2</b>	<b>1.9</b>	<b>1.1</b>	<b>0.59</b>	<b>3.2</b>	<b>0.97</b>	<b>0.93</b>	0.42	<b>2.1</b>	<b>1.9</b>	0.49	0.47	<b>2.3</b>	<b>1.5</b>	0.45	<b>0.61</b>	<b>2.8</b>	<b>1.2</b>	0.31	<b>0.77</b>		
関東	埼玉県	利根川	横瀬川	手代橋	補助	水質	<b>1.9</b>	<b>1.7</b>	<b>0.74</b>	<b>0.60</b>	—	<b>0.83</b>	<b>1.1</b>	<b>0.63</b>	0.37	<b>0.76</b>	<b>0.90</b>	<b>0.80</b>	0.37	<b>2.4</b>	<b>0.63</b>	<b>1.1</b>	0.39	継続	<b>3.2</b>	<b>3.4</b>	<b>1.2</b>	<b>0.76</b>	<b>2.7</b>	<b>2.5</b>	<b>1.8</b>	<b>0.70</b>	<b>3.9</b>	<b>1.0</b>	<b>1.4</b>	<b>0.60</b>	<b>1.6</b>	<b>1.5</b>	<b>0.71</b>	<b>0.52</b>	<b>2.8</b>	<b>1.8</b>	<b>0.93</b>	<b>0.60</b>	<b>3.8</b>	<b>1.1</b>	<b>0.98</b>	<b>0.66</b>		
関東	埼玉県・東京都	利根川	横瀬川	内匠橋	基準	水質	<b>1.1</b>	<b>1.4</b>	<b>1.0</b>	<b>0.81</b>	—	<b>0.54</b>	<b>0.67</b>	<b>1.1</b>	0.26	0.48	<b>0.92</b>	<b>0.70</b>	<b>0.60</b>	<b>2.0</b>	<b>2.3</b>	<b>1.5</b>	0.27	継続	<b>2.1</b>	<b>3.3</b>	<b>1.6</b>	<b>1.5</b>	<b>2.6</b>	<b>2.5</b>	<b>1.7</b>	<b>0.72</b>	<b>3.5</b>	<b>1.3</b>	<b>1.8</b>	<b>0.90</b>	<b>2.4</b>	<b>1.8</b>	<b>1.1</b>	<b>0.59</b>	<b>1.2</b>	<b>1.6</b>	0.36	<b>0.99</b>	<b>4.0</b>	<b>1.7</b>	<b>0.54</b>	<b>0.97</b>		
関東	東京都	荒川	荒川	堀切橋	補助	水質	—	<b>0.62</b>	<b>0.55</b>	<b>0.54</b>	—	0.44	0.26	<b>0.96</b>	0.24	0.36	<b>0.74</b>	0.30	0.35	<b>0.52</b>	<b>0.61</b>	0.62	0.12	継続	<b>0.66</b>	<b>1.0</b>	0.18	<b>0.56</b>	<b>0.88</b>	<b>0.62</b>	0.48	0.33	0.35	0.28	<b>0.53</b>	0.41	0.29	0.45	0.46	0.30	<b>0.79</b>	0.29	0.40	0.21	0.49	0.45	0.27	0.13		
北陸	新潟県	信濃川	信濃川	平成大橋	基準	水質	<b>1.6</b>	0.29	0.48	<b>0.97</b>	0.28	0.34	<b>1.9</b>	<b>0.99</b>	<b>1.2</b>	<b>0.79</b>	0.41	0.50	0.34	<b>1.0</b>	0.24	<b>0.54</b>	<b>0.65</b>	継続	<b>0.84</b>	0.46	<b>0.78</b>	<b>0.61</b>	<b>1.0</b>	0.50	0.22	0.16	<b>0.65</b>	0.24	0.26	<b>0.51</b>	<b>0.83</b>	0.19	0.26	<b>1.2</b>	<b>1.10</b>	0.48	0.26	<b>1.2</b>	<b>1.1</b>	0.35	0.49	<b>0.83</b>		
北陸	新潟県	信濃川	信濃川	庄瀬橋	補助	水質	—	—	<b>0.52</b>	<b>0.58</b>	0.20	<b>0.59</b>	<b>1.7</b>	<b>0.81</b>	<b>0.62</b>	<b>0.86</b>	<b>0.95</b>	<b>0.57</b>	0.39	<b>0.98</b>	0.39	<b>0.56</b>	<b>0.51</b>	継続	<b>0.91</b>	0.46	<b>0.52</b>	<b>0.62</b>	<b>1.3</b>	0.35	0.20	0.15	<b>1.2</b>	0.18	0.25	0.44	<b>0.97</b>	0.29	0.25	<b>2.2</b>	<b>1.50</b>	0.45	0.24	<b>0.93</b>	<b>1.1</b>	0.34	<b>0.72</b>	<b>0.69</b>		
北陸	新潟県	関川	関川	直江津橋	基準	水質	<b>0.72</b>	<b>1.7</b>	0.22	0.23	0.24	<b>0.59</b>	0.41	0.36	<b>1.2</b>	<b>0.73</b>	0.29	0.29	0.26	<b>2.8</b>	0.19	0.38	0.20	継続	<b>2.1</b>	0.41	<b>1.1</b>	0.27	<b>4.3</b>	<b>0.62</b>	0.36	0.22	<b>4.3</b>	0.42	0.15	0.29	<b>1.5</b>	0.49	0.13	0.14	<b>1.50</b>	<b>0.57</b>	<b>1.0</b>	<b>0.29</b>	<b>1.7</b>	<b>0.56</b>	0.34	0.20		
北陸	新潟県	関川	関川	稲田橋	補助	水質	—	—	<b>0.65</b>	0.14	0.19	<b>0.73</b>	0.49	0.27	<b>0.69</b>	<b>0.73</b>	<b>0.84</b>	0.50	0.23	<b>2.7</b>	0.26	0.19	<b>0.55</b>	継続	<b>1.2</b>	<b>0.59</b>	<b>1.1</b>	0.15	<b>4.2</b>	0.50	0.27	<b>0.63</b>	<b>1.1</b>	<b>0.53</b>	0.18	0.24	<b>1.5</b>	<b>1.2</b>	0.20	0.13	<b>3.00</b>	<b>1.1</b>	<b>0.63</b>	0.19	<b>2.1</b>	<b>1.0</b>	0.29	0.30		
北陸	新潟県	関川	保倉川	古城橋	補助	水質	—	—	<b>0.98</b>	<b>0.62</b>	0.48	<b>1.0</b>	<b>0.53</b>	<b>0.79</b>	<b>1.4</b>	<b>1.2</b>	<b>0.70</b>	0.50	<b>0.59</b>	<b>4.3</b>	0.30	<b>1.0</b>	0.38	継続	<b>2.8</b>	<b>1.4</b>	<b>2.2</b>	0.32	<b>8.4</b>	<b>0.97</b>	<b>2.3</b>	0.45	<b>5.8</b>	0.49	0.41	<b>0.62</b>	<b>3.0</b>	<b>0.66</b>	<b>0.58</b>	<b>0.80</b>	<b>2.70</b>	<b>0.81</b>	<b>2.8</b>	<b>1.20</b>	<b>4.0</b>	<b>1.2</b>	<b>1.1</b>	0.50		
近畿	奈良県	大和川	大和川	上吐田	補助	水質	—	—	<b>1.4</b>	<b>1.1</b>	<b>0.80</b>	<b>0.74</b>	0.49	<b>0.75</b>	0.26	0.38	<b>0.61</b>	0.28	0.35	0.48	0.31	0.30	<b>0.68</b>	継続	<b>0.64</b>	0.47	<b>0.87</b>	<b>0.52</b>	<b>0.52</b>	0.36	<b>0.52</b>	0.33	<b>0.60</b>	<b>0.88</b>	<b>0.59</b>	<b>1.4</b>	0.31	0.30	0.41	0.44	0.34	0.43	0.12	0.26		0.29				
近畿	奈良県	大和川	大和川	太子橋	補助	水質	—	—	<b>0.52</b>	0.45	0.47	0.37	<b>0.60</b>	0.40	0.24	0.29	0.49	0.33	0.28	0.31	0.32	<b>0.53</b>	0.21	継続	<b>0.54</b>	0.37	0.41	0.31	0.43	0.50	0.44	0.19	0.49	—	<b>0.67</b>	0.47	<b>1.0</b>	0.38	0.37	0.37	0.20	<b>0.57</b>	0.50	0.12	0.26	0.48	0.30	0.11		
近畿	奈良県	大和川	大和川	藤井	補助	水質	—	<b>0.62</b>	0.44	<b>0.60</b>	<b>0.71</b>	0.47	<b>1.1</b>	0.37	0.27	0.42	<b>1.1</b>	0.44	0.26	<b>1.0</b>	<b>0.71</b>	0.35	0.27	継続	<b>0.55</b>	0.47	0.40	0.35	<b>0.54</b>	0.49	0.39	0.20	0.48	<b>0.95</b>	<b>0.57</b>	0.42	0.44	0.42	0.30	0.26	0.25	<b>1.1</b>	0.27	0.13	0.20	<b>0.51</b>	0.26	0.14		
近畿	大阪府	大和川	大和川	遠里小野橋 中	基準	水質	<b>1.2</b>	<b>0.68</b>	0.41	<b>0.55</b>	<b>0.52</b>	0.31	<b>0.52</b>	0.24	0.25	0.39	<b>0.94</b>	0.41	0.36	0.36	0.41	0.29	0.27	継続	0.38	0.26	0.40	0.17	<b>0.56</b>	0.48	0.36	0.17	0.30	<b>0.73</b>	0.47	0.35	0.32	0.28	0.25	0.16	0.19	<b>0.63</b>	0.095	0.085	0.16	<b>0.59</b>	0.16	0.23		
近畿	大阪府	大和川	大和川	河口部 中	補助	水質	—	—	0.39	<b>0.59</b>	—	—	—	—	—	<b>0.53</b>	<b>0.89</b>	0.47	<b>0.54</b>	0.37	0.31	0.18	0.30	継続	0.39	0.33	0.41	0.13	<b>0.82</b>	0.30	0.33	0.13	0.28	<b>0.71</b>	0.48	0.31	0.40	0.37	0.21	0.13	0.16	<b>0.73</b>	0.12	0.098	0.41	<b>0.85</b>	<b>0.59</b>	0.14		
中国	広島県	芦田川	芦田川	小水呑橋	基準	水質																																								0.23				0.26

	都道府県名	水系名	河川名	調査地点	基準/補助	水質/底質	H24年度				H25年度				H26年度				H27年度				H27年度 評価値 (平均値)	H27年度 重点監視 地点	連続して要 監視濃度以 下となった 回数(回)	
							春期	夏期	秋期	冬期	春期	夏期	秋期	冬期	春期	夏期	秋期	冬期	春期	夏期	秋期	冬期				春期
関東	茨城県	利根川	小貝川	文巻橋	基準	水質			<b>0.99</b>			<b>0.55</b>	0.29	<b>0.60</b>	0.15	0.19	0.36	0.40	0.50	0.55	0.22	0.46	0.15	0.35	解除	9
関東	埼玉県	利根川	中川	潮止橋	補助	水質	<b>2.1</b>	<b>0.91</b>	<b>0.77</b>	<b>0.85</b>	<b>1.2</b>	<b>1.5</b>	<b>0.85</b>	0.46	<b>0.62</b>	<b>0.68</b>	0.40	0.39	<b>1.2</b>	<b>0.69</b>	0.50	0.38	<b>0.69</b>	継続	2	
関東	東京都	利根川	中川	飯塚橋	基準	水質	<b>1.8</b>	<b>0.74</b>	<b>1.7</b>	<b>1.0</b>	<b>1.0</b>	<b>1.1</b>	<b>1.3</b>	<b>0.78</b>	<b>1.5</b>	<b>0.64</b>	<b>0.69</b>	<b>0.67</b>	<b>1.1</b>	<b>0.6</b>	<b>1.0</b>	<b>0.51</b>	<b>0.80</b>	継続	0	
関東	東京都	利根川	中川	高砂橋	補助	水質	<b>1.3</b>	<b>1.1</b>	<b>1.2</b>	<b>0.76</b>	<b>0.73</b>	<b>1.0</b>	<b>0.65</b>	<b>0.67</b>	<b>1.1</b>	<b>0.86</b>	<b>0.69</b>	<b>0.94</b>	<b>1.0</b>	<b>0.63</b>	<b>0.79</b>	0.48	<b>0.73</b>	継続	1	
関東	埼玉県	利根川	横瀬川	横瀬橋	補助	水質	<b>4.2</b>	<b>2.4</b>	<b>1.5</b>	<b>0.64</b>	<b>2.2</b>	<b>1.2</b>	<b>0.60</b>	<b>0.63</b>	<b>2.9</b>											

表-36 平成27年度ベンゾ(a)ピレンに関する実態調査結果

水系名	河川名	調査地点名	底質		
			採泥日	強熱減量 %	ベンゾ(a) ピレン $\mu\text{g}/\text{kg}$
<b>北海道</b>					
釧路川	新釧路川	愛国浄水場取水口	10月16日	1.8	ND
留萌川	留萌川	16線橋	10月7日	3.1	ND
<b>東北</b>					
北上川	北上川	登米	10月19日	3.4	1
鳴瀬川	鳴瀬川	鳴瀬堰(小野)	10月19日	0.9	ND
<b>北陸</b>					
信濃川	信濃川下流	平成大橋	10月21日	1.40	2
信濃川	信濃川下流	平成大橋(二重測定)	10月21日	1.40	2
信濃川	信濃川	旭橋	10月21日	4.10	14
信濃川	信濃川	立ヶ花橋	10月21日	7.6	22
<b>中部</b>					
菊川	菊川	高田橋	10月23日	1.60	ND
木曾川	木曾川	濃尾大橋	10月23日	0.70	1.4
木曾川	揖斐川	福岡大橋	10月23日	3.80	18.09
<b>四国</b>					
那賀川	那賀川	那賀川橋	10月21日	1.6	ND
物部川	物部川	深渕	10月1日	2.2	ND
仁淀川	仁淀川	中島	10月1日	1.0	ND
<b>九州</b>					
小丸川	小丸川	高城橋	10月14日	1.7	<0.5
大淀川	大淀川	相生橋	10月14日	1.5	<0.5
肝属川	肝属川	河原田橋	10月13日	1.4	<0.5
調査地点合計			17	17	17
検出地点合計			—	17	10
最大値			—	7.6	22
検出割合			—	—	58.8%

ND: 不検出(検出下限未満を示す)

表-37 平成27年度内分泌かく乱化学物質に関する実態調査結果まとめ

調査対象物質名	重点調査濃度 ( $\mu\text{g}/\ell$ )	調査 地点数	今回、重点調査濃度 を超えた地点数 (括弧内は平成26年度調査)	検出地点数 <sup>※1</sup>	最大値 ( $\mu\text{g}/\ell$ )
ビスフェノールA	24.7	7	0 ( 0 )	2	0.014
17 $\beta$ -エストラジール	0.0015	8	0 ( 0 )	1	0.00034
エストロン	0.0016	17	5 ( 1 )	14	0.0057
o,p'-DDT	0.0145	12	0 ( 0 )	9	0.0013
全体 <sup>※2</sup>	-	20	5 ( 1 )	19	-

※1 検出下限値以上の数値が観測された地点数

※2 同一の調査地点に複数の調査対象物質が該当するものがあるため、全体の数値は各調査対象物質の合計と一致しない。

表-38 平成16年度から27年度の間で重点調査濃度を超えた地点

水系名	河川名	調査地点名	物質名	重点調査濃度(H23年度調査まで)	重点調査濃度(H24年度調査以降)	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H27二重測定
常呂川	常呂川	忠志橋	17β-エストラジオール	0.0005	0.0015	ND			0.0060	ND	ND	0.0060	0.0030					
			エストロン	0.0005	0.0016	ND	0.0019	0.0054	0.0027	0.0016	0.0023	0.0020	0.0011	0.00050	0.00060			
尻別川	尻別川	名駒	ビスフェノールA	0.4	24.7		1.1	0.29	0.012	0.045			0.015				ND	
			o,p'-DDT															1.38E-05
網走川	網走川	治水橋	エストロン	0.0005	0.0016	ND			0.00070	0.00064	0.0011	0.00080	0.00040					
			o,p'-DDT															1.8E-06
			o,p'-DDT															1.2E-06
名取川	名取川	閉上大橋	エストロン	0.0005	0.0016		0.00064	ND	ND	ND						0.00019		
			エストロン	0.0005	0.0016		0.00075	ND	ND	ND						0.00046		
			エストロン	0.0005	0.0016	ND	0.0013	ND	ND	0.0021	0.0012	0.00091	0.0013	0.00043				0.00090
			エストロン	0.0005	0.0016	ND	0.0013	ND	0.00050	0.0019	0.0015	0.00099	0.0015	0.00056				0.00111
			エストロン	0.0005	0.0016	ND	0.0011	ND	ND	0.00066	ND	ND	0.00050		0.00050			
			エストロン	0.0005	0.0016	ND			0.0013	0.0012	0.00078	0.0011	0.0012					
			エストロン	0.0005	0.0016	ND			0.00070	ND	ND	ND						
			エストロン	0.0005	0.0016	ND	ND	ND	0.00050	ND	0.00064	ND	0.00040	0.00029				
			エストロン	0.0005	0.0016	ND	ND	0.00050	0.00090	0.00061	0.0011	0.00050	0.00050	0.00022				
			ビスフェノールA	0.304	0.608	0.23	2.1	0.56	0.50	0.37	0.27		0.41	ND				
			ビスフェノールA	0.4	24.7	0.070	0.84	0.012	0.080	0.15	0.12							
			エストロン	0.0005	0.0016	ND	0.0014	0.0031	0.0026	0.0023	0.0023	0.0013	0.0029	0.0037	ND	0.0030	0.0039	
			ビスフェノールA	0.304	0.608	0.14	0.70	0.36	0.20	0.19	0.64	1.1	0.36	ND				
			ビスフェノールA	0.304	0.608	ND	1.2	0.20	0.10	ND	0.26	0.31	0.16	ND				
			ビスフェノールA	0.304	0.608	0.24	1.8	0.27	0.20	0.13	0.15		0.19					
			エストロン	0.0005	0.0016	0.0027	0.0030	0.0044	0.0095	0.0057	0.0077	0.0010	0.0070	0.011	ND	0.0054	0.0042	
			エストロン	0.0005	0.0016	0.0019	0.00070	0.0034	0.0043	0.0022	0.0024	0.00095	0.0033	0.0023	0.00010	0.0026	0.0020	
			エストロン	0.0005	0.0016	0.0064	0.0044	0.020	0.010	0.019	0.025	0.0098	0.0077	0.0082	ND	0.0075	0.0043	
			エストロン	0.0005	0.0016	ND			0.0019	0.0087	0.0057	0.0020	0.00055	0.017	ND	0.00070	ND	
			エストロン	0.0005	0.0016	ND	0.00039	0.00035	0.0005	0.00076	0.00062	ND	0.00032	0.00040				
			エストロン	0.0005	0.0016	ND	0.00062	ND	0.00070	0.00069	0.0012	0.00070	0.00048	0.00080				
			エストロン	0.0005	0.0016	ND	0.00028	0.00032	0.0014	ND	0.00074	0.00060	0.00030	0.0013				
			エストロン	0.0005	0.0016	ND	ND	0.00035	0.00070	0.00083	0.0011	0.00050	0.00021	0.00060			0.0037	0.00056
			17β-エストラジオール	0.0005	0.0015	ND			0.0010	ND	0.00078	ND	ND	ND				
			エストロン	0.0005	0.0016	0.00060	0.00066	0.00063	0.010	0.00070	0.00095	ND	0.0070	0.00020	<0.0001			
			エストロン	0.0005	0.0016	ND			0.0006	0.00060	0.0039	0.00080	0.00032	0.00060				
			エストロン	0.0005	0.0016	ND	0.0013	0.0021	0.00079	ND	0.0014	0.00064	0.00035					
			エストロン	0.0005	0.0016	ND			0.0012	ND	ND	ND	ND				<0.0001	
			ビスフェノールA	0.304	0.608	ND	ND	1.2	0.20	ND	0.127			ND				
			エストロン	0.0005	0.0016	ND	0.0017	ND	ND	0.00073	0.0018	0.00091	0.0013	0.00030	0.00030		0.0011	
			ビスフェノールA	0.304	0.608	ND	ND	ND	0.66	0.13	ND	ND	ND					
			エストロン	0.0005	0.0016	ND			0.00060	ND	0.00076	ND	0.00010				<0.0001	
			エストロン	0.0005	0.0016	ND	ND	ND	0.0010	ND	ND	ND	0.00026					
			ビスフェノールA	0.304	0.608	ND	0.14	0.27	0.91	0.19	ND	0.07	ND					
			17β-エストラジオール	0.0005	0.0015	ND	ND	ND	0.0022	ND	0.0016	0.0011	0.00092	0.00041				
			エストロン	0.0005	0.0016	ND	0.014	0.014	0.017	0.0038	0.012	0.0072	0.0044	0.0035	0.0027	0.0053	0.0057	
			エストロン	0.0005	0.0016	ND	0.0012	0.0014	0.00055	ND	ND	0.00070	0.00043					
			エストロン	0.0005	0.0016	ND			0.0023	ND	ND	ND			0.00035			
			ビスフェノールA	0.4	24.7									0.0070				
			ビスフェノールA	0.304	0.608		0.81	0.52	ND	ND	0.060	ND	ND	ND				
			17β-エストラジオール	0.0005	0.0015	ND	0.00075	0.00051	0.00070	ND	ND	ND	ND					
			エストロン	0.0005	0.0016	0.00054	0.00027	0.0059	0.0038	0.0027	0.00059	0.0018	0.00042	0.00064	0.00048			
			エストロン	0.0005	0.0016	0.0013	0.0018	0.0022	0.0018	0.0027	ND	0.0019	0.0010	0.0012	0.00079			
			エストロン	0.0005	0.0016	0.00060	0.0012	0.00098	0.00064	0.00087	ND	0.00077	0.00038	0.00029				
			エストロン	0.0005	0.0016	ND			0.00078	0.00099	ND	0.00079	0.00034	0.00019				
			エストロン	0.0005	0.0016	ND			0.00077	0.00079	ND	0.00095	0.00036	0.00010				
			エストロン	0.0005	0.0016	ND			0.00078	0.00079	0.00055	ND	0.00031					
			エストロン	0.0005	0.0016	ND			0.00072	0.00069	ND	ND	0.00053			0.00039		
			ビスフェノールA	0.304	0.608	ND	ND	0.10	ND	0.41	0.060	ND						
			17β-エストラジオール	0.0005	0.0015													ND
			ビスフェノールA	0.4	24.7													ND
			o,p'-DDT	0.000725	0.0145													0.000013
			エストロン	0.0005	0.0016		0.00064	ND	ND	ND	ND							0.00040
			17β-エストラジオール	0.0005	0.0015													ND
			ビスフェノールA	0.4	24.7													0.01400
			エストロン	0.000725	0.0145													0.00030
			o,p'-DDT	0.0005	0.0016													8E-07
			17β-エストラジオール	0.0005	0.0015													ND
			ビスフェノールA	0.4	24.7													ND
			エストロン	0.000725	0.0145													0.00020
			o,p'-DDT	0.0005	0.0016													ND
			エストロン	0.0005	0.0016	ND	ND	ND	ND				0.00075					
			エストロン	0.0005	0.0016	ND	ND	ND	ND				0.0012					
			エストロン	0.0005	0.0016	0.00051	ND	0.00073	ND	ND	ND					0.00030		
			17β-エストラジオール	0.0005	0.0015	0.00059	ND	ND	ND	ND	ND							
			エストロン	0.0005	0.0016	0.0018	0.0010	0.0015	0.00059	0.00085	0.00077	0.0014	0.00096		0.00026	ND		
			エストロン	0.0005	0.0016	0.0039	0.0012	0.0021	0.00090	0.00061	ND	0.00080	0.00040			0.00040		
			エストロン	0.0005	0.0016	0.00041	ND	0.0012	ND	0.00082	0.00054	ND	0.00037					
			エストロン	0.0005	0.0016	0.00041	ND	0.0014	0.00080	0.00070	ND	0.00073	0.00058					
			エストロン	0.0005	0.0016	0.00059	0.00094	ND	ND	ND	ND						0.00030	
			ビスフェノールA															

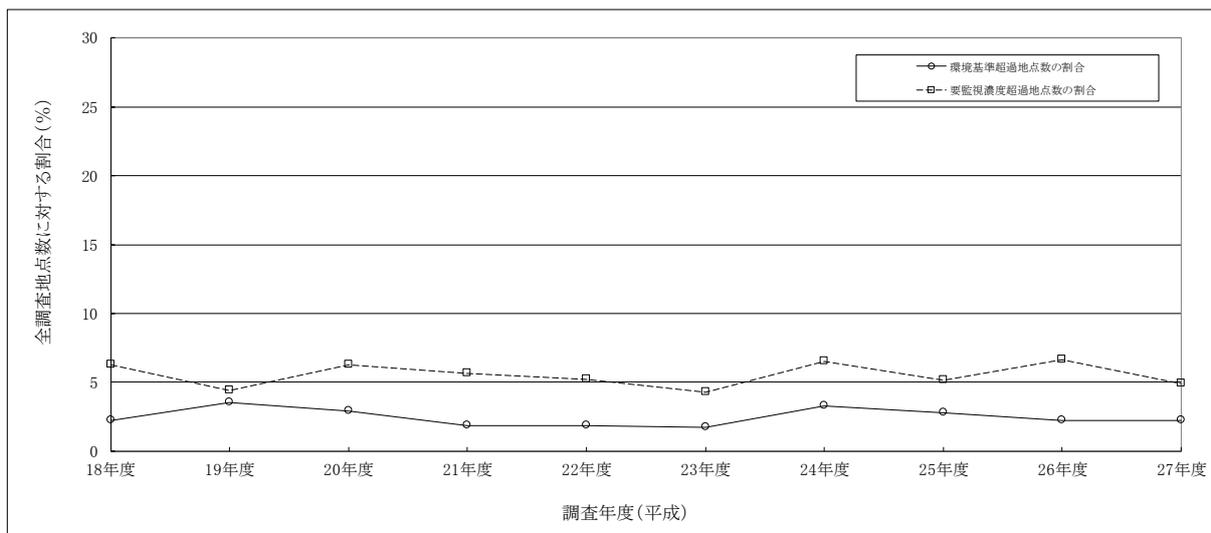


図-42 ダイオキシン類に関する全調査地点数のうち、環境基準超過地点数及び要監視濃度超過地点数の割合 (%) の推移 (水質)

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
環境基準超過地点数	5	8	7	4	4	4	7	6	5	5
要監視濃度超過地点	14	10	15	12	11	10	14	11	15	11
全調査地点数	224	227	240	213	212	233	215	214	226	225
環境基準超過地点数の割合 (%)	2.2%	3.5%	2.9%	1.9%	1.9%	1.7%	3.3%	2.8%	2.2%	2.2%
要監視濃度超過地点数の割合 (%)	6.3%	4.4%	6.3%	5.6%	5.2%	4.3%	6.5%	5.1%	6.6%	4.9%

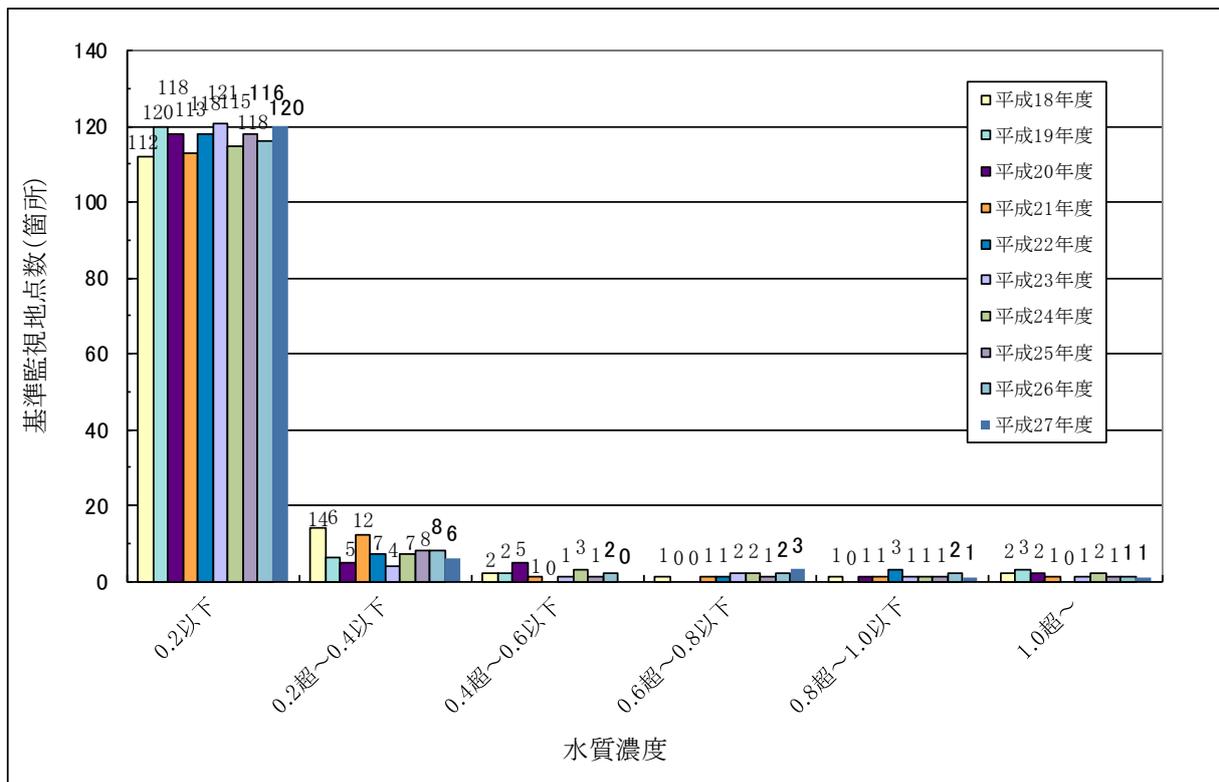


図-43 平成18年度～平成27年度水質ダイオキシン類調査（基準監視地点）  
濃度ヒストグラム

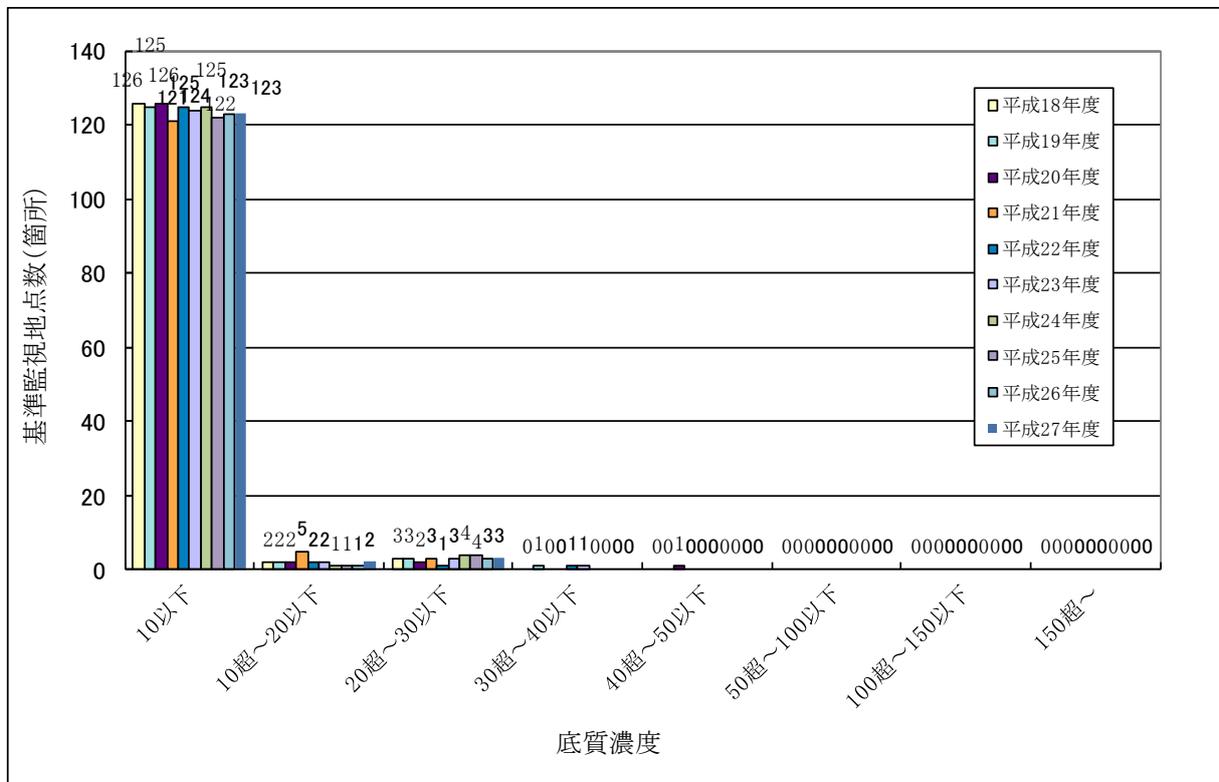


図-44 平成18年度～平成27年度底質ダイオキシン類調査（基準監視地点）  
濃度ヒストグラム

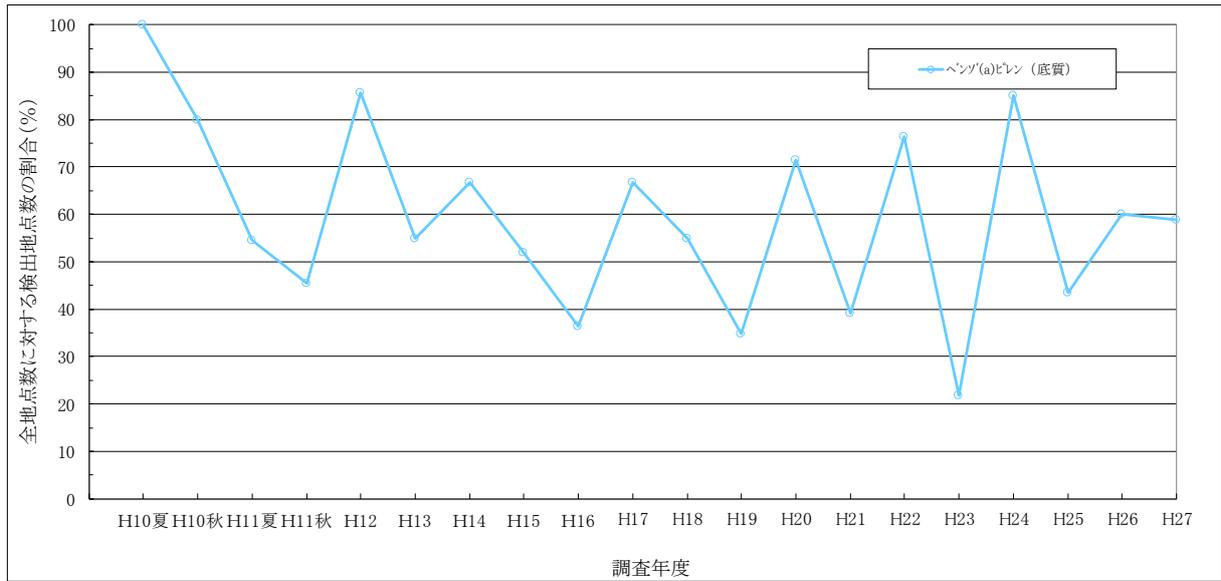


図-45 ベンゾ(a)ピレンに関する全調査地点数に対する  
検出地点数の割合(%)の推移

	H10夏	H10秋	H11夏	H11秋	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
ベンゾ(a)ピレン (底質)	1	4	6	5	12	72	16	13	8	12	11	8	15
	1	5	11	11	14	131	24	25	22	18	20	23	21
	100%	80%	54.5%	45.5%	85.7%	55.0%	66.7%	52.0%	36.4%	66.7%	55.0%	34.8%	71.4%

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
ベンゾ(a)ピレン (底質)	9	13	5	17	10	9	10
	23	17	23	20	23	15	17
	39.1%	76.5%	21.7%	85.0%	43.5%	60.0%	58.8%

上段: 検出地点数、中段: 全調査地点数、下段: 全調査地点数に対する検出地点数の割合(%)

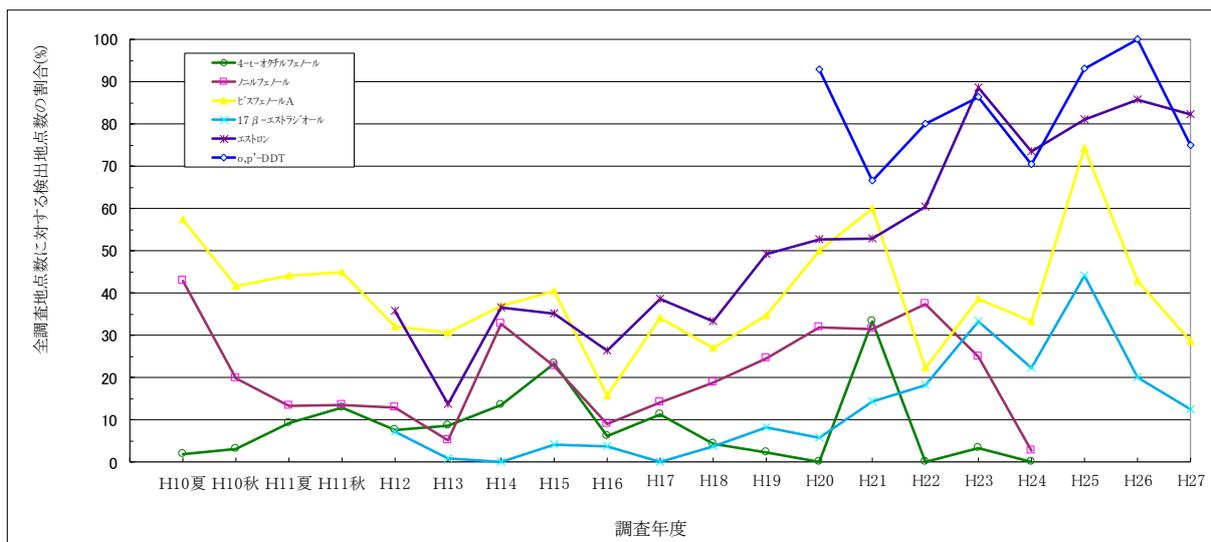


図-46 内分泌かく乱化学物質に対する検出地点数の割合(%)の推移

	H10夏	H10秋	H11夏	H11秋	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
4-tert-オクチルフェノール	5	8	24	18	10	10	6	10	3	5	2	1	0
	256	261	261	140	131	117	44	43	48	44	46	42	13
	2.0%	3.1%	9.2%	12.9%	7.6%	8.5%	13.6%	23.3%	6.3%	11.4%	4.3%	2.4%	0%
ノニルフェノール	110	52	35	19	17	6	21	15	6	9	13	16	7
	256	261	261	140	131	117	64	66	66	64	69	65	22
	43.0%	19.9%	13.4%	13.6%	13.0%	5.1%	32.8%	22.7%	9.1%	14.1%	18.8%	24.6%	31.8%
ビスフェノールA	147	109	115	63	42	36	17	19	8	16	14	16	8
	256	261	261	140	131	117	46	47	51	47	52	46	16
	57.4%	41.8%	44.1%	45.0%	32.1%	30.8%	37.0%	40.4%	15.7%	34.0%	26.9%	34.8%	50%
17β-エストラジオール					1	1	0	2	2	0	2	4	1
					14	117	49	49	52	50	53	49	17
					7.1%	0.9%	0.0%	4.1%	3.8%	0.0%	3.8%	8.2%	5.9%
エストロン					5	16	19	20	18	24	25	34	30
					14	117	52	57	68	62	75	69	57
					35.7%	13.7%	36.5%	35.1%	26.5%	38.7%	33.3%	49.3%	52.6%
o,p'-DDT													26
													28
													93%

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
4-tert-オクチルフェノール	3	0	1	0	—	—	—
	9	8	30	33	—	—	—
	33.3%	0.0%	3.3%	0.0%	—	—	—
ノニルフェノール	6	6	9	1	—	—	—
	19	16	36	38	—	—	—
	31.6%	37.5%	25.0%	2.6%	—	—	—
ビスフェノールA	6	2	12	11	26	6	2
	10	9	31	33	35	14	7
	60%	22%	39%	33%	74%	43%	29%
17β-エストラジオール	2	2	12	8	15	3	1
	14	11	36	36	34	15	8
	14.3%	18.2%	33.3%	22.2%	44.1%	20.0%	12.5%
エストロン	27	29	54	36	34	18	14
	51	48	61	49	42	21	17
	52.9%	60.4%	88.5%	73.5%	81.0%	85.7%	82.4%
o,p'-DDT	8	8	19	19	27	26	9
	12	10	22	27	29	26	12
	66.7%	80.0%	86.4%	70.4%	93.1%	100.0%	75.0%

上段: 検出地点数、中段: 全調査地点数、下段: 全調査地点数に対する検出地点数の割合(%)

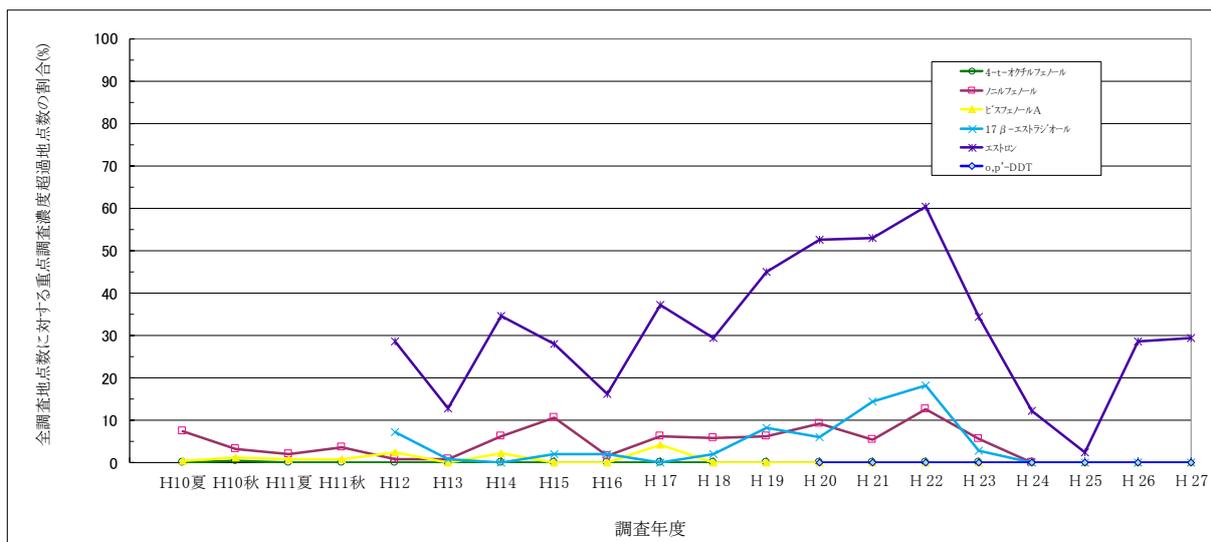


図-47 内分泌かく乱化学物質に関する全調査地点数に対する重点調査濃度超過地点数の割合(%)の推移

	H10夏	H10秋	H11夏	H11秋	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
4-tert-オクチルフェノール	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	256	261	261	140	131	117	44	43	48	44	46	42	13
	0%	0.4%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
ノニルフェノール	19	8	5	5	1	1	4	7	1	4	4	4	2
	256	261	261	140	131	117	64	66	66	64	69	65	22
	7.4%	3.1%	1.9%	3.6%	0.8%	0.9%	6.3%	10.6%	1.5%	6.3%	5.8%	6.2%	9.1%
ビスフェノールA	1	3	2	1	3	0	1	0	0	2	0	0	0
	256	261	261	140	131	117	46	47	51	47	52	46	16
	0.4%	1.1%	0.8%	0.7%	2.3%	0%	2.2%	0%	0%	4.3%	0%	0%	0%
17β-エストラジオール					1	1	0	1	1	0	1	4	1
					14	117	49	49	52	50	53	49	17
					7.1%	0.9%	0%	2.0%	1.9%	0%	1.9%	8.2%	5.9%
エストロン					4	15	18	16	11	23	22	31	30
					14	117	52	57	68	62	75	69	57
					28.6%	12.8%	34.6%	28.1%	16.2%	37.1%	29.3%	44.9%	52.6%
o,p'-DDT													0
													28
													0%

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
4-tert-オクチルフェノール	0	0	0	0	-	-	-
	9	8	30	33	-	-	-
	0%	0%	0%	0.0%	-	-	-
ノニルフェノール	1	2	2	0	-	-	-
	19	16	36	38	-	-	-
	5.3%	12.5%	5.6%	0.0%	-	-	-
ビスフェノールA	0	0	0	0	0	0	0
	10	9	31	33	35	14	7
	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
17β-エストラジオール	2	2	1	0	0	0	0
	14	11	36	36	34	15	8
	14.3%	18.2%	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
エストロン	27	29	21	6	1	6	5
	51	48	61	49	42	21	17
	52.9%	60.4%	34.4%	12.2%	2.4%	28.6%	29.4%
o,p'-DDT	0	0	0	0	0	0	0
	12	10	22	27	29	26	12
	0%	0%	0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

上段:重点調査濃度超過地点数、中段:全調査地点数、下段:全調査地点数に対する重点調査濃度超過地点数の割合(%)

表-39(1) 平成27年度ダイオキシン類に関する実態調査結果（北海道）

No.	整備局名	都道府県名	水系名	河川名	調査地点名	地点		調査時期	ダイオキシン類（水質） <sup>※2</sup>				ダイオキシン類（底質） <sup>※2</sup>				
						基準 or 補助	重点監視地点 <sup>※1</sup>		PCDD+PCDF	Co-PCB	TOTAL <sup>※3</sup>	評価値 (平均値)	PCDD+PCDF	Co-PCB	TOTAL <sup>※3</sup>	評価値 (最高値)	
							水質										底質
103	北海道	北海道	石狩川	空知川	滝里ダム	補助			秋期	0.077	0.0047	0.082	0.082	5.60	0.063	5.6	5.6
107	北海道	北海道	石狩川	石狩川	納内橋	補助			秋期	0.068	0.0047	0.073	0.073				
109	北海道	北海道	石狩川	石狩川	石狩大橋	基準			秋期	0.074	0.0046	0.078	0.078	0.6	0.013	0.65	0.65
113	北海道	北海道	石狩川	豊平川	中沼	基準			秋期	0.065	0.005	0.07	0.07	0.33	0.060	0.39	0.39
115	北海道	北海道	常呂川	常呂川	忠志橋	基準			秋期	0.11	0.01	0.12	0.12	0.5	0.015	0.48	0.48
116	北海道	北海道	常呂川	常呂川	上川沿	補助			秋期					0.25	0.014	0.27	0.27
117	北海道	北海道	尻別川	尻別川	名駒	基準			秋期	0.067	0.0046	0.072	0.072	0.82	0.035	0.85	0.85
120	北海道	北海道	後志利別川	後志利別川	今金橋	基準			秋期	0.062	0.0047	0.067	0.067	0.23	0.013	0.24	0.24
122	北海道	北海道	鶴川	鶴川	鶴川橋	基準			秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.2	0.013	0.21	0.21
124	北海道	北海道	沙流川	沙流川	二風谷ダム	補助			秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.19	0.013	0.21	0.21
125	北海道	北海道	沙流川	沙流川	長知内橋	基準			秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.19	0.013	0.21	0.21
126	北海道	北海道	沙流川	沙流川	沙流川橋	補助			秋期					0.19	0.013	0.21	0.21
127	北海道	北海道	十勝川	十勝川	十勝ダム	補助			秋期	0.063	0.0046	0.068	0.068	0.35	0.013	0.36	0.36
130	北海道	北海道	十勝川	十勝川	茂岩橋	基準			秋期	0.064	0.0046	0.069	0.069	0.31	0.013	0.32	0.32
131	北海道	北海道	釧路川	新釧路川	愛国浄水場取水口	基準			秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.20	0.013	0.21	0.21
133	北海道	北海道	網走川	網走川	治水橋	基準			秋期	0.063	0.0047	0.068	0.068	0.6	0.013	0.57	0.57
134	北海道	北海道	網走川	網走湖	st.2	基準			秋期	0.066	0.0047	0.071	0.071	3.30	0.067	3.4	3.4
136	北海道	北海道	湧別川	湧別川	中湧別橋	基準			秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.22	0.014	0.23	0.23
138	北海道	北海道	渚滑川	渚滑川	ウツツ橋	基準			秋期	0.062	0.0047	0.067	0.067	0.20	0.013	0.21	0.21
140	北海道	北海道	天塩川	天塩川	岩尾内ダム	補助			秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	1.7	0.097	1.8	1.8
142	北海道	北海道	天塩川	天塩川	天塩大橋	基準			秋期	0.064	0.0046	0.069	0.069	0.91	0.013	0.92	0.92
144	北海道	北海道	留萌川	留萌川	16線橋	基準			秋季	0.064	0.0046	0.069	0.069	0.55	0.014	0.56	0.56

- ※1 過去に要監視濃度を超えてから、8回連続して要監視濃度以下とならなかった地点。  
 ※2 網掛けは環境基準を超過、斜体は要監視濃度を超過、-は未測定  
 ※3 四捨五入により、(PCDDs+PCDFs)とCo-PCBの和が、評価値と一致しないことがある。

表-39(2) 平成27年度ダイオキシン類に関する実態調査結果（東北）

No.	整備局名	都道府県名	水系名	河川名	調査地点名	地点		調査時期	ダイオキシン類（水質） <sup>※2</sup>				ダイオキシン類（底質） <sup>※2</sup>			
						基準 or 補助	重点監視地点 <sup>※1</sup>		PCDD+PCDF	Co-PCB	TOTAL <sup>※3</sup>	評価値 (平均値)	PCDD+PCDF	Co-PCB	TOTAL <sup>※3</sup>	評価値 (最高値)
201	東北	青森県	馬淵川	馬淵川	尻内橋	基準		秋期	0.065	0.0047	0.07	0.07	0.31	0.014	0.32	0.32
202	東北	青森県	岩木川	岩木川	乾橋	基準		秋期	0.077	0.0048	0.082	0.082	0.21	0.013	0.22	0.22
203	東北	青森県	高瀬川	小川原湖	小川原湖No. H	基準		秋期	0.063	0.0046	0.068	0.068	10.00	0.44	11.00	11.00
204	東北	岩手県	北上川	北上川	北上川橋	補助		秋期	0.068	0.0046	0.073	0.073	1.9	0.037	1.9	1.9
205	東北	岩手県	北上川	北上川	四十四田ダム	補助		秋期	0.066	0.0046	0.071	0.071	2.2	0.097	2.3	2.3
206	東北	岩手県	北上川	北上川	猿ヶ石川	補助		秋期	0.064	0.0046	0.069	0.069	5	0.19	5	5
207	東北	秋田県	雄物川	雄物川	秋田大橋（新屋）	基準		秋期	0.067	0.0046	0.072	0.072	6.4	0.19	6.6	6.6
208	東北	秋田県	子吉川	子吉川	二十六木橋	基準		秋期	0.069	0.0046	0.074	0.074	3	0.035	3	3
209	東北	秋田県	米代川	米代川	銀杏橋（二ツ井）	基準		秋期	0.064	0.0047	0.069	0.069	0.35	0.025	0.4	0.4
210	東北	秋田県	米代川	小又川	森吉山ダム	補助		秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	1.4	0.11	1.5	1.5
211	東北	山形県	最上川	最上川	基点橋	基準		秋期	0.068	0.0047	0.072	0.072	0.6	0.04	0.6	0.6
212	東北	山形県	赤川	赤川	浜中	基準		秋期	0.066	0.0046	0.070	0.070	1.6	0.093	1.7	1.7
213	東北	山形県	赤川	赤川	赤川河口	補助		秋期	0.068	0.0046	0.073	0.073	0.23	0.013	0.25	0.25
214	東北	山形県	最上川	置賜白川	白川ダム	補助		秋期	0.064	0.0046	0.068	0.068	4.6	0.1	4.70	4.70
215	東北	山形県	最上川	寒河江川	寒河江ダム	補助		秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	1.3	0.08	1.4	1.4
216	東北	宮城県	名取川	名取川	閑上大橋	基準		秋期	0.067	0.0048	0.072	0.072	0.68	0.058	0.7	0.7
217	東北	宮城県	名取川	名取川	名取橋	補助		秋期	0.067	0.0046	0.072	0.072	0.21	0.014	0.23	0.23
218	東北	宮城県	名取川	広瀬川	三橋	補助		秋期	0.07	0.0048	0.07	0.07	0.83	0.067	0.9	0.9
219	東北	宮城県	阿武隈川	阿武隈川	岩沼	基準		秋期	0.072	0.0047	0.08	0.08	0.3	0.015	0.28	0.28
220	東北	宮城県	阿武隈川	阿武隈川	阿武隈川河口	補助		秋期	0.076	0.0047	0.08	0.08	2.7	0.11	2.8	2.8
221	東北	宮城県	北上川	北上川	登米	基準		秋期	0.066	0.0046	0.071	0.071	1.1	0.035	1.1	1.1
222	東北	宮城県	北上川	北上川	北上大堰	補助		秋期	0.066	0.0047	0.07	0.07	1.50	0.048	1.5	1.5
223	東北	宮城県	鳴瀬川	鳴瀬川	鳴瀬堰（小野）	基準		秋期	0.32	0.0047	0.33	0.33	0.28	0.013	0.29	0.29
224	東北	宮城県	名取川	碓氷川	釜房ダム	補助		秋期	0.085	0.0046	0.090	0.090	6.0	0.14	6.2	6.2
225	東北	福島県	阿武隈川	阿武隈川	黒岩	補助		秋期	0.07	0.0047	0.08	0.08	0.21	0.013	0.22	0.22
226	東北	福島県	阿武隈川	荒川	信夫橋	補助		秋期	0.064	0.0046	0.069	0.069	0.2	0.013	0.21	0.21

※1 過去に要監視濃度を超えてから、8回連続して要監視濃度以下とならなかった地点。  
 ※2 網掛けは環境基準を超過、斜体は要監視濃度を超過、-は未測定  
 ※3 四捨五入により、(PCDDs+PCDFs)とCo-PCBの和が、評価値と一致しないことがある。

表-39(3) 平成27年度ダイオキシン類に関する実態調査結果（関東（1））

No.	整備局名	都道府県名	水系名	河川名	調査地点名	地点		調査時期	ダイオキシン類（水質） <sup>※2</sup>				ダイオキシン類（底質） <sup>※2</sup>				
						基準 or 補助	重点監視地点 <sup>※1</sup>		PCDD+PCDF	Co-PCB	TOTAL <sup>※3</sup>	評価値 （平均値）	PCDD+PCDF	Co-PCB	TOTAL <sup>※3</sup>	評価値 （最高値）	
							水質										底質
301	関東	群馬県	利根川	利根川	藤原ダム	補助		秋	0.062	0.0046	0.067	0.067	1.7	0.17	1.9	1.9	
302	関東	群馬県	利根川	利根川	矢木沢ダム	補助		秋	0.062	0.0046	0.067	0.067	2.2	0.20	2.4	2.4	
303	関東	群馬県	利根川	利根川	奈良俣ダム	補助		秋	0.062	0.0046	0.067	0.067	3.5	0.34	3.9	3.9	
304	関東	群馬県	利根川	利根川	相俣ダム	補助		秋	0.062	0.0046	0.067	0.067	2.7	0.28	3.0	3.0	
305	関東	群馬県・埼玉県	利根川	利根川	菌原ダム	補助		秋	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.99	0.15	1.1	1.1	
306	関東	群馬県・埼玉県	利根川	利根川	栗橋	補助		秋	0.087	0.0048	0.092	0.092	0.22	0.013	0.24	0.24	
307	関東	茨城県・千葉県	利根川	利根川	佐原(水郷大橋)	基準		秋	0.13	0.0048	0.14	0.14	4.9	0.25	5.2	5.2	
308	関東	茨城県・千葉県	利根川	利根川	銚子大橋	補助		秋	0.094	0.0047	0.099	0.099	0.86	0.035	0.89	0.89	
309	関東	群馬県	利根川	利根川	品木ダム	補助		秋	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.86	0.085	0.95	0.95	
310	関東	群馬県	利根川	神流川	下久保ダム	補助		秋	0.062	0.0046	0.067	0.067	1.5	0.18	1.6	1.6	
311	関東	群馬県	利根川	神流川	神流川橋	補助		秋	0.063	0.0046	0.068	0.068	0.23	0.014	0.24	0.24	
312	関東	茨城県・栃木県	利根川	渡良瀬川	三国橋	基準		秋	0.13	0.0049	0.13	0.13	0.22	0.013	0.23	0.23	
313	関東	栃木県	利根川	湯西川	湯西川ダム	補助		秋	0.062	0.0046	0.067	0.067	1.7	0.32	2.1	2.1	
314	関東	栃木県	利根川	鬼怒川	川俣ダム	補助		秋	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.74	0.080	0.82	0.82	
315	関東	茨城県	利根川	鬼怒川	滝下橋	基準		秋	0.067	0.0047	0.072	0.072	0.20	0.013	0.21	0.21	
316	関東	茨城県	利根川	小貝川	文巻橋	基準	○	春	0.54	0.012	0.55	0.35	—	—	—	—	
								夏	0.21	0.0048	0.22	—	—	—	—		
								秋	0.44	0.014	0.46	0.23	0.013	0.25	0.25		
								冬	0.14	0.0050	0.15	—	—	—	—		
317	関東	千葉県・東京都	利根川	江戸川	江戸川水門(上)	基準		秋	0.13	0.0096	0.14	0.14	9.8	0.63	10	10	
318	関東	埼玉県	利根川	中川	潮止橋	補助	○	春	1.2	0.026	1.2	0.69	—	—	—	—	
								夏	0.66	0.025	0.69	—	—	—	—		
								秋	0.46	0.030	0.50	1.2	0.058	1.2	1.2		
								冬	0.35	0.022	0.38	—	—	—	—		
319	関東	東京都	利根川	中川	飯塚橋	基準	○	春	1.1	0.030	1.1	0.80	—	—	—	—	
								夏	0.58	0.025	0.60	—	—	—	—		
								秋	0.97	0.044	1.0	24	0.99	25	25		
								冬	0.47	0.039	0.51	—	—	—	—		

※1 過去に要監視濃度を超えてから、8回連続して要監視濃度以下とならなかった地点。  
 ※2 網掛けは環境基準を超過、斜体は要監視濃度を超過、—は未測定  
 ※3 四捨五入により、(PCDDs+PCDFs)とCo-PCBの和が、評価値と一致しないことがある。

表-39(4) 平成27年度ダイオキシン類に関する実態調査結果（関東（2））

No.	整備局名	都道府県名	水系名	河川名	調査地点名	地点		調査時期	ダイオキシン類（水質）※2				ダイオキシン類（底質）※2				
						基準 or 補助	重点監視地点※1		PCDD+PCDF	Co-PCB	TOTAL※3	評価値 （平均値）	PCDD+PCDF	Co-PCB	TOTAL※3	評価値 （最高値）	
							水質										底質
320	関東	東京都	利根川	中川	高砂橋	補助	○		春	0.90	0.12	1.0	0.73	—	—	—	—
								夏	0.56	0.077	0.63		—	—	—	—	
								秋	0.74	0.050	0.79		—	—	—	—	
								冬	0.42	0.058	0.48		—	—	—	—	
321	関東	埼玉県	利根川	綾瀬川	槐戸橋	補助	○		春	1.8	0.073	1.8	1.2	—	—	—	—
								夏	1.5	0.049	1.5		—	—	—	—	
								秋	0.97	0.048	1.0		—	—	—	—	
								冬	0.56	0.037	0.60		—	—	—	—	
322	関東	埼玉県	利根川	綾瀬川	手代橋	補助	○		春	2.3	0.20	2.5	1.3	—	—	—	—
								夏	1.3	0.070	1.4		—	—	—	—	
								秋	0.95	0.080	1.0		4.4	0.43	4.8	4.8	
								冬	0.40	0.043	0.44		—	—	—	—	
323	関東	埼玉県・東京都	利根川	綾瀬川	内匠橋	基準	○		春	0.75	0.049	0.80	0.77	—	—	—	—
								夏	0.86	0.057	0.91		—	—	—	—	
								秋	0.99	0.12	1.1		6.4	0.54	6.9	6.9	
								冬	0.24	0.033	0.27		—	—	—	—	
324	関東	茨城県	利根川	霞ヶ浦	湖心	基準			秋	0.24	0.0083	0.25	0.25	16	0.65	17	17
325	関東	茨城県	利根川	霞ヶ浦	釜谷沖	基準			秋	0.23	0.0047	0.24	0.24	25	0.53	26	26
326	関東	茨城県	利根川	霞ヶ浦	外浪逆浦	補助			秋	0.23	0.0048	0.24	0.24	4.3	0.17	4.5	4.5
327	関東	埼玉県	荒川	荒川	開平橋	補助			秋	0.077	0.0048	0.082	0.082	0.61	0.066	0.68	0.68
328	関東	埼玉県	荒川	荒川	治水橋	基準			秋	0.11	0.0048	0.11	0.11	1.3	0.13	1.4	1.4
329	関東	東京都	荒川	荒川	堀切橋	補助	○		春	0.35	0.071	0.42	0.50	—	—	—	—
								夏	0.31	0.046	0.35		—	—	—	—	
								秋	0.74	0.097	0.84		—	—	—	—	
								冬	0.32	0.053	0.38		—	—	—	—	
330	関東	東京都	荒川	荒川	葛西橋	補助			秋	0.32	0.041	0.36	0.36	6.1	0.90	7.0	7.0
331	関東	茨城県	久慈川	久慈川	柳橋	基準			秋	0.075	0.0047	0.079	0.079	0.21	0.013	0.22	0.22
332	関東	茨城県	久慈川	久慈川	東橋	補助			秋	0.13	0.0047	0.13	0.13	0.23	0.013	0.24	0.24
333	関東	茨城県	那珂川	那珂川	下国井	基準			秋	0.064	0.0046	0.069	0.069	0.23	0.014	0.24	0.24
334	関東	茨城県	那珂川	那珂川	上合橋	補助			秋	0.081	0.0046	0.085	0.085	0.61	0.013	0.62	0.62
335	関東	東京都	多摩川	多摩川	拝島橋	補助			秋	0.062	0.0047	0.067	0.067	0.47	0.057	0.53	0.53

※1 過去に要監視濃度を超えてから、8回連続して要監視濃度以下とならなかった地点。

※2 網掛けは環境基準を超過、斜体は要監視濃度を超過、—は未測定

※3 四捨五入により、(PCDDs+PCDFs)とCo-PCBの和が、評価値と一致しないことがある。

表-39(5) 平成27年度ダイオキシン類に関する実態調査結果（関東（3））

No.	整備局名	都道府県名	水系名	河川名	調査地点名	地点		調査時期	ダイオキシン類（水質） <sup>※2</sup>				ダイオキシン類（底質） <sup>※2</sup>				
						基準 or 補助	重点監視地点 <sup>※1</sup>		PCDD+PCDF	Co-PCB	TOTAL <sup>※3</sup>	評価値 (平均値)	PCDD+PCDF	Co-PCB	TOTAL <sup>※3</sup>	評価値 (最高値)	
							水質										底質
336	関東	東京都・神奈川県	多摩川	多摩川	田園調布堰	基準		秋	0.064	0.0049	0.069	0.069	0.26	0.070	0.33	0.33	
337	関東	東京都	多摩川	浅川	高幡橋	補助		秋	0.063	0.0047	0.068	0.068	0.25	0.035	0.29	0.29	
338	関東	神奈川県	鶴見川	鶴見川	亀の子橋	基準		秋	0.071	0.0098	0.081	0.081	1.0	0.17	1.2	1.2	
339	関東	神奈川県	鶴見川	矢上川	矢上川橋	補助		秋	0.063	0.0050	0.068	0.068	0.40	0.11	0.51	0.51	
340	関東	神奈川県	相模川	相模川	馬入橋	基準		秋	0.065	0.0048	0.070	0.070	0.21	0.036	0.24	0.24	
341	関東	山梨県	富士川	笛吹川	三郡東橋	補助		秋	0.10	0.0082	0.11	0.11	0.20	0.013	0.22	0.22	
342	関東	静岡県	富士川	富士川	富士川橋	基準		秋	0.076	0.0047	0.081	0.081	0.20	0.013	0.21	0.21	

- ※1 過去に要監視濃度を超えてから、8回連続して要監視濃度以下とならなかった地点。  
 ※2 網掛けは環境基準を超過、斜体は要監視濃度を超過、-は未測定  
 ※3 四捨五入により、(PCDDs+PCDFs)とCo-PCBの和が、評価値と一致しないことがある。

表-39(6) 平成27年度ダイオキシン類に関する実態調査結果（北陸）

No.	整備局名	都道府県名	水系名	河川名	調査地点名	地点			ダイオキシン類（水質）※2				ダイオキシン類（底質）※2				
						基準 or 補助	重点監視地点※1		調査時期	PCDD+PCDF	Co-PCB	TOTAL※3	評価値 （平均値）	PCDD+PCDF	Co-PCB	TOTAL※3	評価値 （最高値）
							水質	底質		pg-TEQ/ℓ	pg-TEQ/ℓ	pg-TEQ/ℓ	pg-TEQ/ℓ	pg-TEQ/g	pg-TEQ/g	pg-TEQ/g	pg-TEQ/g
	北陸	新潟県	荒川	荒川	旭橋下流	基準			秋期	0.066	0.0046	0.070	0.070	1.2	0.066	1.3	1.3
	北陸	新潟県	荒川	荒川	大石ダム	補助			秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	7.3	0.43	7.7	7.7
	北陸	新潟県	荒川	荒川	横川ダム	補助			秋期	0.063	0.0046	0.068	0.068	1.9	0.067	1.9	1.9
	北陸	新潟県	阿賀野川	阿賀野川	横雲橋	基準			秋期	0.071	0.0046	0.075	0.075	0.20	0.013	0.21	0.21
	北陸	新潟県	信濃川	信濃川	平成大橋	基準	○	○	春期	1.2	0.0048	<b>1.2</b>	0.70	0.50	0.014	0.51	2.2
夏期									0.42	0.0048	0.42	1.5	0.015	1.5			
秋期									0.20	0.0048	0.20	2.2	0.015	2.2			
冬期									1.0	0.0084	1.0	0.54	0.014	0.56			
	北陸	新潟県	信濃川	信濃川	庄瀬橋	基準	○	○	春期	1.6	0.0094	<b>1.6</b>	0.79	1.2	0.014	1.2	1.2
夏期									0.55	0.0094	0.56	0.69	0.014	0.71			
秋期									0.21	0.0048	0.22	1.2	0.014	1.2			
冬期									0.76	0.0048	0.77	0.56	0.013	0.57			
	北陸	新潟県	信濃川	信濃川	旭橋	補助			秋期	0.076	0.0046	0.081	0.081	0.21	0.013	0.23	0.23
	北陸	新潟県	信濃川	三国川	三国川ダム	補助			秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	1.9	0.091	2.0	2.0
	北陸	長野県	信濃川	千曲川	立ヶ花橋	補助			秋期	0.073	0.0047	0.078	0.078	4.4	0.087	4.5	4.5
	北陸	長野県	信濃川	高瀬川	大町ダム	補助			秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	1.1	0.081	1.2	1.2
	北陸	新潟県	関川	関川	直江津橋	基準	○	○	春期	4.0	0.015	<b>4.0</b>	<b>2.8</b>	1.1	0.014	1.1	2.4
夏期									0.57	0.0048	0.58	1.5	0.014	1.5			
秋期									6.2	0.029	<b>6.2</b>	1.4	0.014	1.4			
冬期									0.30	0.0047	0.30	2.3	0.025	2.4			
	北陸	新潟県	関川	関川	稲田橋	補助	○	○	春期	6.8	0.011	<b>6.8</b>	<b>3.0</b>	0.25	0.013	0.26	0.70
夏期									1.1	0.0050	<b>1.1</b>	0.69	0.014	0.70			
秋期									4.0	0.013	<b>4.0</b>	0.60	0.014	0.62			
冬期									0.27	0.0048	0.27	0.24	0.013	0.26			
	北陸	新潟県	関川	保倉川	古城橋	補助	○	○	春期	6.5	0.013	<b>6.6</b>	<b>2.9</b>	2.4	0.015	2.4	5.9
夏期									0.60	0.0048	0.60	2.4	0.015	2.4			
秋期									3.7	0.016	<b>3.7</b>	2.4	0.026	2.4			
冬期									0.52	0.0047	0.53	5.9	0.036	5.9			
	北陸	新潟県	姫川	姫川	山本（中山橋）	基準			秋期	0.16	0.0046	0.16	0.16	0.19	0.013	0.21	0.21
	北陸	富山県	黒部川	黒部川	下黒部橋	基準			秋期	0.062	0.0047	0.067	0.067	0.20	0.013	0.21	0.21
	北陸	富山県	常願寺川	常願寺川	常願寺橋	基準			秋期	0.062	0.0047	0.067	0.067	0.20	0.013	0.21	0.21
	北陸	富山県	神通川	神通川	神通大橋	基準			秋期	0.066	0.0046	0.071	0.071	0.20	0.013	0.21	0.21
	北陸	富山県	庄川	庄川	大門大橋	基準			秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.24	0.014	0.26	0.26
	北陸	富山県	小矢部川	小矢部川	城光寺橋	基準			秋期	0.13	0.0049	0.14	0.14	0.22	0.014	0.24	0.24
	北陸	石川県	手取川	手取川	美川大橋	基準			秋期	0.067	0.0046	0.071	0.071	0.20	0.013	0.21	0.21
	北陸	石川県	梯川	梯川	石田橋	基準			秋期	0.35	0.0047	0.36	0.36	2.4	0.047	2.4	2.4

※1 過去に要監視濃度を超えてから、8回連続して要監視濃度以下とならなかった地点。  
 ※2 網掛けは環境基準を超過、斜体は要監視濃度を超過、－は未測定  
 ※3 四捨五入により、(PCDDs+PCDFs)とCo-PCBの和が、評価値と一致しないことがある。

表-39(7) 平成27年度ダイオキシン類に関する実態調査結果 (中部)

No.	整備局名	都道府県名	水系名	河川名	調査地点名	地点		調査時期	ダイオキシン類 (水質) ※2				ダイオキシン類 (底質) ※2				
						基準 or 補助	重点監視地点※ 1		PCDD+PCDF	Co-PCB	TOTAL ※3	評価値 (平均値)	PCDD+PCDF	Co-PCB	TOTAL ※3	評価値 (最高値)	
							水質										底質
501	中部	静岡	狩野川	狩野川	徳倉橋	基準			秋季	0.10	0.0051	0.11	0.11	0.39	0.026	0.42	0.42
503	中部	静岡	狩野川	狩野川	河口域最下流	補助			秋季					1.4	0.13	1.5	1.5
504	中部	静岡	安倍川	安倍川	安倍川橋	基準			秋季	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.19	0.013	0.21	0.21
505	中部	静岡	安倍川	安倍川	河口域最下流	補助			秋季					0.19	0.014	0.21	0.21
507	中部	静岡	大井川	大井川	富士見橋	基準			秋季	0.063	0.0047	0.068	0.068	0.19	0.013	0.21	0.21
508	中部	静岡	大井川	大井川	河口域最下流	補助			秋季					0.19	0.013	0.21	0.21
509	中部	静岡	菊川	菊川	高田橋	基準			秋季	0.12	0.0046	0.12	0.12	0.47	0.014	0.48	0.48
511	中部	静岡	菊川	菊川	河口域最下流	補助			秋季					0.22	0.014	0.23	0.23
513	中部	静岡	天竜川	天竜川	鹿島橋	基準			秋季	0.075	0.0047	0.079	0.079	0.20	0.013	0.21	0.21
514	中部	静岡	天竜川	天竜川	河口域最下流	補助			秋季					0.25	0.014	0.27	0.27
515	中部	長野	天竜川	三峰川	美和ダム	補助			秋季	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.23	0.013	0.25	0.25
519	中部	愛知	豊川	豊川	江島橋	基準			秋季	0.074	0.0046	0.078	0.078	0.24	0.013	0.25	0.25
520	中部	愛知	豊川	豊川	当古橋	補助			秋季	0.076	0.0046	0.081	0.081	0.27	0.013	0.28	0.28
524	中部	愛知	矢作川	矢作川	米津大橋	基準			秋季	0.11	0.0047	0.12	0.12	0.21	0.013	0.22	0.22
528	中部	愛知	庄内川	庄内川	城嶺橋	補助			秋季	0.072	0.0046	0.076	0.076	0.21	0.013	0.23	0.23
529	中部	愛知	庄内川	庄内川	大留橋	補助			秋季	0.071	0.0046	0.076	0.076	0.33	0.013	0.35	0.35
531	中部	愛知	庄内川	庄内川	枇杷島橋	基準			秋季	0.091	0.0050	0.096	0.096	0.23	0.014	0.24	0.24
533	中部	愛知	庄内川	矢田川	天神橋	補助			秋季	0.073	0.0052	0.079	0.079	0.20	0.014	0.22	0.22
535	中部	岐阜	木曽川	木曽川	丸山ダム	補助			秋季	0.064	0.0046	0.068	0.068	1.1	0.092	1.1	1.1
536	中部	愛知	木曽川	木曽川	濃尾大橋	基準			秋季	0.065	0.0046	0.070	0.07	0.21	0.013	0.22	0.22
541	中部	三重	木曽川	長良川	伊勢大橋	基準			秋季	0.12	0.0050	0.12	0.12	0.90	0.077	0.98	0.98
544	中部	岐阜	木曽川	掛斐川	横山ダム	補助			秋季	0.062	0.0046	0.067	0.067	3.2	0.22	3.4	3.4
546	中部	岐阜	木曽川	掛斐川	福岡大橋	基準			秋季	0.13	0.0047	0.14	0.14	5.2	0.15	5.4	5.4
548	中部	三重	鈴鹿川	鈴鹿川	高岡橋	基準			秋季	0.081	0.0046	0.086	0.086	0.21	0.013	0.22	0.22
551	中部	三重	雲出川	雲出川	雲出橋	基準			秋季	0.088	0.0046	0.092	0.092	1.5	0.049	1.6	1.6
554	中部	三重	楠田川	楠田川	楠田橋	基準			秋季	0.11	0.0046	0.11	0.11	0.26	0.013	0.27	0.27
556	中部	三重	宮川	宮川	度会橋	基準			秋季	0.066	0.0046	0.070	0.07	0.20	0.013	0.22	0.22

※1 過去に要監視濃度を超えてから、8回連続して要監視濃度以下とならなかった地点。  
 ※2 網掛けは環境基準を超過、斜体は要監視濃度を超過、-は未測定  
 ※3 四捨五入により、(PCDDs+PCDFs)とCo-PCBの和が、評価値と一致しないことがある。

表-39(8) 平成27年度ダイオキシン類に関する実態調査結果(近畿)

No.	整備局名	都道府県名	水系名	河川名	調査地点名	地点		調査時期	ダイオキシン類(水質) <sup>※2</sup>				ダイオキシン類(底質) <sup>※2</sup>									
						基準 or 補助	重点監視地点 <sup>※1</sup>		PCDD+PCDF	Co-PCB	TOTAL <sup>※3</sup>	評価値 (平均値)	PCDD+PCDF	Co-PCB	TOTAL <sup>※3</sup>	評価値 (最高値)						
																	水質	底質	pg-TEQ/ℓ	pg-TEQ/ℓ	pg-TEQ/ℓ	pg-TEQ/ℓ
																			pg-TEQ/g	pg-TEQ/g	pg-TEQ/g	pg-TEQ/g
601	近畿	三重県・和歌山県	新宮川	熊野川	熊野大橋	基準		秋季	0.068	0.0046	0.072	0.072	0.20	0.014	0.21	0.21						
602	近畿	和歌山県	紀の川	紀の川	大川橋	補助		秋季	0.064	0.0046	0.069	0.069	0.20	0.014	0.22	0.22						
603	近畿	和歌山県	紀の川	紀の川	船戸	基準		秋季	0.072	0.0047	0.076	0.076	0.24	0.027	0.27	0.27						
604	近畿	奈良県	大和川	大和川	上吐田橋	補助	○	春季	0.37	0.016	0.39	0.33	-	-	-	0.53						
								夏季	0.39	0.014	0.41	-	-	-	-	-						
								秋季	0.33	0.014	0.35	-	0.52	0.014	0.53	-						
								冬季	0.17	0.010	0.18	-	-	-	-	-						
605	近畿	奈良県	大和川	大和川	太子橋	補助	○	春季	0.41	0.018	0.43	0.35	-	-	-	0.32						
								夏季	0.46	0.017	0.48	-	-	-	-	-						
								秋季	0.33	0.016	0.34	-	0.30	0.015	0.32	-						
								冬季	0.13	0.011	0.14	-	-	-	-	-						
606	近畿	奈良県	大和川	大和川	藤井	補助	○	春季	0.32	0.022	0.34	0.31	-	-	-	0.26						
								夏季	0.49	0.028	0.52	-	-	-	-	-						
								秋季	0.24	0.020	0.26	-	0.24	0.015	0.26	-						
								冬季	0.099	0.0086	0.11	-	-	-	-	-						
607	近畿	大阪府	大和川	大和川	遠里小野橋 中	基準	○	春季	0.24	0.020	0.26	0.25	-	-	-	0.28						
								夏季	0.57	0.027	0.60	-	-	-	-	-						
								秋季	0.21	0.012	0.22	-	0.26	0.025	0.28	-						
								冬季	0.085	0.008	0.093	-	-	-	-	-						
608	近畿	大阪府	大和川	大和川	河口部 中	補助	○	春季	0.21	0.021	0.23	0.37	-	-	-	0.27						
								夏季	0.84	0.048	0.89	-	-	-	-	-						
								秋季	0.24	0.022	0.26	-	0.25	0.014	0.27	-						
								冬季	0.097	0.011	0.11	-	-	-	-	-						
609	近畿	三重県	淀川	木津川	岩倉橋	補助		秋季	0.18	0.0047	0.19	0.19	0.24	0.014	0.26	0.26						
610	近畿	京都府	淀川	木津川	加茂森仁大橋	補助		秋季	0.13	0.0050	0.13	0.13	0.22	0.014	0.24	0.24						
611	近畿	京都府	淀川	木津川	玉糸橋	補助		秋季	0.10	0.0050	0.11	0.11	0.23	0.014	0.24	0.24						
612	近畿	京都府	淀川	木津川	木津川御幸橋	補助		秋季	0.12	0.0051	0.12	0.12	0.25	0.014	0.26	0.26						
613	近畿	大阪府	淀川	淀川	枚方大橋中央	基準		秋季	0.074	0.0097	0.083	0.083	0.21	0.015	0.23	0.23						
614	近畿	大阪府	淀川	淀川	菅原城北大橋	基準		秋季	0.083	0.0098	0.092	0.092	0.26	0.037	0.30	0.30						
615	近畿	大阪府・兵庫県	淀川	猪名川	利倉	基準		秋季	0.066	0.014	0.080	0.080	0.21	0.037	0.25	0.25						
616	近畿	兵庫県	淀川	瀬川	中園橋	基準		秋季	0.088	0.018	0.11	0.11	0.70	0.21	0.90	0.90						
617	近畿	兵庫県	加古川	加古川	池尻(加古川橋)	基準		秋季	0.077	0.0048	0.082	0.082	0.26	0.013	0.27	0.27						
618	近畿	兵庫県	揖保川	揖保川	上川原(王子橋)	基準		秋季	0.079	0.0048	0.084	0.084	0.21	0.036	0.25	0.25						
619	近畿	兵庫県	揖保川	揖保川	本町橋	補助		秋季	-	-	-	-	0.22	0.060	0.28	0.28						
620	近畿	兵庫県	丹山川	丹山川	立野	基準		秋季	0.065	0.0046	0.070	0.070	0.20	0.013	0.21	0.21						
621	近畿	京都府	由良川	由良川	音無橋	補助		秋季	0.070	0.0047	0.075	0.075	0.22	0.014	0.24	0.24						
622	近畿	京都府	由良川	由良川	波美橋	基準		秋季	0.067	0.0047	0.072	0.072	0.20	0.014	0.22	0.22						
623	近畿	福井県	九頭竜川	九頭竜川	中角	基準		秋季	0.064	0.0046	0.069	0.069	0.20	0.014	0.21	0.21						
624	近畿	福井県	九頭竜川	九頭竜川	九頭竜ダム湖	補助		秋季	0.062	0.0047	0.067	0.067	4.1	0.36	4.5	4.5						
625	近畿	福井県	九頭竜川	九頭竜川	九頭竜川河口	補助		秋季	-	-	-	-	2.2	0.14	2.3	2.3						
626	近畿	福井県	九頭竜川	真名川	真名川ダム湖	補助		秋季	0.062	0.0046	0.067	0.067	1.7	0.15	1.9	1.9						
627	近畿	福井県	北川	北川	高塚	基準		秋季	0.075	0.0047	0.080	0.080	0.23	0.038	0.27	0.27						
628	近畿	福井県	北川	北川	西津橋	補助		秋季	-	-	-	-	1.6	0.058	1.7	1.7						

※1 過去に要監視濃度を超えてから、8回連続して要監視濃度以下とならなかった地点。

※2 網掛けは環境基準を超過、斜体は要監視濃度を超過、-は未測定

※3 四捨五入により、(PCDDs+PCDFs)とCo-PCBの和が、評価値と一致しないことがある。

表-39(9) 平成27年度ダイオキシン類に関する実態調査結果（中国）

都道府県名	水系名	河川名	調査地点名	地点		調査時期	ダイオキシン類（水質） <sup>※2</sup>				ダイオキシン類（底質） <sup>※2</sup>				
				基準 or 補助	重点監視地点 <sup>※1</sup>		PCDD+PCDF	Co-PCB	TOTAL <sup>※3</sup>	評価値 (平均値)	PCDD+PCDF	Co-PCB	TOTAL <sup>※3</sup>	評価値 (最高値)	
					水質										底質
鳥取県	千代川	千代川	行徳	基準			秋期	0.065	0.0046	0.069	0.069	0.23	0.013	0.24	0.24
鳥取県	天神川	天神川	小田	基準			秋期	0.068	0.0046	0.073	0.073	0.21	0.013	0.22	0.22
鳥取県	日野川	日野川	車尾	基準			秋期	0.069	0.0047	0.074	0.074	0.26	0.013	0.27	0.27
島根県	斐伊川	斐伊川	大津	基準			秋期	0.069	0.0046	0.074	0.074	0.20	0.013	0.21	0.21
島根県	斐伊川	斐伊川	尾原ダム	補助			秋期	0.065	0.0046	0.070	0.07	2.8	0.15	3.0	3
島根県	斐伊川	穴道湖	NO.3	基準			秋期	0.070	0.0046	0.074	0.074	24	0.99	25	25
島根県	斐伊川	穴道湖	斐伊川河口	基準			秋期	0.084	0.0046	0.089	0.089	2.4	0.055	2.5	2.5
島根県	斐伊川	穴道湖	松江温泉沖	基準			秋期	0.072	0.0047	0.076	0.076	0.26	0.013	0.28	0.28
島根県	斐伊川	穴道湖	秋鹿沖	基準			秋期	0.074	0.0046	0.078	0.078	0.70	0.025	0.72	0.72
島根県	斐伊川	穴道湖	玉湯町泉源沖	基準			秋期	0.082	0.0046	0.086	0.086	1.5	0.035	1.6	1.6
島根県	斐伊川	中海	中海湖心	基準			秋期	0.066	0.0046	0.071	0.071	26	0.82	27	27
島根県	斐伊川	神戸川	馬木	補助			秋期	0.064	0.0046	0.068	0.068	0.24	0.013	0.26	0.26
島根県	斐伊川	神戸川	志津見ダム	補助			秋期	0.064	0.0046	0.068	0.068	4.6	0.2	4.8	4.8
島根県	江の川	江の川	桜江大橋	基準			秋期	0.070	0.0046	0.075	0.075	0.21	0.013	0.22	0.22
島根県	高津川	高津川	金地橋	基準			秋期	0.063	0.0046	0.067	0.067	0.26	0.014	0.27	0.27
岡山県	吉井川	吉井川	熊山橋	基準			秋期	0.071	0.0046	0.075	0.075	0.42	0.013	0.43	0.43
岡山県	旭川	旭川	乙井手堰	基準			秋期	0.072	0.0046	0.076	0.076	0.54	1.4	1.9	1.9
岡山県	高梁川	高梁川	霞橋	基準			秋期	0.083	0.0046	0.088	0.088	1.7	0.086	1.8	1.8
広島県	江の川	江の川	土師ダム	補助			秋期	0.070	0.0046	0.074	0.074	14	0.41	15	15.0
広島県	芦田川	芦田川	小水呑橋	基準	○		春期	0.33	0.018	0.35	0.183	0.63	0.034	0.67	1.4
							夏期	0.089	0.0047	0.093		1.3	0.056	1.3	
							秋期	0.096	0.0048	0.10		3.2	0.16	3.3	
							冬期	0.18	0.0095	0.19		0.34	0.014	0.36	
広島県	芦田川	芦田川	八田原ダム	補助			秋期	0.070	0.0046	0.075	0.075	15	0.31	15	15
広島県	江の川	上下川	灰塚ダム	補助			秋期	0.072	0.0046	0.076	0.076	13	0.27	13	13
広島県	太田川	太田川	壬辰橋	基準			秋期	0.065	0.0046	0.070	0.07	0.20	0.013	0.22	0.22
広島県	太田川	太田川	矢口川上流	補助			秋期	0.066	0.0046	0.070	0.07	0.21	0.013	0.23	0.23
広島県・山口県	小瀬川	小瀬川	両国橋	基準			秋期	0.071	0.0046	0.076	0.076	0.21	0.013	0.23	0.23
広島県・山口県	小瀬川	小瀬川	中市堰	補助			秋期	0.072	0.0046	0.077	0.077	0.48	0.075	0.55	0.55
広島県	太田川	滝山川	温井ダム	補助			秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	4.5	0.27	4.8	4.8
広島県	小瀬川	小瀬川	弥栄ダム	補助			秋期	0.063	0.0046	0.067	0.067	6.3	0.59	6.9	6.9
山口県	佐波川	佐波川	新橋	基準			秋期	0.068	0.0046	0.072	0.072	0.41	0.013	0.43	0.43
山口県	佐波川	島地川	島地川ダム	補助			秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	2.0	0.14	2.2	2.2

- ※1 過去に要監視濃度を超えてから、8回連続して要監視濃度以下とならなかった地点。  
 ※2 網掛けは環境基準を超過、斜体は要監視濃度を超過、-は未測定  
 ※3 四捨五入により、(PCDDs+PCDFs)とCo-PCBの和が、評価値と一致しないことがある。

表-39(10) 平成27年度ダイオキシン類に関する実態調査結果 (四国)

No.	整備局名	都道府県名	水系名	河川名	調査地点名	地点		調査時期	ダイオキシン類 (水質) ※2				ダイオキシン類 (底質) ※2			
						基準 or 補助	重点監視地点※ 1		PCDD+PCDF	Co-PCB	TOTAL ※3	評価値 (平均値)	PCDD+PCDF	Co-PCB	TOTAL ※3	評価値 (最高値)
801	四国	愛媛県	重信川	重信川	拝志大橋	補助		秋期	0.070	0.0046	0.074	0.074	0.20	0.013	0.22	0.22
802	四国	愛媛県	重信川	重信川	重信橋	補助		秋期	0.062	0.0047	0.067	0.067	0.21	0.014	0.22	0.22
803	四国	愛媛県	重信川	重信川	中川原橋	補助		秋期	0.064	0.0047	0.069	0.069	0.21	0.014	0.22	0.22
804	四国	愛媛県	重信川	重信川	出合橋	基準		秋期	0.068	0.0048	0.073	0.073	0.21	0.014	0.23	0.23
805	四国	愛媛県	重信川	石手川	石手川ダム	補助		秋期	0.064	0.0048	0.069	0.069	2.4	0.32	2.8	2.8
806	四国	徳島県	吉野川	吉野川	高瀬橋	基準		秋期	0.065	0.0046	0.070	0.070	0.22	0.013	0.23	0.23
807	四国	徳島県	那賀川	那賀川	那賀川橋	基準		秋期	0.063	0.0047	0.068	0.068	0.20	0.013	0.21	0.21
808	四国	高知県	物部川	物部川	深淵	基準		秋期	0.065	0.0046	0.070	0.070	0.23	0.014	0.24	0.24
809	四国	高知県	仁淀川	仁淀川	中島	基準		秋期	0.065	0.0046	0.069	0.069	0.21	0.013	0.23	0.23
810	四国	高知県	渡川	四方十川	具同	基準		秋期	0.070	0.0047	0.075	0.075	0.22	0.013	0.24	0.24
811	四国	愛媛県	肱川	肱川	肱川橋下流	基準		秋期	0.098	0.0047	0.10	0.10	0.22	0.013	0.23	0.23
812	四国	香川県	土器川	土器川	丸亀橋	基準		秋期	0.16	0.0048	0.17	0.17	0.38	0.034	0.41	0.41

- ※1 過去に要監視濃度を超えてから、8回連続して要監視濃度以下とならなかった地点。  
 ※2 網掛けは環境基準を超過、斜体は要監視濃度を超過、-は未測定  
 ※3 四捨五入により、(PCDDs+PCDFs)とCo-PCBの和が、評価値と一致しないことがある。

表-39(11) 平成27年度ダイオキシン類に関する実態調査結果（九州）

No.	整備局名	都道府県名	水系名	河川名	調査地点名	地点		調査時期	ダイオキシン類（水質） <sup>※2</sup>				ダイオキシン類（底質） <sup>※2</sup>				
						基準 or 補助	重点監視地点 <sup>※1</sup>		PCDD+PCDF	Co-PCB	TOTAL <sup>※3</sup>	評価値 (平均値)	PCDD+PCDF	Co-PCB	TOTAL <sup>※3</sup>	評価値 (最高値)	
							水質										底質
901	九州	福岡県・佐賀県	筑後川	筑後川	瀬ノ下	基準		秋期	0.10	0.0047	0.11	0.11	2.6	0.091	2.7	2.7	
902	九州	大分県・熊本県	筑後川	津江川	下釜ダム	補助		秋期	0.064	0.0046	0.068	0.068	3.1	0.18	3.3	3.3	
903	九州	福岡県	遠賀川	遠賀川	日の出橋	基準		秋期	0.081	0.0048	0.085	0.085	0.22	0.013	0.23	0.23	
904	九州	福岡県	遠賀川	遠賀川	芦屋	補助		秋期	0.13	0.0049	0.13	0.13	14	0.53	14	14	
905	九州	福岡県	遠賀川	遠賀川	伊佐座	補助		秋期	0.12	0.0048	0.13	0.13	8.9	0.46	9.4	9.4	
906	九州	福岡県・大分県	山国川	山国川	下唐原	基準		秋期	0.069	0.0047	0.073	0.073	0.62	0.11	0.72	0.72	
907	九州	大分県	大分川	大分川	府内大橋	基準		秋期	0.077	0.0047	0.082	0.082	0.23	0.013	0.24	0.24	
908	九州	大分県	大野川	大野川	白滝橋	基準		秋期	0.068	0.0046	0.072	0.072	0.20	0.013	0.22	0.22	
909	九州	大分県	大野川	乙津川	海原橋	補助		秋期	0.089	0.0049	0.093	0.093	5.9	0.42	6.3	6.3	
910	九州	大分県	番匠川	番匠川	番匠橋	基準		秋期	0.063	0.0046	0.068	0.068	0.21	0.013	0.22	0.22	
911	九州	宮崎県	五ヶ瀬川	五ヶ瀬川	三輪	基準		秋期	0.063	0.0046	0.067	0.067	0.20	0.013	0.21	0.21	
912	九州	宮崎県	小丸川	小丸川	高城橋	基準		秋期	0.062	0.0046	0.067	0.067	0.20	0.013	0.21	0.21	
913	九州	宮崎県	小丸川	小丸川	高鍋大橋	補助		秋期	0.063	0.0046	0.068	0.068	0.20	0.013	0.21	0.21	
914	九州	宮崎県	大淀川	大淀川	相生橋	基準		秋期	0.069	0.0046	0.074	0.074	0.20	0.013	0.22	0.22	
915	九州	宮崎県	大淀川	大淀川	樋渡橋	補助		秋期	0.067	0.0047	0.071	0.071	0.20	0.013	0.22	0.22	
916	九州	鹿児島県	肝属川	肝属川	河原田橋	基準		秋期	0.064	0.0048	0.069	0.069	0.22	0.014	0.23	0.23	
917	九州	鹿児島県	肝属川	肝属川	第二有明橋	補助		秋期	0.070	0.0048	0.075	0.075	0.21	0.013	0.22	0.22	
918	九州	鹿児島県	川内川	川内川	曾木大橋	基準		秋期	0.078	0.0046	0.083	0.083	0.85	0.014	0.87	0.87	
919	九州	熊本県	球磨川	球磨川	横石	基準		秋期	0.064	0.0047	0.068	0.068	0.21	0.013	0.22	0.22	
920	九州	熊本県	緑川	緑川	上杉堰	基準		秋期	0.075	0.0047	0.080	0.080	0.23	0.013	0.24	0.24	
921	九州	熊本県	白川	白川	小島橋	基準		秋期	0.095	0.0048	0.10	0.10	0.31	0.014	0.32	0.32	
922	九州	熊本県	菊池川	菊池川	白石	基準		秋期	0.073	0.0046	0.078	0.078	0.27	0.014	0.29	0.29	
923	九州	福岡県	矢部川	矢部川	船小屋	基準		秋期	0.073	0.0047	0.078	0.078	0.41	0.016	0.43	0.43	
924	九州	佐賀県	嘉瀬川	嘉瀬川	官人橋	基準		秋期	0.085	0.0047	0.090	0.090	0.21	0.013	0.23	0.23	
925	九州	佐賀県	六角川	六角川	潮見橋	基準		秋期	0.13	0.0047	0.14	0.14	0.81	0.014	0.83	0.83	
926	九州	佐賀県	松浦川	松浦川	久里橋	基準		秋期	0.17	0.0047	0.17	0.17	6.7	0.20	6.9	6.9	
927	九州	長崎県	本明川	本明川	旭町	基準		秋期	0.078	0.0046	0.083	0.083	0.76	0.014	0.77	0.77	

- ※1 過去に要監視濃度を超えてから、8回連続して要監視濃度以下とならなかった地点。
- ※2 網掛けは環境基準を超過、斜体は要監視濃度を超過、-は未測定
- ※3 四捨五入により、(PCDDs+PCDFs)とCo-PCBの和が、評価値と一致しないことがある。

表-40 平成27年度ダイオキシン類に関する実態調査結果（地点数一覧）

基準監視 地点	調査地点数（一般）	123	125
	調査地点数（重点）	8	3
	要監視濃度超過地点数（一般）	0	0
	要監視濃度超過地点数（重点）	5	0
	環境基準超過地点数（一般）	0	0
	環境基準超過地点数（重点）	1	0
補助監視 地点	調査地点数（一般）	83	97
	調査地点数（重点）	11	2
	要監視濃度超過地点数（一般）	0	0
	要監視濃度超過地点数（重点）	6	0
	環境基準超過地点数（一般）	0	0
	環境基準超過地点数（重点）	4	0

表-41 平成27年度内分泌かく乱化学物質に関する実態調査結果

水系名	河川名	調査地点名	重点調査地点 (平成27年度調査)	平成28年 度調査 (予定)	重点調査対象物質※1	測定値※2※3				
						採水日	SS mg/ℓ	ヒ <sup>+</sup> スフェノールA μg/ℓ	17β-エストラジ <sup>+</sup> オール (LC/MS/MS法) μg/ℓ	エストロン (LC/MS/MS法) μg/ℓ
北海道						重点調査濃度→	24.7	0.0015	0.0016	0.0145
尻別川	尻別川	名駒				10月8日	2			0.0000138
鶴川	鶴川	鶴川橋				11月25日	9			0.0000018
沙流川	沙流川	沙流川橋				11月13日	5			0.0000012
東北										
岩木川	岩木川	乾橋				11月11日	16		0.00034	0.00017
	岩木川	三好橋				11月11日	11		0.0009	0.00014
関東										
利根川	綾瀬川	内匠橋	○	○	エストロン	10月16日	36		0.0039	
多摩川	多摩川	多摩川原橋	○	○	エストロン	10月15日	<1		0.0042	
多摩川	多摩川	田園調布堰	○	○	エストロン	10月1日	1		0.0020	
鶴見川	鶴見川	亀の子橋	○	○	エストロン	10月15日	3		0.0043	
相模川	相模川	馬入橋	○		エストロン※	10月1日	2		ND	
北陸										
小矢部川	小矢部川	城光寺橋	○	○	エストロン	10月8日	1		0.00056	
中部										
菊川	菊川	高田橋	○		エストロン※	10月23日	3		0.0011	
庄内川	庄内川	枇杷島橋	○	○	エストロン	10月27日	4		0.0057	
近畿										
由良川	由良川	波美橋				11月6日	1.4	ND	ND	0.00040
九頭竜川	九頭竜川	中角				11月6日	<0.1	0.0140	ND	0.00030
北川	北川	高塚				11月6日	1.2	ND	ND	0.00020
九州										
大分川	大分川	府内大橋①				10月13日	4	0.0050	ND	ND
		府内大橋②(二重測定)						0.0070	ND	ND
大野川	大野川	白滝橋				10月13日	2	ND	ND	0.00021
白川	白川	小島橋				10月14日	12	ND	ND	0.00030
緑川	緑川	上杉堰				10月14日	3	ND	ND	0.00070000

※1 \*は過去3回連続して重点調査濃度以下となったため、平成28年度より一般調査に戻す物質。

※2 網掛けは重点調査濃度を超過。

※3 空欄は未測定、NDは不検出(検出下限未満)を示す。

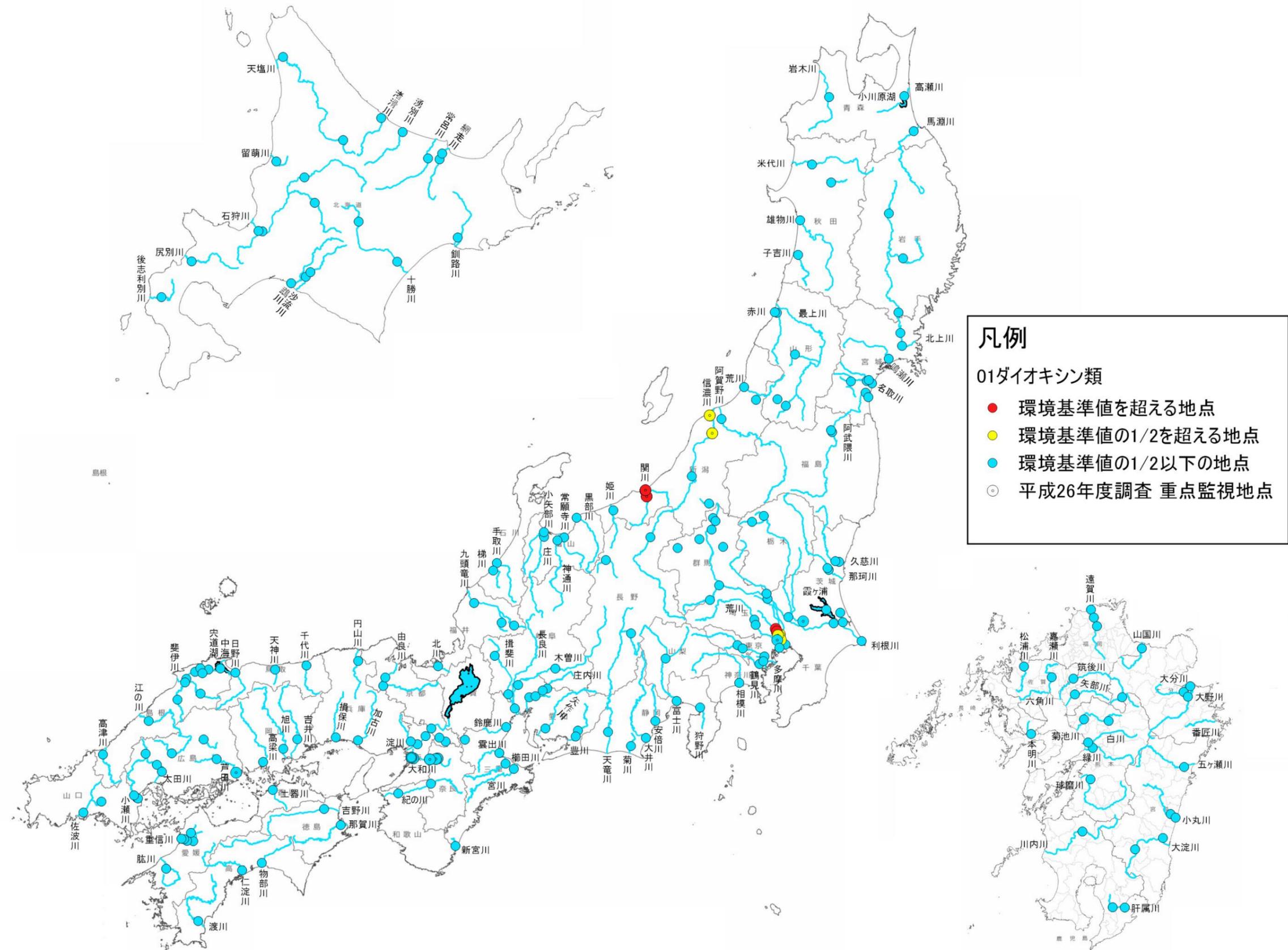


図-48 平成27年度ダイオキシン類調査に関する実態調査地点の全国分布図（水質）

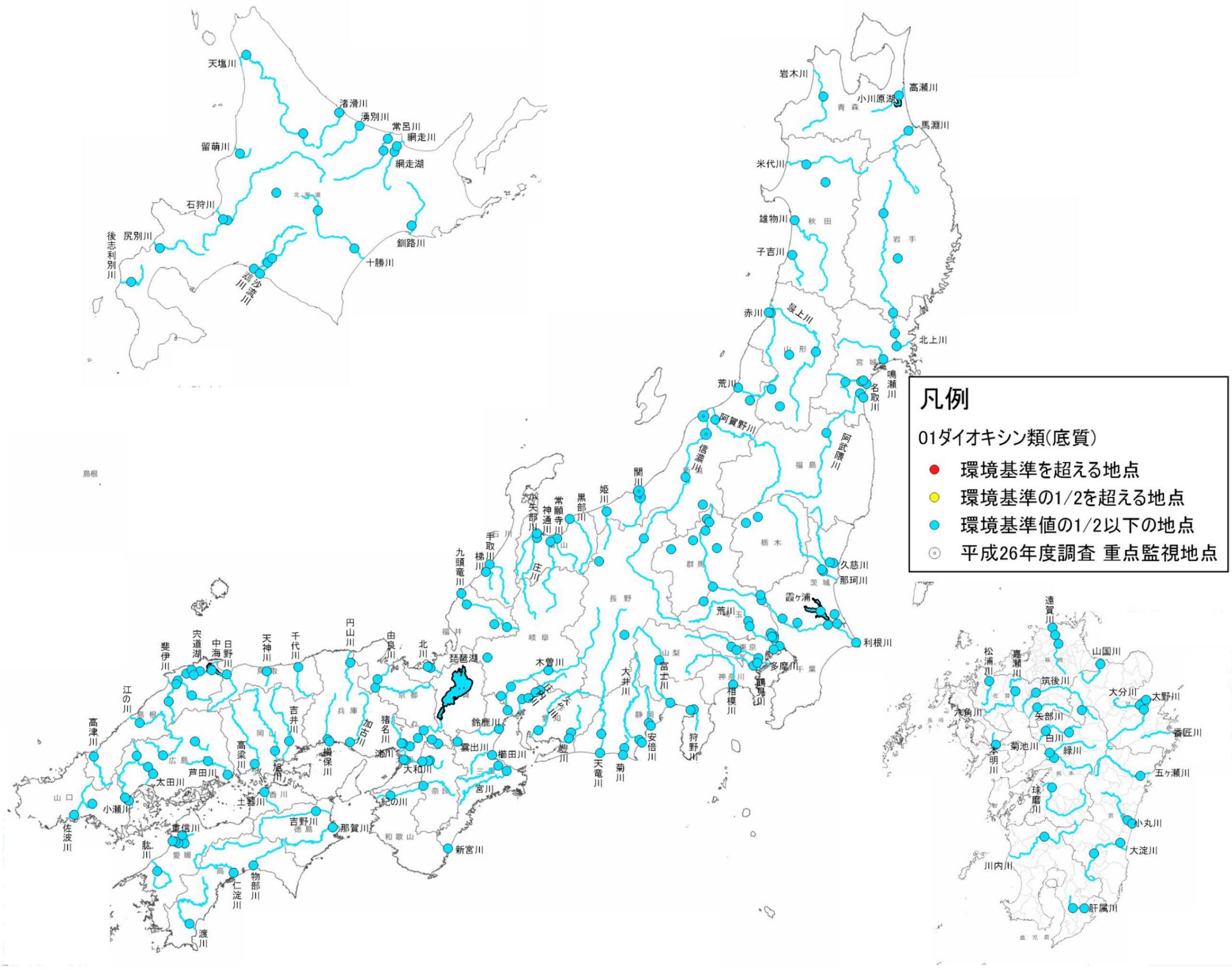


図-49 平成27年度ダイオキシン類調査に関する実態調査地点の全国分布図（底質）

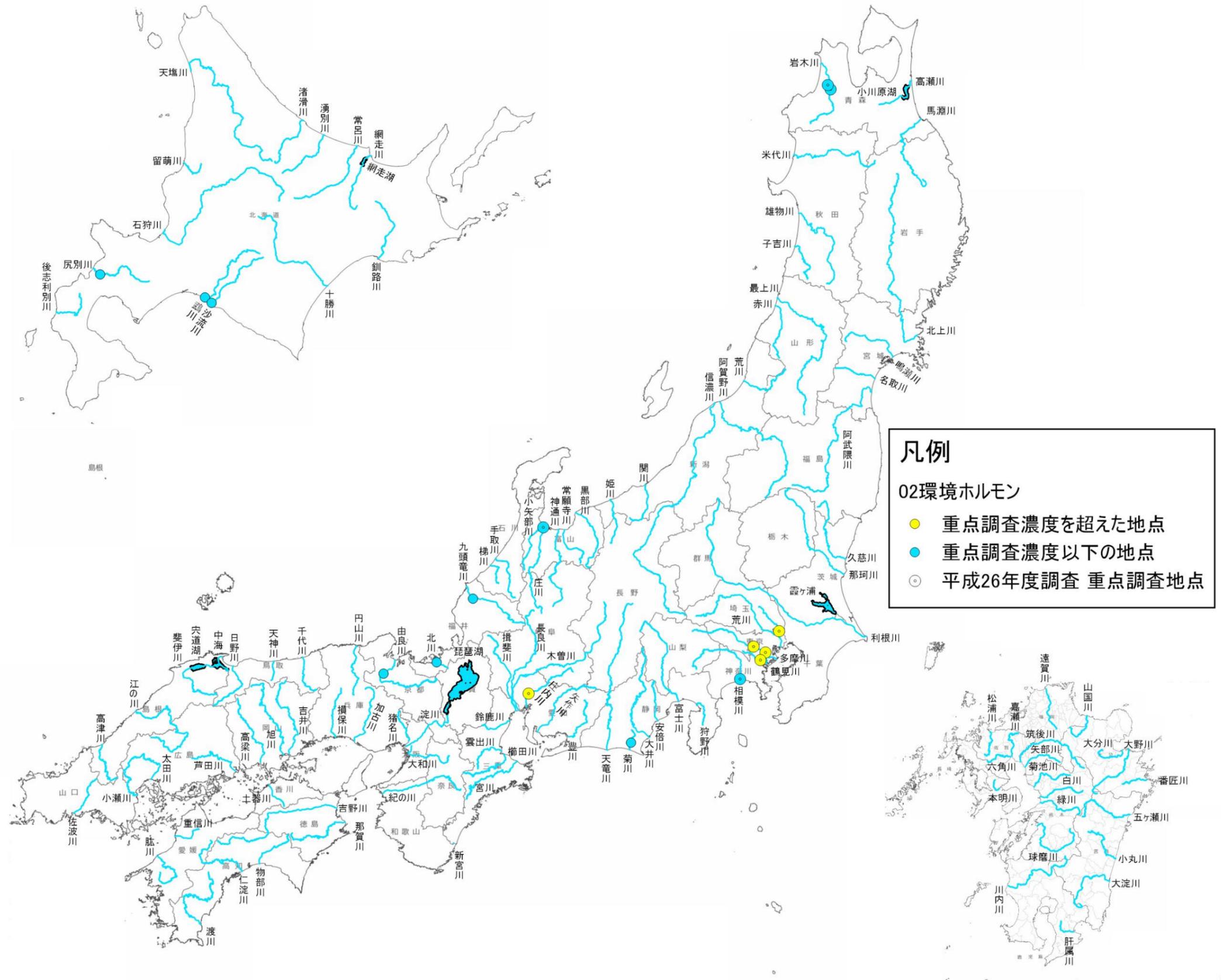


図-50 平成27年度内分泌かく乱化学物質に関する実態調査地点の全国分布図（水質）

## 6. 水質事故等の状況

### (1) 水質事故の発生状況

河川における水質事故は、一般に工場等における操作ミスや機械の故障、交通事故、廃棄物の不法投棄等に起因する油類や化学物質の流出等により生じるものであり、河川管理上重要な課題となっている。

過去10ヵ年の水質事故発生件数の経年変化を図-51に示す。平成27年（1月～12月）に一級水系で発生した水質事故は1,120件であり、平成26年より約100件減少した。平成27年は1週間に約21件の頻度で水質事故が発生したことになる。

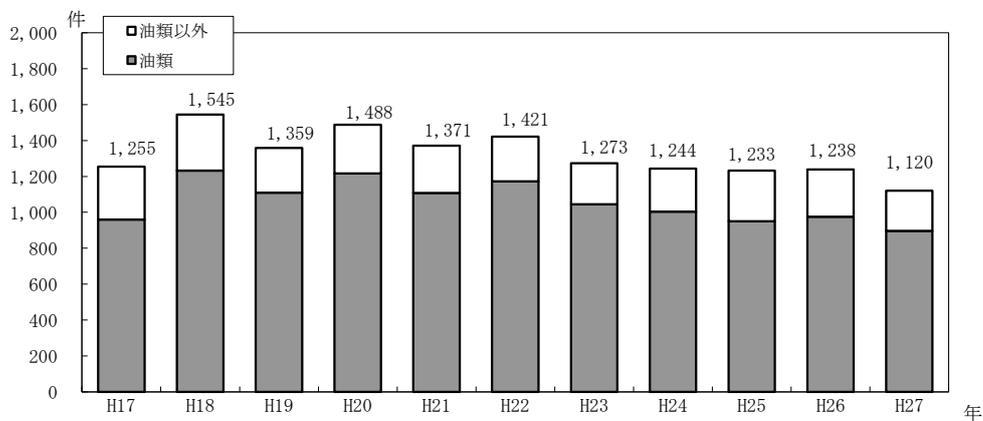


図-51 一級河川における水質事故発生件数の経年変化

また、上水道の取水停止を伴った水質事故は13件発生した。上水道の取水停止を伴う事故発生件数の推移を図-52に示す。

上水道の取水停止を伴わない水質事故及び上水道の取水停止を伴った水質事故の発生件数は、平成18年時のピークを境に、近年やや減少傾向である。

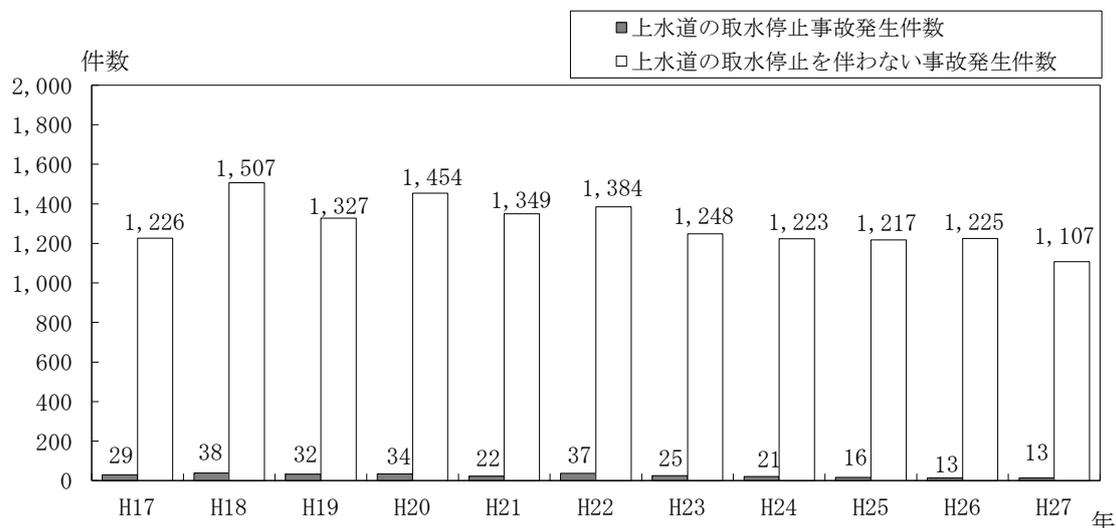


図-52 水質事故発生件数と上水道の取水停止事故発生件数の推移

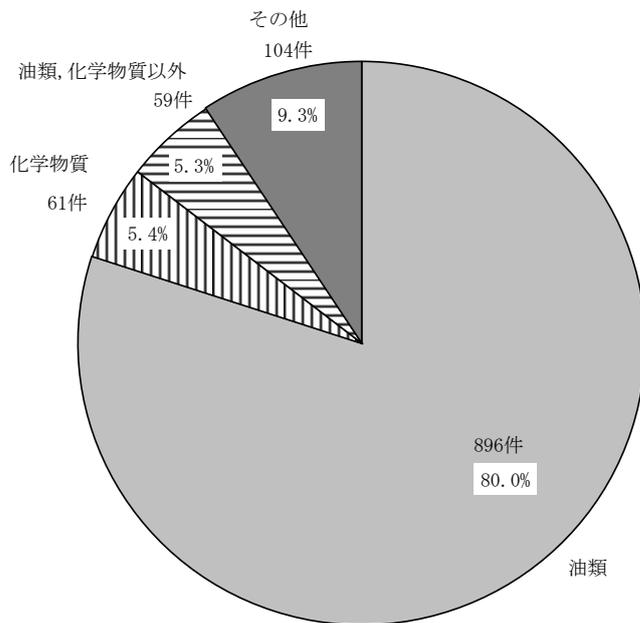
事故の内容を原因物質別にみると、図-53に示すように油類の流出が全体の約80.0%と最も多い。

なお、自然現象による魚の斃死等は、水質事故発生件数に含めていないが、平成27年には30件発生しており、平成26年の29件とほぼ同程度であった。

### 水質事故の原因物質による分類

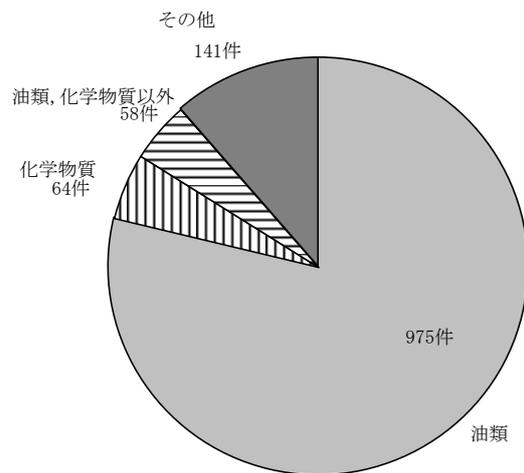
- ①油類…………… 重油、軽油、ガソリン等の流出
- ②化学物質…………… シアン、有機溶剤、農薬等の流出
- ③油類、化学物質以外…… 土砂、糞尿等の流出
- ④その他…………… 自然現象ではなく、魚の浮上死等が確認され、原因物質が特定できなかったもの及びコイヘルペス

平成27年度



合計 1,120 件（自然現象 30 件を除く）

平成26年度



合計 1,238 件（自然現象 29 件を除く）

図-53 原因物質別水質事故発生件数

※自然現象とは濁水が原因の酸欠による魚の斃死等、人間の活動が直接の原因でないものとする。

## (2) コイヘルペスの発生状況

コイヘルペスは平成15年以降、60水系で発生が確認されている。平成27年に河川においてコイヘルペスが確認された地点はなかった。

## (3) 水質汚濁対策連絡協議会

水質事故対策に関しては、それぞれの河川で関係機関が相互に情報の交換を行うとともに、緊急事態が発生した場合に即応できるように、連絡体制を確立しておくことが極めて重要である。

全国の一級河川109水系においては、河川管理者と関係行政機関により構成される「水質汚濁対策連絡協議会」を設立し、水質事故対策訓練の実施、水質事故時における情報の収集・伝達、緊急措置等に関する協力体制の確保等を行っている。

また、下水道施設被災による河川への下水流出時の情報共有といった下水道部局との連携強化や、環境部局等との連携強化を図っている。

### 第三章 河川の水環境改善のための事業及び施策

国土交通省は、一級河川の水質調査に着手した昭和33年に、最初の河川水質浄化対策となる隅田川の汚泥浚渫事業を実施し、また昭和34年には同じく隅田川で浄化用水導入事業に着手した。昭和44年度には、都市河川を対象とする「都市河川環境整備事業」制度を創設し、昭和49年度からは対象河川を全国に拡大した「河川環境整備事業」により、河川の水環境改善を図ってきた。

ダムについては、貯水池への土砂流入防止や富栄養化対策を実施するダム貯水池水質保全対策等を実施している。

平成17年度からは、上流ダムにおける環境整備と河川における環境整備を連携することにより水系として総合的に整備を行う「総合水系環境整備事業」を創設し、水環境改善等を各水系において水系一貫で実施している。

#### 1. 水質浄化対策等

「総合水系環境整備事業」（直轄）による水質浄化対策として、水量が少なく汚濁した河川に対して清浄な河川水や下水の高度処理水を導入する「浄化導入」、悪臭や栄養塩類の溶出により富栄養化の原因になる河床・湖底に堆積した底泥を除去する「浚渫」、流水から直接汚濁負荷を取り除く施設を設置する「直接浄化」を実施している。

また、水質汚濁の著しいダム貯水池においても、富栄養化や濁水等の防止・軽減を図るため、曝気施設の設置等による水質対策を実施している。

#### 2. 河川水量の回復

良好な河川環境を保全するには、豊かな河川水量の確保が必要である。このため、河川整備基本方針等において動植物の生息・生育環境、景観、水質等を踏まえた必要流量を定め、この確保に努めているほか、水力発電所のダム等の下流の減水区間における清流回復の取組みを進めている。また、ダム下流の河川環境を保全・改善するため、洪水調節に支障を及ぼさない範囲で洪水調節容量の一部を有効に活用するダムの弾力的管理及び弾力的管理試験を行っている（平成26年度は、全国の計20ダムで実施）。さらに、平常時の自然流量が減少した都市内河川では、下水処理場の処理水の送水等により、河川流量の回復に取り組んでいる。

### 3. 清流ルネッサンス21・清流ルネッサンスⅡ

国土交通省では、水質汚濁の著しい河川、湖沼、ダム貯水池等の水質改善を図るため、平成5年度に「水環境改善緊急行動計画（清流ルネッサンス21）」に着手し、地域の取り組みと一体となって、河川事業や下水道事業を重点的に実施してきた。平成13年度以降は、新たに水量の改善を目的に加え、都市下水路を対象に追加した「第二期水環境改善緊急行動計画（清流ルネッサンスⅡ）」に基づき、水環境改善施策を推進している。

清流ルネッサンスⅡでは、清流ルネッサンス21の対象であり、引き続き水環境改善に取り組むべき河川等及び新たに水環境改善に取り組む必要が生じた河川等を計画対象として選定している。

計画対象河川等においては、地元市町村、河川管理者、下水道管理者等から構成される地域協議会を設置し、行動計画の策定及び計画に基づく施策の推進に努めている。行動計画の策定状況を表-42に示す。

また、全国の一級河川及び清流ルネッサンス対象河川の環境基準の満足率を図-56に示す。全国の一級河川の満足率の増加ペースに比べて、最近10カ年の清流ルネッサンス対象河川の満足率の増加が顕著となっている。

表-42 清流ルネッサンスⅡ行動計画策定状況(平成27年3月末時点)

水系名	箇所名(※1)	清ルネ21 (※2)	計画策定	最終改訂	計画目標年度
石狩川	茨戸川及び札幌北部地区河川		H15.3	H27.3	H30
網走川	網走川		H16.6	H27.1	H29
常呂川	常呂川		H21.4		H30
名取川	広瀬川		H14.7		H23
那珂川	桜川(千波湖含)・沢渡川・堀川・逆川		H19.2	H28.3	H35
利根川	渡良瀬川中流部支川	○	H18.3		H22
利根川	綾瀬川	○	H15.2	H18.3	H22
利根川	江戸川中流部及び坂川	○	H15.2	H18.3	H22
利根川	黒部川貯水池	○	H15.3	H25.3	H33
利根川	小山川・元小山川	○	H16.3		H23
荒川	菖蒲川・笹目川		H15.3		H22
荒川	不老川	○	H16.3		H23
荒川	芝川・新芝川	○	H16.3		H23
相模川	千の川		H15.3		H27
阿賀野川	湯川放水路		H19.3		H22
信濃川	鳥屋野潟	○	H15.3	H25.3	H35
都田川	佐鳴湖	○	H16.6	H24.3	H26
高浜川	油ヶ淵	○	H16.11	H23.5	H32
庄内川	堀川		H16.8		H22
宮川	勢田川		H16.10		H17
淀川	寝屋川流域		H16.5	H25.3	H33
淀川	西高瀬川		H20.3		H29
大和川	大和川	○	H14.10		H22
揖保川	林田川	○	H15.3		H20
千代川	湖山池	○	H14.3		H22
斐伊川	松江堀川	○	H13.2		H17
芦田川	芦田川	○	H20.4	H24.3	H28
吉野川	正法寺川		H16.3	H22.2	H30
仁淀川	仁淀川・宇治川・相生川	○	H19.4		H22
遠賀川	遠賀川		H16.3	H26.3	H27
大淀川	大淀川上流		H16.7	H25.3	H27
肝属川	肝属川		H17.3	H23.9	H27

※1 まだ施策実施中の箇所については、欄に着色。

※2 清ルネ21の対象河川でもある場合、「○」を記載。

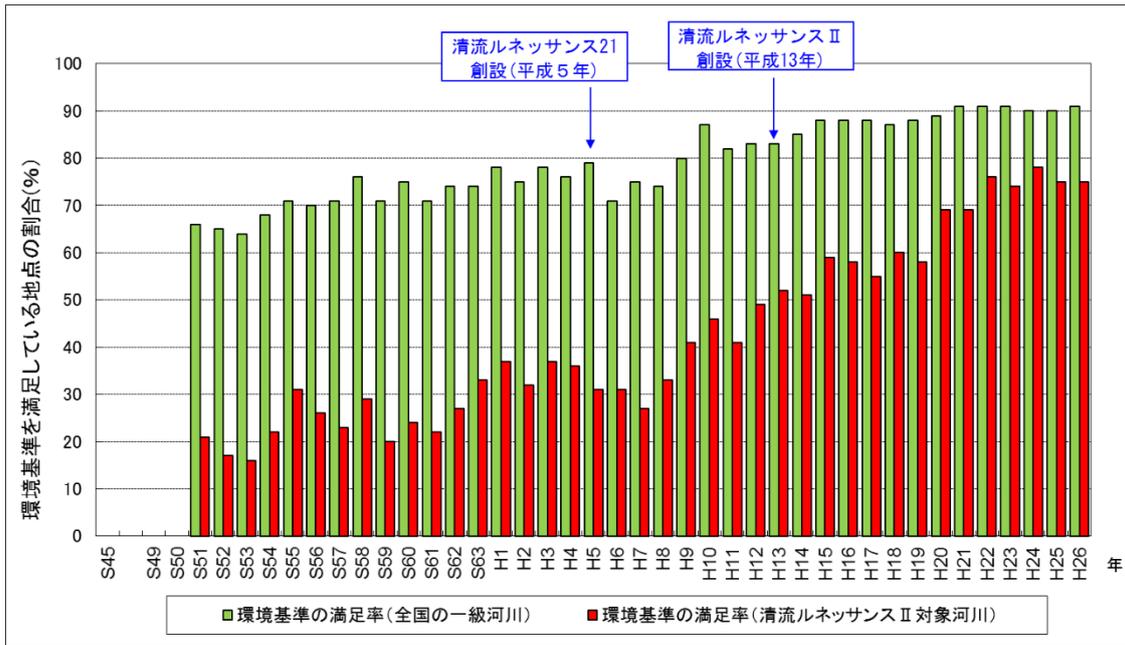


図-56 環境基準の満足率

#### 4. 湖沼の水質保全

湖沼は滞留時間が長く、流入した汚濁物質が堆積しやすいこと、汚濁原因が多種多様であることから、多様な水質汚濁対策を総合的に実施する必要があるため、湖沼の水質の保全を図り、国民の健康で文化的な生活環境を確保することを目的に、「湖沼水質保全特別措置法」（昭和59年法律第61号）が制定された。

また、平成17年6月には、法施行後20年以上が経過してもなお湖沼の水質改善が停滞していることを踏まえ、より一層の水質改善を図るため、湖沼水質保全特別措置法が改正された。この改正により、「流出水対策地区」の指定による農地・市街地から流出する汚濁負荷対策の推進、排水規制の強化、「湖辺環境保護地区」の指定による水質浄化機能の確保等が図られることとなった。

本法律に基づき、国は湖沼水質保全基本方針を定めるとともに、総合的な水質保全施策を講ずるべき「指定湖沼」を定め、都道府県は当該指定湖沼について「湖沼水質保全計画」を定めることとされている。

湖沼水質保全計画の策定状況を表-43に示す。

表-43 湖沼水質保全計画の策定状況一覧（平成28年3月現在）

湖沼名	指定年月 [施行]	計画名	計画策定年月	目標年度
八郎湖	平成19年12月	八郎湖に係る湖沼水質保全計画（第2期）	平成26年3月	平成30年度
釜房ダム貯水池	昭和62年10月	釜房ダム貯水池湖沼水質保全計画（第6期）	平成25年3月	平成33年度
霞ヶ浦	昭和60年12月	霞ヶ浦に係る湖沼水質保全計画（第6期）	平成24年3月	平成27年度
印旛沼	昭和60年12月	印旛沼に係る湖沼水質保全計画（第6期）	平成24年3月	平成27年度
手賀沼	昭和60年12月	手賀沼に係る湖沼水質保全計画（第6期）	平成24年3月	平成27年度
諏訪湖	昭和61年11月	諏訪湖に係る第6期湖沼水質保全計画	平成25年3月	平成28年度
野尻湖	平成6年10月	野尻湖水質保全計画（第5期）	平成27年3月	平成30年度
琵琶湖	昭和60年12月	琵琶湖に係る湖沼水質保全計画（第6期）	平成24年3月	平成27年度
中海	平成元年2月	中海に係る湖沼水質保全計画（第6期）	平成27年3月	平成30年度
宍道湖	平成元年2月	宍道湖に係る湖沼水質保全計画（第6期）	平成27年3月	平成30年度
児島湖	昭和60年12月	児島湖に係る第6期湖沼水質保全計画	平成24年3月	平成27年度

## 参 考 資 料

参考資料 1	一級河川の流量状況	-----	135
参考資料 2	環境基準(BOD又はCOD)を満足した地点の割合(水系別)	---	136
参考資料 3	各種基準値(指針値)一覧	-----	141
参考資料 4	「水生生物による簡易水質調査」参加団体一覧	-----	156
参考資料 5	一級河川的全調査地点の水質	-----	160
参考資料 6	水系別コイヘルペス発生状況	-----	170
参考資料 7	平成27年一級河川の水質状況図	-----	173
参考資料 8	新しい水質指標による年間の総合評価	-----	182

参考資料1 一級河川の流量状況

	平成27年 (A)	平成26年 (B)	最近10ヵ年 平均 (C)	平成27年の傾向	
				(A)/(B) × 100%	(A)/(C) × 100%
基準地点における 年間総流出量の合計 (億m <sup>3</sup> )	2,658	2,581	2,537	103	105
北海道	410.68	396.73	408.10	104	101
東北	486.75	557.64	516.27	87	94
関東	171.96	188.96	170.50	91	101
北陸	476.16	482.39	484.21	99	98
中部	290.24	151.34	236.03	192	123
近畿	170.99	132.29	130.01	129	132
中国	183.36	184.82	183.54	99	100
四国	159.80	220.37	155.57	73	103
九州	308.02	266.31	253.22	116	122
基準地点における 低水流量の合計 (m <sup>3</sup> /s)	4,215	4,142	3,880	102	109

- 備考 1. 国土交通省で実施している流量観測結果に基づく。
2. 低水流量：一年を通じて275日はこれを下らない流量。
3. 平成27年の年間総流出量及び低水流量の合計値は速報値である。
4. 最近10ヶ年平均値は平成17年から平成26年の平均値である。
5. 参考資料で地方別の値のとりまとめは、開発局及び各地方整備局の管内を  
集計単位とした。

参考資料2 環境基準（BOD又はCOD）を満足した地点の割合（水系別）（1/5）

地局	水系	年次	調査地点	満足地点	満足度 %	満 足 度				
						20	40	60	80	%
北海道	天塩川	平成26年	8	8	100	[100% bar]				
		平成27年	8	8	100	[100% bar]				
	留萌川	平成26年	3	3	100	[100% bar]				
		平成27年	3	2	67	[67% bar]				
	石狩川	平成26年	35	32	91	[91% bar]				
		平成27年	35	32	91	[91% bar]				
	尻別川	平成26年	2	2	100	[100% bar]				
		平成27年	2	2	100	[100% bar]				
	後志利別川	平成26年	4	4	100	[100% bar]				
		平成27年	4	4	100	[100% bar]				
	鷲川	平成26年	2	2	100	[100% bar]				
		平成27年	2	2	100	[100% bar]				
	沙流川	平成26年	4	4	100	[100% bar]				
		平成27年	4	4	100	[100% bar]				
	十勝川	平成26年	12	12	100	[100% bar]				
		平成27年	12	12	100	[100% bar]				
	釧路川	平成26年	4	4	100	[100% bar]				
		平成27年	4	4	100	[100% bar]				
網走川	平成26年	8	4	50	[50% bar]					
	平成27年	8	4	50	[50% bar]					
常呂川	平成26年	5	5	100	[100% bar]					
	平成27年	5	5	100	[100% bar]					
湧別川	平成26年	2	2	100	[100% bar]					
	平成27年	2	2	100	[100% bar]					
渚滑川	平成26年	3	3	100	[100% bar]					
	平成27年	3	3	100	[100% bar]					
東北	阿武隈川	平成26年	14	14	100	[100% bar]				
		平成27年	14	14	100	[100% bar]				
	名取川	平成26年	8	7	88	[88% bar]				
		平成27年	8	7	88	[88% bar]				
	鳴瀬川	平成26年	7	7	100	[100% bar]				
		平成27年	7	7	100	[100% bar]				
	北上川	平成26年	42	41	98	[98% bar]				
		平成27年	42	40	95	[95% bar]				
	馬淵川	平成26年	3	3	100	[100% bar]				
		平成27年	3	3	100	[100% bar]				
	高瀬川	平成26年	7	1	14	[14% bar]				
		平成27年	7	1	14	[14% bar]				
	岩木川	平成26年	16	15	94	[94% bar]				
		平成27年	16	14	88	[88% bar]				
	米代川	平成26年	5	5	100	[100% bar]				
		平成27年	5	5	100	[100% bar]				
	雄物川	平成26年	11	11	100	[100% bar]				
		平成27年	11	11	100	[100% bar]				
子吉川	平成26年	2	2	100	[100% bar]					
	平成27年	2	2	100	[100% bar]					
最上川	平成26年	19	19	100	[100% bar]					
	平成27年	19	19	100	[100% bar]					
赤川	平成26年	4	4	100	[100% bar]					
	平成27年	4	4	100	[100% bar]					

参考資料2 環境基準（BOD又はCOD）を満足した地点の割合（水系別）（2/5）

地局	水系	年次	調査地点	満足地点	満足度 %	満足度				
						20	40	60	80	%
関東	荒川	平成26年	17	14	82					
		平成27年	17	15	88					
	利根川	平成26年	93	71	76					
		平成27年	93	69	74					
	那珂川	平成26年	10	10	100					
		平成27年	10	10	100					
	久慈川	平成26年	5	5	100					
		平成27年	5	5	100					
	多摩川	平成26年	17	17	100					
		平成27年	17	17	100					
	鶴見川	平成26年	4	4	100					
		平成27年	4	4	100					
	相模川	平成26年	3	3	100					
		平成27年	3	3	100					
富士川	平成26年	14	14	100						
	平成27年	14	14	100						
北陸	荒川	平成26年	4	4	100					
		平成27年	4	4	100					
	阿賀野川	平成26年	10	10	100					
		平成27年	10	10	100					
	信濃川	平成26年	24	23	96					
		平成27年	24	23	96					
	関川	平成26年	4	4	100					
		平成27年	4	4	100					
	姫川	平成26年	2	2	100					
		平成27年	2	2	100					
	黒部川	平成26年	4	4	100					
		平成27年	4	4	100					
	常願寺川	平成26年	2	2	100					
		平成27年	2	2	100					
	神通川	平成26年	5	5	100					
		平成27年	5	5	100					
庄川	平成26年	2	2	100						
	平成27年	2	2	100						
小矢部川	平成26年	3	3	100						
	平成27年	3	3	100						
手取川	平成26年	4	4	100						
	平成27年	4	4	100						
梯川	平成26年	3	3	100						
	平成27年	3	3	100						

参考資料2 環境基準（BOD又はCOD）を満足した地点の割合（水系別）（3/5）

地局	水系	年次	調査地点	満足地点	満足度 %	満足度				
						20	40	60	80	%
中部	狩野川	平成26年	7	7	100					
		平成27年	7	7	100					
	安倍川	平成26年	3	3	100					
		平成27年	3	3	100					
	大井川	平成26年	4	4	100					
		平成27年	4	4	100					
	菊川	平成26年	5	5	100					
		平成27年	5	5	100					
	天竜川	平成26年	15	14	93					
		平成27年	15	14	93					
	豊川	平成26年	5	5	100					
		平成27年	5	5	100					
	矢作川	平成26年	6	6	100					
		平成27年	6	6	100					
	庄内川	平成26年	9	9	100					
		平成27年	9	9	100					
木曽川	平成26年	32	32	100						
	平成27年	32	32	100						
鈴鹿川	平成26年	8	7	88						
	平成27年	8	8	100						
雲出川	平成26年	3	3	100						
	平成27年	3	3	100						
櫛田川	平成26年	2	2	100						
	平成27年	3	3	100						
宮川	平成26年	3	2	67						
	平成27年	3	3	100						
近畿	新宮川	平成26年	5	5	100					
		平成27年	5	5	100					
	紀の川	平成26年	11	9	82					
		平成27年	11	10	91					
	大和川	平成26年	14	14	100					
		平成27年	14	14	100					
	淀川	平成26年	54	42	78					
		平成27年	54	43	80					
	加古川	平成26年	5	5	100					
		平成27年	5	5	100					
	揖保川	平成26年	6	6	100					
		平成27年	6	6	100					
	円山川	平成26年	4	4	100					
		平成27年	4	4	100					
由良川	平成26年	6	5	83						
	平成27年	6	6	100						
北川	平成26年	3	3	100						
	平成27年	3	3	100						
九頭竜川	平成26年	7	7	100						
	平成27年	7	7	100						

参考資料2 環境基準（BOD又はCOD）を満足した地点の割合（水系別）（4/5）

地局	水系	年次	調査地点	満足地点	満足度 %	満足度				
						20	40	60	80	%
中国	吉井川	平成26年	6	5	83					
		平成27年	6	6	100					
	旭川	平成26年	5	5	100					
		平成27年	5	5	100					
	高梁川	平成26年	5	5	100					
		平成27年	5	5	100					
	芦田川	平成26年	10	7	70					
		平成27年	10	9	90					
	太田川	平成26年	16	16	100					
		平成27年	16	16	100					
	小瀬川	平成26年	4	3	75					
		平成27年	4	3	75					
	佐波川	平成26年	6	5	83					
		平成27年	6	5	83					
	高津川	平成26年	4	4	100					
		平成27年	4	4	100					
	江の川	平成26年	14	14	100					
		平成27年	14	13	93					
斐伊川	平成26年	21	6	29						
	平成27年	21	6	29						
日野川	平成26年	4	4	100						
	平成27年	4	4	100						
天神川	平成26年	4	4	100						
	平成27年	4	4	100						
千代川	平成26年	6	6	100						
	平成27年	6	6	100						
四国	吉野川	平成26年	12	12	100					
		平成27年	12	12	100					
	那賀川	平成26年	6	5	83					
		平成27年	6	5	83					
	物部川	平成26年	3	3	100					
		平成27年	3	3	100					
	仁淀川	平成26年	7	7	100					
		平成27年	7	7	100					
	渡川	平成26年	5	4	80					
		平成27年	5	4	80					
肱川	平成26年	8	8	100						
	平成27年	8	8	100						
重信川	平成26年	7	6	86						
	平成27年	7	6	86						
土器川	平成26年	3	3	100						
	平成27年	3	3	100						

参考資料2 環境基準（BOD又はCOD）を満足した地点の割合（水系別）（5/5）

地局	水系	年次	調査地点	満足地点	満足度%	満足度				
						20	40	60	80	%
九州	遠賀川	平成26年	14	14	100					
		平成27年	14	14	100					
	山国川	平成26年	6	6	100					
		平成27年	6	6	100					
	大分川	平成26年	5	5	100					
		平成27年	5	5	100					
	大野川	平成26年	4	3	75					
		平成27年	4	4	100					
	番匠川	平成26年	4	4	100					
		平成27年	4	4	100					
	五ヶ瀬川	平成26年	5	5	100					
		平成27年	5	5	100					
	小丸川	平成26年	3	3	100					
		平成27年	3	3	100					
	大淀川	平成26年	13	13	100					
		平成27年	13	13	100					
	肝属川	平成26年	5	4	80					
		平成27年	5	5	100					
	川内川	平成26年	9	9	100					
		平成27年	9	9	100					
	球磨川	平成26年	13	13	100					
		平成27年	13	13	100					
	緑川	平成26年	8	8	100					
		平成27年	8	8	100					
	白川	平成26年	3	3	100					
		平成27年	3	3	100					
	菊池川	平成26年	9	9	100					
		平成27年	9	9	100					
	矢部川	平成26年	5	5	100					
		平成27年	5	5	100					
筑後川	平成26年	17	17	100						
	平成27年	16	16	100						
嘉瀬川	平成26年	4	4	100						
	平成27年	4	4	100						
六角川	平成26年	7	7	100						
	平成27年	7	7	100						
本明川	平成26年	4	4	100						
	平成27年	4	4	100						
松浦川	平成26年	9	9	100						
	平成27年	9	9	100						

参考資料 3 (1) 生活環境の保全に関する環境基準 (1/8)

河川 (湖沼を除く。) : 生物化学的酸素要求量 (BOD)

項目 類型	利用目的の 適応性	基準値	項目 類型	利用目的の 適応性	基準値
		生物化学的 酸素要求量 (BOD)			生物化学的 酸素要求量 (BOD)
AA	水道1級 自然環境保全及び A以下の欄に掲げ るもの	1mg/ℓ 以下	C	水産3級 工業用水1級及びD 以下の欄に掲げる もの	5mg/ℓ 以下
A	水道2級 水産1級 水浴及び B以下の欄に掲げ るもの	2mg/ℓ 以下	D	工業用水2級 農業用水及び Eの欄に掲げるも の	8mg/ℓ 以下
B	水道3級 水産2級及び C以下の欄に掲げ るもの	3mg/ℓ 以下	E	工業用水3級 環境保全	10mg/ℓ 以下

備考 1. 基準値は日間平均値とする (湖沼、海域もこれに準ずる。)

- (注)
1. 自然環境保全 : 自然探勝等の環境保全
  2. 水道 1級 : ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
  - 水道 2級 : 沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの
  - 水道 3級 : 前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの
  3. 水産 1級 : ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用
  - 水産 2級 : サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用及び水産3級の水産生物用
  - 水産 3級 : コイ、フナ等、β-中腐水性水域の水産生物用
  4. 工業用水1級 : 沈殿等による通常の浄水操作を行うもの
  - 工業用水2級 : 薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの
  - 工業用水3級 : 特殊の浄水操作を行うもの
  5. 環境保全 : 国民の日常生活 (沿岸の遊歩等を含む。) において不快感を生じない限度

参考資料 3 (1) 生活環境の保全に関する環境基準 (2/8)

河川（湖沼を除く。）：全亜鉛、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩

項目 類型	水生生物の生息状況の適応性	基準値		
		全亜鉛	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩	ノニルフェノール
生物A	イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/ℓ以下	0.03mg/ℓ以下	0.001mg/ℓ以下
生物特A	生物Aの水域のうち、生物Aの欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/ℓ以下	0.02mg/ℓ以下	0.0006mg/ℓ以下
生物B	コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/ℓ以下	0.05mg/ℓ以下	0.002mg/ℓ以下
生物特B	生物Bの水域のうち、生物Bの欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/ℓ以下	0.04mg/ℓ以下	0.002mg/ℓ以下

備考 1. 基準値は、年間平均値とする（湖沼、海域もこれに準ずる。）

参考資料 3 (1) 生活環境の保全に関する環境基準 (3/8)

湖沼（天然湖沼及び貯水量が1,000万立方メートル以上であり、かつ、水の滞留時間が4日間以上である人工湖）：化学的酸素要求量（COD）

項目 類型	利用目的の適応性	基準値
		化学的酸素要求量 (COD)
AA	水道1級 水産1級 自然環境保全及び A以下の欄に掲げるもの	1mg/ℓ以下
A	水道2、3級 水産2級 水浴及び B以下の欄に掲げるもの	3mg/ℓ以下
B	水産3級 工業用水1級 農業用水及び Cの欄に掲げるもの	5mg/ℓ以下
C	工業用水2級 環境保全	8mg/ℓ以下

- (注)
1. 自然環境保全： 自然探勝等の環境保全
  2. 水道 1級： ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの  
水道2、3級： 沈殿ろ過等による通常の浄水操作、又は、前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの
  3. 水産 1級： ヒメマス等貧栄養湖型の水域の水産生物用並びに水産 2級及び水産3級の水産生物用  
水産 2級： サケ科魚類及びアユ等貧栄養湖型の水域の水産生物並びに水産3級の水産生物用  
水産 3級： コイ、フナ等富栄養化型の水域の水産生物用
  4. 工業用水1級： 沈殿等による通常の浄水操作を行うもの  
工業用水2級： 薬品注入等による高度の浄水操作、又は、特殊な浄水操作を行うもの
  5. 環境保全： 国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

参考資料 3 (1) 生活環境の保全に関する環境基準 (4/8)

湖沼（天然湖沼及び貯水量が1,000万立方メートル以上であり、かつ、水の滞留時間が4日間以上である人工湖）：全窒素、全リン

項目 類型	利用目的の 適 応 性	基準値	
		全窒素	全リン
I	自然環境保全及び II以下の欄に掲げるもの	0.1mg/ℓ 以下	0.005mg/ℓ 以下
II	水道1、2、3級(特殊なものを除く) 水産1種 水浴及びIII以下の欄に掲げるもの	0.2mg/ℓ 以下	0.01mg/ℓ 以下
III	水道3級(特殊なもの)及び IV以下の欄に掲げるもの	0.4mg/ℓ 以下	0.03mg/ℓ 以下
IV	水産2種及び Vの欄に掲げるもの	0.6mg/ℓ 以下	0.05mg/ℓ 以下
V	水産3種 工業用水 農業用水 環境保全	1mg/ℓ 以下	0.1mg/ℓ 以下

- 備 考 1. 基準値は、年間平均値とする。
2. 水域類型の指定は、湖沼植物プランクトンの著しい増殖を生ずるおそれがある湖沼について行うものとし、全窒素の項目の基準値は、全窒素が湖沼植物プランクトンの増殖の要因となる湖沼について適用する。
3. 農業用水については、全リンの項目の基準値は適用しない。

- (注) 1. 自然環境保全： 自然探勝等の環境保全
2. 水 道 1級： ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの  
水 道 2級： 沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの  
水 道 3級： 前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの（「特殊なもの」とは、臭気物質の除去が可能な特殊な浄水操作を行うものをいう。）
3. 水 産 1種： サケ科魚類及びアユ等の水産生物並びに水産2種及び水産3種の水産生物用  
水 産 2種： ワカサギ等の水産生物用及び水産3種の水産生物用  
水 産 3種： コイ、フナ等の水産生物用
4. 環 境 保 全： 国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

参考資料 3 (1) 生活環境の保全に関する環境基準 (5/8)

湖沼（天然湖沼及び貯水量が1,000万立方メートル以上であり、かつ、水の滞留時間が4日間以上である人工湖）：全亜鉛、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩、ノニルフェノール

項目 類型	水生生物の生息状況 の適応性	基準値		
		全亜鉛	直鎖アルキル ベンゼンスル ホン酸及びそ の塩	ノニルフェノール
生物A	イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/ℓ以下	0.03mg/ℓ以下	0.001mg/ℓ以下
生物特A	生物Aの水域のうち、生物Aの欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚子の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/ℓ以下	0.02mg/ℓ以下	0.0006mg/ℓ以下
生物B	コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/ℓ以下	0.05mg/ℓ以下	0.002mg/ℓ以下
生物特B	生物Bの水域のうち、生物Bの欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚子の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/ℓ以下	0.04mg/ℓ以下	0.002mg/ℓ以下

参考資料 3 (1) 生活環境の保全に関する環境基準 (6/8)

海域：化学的酸素要求量 (COD)

項目 類型	利用目的の 適 応 性	基準値
		化学的酸素 要 求 量 (COD)
A	水産1級 水浴 自然環境保全及び B以下の欄に掲げるもの	2mg/l以下
B	水産2級 工業用水及び Cの欄に掲げるもの	3mg/l以下
C	環境保全	8mg/l以下

- (注) 1. 自然環境保全： 自然探勝等の環境保全  
 2. 水 産 1 級： マダイ、ブリ、ワカメ等の水産生物用及  
 び水産2級の水産生物用  
 水 産 2 級： ボラ、ノリ等の水産生物用  
 3. 環 境 保 全： 国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）  
 において不快感を生じない限度

参考資料 3 (1) 生活環境の保全に関する環境基準 (7/8)

海域：全窒素、全リン

項目 類型	利用目的の 適 応 性	基準値	
		全窒素	全リン
I	自然環境保全及びⅡ以下の欄に掲げるもの (水産2種及び3種を除く)	0.2mg/ℓ 以下	0.02mg/ℓ 以下
Ⅱ	水産1種 水浴及びⅢ以下の欄に掲げるもの(水産2 種および3種を除く。)	0.3mg/ℓ 以下	0.03mg/ℓ 以下
Ⅲ	水産2種及びⅣの欄に掲げるもの(水産3種 を除く。)	0.6mg/ℓ 以下	0.05mg/ℓ 以下
Ⅳ	水産3種 工業用水 生物生息環境保全	1mg/ℓ 以下	0.09mg/ℓ 以下

- 備 考 1. 基準値は、年間平均値とする。  
 2. 水域類型の指定は、海洋植物プランクトンの著しい増殖を生ずる恐れのある海域に  
 ついて行うものとする。

- (注) 1. 自然環境保全： 自然探勝等の環境保全  
 2. 水 産 1 種： 底生魚介類を含めたような水産生物がバランス良く、かつ  
 安定して漁獲される  
 水 産 2 種： 一部の底生魚介類を除き、魚類を中心とした水産生物が多  
 獲される  
 水 産 3 種： 汚濁に強い特定の水産生物が主に漁獲される  
 3. 生物生息環境保全： 年間を通して底生生物が生息できる限度

参考資料 3 (1) 生活環境の保全に関する環境基準 (8/8)

海域：全亜鉛、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩、ノニルフェノール

項目 類型	水生生物の生息状況 の適応性	基準値		
		全亜鉛	直鎖アルキル ベンゼンスル ホン酸及びそ の塩	ノニルフェノール
生物A	水生生物の生息する 水域	0.02mg/ℓ以下	0.01mg/ℓ以下	0.001mg/ℓ以下
生物特A	生物Aの水域のう ち、水生生物の産卵 場（繁殖場）又は幼 稚仔の生育場として 特に保全が必要な水 域	0.01mg/ℓ以下	0.006mg/ℓ以下	0.0007mg/ℓ以下

参考資料3(2) 人の健康の保護に関する環境基準 (1/2)

環境基準項目及び基準値

項目名	基準値	備考
カドミウム	0.003 mg/l以下	1. 基準値は年間平均値とする。 ただし全シアンに係る基準値については最高値とする。
全シアン	検出されないこと	
鉛	0.01 mg/l以下	2. 「検出されないこと」とは定められた測定方法により測定した場合において、その結果が定量限界を下回ることをいう。
六価クロム	0.05 mg/l以下	
砒素	0.01 mg/l以下	
総水銀	0.0005 mg/l以下	
アルキル水銀	検出されないこと	
P C B	検出されないこと	
ジクロロメタン	0.02 mg/l以下	
四塩化炭素	0.002 mg/l以下	
1,2-ジクロロエタン	0.004 mg/l以下	
1,1-ジクロロエチレン	0.1 mg/l以下	
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04 mg/l以下	3. 海域については、ふっ素及びほう素の基準値は適用しない。
1,1,1-トリクロロエタン	1 mg/l以下	
1,1,2-トリクロロエタン	0.006 mg/l以下	
トリクロロエチレン	0.03 mg/l以下	
テトラクロロエチレン	0.01 mg/l以下	
1,3-ジクロロプロペン	0.002 mg/l以下	
チウラム	0.006 mg/l以下	
シマジン	0.003 mg/l以下	
チオベンカルブ	0.02 mg/l以下	
ベンゼン	0.01 mg/l以下	
セレン	0.01 mg/l以下	4. 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の濃度は、測定された硝酸イオンの濃度に換算係数0.2259を乗じたものと亜硝酸イオンの濃度に換算係数0.3045を乗じたものの和とする。
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	10 mg/l以下	
ふっ素	0.8 mg/l以下	
ほう素	1 mg/l以下	
1,4-ジオキサン	0.05 mg/l以下	

平成21年11月追加

参考資料3(2) 人の健康の保護に関する環境基準 (2/2)

要監視項目及び指針値

項目名	指針値	備考
イソキサチオン	0.008 mg/l以下	
ダイアジノン	0.005 mg/l以下	
フェニトロチオン (MEP)	0.003 mg/l以下	
イソプロチオラン	0.04 mg/l以下	
オキシ銅 (有機銅)	0.04 mg/l以下	
クロロタロニル (TPN)	0.05 mg/l以下	
プロピザミド	0.008 mg/l以下	
EPN	0.006 mg/l以下	
ジクロルボス (DDVP)	0.008 mg/l以下	
フェノブカルブ (BPMC)	0.03 mg/l以下	
イプロベンホス (IBP)	0.008 mg/l以下	
クロルニトロフェン (CNP)	—	
クロロホルム	0.06 mg/l以下	
トランス-1,2-ジクロロエチレン	0.04 mg/l以下	
1,2-ジクロロプロパン	0.06 mg/l以下	
p-ジクロロベンゼン	0.2 mg/l以下	
トルエン	0.6 mg/l以下	
キシレン	0.4 mg/l以下	
フタル酸ジエチルヘキシル	0.06 mg/l以下	
ニッケル	—	
モリブデン	0.07 mg/l以下	
アンチモン	0.02 mg/l以下	
塩化ビニルモノマー	0.002 mg/l以下	平成16年3月追加
エピクロロヒドリン	0.0004 mg/l以下	〃
全マンガン	0.2 mg/l以下	〃
ウラン	0.002 mg/l以下	〃

参考資料 3 (3) 水生生物の保全に関する環境基準

要監視項目及び指針値

項目	水域	類型	指針値
クロロホルム	河川及び湖沼	生物A	0.7mg/ℓ 以下
		生物特A	0.006mg/ℓ 以下
		生物B	3mg/ℓ 以下
		生物特B	3mg/ℓ 以下
	海域	生物A	0.8mg/ℓ 以下
		生物特A	0.8mg/ℓ 以下
フェノール	河川及び湖沼	生物A	0.05mg/ℓ 以下
		生物特A	0.01mg/ℓ 以下
		生物B	0.08mg/ℓ 以下
		生物特B	0.01mg/ℓ 以下
	海域	生物A	2mg/ℓ 以下
		生物特A	0.2mg/ℓ 以下
ホルムアルデヒド	河川及び湖沼	生物A	1mg/ℓ 以下
		生物特A	1mg/ℓ 以下
		生物B	1mg/ℓ 以下
		生物特B	1mg/ℓ 以下
	海域	生物A	0.3mg/ℓ 以下
		生物特A	0.03mg/ℓ 以下
4- <i>t</i> -オクチルフェノール	河川及び湖沼	生物A	0.001mg/ℓ 以下
		生物特A	0.0007mg/ℓ 以下
		生物B	0.004mg/ℓ 以下
		生物特B	0.003mg/ℓ 以下
	海域	生物A	0.0009mg/ℓ 以下
		生物特A	0.0004mg/ℓ 以下
アニリン	河川及び湖沼	生物A	0.02mg/ℓ 以下
		生物特A	0.02mg/ℓ 以下
		生物B	0.02mg/ℓ 以下
		生物特B	0.02mg/ℓ 以下
	海域	生物A	0.1mg/ℓ 以下
		生物特A	0.1mg/ℓ 以下
2,4-ジクロロフェノール	河川及び湖沼	生物A	0.03mg/ℓ 以下
		生物特A	0.003mg/ℓ 以下
		生物B	0.03mg/ℓ 以下
		生物特B	0.02mg/ℓ 以下
	海域	生物A	0.02mg/ℓ 以下
		生物特A	0.01mg/ℓ 以下

参考資料 3 (4) ゴルフ場使用農薬暫定指導指針値  
(水質汚濁に係る農薬登録保留基準) (1/4)

一般名	基準値(mg/L)	指針値(mg/L) (基準値の10倍)	告示年月日
アジムスルフロン	0.25	2.5	平成23年4月7日
アセキノシル	0.058	0.58	平成23年10月18日
アセタミプリド	0.18	1.8	平成24年1月11日
アセフェート	0.0063	0.063	平成25年3月18日
アゾキシストロビン	0.47	4.7	平成23年4月4日
アバメクテン	0.0015	0.015	平成25年2月6日
アミスルフロム	0.2	2	平成24年4月6日
アミトラズ	0.0066	0.066	平成24年10月10日
アメトトラジン	7.1	71	平成25年10月21日
アラクロール	0.02	0.2	平成25年3月18日
アンバム	0.0047	0.047	平成26年12月10日
イソキサベン	0.13	1.3	平成26年12月10日
イソチアニル	0.074	0.74	平成21年10月23日
イソプロチオラン	0.26	2.6	平成22年7月5日
イプフェンカルバゾン	0.0026	0.026	平成25年6月13日
イプロベンホス又はIBP	0.093	0.93	平成22年12月1日
イミシアホス	0.001	0.01	平成24年7月6日
イミダクロプリド	0.15	1.5	平成22年12月1日
イミベンコナゾール	0.026	0.26	平成23年10月18日
インダジフラム	0.05	0.5	平成24年4月6日
インダノファン	0.0093	0.093	平成23年2月15日
インドキサカルブMP及びインドキサカルブ	0.013	0.13	平成24年4月6日
ウニコナゾールP	0.042	0.42	平成22年12月1日
エスプロカルブ	0.02	0.2	平成22年7月5日
エタボキサム	0.1	1	平成25年6月13日
エチクロゼート	0.45	4.5	平成25年9月11日
エチプロール	0.01	0.1	平成23年10月18日
エトキサゾール	0.1	1	平成23年10月18日
エトフェンブロックス	0.082	0.82	平成25年3月18日
エトフェセート	0.79	7.9	平成25年6月13日
エトベンザニド	0.11	1.1	平成26年12月10日
オキサジアゾン	0.0095	0.095	平成23年7月4日
オキサジアルギル	0.02	0.2	平成23年10月18日
オキサジクロメホン	0.024	0.24	平成23年2月15日
オキシトラサイクリン	0.07	0.7	平成26年9月18日
オキノリニック酸	0.055	0.55	平成24年10月10日
オリサストロビン	0.13	1.3	平成23年7月4日
カズサホス	0.00066	0.0066	平成23年7月4日
カフェンストール	0.007	0.07	平成22年7月5日
カルフェントラゾンエチル	0.07	0.7	平成21年6月12日
カルブチレート	0.034	0.34	平成23年2月15日
カルプロバミド	0.037	0.37	平成23年4月7日
キノクラミン又はACN	0.0055	0.055	平成26年9月18日
クミルロン	0.02	0.2	平成23年7月4日
グルホシネート及びグルホシネートPナトリウム塩	DL-ホモアラニン-4- イル(メチル)ホスフィン酸 (別名グルホシネート酸) として0.024	0.24	平成22年7月5日
クレソキシムメチル	0.95	9.5	平成25年9月11日
クロチアニジン	0.25	2.5	平成23年2月15日
クロマフェノジド	0.71	7.1	平成23年7月4日
クロメフロップ	0.016	0.16	平成23年2月15日
クロラントラニリプロール	0.69	6.9	平成21年5月27日
クロリムロンエチル	0.2	2	平成21年2月18日
クロルチアミド又はDCBM	0.053	0.53	平成25年2月6日
クロルフェナビル	0.069	0.69	平成24年10月10日
クロルフタリム	0.0069	0.069	平成25年6月13日
シアゾファミド	0.45	4.5	平成25年2月6日
シアントラニリプロール	0.025	0.25	平成26年5月16日
シエンピラフェン	0.1	1	平成24年10月10日
ジカンバ又はMDBA、ジカンバジメチルアミン塩又はMDBAジメチルアミン塩及びジカンバカリウム塩又はMDBAカリウム塩	2-メトキシ-3,6-ジク ロロ安息香酸(別名ジカ ンバ又はMDBA)として 0.93	9.3	平成22年1月12日
ジクロシメット	0.013	0.13	平成23年4月4日
1,3-ジクロロプロペン又はD-D	0.05	0.5	平成26年4月7日
ジチアノン	0.02	0.2	平成25年3月18日
ジチオピル	0.0095	0.095	平成23年7月4日
ジノテフラン	0.58	5.8	平成22年3月26日
シフルフェナミド	0.1	1	平成25年3月18日
シフルメトフェン	0.24	2.4	平成24年10月10日
ジフルメトリム	0.0037	0.037	平成24年7月6日
シプロジニル	0.071	0.71	平成26年4月7日
シメコナゾール	0.022	0.22	平成23年4月4日
ジメタメトリン	0.025	0.25	平成25年9月11日

※五十音順

参考資料 3 (4) ゴルフ場使用農薬暫定指導指針値  
(水質汚濁に係る農薬登録保留基準) (2/4)

一般名	基準値(mg/L)	指針値(mg/L) (基準値の10倍)	告示年月日
ジメテナミド及びジメテナミドP	0.1	1	平成22年1月12日
ジメトモルフ	0.29	2.9	平成24年7月6日
シラフルオフェン	0.29	2.9	平成22年7月5日
シロマジン	0.047	0.47	平成25年3月18日
スピネトラム	0.063	0.63	平成22年7月5日
スピノサド	0.063	0.63	平成24年4月6日
スピロジクロフェン	0.034	0.34	平成25年9月11日
スピロテトラマト	0.31	3.1	平成24年1月11日
スピロメシフェン	0.058	0.58	平成24年10月10日
ダイムロン	0.79	7.9	平成22年3月26日
チアジニル	0.1	1	平成23年4月7日
チアトキサム	0.047	0.47	平成23年2月15日
チオベンカルブ	0.02	0.2	平成24年7月6日
テブコナゾール	0.077	0.77	平成23年10月18日
テブフェノジド	0.042	0.42	平成22年12月1日
テブフロキン	0.1	1	平成25年2月6日
テフリルトリオン	0.002	0.02	平成21年10月23日
トラメゾン	0.007	0.07	平成25年6月13日
トリアジフラム	0.023	0.23	平成23年7月4日
トリフルラリン	0.063	0.63	平成25年10月21日
トリフロキシストロビン	0.1	1	平成24年4月6日
トルフェンピラド	0.014	0.14	平成24年1月11日
1-ナフタレン酢酸ナトリウム	0.39	3.9	平成21年5月27日
ノバルロン	0.029	0.29	平成25年2月6日
パクロプロトラゾール	0.053	0.53	平成22年3月26日
ハロスルフロンメチル	0.26	2.6	平成24年4月6日
ビフェナゼート	0.026	0.26	平成24年1月11日
ビフェントリン	0.026	0.26	平成23年10月18日
ビフルブミド	0.019	0.19	平成26年9月18日
ピメトロジン	0.034	0.34	平成24年1月11日
ピラクロストロビン	0.09	0.9	平成24年4月6日
ピラクロニル	0.011	0.11	平成23年7月4日
ピラフルフェンエチル	0.45	4.5	平成25年2月6日
ピリオフェン	0.24	2.4	平成25年10月21日
ピリダベン	0.01	0.1	平成25年9月11日
ピリダリル	0.074	0.74	平成24年1月11日
ピリフタリド	0.014	0.14	平成23年4月7日
ピリプチカルブ	0.023	0.23	平成23年2月15日
ピリフルキナゾン	0.01	0.1	平成22年1月12日
ピリプロキシフェン	0.26	2.6	平成25年2月6日
ピリベンカルブ	0.1	1	平成24年1月11日
ピリミジフェン	0.0039	0.039	平成26年9月18日
ピリミスルファン	0.93	9.3	平成22年3月26日
ピリミノバックメチル	0.05	0.5	平成25年3月18日
ピロキサスルホン	0.05	0.5	平成26年7月10日
ファミキサドン	0.015	0.15	平成26年9月18日
フェノキサスルホン	0.45	4.5	平成26年5月16日
フェノキサニル	0.018	0.18	平成23年4月4日
フェリムゾン	0.05	0.5	平成22年3月26日
フェンアミドン	0.074	0.74	平成24年10月10日
フェントエート又はPAP	0.0077	0.077	平成25年9月11日
フェントラザミド	0.013	0.13	平成23年4月4日
フェンピラザミン	0.31	3.1	平成25年6月13日
フェンピロキシメート	0.025	0.25	平成26年5月16日
フェンプロナゾール	0.079	0.79	平成25年3月18日
フェンヘキサミド	0.45	4.5	平成25年9月11日
ブタクロール	0.026	0.26	平成25年3月18日
ブタミホス	0.02	0.2	平成23年7月4日
ブトルアリン	0.026	0.26	平成24年1月11日
ブプロフェジン	0.023	0.23	平成22年12月1日
フラメトビル	0.01	0.1	平成25年9月11日
フルアクリピリム	0.15	1.5	平成25年3月18日
フルオビコリド	0.21	2.1	平成25年2月6日
フルオビラム	0.031	0.31	平成25年6月13日
フルキサビロキサド	0.055	0.55	平成25年6月13日
フルジオキソニル	0.87	8.7	平成23年10月18日
フルセトスルフロン	0.1	1	平成21年2月18日
フルチアニル	6.3	63	平成24年10月10日
フルトラニル	0.23	2.3	平成22年3月26日
フルフェナセット	0.029	0.29	平成26年9月18日

※五十音順

参考資料 3 (4) ゴルフ場使用農薬暫定指導指針値  
(水質汚濁に係る農薬登録保留基準) (3/4)

一般名	基準値(mg/L)	指針値(mg/L) (基準値の10倍)	告示年月日
フルフェノクスロン	0.098	0.98	平成25年2月6日
フルプロバネートナトリウム塩又はテトラピオン	0.01	0.1	平成26年7月10日
フルベンジアミド	0.045	0.45	平成24年10月10日
フルボキサム	0.021	0.21	平成21年5月27日
フルルプリミドール	0.039	0.39	平成25年11月29日
フレチクロール	0.047	0.47	平成22年7月5日
フロジアミン	0.17	1.7	平成24年7月6日
フロスルホカルブ	0.05	0.5	平成21年10月23日
フロニカミド	0.19	1.9	平成20年12月1日
プロパモカルブ塩酸塩	0.77	7.7	平成24年7月6日
プロバルギット又はBPPS	0.026	0.26	平成26年7月10日
プロピドロキサモン	0.37	3.7	平成24年10月10日
プロピリスルフロソ	0.029	0.29	平成22年7月5日
プロモブナド	0.1	1	平成22年7月5日
ヘキサジノン	0.13	1.3	平成25年6月13日
ペノキスラム	0.13	1.3	平成23年7月4日
ペンシクロソ	0.14	1.4	平成23年4月7日
ペンシルフロソメチル	0.5	5	平成24年7月6日
ペンゾピシクロソ	0.09	0.9	平成22年12月1日
ペンチアバリカルブイソプロピル	0.18	1.8	平成24年10月10日
ペンチオピラド	0.2	2	平成20年7月23日
ペンディメタリン	0.31	3.1	平成25年2月6日
ペントキサゾン	0.61	6.1	平成24年4月6日
ペンフルフェソ	0.053	0.53	平成25年10月21日
ペンフレセート	0.069	0.69	平成23年4月4日
ホラムスルフロソ	1.3	13	平成23年4月7日
マンジプロバミド	0.1	1	平成21年2月18日
マイクロブタニル	0.063	0.63	平成24年4月6日
ミルベメクテン	0.07	0.7	平成23年10月18日
メコプロップカリウム塩又はMCPKPカリウム塩、メコプロップジメチルアミン塩又はMCPKPジメチルアミン塩、メコプロップPイソプロピルアミン塩及びメコプロップPカリウム塩	(RS)-2-(4-クロロ- -o-トリルオキシ)プロ ピオン酸(別名メコプロッ プ又はMCPKP)として 0.047	0.47	平成21年10月23日
メントリオン	0.007	0.07	平成21年10月23日
メタアルデヒド	0.058	0.58	平成24年10月10日
メタソスルフロソ	0.071	0.71	平成24年10月10日
メタフルミゾン	0.31	3.1	平成24年7月6日
メタミホップ	0.011	0.11	平成23年4月4日
メタラキシル及びメタラキシルM	0.058	0.58	平成24年4月6日
メトキシフェノジド	0.26	2.6	平成23年4月7日
メトコナゾール	0.1	1	平成25年2月6日
メトミノストロピン	0.042	0.42	平成25年3月18日
メトラクロール及びS-メトラクロール	0.25	2.5	平成22年1月12日
メフェナセツト	0.01	0.1	平成22年3月26日
メプロニル	0.1	1	平成24年7月6日
モリネート	0.0055	0.055	平成26年12月10日
ヨウ化メチル	0.01	0.1	平成25年3月18日
ルフェヌロン	0.037	0.37	平成25年2月6日
レピメクテン	0.053	0.53	平成24年7月6日
EPN	0.0037	0.037	平成23年4月7日

※五十音順

参考資料 3 (4) ゴルフ場使用農薬暫定指導指針値  
(排出水中の指針値として設定してきた指針値) (4/4)

一般名	指針値(mg/L)
イソキサチオン	0.08
クロルピリホス	0.02
ダイアジノン	0.05
チオジカルブ	0.8
トリクロルホソ(DEP)	0.05
フェニトロチオン(MEP)	0.03
ベルメリン	1
ペンスタップ	0.9
イプロシオン	3
イミノクタジナルベシル酸塩及びイミノクタジン酢酸塩	0.06
エトリジアゾール(エクロメゾール)	(イミノクチンとして)0.04
オキシ銅(有機銅)	0.4
キャプタン	3
クロロタロニル(TPN)	0.4
クロロネブ	0.5
ジフェノコナゾール	0.3
シプロコナゾール	0.3
チウラム(チラム)	0.2
チオファネートメチル	3
チフルザミド	0.5
テトラコナゾール	0.1
トリフルミゾール	0.5
トルクロホスメチル	2
バリダマイシン	12
ヒドロキシイソキサゾール(ヒメキサゾール)	1
プロピコナゾール	0.5
ベノミル	0.2
ボスカリド	1.1
ホセチル	23
ポリカーバメート	0.3
アシュラム	2
エトキシスルフロン	1
シクロスルフアムロン	0.8
シデュロン	3
シマジン(CAT)	0.03
トリクロピル	0.06
ナプロバミド	0.3
フラザスルフロン	0.3
プロピザミド	0.5
ベンフルラリン(ベスロジン)	0.1
MCPAイソプロピルアミン塩及びMCPAナトリウム塩	(MCPAとして)0.051
トリネキサバックエチル	0.15

※五十音順

参考資料 3 (5) ダイオキシン類の基準値

地点	環境基準	要監視濃度
水質	1.0pg-TEQ/ℓ	0.5pg-TEQ/ℓ
底質	150pg-TEQ/g	75pg-TEQ/g

参考資料 3 (6) 内分泌かく乱化学物質の基準値

物質名	重点調査濃度※1
ビスフェノールA	24.7 μg/ℓ
17β-エストラジオール	0.0015 μg/ℓ
エストロン	0.0016 μg/ℓ
o, p'-DDT	0.0145 μg/ℓ

※1 「内分泌かく乱化学物質調査の考え方(案)(平成25年3月改訂)に基づく重点調査濃度。  
平成25年度以降は平成25年3月改訂の考え方(案)に基づき調査を行っている。

参考資料4 「水生生物による簡易水質調査」参加団体一覧 (1/4)

北海道開発局管内 (57団体)	
北海道	札幌市立南小学校 子ども水防団 恵庭市立恵庭中学校 岩見沢私立岩見沢第二小学校 三笠市立三笠小学校 深川私立多度志小学校 北海道滝川高校 富良野市立布部小中学校 旭川市立東五条小学校 名寄市立豊西小学校 名寄市立名寄西小学校 蘭越小学校 蘭越高等学校 北檜山小学校 今金小学校 種革小学校 鶴川中央小学校 仁和小学校 富川小学校 紫雲古津小学校 帯広市立帯広第五中学校 帯広市立北栄小学校 帯広市立豊成小学校 幕別町立幕別中学校 帯広市立帯広第一中学校 本別町立勇足中学校 帯広市立帯広第七中学校 本別町立本別中学校 帯広市立帯広第二中学校 音更町立緑陽台小学校 帯広市立明和小学校 幕別町立白人小学校 中札内村立中札内中学校 帯広市立翔陽中学校 音更町立柳町小学校 帯広市立南町中学校 帯広市立帯広第四中学校 音更町立音更小学校 本別町立本別中央小学校 帯広市立大空小学校 景雲中学校 弟子屈中学校 船橋市・津別町青少年交流事業団 北海道高等学校理科研究会北見支部 網走市立中央小学校 北海道立北見北斗高校 北見市立北光小学校 北見市立常呂小学校 北見市立小泉小学校 北見市教育研究協議会 一般参加(遠軽橋:11月18日) ゆうべつアウトドアクラブYU-PAL 湧別町立湧別小学校 紋別市立渚滑小学校 幌延小学校・問寒別小学校合同 天塩小学校 留萌市立潮静小学校 留萌市立緑ヶ丘小学校

東北地方整備局管内 (29団体)	
青森県	弘前市立大成小学校 弘前市立第四中学校 七戸町立城南小学校
岩手県	一関市立一関小学校 一関市立長島小学校 奥州市立愛宕小学校 紫波町立紫波第二中学校 奥州市立水沢中学校 盛岡市立下小路中学校 北上市立北上中学校 奥州市立水沢南中学校 北上市立照岡小学校
宮城県	大崎市立東大崎小学校 大和町立大和中学校 仙台市立八本松小学校 仙台市立八木山中学校
秋田県	北秋田市立鷹巣東小学校 能代市立二ツ井小学校 能代市立能代第四小学校
山形県	長井市立平野小学校 長井市致芳公民館 中山町立中山中学校 大石田町立大石田小学校 金山町立金山小学校 鮭川村立鮭川小学校 真室川町立真室川小学校 東北公益文科大 鶴岡市立鶴岡第三中学校
福島県	福島高専

関東地方整備局管内 (40団体)	
茨城県	日立市立坂本中学校 日立市立東小沢小学校 常陸太田市立幸久小学校 城里町立桂中学校 那珂川水系水質保全協議会 筑西市立下館中学校 筑西私立下館西中学校
栃木県	那珂川町立小川小学校 那珂川町立小川中学校 那珂川町立馬頭中学校 栃木県立馬頭高等学校 宇都宮市立陽東中学校 さくら市立氏家中学校 一般参加 鬼怒川小学校 足利女子高等学校
群馬県	高崎市立新町第二小学校 藤岡市立美九里東小学校 高崎市立高松中学校 藤岡市立東中学校 藤岡市立北中学校 玉村町立南中学校
埼玉県	上里町立賀美小学校 川越市立霞ヶ関東小学校 坂戸市立北坂戸小学校 泉小学校 住吉中学校 東松山市立東中学校 野本小学校 霞が関東中学校 川越第一中学校 熊谷東中学校
千葉県	千葉県立柏の葉高等学校 川いっい会
東京都	福生水辺の楽校サポーターズ 府中水辺の楽校
山梨県	南部町立栄小学校 南アルプス市立若草南小学校
静岡県	富士市立富士川第一小学校
神奈川県	川崎フロンターレ、とどろき水辺の楽校 馬入水辺の楽校

参考資料4 「水生生物による簡易水質調査」参加団体一覧 (2/4)

北陸地方整備局管内 (33団体)	
福島県	福島市立月輪小学校 謹教小学校 城北小学校 湯川村丘勝常小学校 どんぐり山保育園 門田小学校 高田中学校 北公民館 のびやか保育園 鶴城小学校 南相馬市立原町第二小学校 南町保育園 坂下中学校 小金井小学校 湯川村丘笈川小学校 河東公民館
新潟県	村上市立金屋小学校 関川村立関川小学校 大野小学校 稲田小学校 和田小学校
富山県	くろべ水の少年団 常願寺川の清流と桜を愛する会 富山市立熊野小学校 砺波市立庄東小学校 南砺市立利賀小学校 小矢部川に学ぶ会
石川県	川北町教育委員会 中海小学校(六年生)
長野県	長野市立柳町中学校 千曲市立戸倉上山田中学校 上田市立丸子北中学校 安曇野市立豊科北中学校

中部地方整備局管内 (45団体)	
長野県	豊丘村児童クラブ 中川村公民館 赤穂小学校 春富中学校 三峰川みらい会議
岐阜県	本田小学校 (鷺田橋 : 7/7) 神戸町立図書館 (平野庄橋 : 7/11) 岐阜農林高等学校 長森中学校
静岡県	静岡市立中蘆科小学校 菊川市消費者の会
愛知県	大村小学校 舟着小学校 清嶺小学校 鳳来西小学校 豊南中学校 清須市新川小学校 守山区志段味西小学校 北区川中小学校 千種豊学校 守山区甘軒家小学校 守山図書館 楠図書館 当知小学校 エコキッズ調査隊 一宮生活協同組合 (南派川橋 : 7/29)
三重県	亀山市立神辺小学校 鈴鹿市立井田川小学校 四日市市立内部小学校 三重県立四日市農芸高等学校 水辺づくりの会鈴鹿川のうお座 塩浜学童保育所 三重県立飯野高等学校 市民ネットワークすずかのぶどう 津市立桃園小学校 三重県立 久居農林高等学校 (土木・機械コース) 三重県立国児学園 三重県立久居農林高等学校 (環境保全コース) 津市立久居中学校 朝見まちづくり協議会(松阪市立 朝見小学校 合同) 佐奈川を美しくする会 多気町松阪市学校組合立多気中学校 多気町立津田小学校 伊勢市立倉田山中学校 三重県立 宇治山田高等学校

近畿地方整備局管内 (55団体)	
福井県	大野市和泉小中学校 松岡中学校 川西中学校 雲浜まちづくり委員会
三重県	上野生涯学習推進会議
滋賀県	立命館守山中学校 守山南中学校 瀬田北中学校
京都府	京都市立西京極中学校 上林小学校 上林中学校 東綾小学校
大阪府	大阪市立旭陽中学校 大阪市立加美中学校 大阪市立咲くやこの花中学校 大阪市立市岡中学校 大阪市立城陽中学校 大阪市立新北野中学校 大阪市立大桐中学校 大阪市立中野中学校 大阪市立鶴橋中学校 白鷺小学校 新堂小学校 浅香山小学校 山之内小学校 依羅小学校 大和川釣り人クラブ 2015猪名川の愛護セミナー(池田床固下流)
兵庫県	2015猪名川の愛護セミナー(こんにやく橋) 多田小学校 加茂小学校 川西小学校 2015猪名川の愛護セミナー(桑津橋) 府中小学校 福住小学校 合橋小学校 資母小学校 高橋小学校 小野市立小野東小学校 加古川環境学習(大堰周辺小学校) 黒原自治会子ども会 宍粟市立下三方小学校 宍粟市立都多小学校 宍粟市立河東小学校 たつの市立新宮小学校 たつの市立龍野小学校 たつのこどもエコクラブ 小宅小学校子ども会 たつの市立半田小学校 たつの市歴史文化体験教室 姫路市立手柄小学校 たつの市立菅田小学校
奈良県	王寺北小学校
和歌山県	有功東小学校 近畿大学附属新宮高等学校・中学校

参考資料4 「水生生物による簡易水質調査」参加団体一覧 (3/4)

中国地方整備局管内 (78団体)	
鳥取県	鳥取市立用瀬小学校 鳥取市立散岐小学校 鳥取市立河原第一小学校 鳥取大学附属小学校 鳥取市立宮ノ下小学校 鳥取市立日進小学校 八東川清流クラブ 西郷小学校 上小鴨小学校 高城小学校 倉吉東学童クラブ 倉吉東第2学童クラブ 上北条小学校 成徳小学校 米子こどもエコクラブ
島根県	松江工業高等専門学校 出雲市立塩冶小学校 奥出雲町立阿井小学校 出雲市立佐田中学校 松江市立本庄小学校 奥出雲町立横田公民館 NPO法人自然再生センター 奥出雲町立亀嵩公民館 安来市立荒島小学校 松江市立宍道小学校 松江市立美保関小学校 安来市立赤江小学校 奥出雲町立鳥上小学校 出雲西高等学校インターアクトクラブ 松江市立朝酌小学校 出雲市立神戸川小学校 奥出雲町立馬木小学校 松江市立八雲小学校 宍道湖水環境改善協議会 古志原公民館 松江市立忌部小学校 郷田小学校 郷田小学校 川本中学校 大和中学校 邑智中学校 横田中学校 西益田小学校
岡山県	和気町立本荘小学校 和気町立和気中学校 岡山市立高島中学校 岡山理科大学附属高等学校岡山理科大学
広島県	福山市立中央中学校 福山市立城西中学校 (学校法人) 盈進学園 盈進中学高等学校 めだかの学校 三次市立甲奴小学校 三次市立みらさか小学校 三次市立田幸小学校 三次市立和田小学校 三次市立八次小学校 三次市立十日市小学校 安芸高田市立郷野小学校 安芸高田市立可愛小学校 安芸高田市立小田東小学校 安芸高田市立甲立小学校 三次市立川地小学校 三次市立清河小学校 三次市立三次小学校 安芸太田町立上殿小学校 広島県立加計高等学校 広島県立可部高等学校 広島県立祇園北高等学校 広島市立東原中学校 大竹中学校 (大竹理科部会)
山口県	防府市立国府中学校 佐波川に学ぶ会 防府市立右田中学校 小野水辺の楽校空間利用を考える会 防府市立桑山中学校 山口市立中央小学校 防府市立佐波小学校 防府市青少年科学館ソラール

四国地方整備局管内 (13団体)	
徳島県	西麻植小学校
香川県	丸亀市立城東小学校 丸亀市立城西小学校 丸亀市立城乾小学校 丸亀市立郡家小学校 まんのう町立満濃南小学校 まんのう町立高篠小学校 丸亀市立飯山中学校 香川大学附属坂出中学校
愛媛県	さくら小学校 椿中学校 拝志小学校 浮穴小学校

参考資料4 「水生生物による簡易水質調査」参加団体一覧 (4/4)

九州地方整備局管内 (102団体)	
福岡県	嘉麻市立碓井小学校 タガツバ学校 嘉麻市立下山田小学校 飯塚市立菰田小学校 正恩寺子ども会 宮若市小原区自治会 笹尾川水辺の楽校 田川市立伊田小学校 秋の中島・観察会 金田小学校 みやま市立水上小学校 八女市立三河小学校 八女市立星野小学校 ぐるーっと八女探検隊 RAC みやま市立下庄小学校 みやま市立南小学校 本郷子ども育成会
佐賀県	みやき町立三根東小学校 さが水ものがたり館 簗木小学校 巖木中学校 浜玉中学校虹の松原分校 大川小学校 松浦小学校 西溪小学校 武雄小学校 西川登小学校 三日月小学校 御船が丘小学校
長崎県	諫早小学校
熊本県	人吉第一中学校 八竜小学校 相良南小学校 郡築小学校 御船小学校 菊池市立菊之池小学校 菊池川自然塾 玉名市立豊水小学校 玉名市立月瀬小学校 菊池川自然の家 菊池市立花房小学校 菊池市立戸崎小学校 山鹿市立中富小学校 和水町立菊水西小学校 和水町立三加和小学校 玉名市立大浜小学校 山鹿市立内田小学校 菊池市立泗水西小学校
大分県	NAKATSUキッズサイエンス教室 鶴居小学校 上津小学校 大分県立大分工業高等学校 大分市立王子中学校 大分市立植田中学校 大分市立城南中学校 大分市立松岡小学校 大分市立戸次中学校 大分市立戸次中学校 大分市立別保小学校 大分県立大分南高等学校 大分市立判田中学校 にじの丘児童クラブ 本匠中学校 青山小学校456年生 大山水環境アスリート 日田市民環境会議水と森部会
宮崎県	五ヶ瀬川流域ネットワーク会員 延岡小学校 ゆりかご児童館 こばと児童館 高鍋自然愛好会 木城スポーツサッカー少年団 木城町立木城小学校 宮崎大学インターンシップ生 大淀川学習館 宮崎市立小戸小学校 えびの市立加久藤小学校 えびの市立加久藤小学校 えびの市立真幸小学校 えびの市立真幸小学校 「えびのさわやか自然の森」えびの市、コカ・コーラエス共催
鹿児島県	肝付町立国見中学校 鹿屋市立鹿屋中学校 伊佐市立南永小学校 南永校区コミュニティ協議会 川内川をつくり見守る会 清色地区コミュニティ協議会 高来地区コミュニティ協議会 べんきょうしつモンシェリハイス 薩摩川内市立大馬越小学校 薩摩川内市立入来中学校 薩摩川内市立育英小学校 県立北薩広域公園 日本棚田百選内之尾棚田を守り隊(鹿児島大学農学部) 薩摩川内市立南瀬小学校 薩摩川内市立朝陽小学校 さつま町立山崎小学校

参考資料5(1) 一級河川の全調査地点の水質(BOD調査地点) (1/8)

地方	水系名	河川名	地点名	平成27年						
				類型	平均値	75%値	1	2	3	
北	天塩川	天塩川	円山	B	0.5	<0.5	7	-	-	
	天塩川	天塩川	若尾内ダム	AA	0.6	0.5	1	-	-	
	天塩川	天塩川	中土別橋	A	0.5	<0.5	3	-	-	
	天塩川	天塩川	中川	B	0.6	0.7	6	-	-	
	天塩川	天塩川	朝日橋	AA	0.5	<0.5	2	-	-	
	天塩川	天塩川	美深橋	B	0.7	0.8	5	-	-	
	天塩川	天塩川	名寄大橋	B	0.7	0.8	4	-	-	
	天塩川	天塩川	真勲別頭首工	A	0.5	<0.5	8	-	-	
	留萌川	チバペリ川	留萌ダム	未	0.9	1.0	12	-	-	
	留萌川	留萌川	16線橋	A	1.1	1.6	10	-	-	
	留萌川	留萌川	橋橋	AA	1.0	1.5	9	-	-	
	留萌川	留萌川	留萌橋	B	1.4	1.3	11	-	-	
	石狩川	オサラッペ川	治水橋	A	0.8	0.9	26	-	-	
	石狩川	茨戸川	生振3線北側地先	B	3.5	4.1	48	-	-	
	石狩川	茨戸川	生振大橋	B	4.2	5.5	46	-	-	
	石狩川	茨戸川	樽川合流前	B	4.9	6.2	47	-	-	
	石狩川	雨竜川	茜橋	B	0.7	0.7	28	-	-	
	石狩川	雨竜川	竜水橋	A	0.6	<0.5	27	-	-	
	石狩川	幾春別川	柱沢ダム	A	0.7	0.9	34	-	-	
	石狩川	幾春別川	新川橋	B	0.8	0.9	36	-	-	
	石狩川	幾春別川	清松橋	A	0.6	0.6	35	-	-	
	石狩川	牛朱別川	功橋	A	0.7	0.9	21	-	-	
	石狩川	牛朱別川	緑橋	B	2.1	2.2	22	-	-	
	石狩川	漁川	漁川ダム	未	0.6	0.6	40	-	-	
	石狩川	空知川	下山山橋	AA	0.6	0.7	30	-	-	
	石狩川	空知川	金山ダム	AA	0.7	0.8	29	-	-	
	石狩川	空知川	空知大橋	B	0.7	0.9	33	-	-	
	石狩川	空知川	泰山橋	A	0.7	0.8	32	-	-	
	石狩川	空知川	滝里ダム	A	0.8	1.0	31	-	-	
	石狩川	小樽内川	定山溪ダム	未	0.5	<0.5	44	-	-	
	石狩川	石狩川	伊納大橋	B	1.8	2.1	15	-	-	
	石狩川	石狩川	永山橋	A	0.6	0.6	14	-	-	
	石狩川	石狩川	砂川大橋	B	1.0	1.1	17	-	-	
	石狩川	石狩川	石狩河口橋	B	1.1	1.1	20	-	-	
	石狩川	石狩川	石狩大橋	B	0.9	1.1	19	-	-	
	石狩川	石狩川	太雪ダム	AA	0.6	0.6	13	-	-	
	石狩川	石狩川	奈井江大橋	B	1.0	0.9	18	-	-	
	石狩川	石狩川	納内橋	B	1.5	1.7	16	-	-	
	石狩川	千歳川	新江別橋	A	1.6	1.7	39	-	-	
	石狩川	千歳川	日の出橋	A	<0.5	<0.5	96	-	-	
石狩川	忠別川	忠別ダム	A	0.5	0.5	23	-	-		
石狩川	忠別川	東神楽橋	A	0.6	0.6	24	-	-		
石狩川	当別川	19線橋	A	0.8	0.9	45	-	-		
石狩川	美瑛川	美瑛緑橋	未	0.6	0.6	25	-	-		
石狩川	豊平川	中沼	B	2.0	1.6	43	-	-		
石狩川	豊平川	豊水大橋	B	0.5	<0.5	42	-	-		
石狩川	豊平川	豊平峠ダム	A	0.5	<0.5	41	-	-		
石狩川	豊平川	幌平橋	B	<0.5	<0.5	97	-	-		
石狩川	夕張川	江別大橋	B	1.1	1.0	38	-	-		
石狩川	夕張川	馬追橋	A	0.8	0.8	37	-	-		
石狩川	尻別川	初田橋	A	<0.5	<0.5	50	-	-		
石狩川	尻別川	名駒	A	0.5	0.5	49	-	-		
石狩川	後志利別川	兜野橋	B	0.6	0.6	54	-	-		
石狩川	後志利別川	今金橋	A	0.5	0.5	53	-	-		
石狩川	後志利別川	住吉	AA	0.5	0.5	52	-	-		
石狩川	後志利別川	美利河ダム	AA	<0.5	<0.5	51	-	-		
石狩川	鶴川	鶴川橋	A	0.5	<0.5	55	-	-		
石狩川	鶴川	鶴川橋	A	0.6	0.6	56	-	-		
石狩川	沙流川	沙流川橋	B	0.6	0.5	60	-	-		
石狩川	沙流川	長知内橋	A	0.5	<0.5	57	-	-		
石狩川	沙流川	二風谷ダム	B	0.5	<0.5	58	-	-		
石狩川	沙流川	平取	B	0.5	0.5	59	-	-		
十勝川	猿別川	止若橋	A	0.7	0.8	71	-	-		
十勝川	下頃辺川	吉野	B	1.4	1.6	72	-	-		
北	十勝川	札内川	札内橋	A	0.6	0.6	69	-	-	
	十勝川	札内川	札内川ダム	AA	<0.5	<0.5	67	-	-	
	十勝川	札内川	南帯橋	AA	0.5	0.5	68	-	-	
	十勝川	十勝川	共栄橋	AA	0.6	0.6	62	-	-	
	十勝川	十勝川	佐幌川合流前	A	0.6	0.6	63	-	-	
	十勝川	十勝川	十勝ダム	AA	0.7	0.7	61	-	-	
	十勝川	十勝川	十勝大橋	B	1.4	1.5	64	-	-	
	十勝川	十勝川	千代田堰堤	B	2.0	2.0	65	-	-	
	十勝川	十勝川	茂岩橋	B	1.4	1.7	66	-	-	
	十勝川	十勝川	千住橋	A	0.9	0.9	70	-	-	
	十勝川	釧路川	釧路川	AA	0.6	0.6	74	-	-	
	十勝川	釧路川	摩周大橋	AA	0.6	0.6	73	-	-	
	十勝川	釧路川	愛国浄水場取水口	A	1.3	1.5	75	-	-	
	十勝川	釧路川	新釧路川	B	1.1	1.3	76	-	-	
	十勝川	釧路川	新川橋	B	1.1	1.3	76	-	-	
	十勝川	網走川	美幌川	B	0.7	0.8	84	-	-	
	十勝川	網走川	網走川	B	1.0	1.1	78	-	-	
	十勝川	網走川	網走川	A	0.6	0.6	77	-	-	
	十勝川	網走川	網走川	B	1.5	2.1	83	-	-	
	十勝川	常呂川	常呂川	A	1.2	1.1	86	-	-	
	十勝川	常呂川	常呂川	A	1.2	1.4	85	-	-	
	十勝川	常呂川	若松橋	B	1.2	1.2	87	-	-	
	十勝川	常呂川	常呂川	B	1.6	1.7	89	-	-	
	十勝川	常呂川	常呂川	B	1.9	2.2	88	-	-	
	十勝川	常呂川	無加川	未	1.0	1.0	90	-	-	
	十勝川	湧別川	湧別川	A	0.7	0.6	91	-	-	
	十勝川	湧別川	湧別川	A	0.8	1.0	92	-	-	
	十勝川	清滑川	清滑川	A	0.6	0.7	94	-	-	
	十勝川	清滑川	清滑川	B	0.6	0.6	95	-	-	
	十勝川	清滑川	清滑川	A	0.5	<0.5	93	-	-	
	東	阿武隈川	阿武隈川	阿久津	B	1.2	1.3	3	-	-
		阿武隈川	阿武隈川	丸森	B	1.9	1.9	10	-	-
		阿武隈川	阿武隈川	岩沼	A	1.6	1.7	11	-	-
		阿武隈川	阿武隈川	高田橋	B	1.8	2.1	4	-	-
		阿武隈川	阿武隈川	黒岩	B	1.4	1.5	5	-	-
		阿武隈川	阿武隈川	須賀川	B	1.1	1.3	1	-	-
		阿武隈川	阿武隈川	伏黒	B	1.3	1.5	8	-	-
		阿武隈川	阿武隈川	舟場	B	1.2	1.4	9	-	-
		阿武隈川	荒川	荒川橋	A	<0.5	<0.5	6	-	-
		阿武隈川	荒川	信夫橋	A	0.5	<0.5	7	-	-
阿武隈川		釈迦堂川	下宿	B	1.0	1.2	2	-	-	
阿武隈川		摺上川	摺上川ダム	A	0.6	0.6	13	-	-	
阿武隈川		大滝根川	三春ダム	A	1.5	1.6	12	-	-	
名取川		広瀬川	三橋	B	1.2	1.4	19	-	-	
名取川		前川	北向橋	AA	0.6	0.7	14	-	-	
名取川		太郎川	いもくぼ橋	AA	0.5	0.5	16	-	-	
名取川		北川	北川橋	AA	0.7	0.7	15	-	-	
名取川		名取川	名取橋	B	1.5	1.8	18	-	-	
名取川		名取川	関上大橋	B	1.0	1.4	20	-	-	
名取川		芥川	名取川合流前	C	1.4	1.8	17	-	-	
鳴瀬川		吉田川	鹿島台	B	1.6	2.0	26	-	-	
鳴瀬川		吉田川	落合	B	1.4	1.4	25	-	-	
鳴瀬川		善川	善川橋	B	1.3	2.0	24	-	-	
鳴瀬川		鳴瀬川	下中ノ目	A	1.0	1.0	22	-	-	
鳴瀬川		鳴瀬川	三本木	A	0.9	0.8	21	-	-	
鳴瀬川		鳴瀬川	小野	B	1.1	1.4	27	-	-	
鳴瀬川		鳴瀬川	南郷	A	1.1	1.2	23	-	-	
北上川		猿ヶ石川	安野橋	A	1.0	1.1	36	-	-	
北上川		猿ヶ石川	落合橋	A	0.8	0.9	34	-	-	
北上川		旧北上川	鹿又	B	1.2	1.3	63	-	-	
北上川		旧北上川	門脇	B	0.8	0.9	64	-	-	
北上川		旧北上川	和測	A	1.0	1.4	62	-	-	
北上川		江合川	荒雄	B	0.8	0.9	60	-	-	
北上川		江合川	轟	AA	0.7	0.8	58	-	-	
北上川		江合川	大深沢	AA	0.5	0.5	59	-	-	

- 1) 印を表示している調査地点は、一級河川の全調査地点のうち主要地点として「図-7 平成27年一級河川の水質状況図」に抽出した地点である。
- 2) 表示している数字は、「参考資料7 平成27年一級河川の水質状況図」に記載した調査地点の番号である。
- 3) 印を表示している調査地点は、環境基準を満足した地点である。また、-印を表示している調査地点は、環境基準の類型指定が未設定の地点である。  
報告下限値を0.5mg/lとして集計している。報告下限値を下回る地点は「<0.5」と表示している。  
類型が未指定の地点は類型を「未」と表示している。  
ダム貯水池の地点名は下線を付けて表示している。

参考資料5(1) 一級河川の全調査地点の水質(BOD調査地点) (2/8)

地方	水系名	河川名	地点名	類型	平成27年					
					平均値	75%値	1	2	3	
東	北上川	江合川	短台	B	1.2	1.5	61	-	-	
	北上川	砂鉄川	門崎橋	A	0.6	0.6	51	-	-	
	北上川	雲石川	東北本線鉄橋	A	0.7	0.8	31	-	-	
	北上川	小鬼ヶ瀬川	天子森	未	0.6	0.7	41	-	-	
	北上川	小友川	小友橋	A	0.6	0.6	35	-	-	
	北上川	胆沢川	前川	AA	<0.5	<0.5	44	-	-	
	北上川	胆沢川	下嵐江	AA	0.5	<0.5	46	-	-	
	北上川	胆沢川	再巡橋	A	0.7	0.8	45	-	-	
	北上川	胆沢川	胆沢ダム貯水池	A	0.6	0.6	65	-	-	
	北上川	中津川	御殿橋	A	0.7	0.7	30	-	-	
	北上川	磐井川	狐禅寺橋	C	1.1	1.4	49	-	-	
	北上川	磐井川	上の橋	A	0.7	0.8	48	-	-	
	北上川	北上川	金ヶ崎橋	A	1.1	1.2	43	-	-	
	北上川	北上川	狐禅寺	A	1.0	1.2	50	-	-	
	北上川	北上川	珊瑚橋	A	1.0	1.1	39	-	-	
	北上川	北上川	四十四田橋(2)	A	0.8	0.8	29	-	-	
	北上川	北上川	紫波橋	A	1.0	1.2	33	-	-	
	北上川	北上川	昭和橋	A	1.0	1.2	38	-	-	
	北上川	北上川	船田橋(2)	A	0.8	1.1	28	-	-	
	北上川	北上川	大泉	A	1.2	1.5	54	-	-	
	北上川	北上川	朝日橋	A	1.0	1.1	37	-	-	
	北上川	北上川	登米	A	1.0	1.2	55	-	-	
	北上川	北上川	藤橋	A	1.0	1.0	47	-	-	
	北上川	北上川	南大橋	A	0.7	0.8	32	-	-	
	北上川	北上川	飯野川	A	1.1	1.4	56	-	-	
	北上川	北上川	飯野川橋	A	1.0	1.2	57	-	-	
	北上川	北上川	北上川橋	A	1.0	1.0	53	-	-	
	北上川	北上川	北上大橋	A	1.1	1.4	52	-	-	
	北上川	和賀川	九年橋	A	0.7	0.8	42	-	-	
	北上川	和賀川	山室橋	AA	0.6	<0.5	40	-	-	
	馬淵川	馬淵川	柳引橋	A	1.1	1.1	66	-	-	
	馬淵川	馬淵川	尻内橋	B	1.1	1.1	67	-	-	
	馬淵川	馬淵川	大橋	B	0.9	1.0	68	-	-	
	高瀬川	高瀬川	上野	A	0.7	0.7	69	-	-	
	岩木川	岩木川	安東橋	A	0.6	0.7	71	-	-	
	岩木川	岩木川	乾橋	A	1.7	1.9	77	-	-	
	岩木川	岩木川	三好橋	A	1.5	1.8	78	-	-	
	岩木川	岩木川	山田川河口	B	2.5	3.1	83	-	-	
	岩木川	岩木川	十三湖大橋	B	1.4	2.0	81	-	-	
	岩木川	岩木川	十三湖中央	B	2.4	2.2	82	-	-	
	岩木川	岩木川	上岩木橋	A	1.0	1.0	70	-	-	
	岩木川	岩木川	神田橋	A	1.5	1.9	79	-	-	
	岩木川	岩木川	鳥谷川河口	B	1.7	1.7	84	-	-	
	岩木川	岩木川	津軽大橋	B	1.7	1.9	80	-	-	
	岩木川	岩木川	鶴寿橋	A	2.0	3.0	76	-	-	
	岩木川	岩木川	幡籠橋	A	1.3	1.5	75	-	-	
	岩木川	浅瀬石川	朝日橋	A	0.8	0.9	72	-	-	
	岩木川	平川	平川橋	A	0.8	0.9	74	-	-	
	岩木川	平川	豊平橋	A	0.7	0.9	73	-	-	
	米代川	小又川	森吉山ダム	未	0.6	0.6	90	-	-	
米代川	米代川	十二所	B	0.8	1.0	85	-	-		
米代川	米代川	新真中橋(真中橋)	B	0.8	0.9	86	-	-		
米代川	米代川	鷹巣	B	0.9	1.1	87	-	-		
米代川	米代川	二ツ井	B	0.9	1.2	88	-	-		
米代川	米代川	能代	B	0.8	1.0	89	-	-		
雄物川	横手川	藤木上橋	B	1.2	1.4	95	-	-		
雄物川	皆瀬川	岩崎橋	A	0.9	0.9	93	-	-		
雄物川	玉川	玉川ダム	AA	<0.5	<0.5	101	-	-		
雄物川	玉川	玉川橋	A	0.6	0.6	98	-	-		
雄物川	玉川	長野	A	0.5	0.5	97	-	-		
雄物川	成瀬川	真人橋	AA	0.6	0.7	92	-	-		
雄物川	雄物川	岳見橋	A	0.6	0.7	99	-	-		
雄物川	雄物川	酒蔵橋	A	0.5	0.5	91	-	-		
雄物川	雄物川	大曲橋	A	0.9	1.0	96	-	-		
北	雄物川	雄物川	橋川	A	0.7	0.6	100	-	-	
	雄物川	雄物川	雄物川橋	A	0.8	0.9	94	-	-	
	子吉川	子吉川	宮内	A	0.8	0.9	102	-	-	
	子吉川	子吉川	本荘大橋	B	1.0	1.2	103	-	-	
	最上川	寒河江川	中村	AA	0.6	0.7	108	-	-	
	最上川	最上川	稲下	A	1.5	1.8	109	-	-	
	最上川	最上川	下野	A	1.5	1.9	107	-	-	
	最上川	最上川	糠野目	A	1.1	1.1	104	-	-	
	最上川	最上川	高屋	A	0.7	0.7	115	-	-	
	最上川	最上川	砂越	A	0.7	0.7	118	-	-	
	最上川	最上川	小出	A	1.0	1.2	105	-	-	
	最上川	最上川	堀内	A	0.9	1.1	112	-	-	
	最上川	最上川	両羽橋	A	0.7	0.8	119	-	-	
	最上川	鮭川	戸沢橋	A	0.6	0.6	114	-	-	
	最上川	鮭川	八千代橋	AA	0.6	0.6	113	-	-	
	最上川	須川	寺津	B	0.9	0.9	106	-	-	
	最上川	相沢川	宝永橋	A	0.7	0.9	117	-	-	
	最上川	村山野川	舟戸橋	A	1.2	1.5	110	-	-	
	最上川	丹生川	丹生川大橋	A	0.7	0.7	111	-	-	
	最上川	置賜白川	白川ダム	A	0.7	0.9	120	-	-	
	最上川	置賜野川	長井ダム	A	0.7	1.0	121	-	-	
	最上川	立谷沢川	東雲橋	A	<0.5	<0.5	116	-	-	
	赤川	赤川	蛾眉橋(横山)	A	0.7	0.6	123	-	-	
	赤川	赤川	新川橋(浜中)	A	0.6	0.6	124	-	-	
	赤川	赤川	東橋	A	0.5	0.5	122	-	-	
	赤川	赤川	月山ダム	A	0.5	<0.5	125	-	-	
	東	久慈川	久慈川	榊橋	A	0.8	1.0	5	-	-
		久慈川	久慈川	山方	A	0.8	0.9	1	-	-
		久慈川	久慈川	富岡橋	A	0.8	0.9	2	-	-
		久慈川	山田川	東橋	A	1.0	1.2	3	-	-
		久慈川	里川	新落合橋	A	0.9	1.0	4	-	-
		那珂川	桜川	駅南小橋	C	3.3	3.6	13	-	-
		那珂川	桜川	搦手橋	C	3.3	3.8	14	-	-
		那珂川	藤井川	上合橋	A	0.9	0.8	12	-	-
		那珂川	那珂川	下園井	A	0.8	0.9	9	-	-
		那珂川	那珂川	海門橋	A	0.7	0.8	11	-	-
		那珂川	那珂川	勝田橋	A	0.9	1.0	10	-	-
		那珂川	那珂川	新那珂橋	A	0.6	0.7	6	-	-
		那珂川	那珂川	川堀	A	0.8	0.8	7	-	-
		那珂川	那珂川	野口	A	0.7	0.9	8	-	-
		那珂川	濁沼川	濁沼橋	B	1.1	1.1	15	-	-
		利根川	綾瀬川	手代橋	C	2.4	3.0	52	-	-
		利根川	綾瀬川	内匠橋	C	1.9	2.3	53	-	-
		利根川	綾瀬川	槐戸橋	C	2.2	2.9	51	-	-
		利根川	烏川	岩倉橋	B	1.8	2.2	80	-	-
		利根川	烏川	岩鼻	B	1.9	2.0	79	-	-
		利根川	烏川	高松	B	1.5	1.7	78	-	-
		利根川	利根川	八筋川	未	3.9	4.3	35	-	-
		利根川	旗川	旗川末流	B	1.3	1.8	58	-	-
		利根川	鬼怒川	鬼怒川橋	A	0.6	0.8	62	-	-
利根川		鬼怒川	上平橋	A	0.7	0.7	61	-	-	
利根川		鬼怒川	川治第一発電所前	AA	0.6	0.6	76	-	-	
利根川		鬼怒川	川島橋	A	0.8	1.0	64	-	-	
利根川		鬼怒川	大道泉橋	A	0.7	0.9	63	-	-	
利根川		鬼怒川	滝下橋	A	1.4	1.6	67	-	-	
利根川		鬼怒川	平方	A	1.0	1.2	65	-	-	
利根川		鬼怒川	豊水橋	A	1.2	1.3	66	-	-	
利根川		江戸川	関宿橋	A	0.7	0.9	36	-	-	
利根川		江戸川	江戸川水門(上)	B	0.9	1.3	42	-	-	
利根川		江戸川	市川橋	B	0.8	1.0	41	-	-	
利根川		江戸川	新葛飾橋	A	0.9	1.1	39	-	-	
利根川		江戸川	野田橋	A	0.8	0.9	37	-	-	
利根川		江戸川	矢切浄水場取水口	A	0.8	1.0	40	-	-	
利根川		江戸川	流山橋	A	0.9	1.0	38	-	-	

- 1) 印を表示している調査地点は、一級河川の全調査地点のうち主要地点として「図-7 平成27年一級河川の水質状況図」に抽出した地点である。
- 2) 表示している数字は、「参考資料7 平成27年一級河川の水質状況図」に記載した調査地点の番号である。
- 3) 印を表示している調査地点は、環境基準を満足した地点である。また、-印を表示している調査地点は、環境基準の類型指定が未設定の地点である。  
報告下限値を0.5mg/lとして集計している。報告下限値を下回る地点は「<0.5」と表示している。  
類型が未指定の地点は類型を「未」と表示している。  
ダム貯水池の地点名は下線を付けて表示している。

参考資料5(1) 一級河川の全調査地点の水質(BOD調査地点) (3/8)

地方	水系名	河川名	地点名	類型	平成27年				
					平均値	75%値	1	2	3
東	利根川	江戸川放水路	東西線鉄橋下	C	2.6	3.0	43		
	利根川	秋山川	秋山川未流	C	2.4	2.6	60		
	利根川	小貝川	黒子橋	A	1.3	1.5	70		
	利根川	小貝川	三谷橋	A	1.0	1.2	68		
	利根川	小貝川	川又橋	A	1.0	1.1	72		
	利根川	小貝川	中郷	A	1.7	1.9	33		
	利根川	小貝川	文巻橋	A	1.2	1.5	73		
	利根川	小貝川	豊原橋	A	1.4	1.6	71		
	利根川	小貝川	養蚕橋	A	1.2	1.4	69		
	利根川	神流川	神流川橋	A	0.7	0.8	82		
	利根川	神流川	藤武橋	A	0.8	0.9	81		
	利根川	男鹿川	五十里ダム	AA	0.7	0.8	165		
	利根川	男鹿川	男鹿川未流	AA	0.6	0.6	77		
	利根川	中川	高砂橋	C	2.2	2.6	50		
	利根川	中川	潮止橋	C	2.2	2.4	48		
	利根川	中川	八条橋	C	2.1	1.9	47		
	利根川	中川	飯塚橋	C	2.2	2.4	49		
	利根川	中川	弥生橋	C	1.9	2.3	46		
	利根川	渡良瀬川	三国橋	B	1.7	2.3	23		
	利根川	渡良瀬川	新開橋	B	1.9	2.4	22		
	利根川	渡良瀬川	赤岩用水取水口	A	0.7	0.9	54		
	利根川	渡良瀬川	中岩	A	0.8	1.0	56		
	利根川	渡良瀬川	渡良瀬大橋	B	1.4	1.7	57		
	利根川	渡良瀬川	葉鹿橋	A	0.9	1.2	55		
	利根川	湯西川	貯水池(湯西川ダム)	AA	0.7	0.7	172		
	利根川	巴波川	巴波橋	B	2.0	2.6	24		
	利根川	矢場川	矢場川水門	C	1.9	2.4	59		
	利根川	利根運河	運河(合流前)	B	5.4	5.2	45		
	利根川	利根運河	運河橋	B	3.5	4.2	44		
	利根川	利根川	河口堰	A	1.9	2.3	31		
	利根川	利根川	芽吹橋	A	1.2	1.3	21		
	利根川	利根川	岩本	A	1.0	1.0	74		
	利根川	利根川	金江津	A	1.7	2.2	29		
	利根川	利根川	栗橋	A	1.1	1.1	20		
	利根川	利根川	群馬大橋	A	0.9	0.8	75		
	利根川	利根川	坂東大橋	A	0.8	0.8	16		
	利根川	利根川	取手	A	1.5	1.8	26		
	利根川	利根川	上武大橋	A	0.9	1.0	17		
	利根川	利根川	須賀	A	1.7	2.1	28		
	利根川	利根川	水郷大橋(佐原)	A	1.8	2.3	30		
利根川	利根川	銚子大橋	A	1.5	1.7	32			
利根川	利根川	刀水橋	A	1.1	1.2	18			
利根川	利根川	布川	A	1.6	2.2	27			
利根川	利根川	利根大堰	A	0.8	1.1	19			
利根川	荒川	浦山川	未	0.8	1.0	139			
利根川	荒川	越辺川	B	2.3	3.0	91			
利根川	荒川	荒川	A	1.0	1.0	86			
利根川	荒川	葛西橋	C	1.5	1.8	97			
利根川	荒川	久下橋	A	0.8	0.9	84			
利根川	荒川	御成橋	A	0.9	0.9	85			
利根川	荒川	笹目橋	C	3.4	3.8	95			
利根川	荒川	治水橋	A	1.1	1.2	87			
利根川	荒川	秋ヶ瀬堰(上)	A	1.2	1.7	88			
利根川	荒川	堀切橋	C	2.2	2.6	96			
利根川	荒川(指定)	正喜橋	A	0.6	0.6	83			
利根川	高麗川	高麗川大橋	A	0.5	<0.5	92			
利根川	荒川	小畔川	B	1.9	1.9	94			
利根川	荒川	中津川	未	0.9	1.2	169			
利根川	荒川	都幾川	A	0.5	0.5	93			
利根川	荒川	入間川	A	2.2	2.8	90			
利根川	荒川	入間川	A	1.0	1.5	89			
多摩川	浅川	高幡橋	B	0.6	0.6	110			
多摩川	浅川	鶴巻橋	A	0.8	0.9	114			
多摩川	多摩川	永田橋	A	1.0	1.0	98			
東	多摩川	多摩川	関戸橋	B	1.6	2.0	102		
	多摩川	多摩川	新二子橋	B	1.6	1.7	113		
	多摩川	多摩川	是政橋	B	1.7	1.7	103		
	多摩川	多摩川	多摩水道橋	B	1.7	1.9	105		
	多摩川	多摩川	多摩川原橋	B	1.6	1.9	104		
	多摩川	多摩川	大師橋	B	1.6	1.8	109		
	多摩川	多摩川	調布橋	A	0.5	0.5	99		
	多摩川	多摩川	田園調布埋(上)	B	1.5	1.6	107		
	多摩川	多摩川	二子橋	B	1.4	1.6	106		
	多摩川	多摩川	日野橋	B	1.4	1.6	101		
	多摩川	多摩川	拝島橋	A	0.6	0.7	100		
	多摩川	多摩川	六郷橋	B	2.0	2.9	108		
	多摩川	多摩川	報恩橋	B	0.8	0.9	111		
	多摩川	野川	兵庫橋	D	2.2	2.6	112		
	多摩川	鶴見川	早淵川	未	1.6	1.2	121	-	
	多摩川	鶴見川	大熊川	未	1.3	1.3	119	-	
	多摩川	鶴見川	鳥山川	未	1.2	1.2	120	-	
	多摩川	鶴見川	鶴見川	D	3.2	3.8	115		
	多摩川	鶴見川	鶴見川	E	3.0	4.0	116		
	多摩川	鶴見川	鶴見川	E	1.8	1.7	117		
	多摩川	鶴見川	鶴見川	E	1.3	1.2	118		
	多摩川	鶴見川	矢上川	未	1.8	2.2	122	-	
	多摩川	相模川	相模川	B	1.0	0.9	170		
	多摩川	相模川	馬入橋	B	1.2	1.3	123		
	多摩川	富士川	塩川	未	0.6	<0.5	138	-	
	多摩川	富士川	釜無川	A	0.6	0.5	129		
	多摩川	富士川	釜無川	A	0.6	<0.5	130		
	多摩川	富士川	釜無川	AA	0.7	<0.5	131		
	多摩川	富士川	重川	B	0.9	1.3	137		
	多摩川	富士川	笛吹川	A	0.7	0.8	134		
	多摩川	富士川	笛吹川	A	0.6	0.7	135		
	多摩川	富士川	笛吹川	A	0.9	1.1	132		
	多摩川	富士川	笛吹川	A	1.1	1.6	133		
	多摩川	富士川	日川	A	0.6	<0.5	136		
	多摩川	富士川	南部	A	0.6	0.5	126		
	多摩川	富士川	富士川	A	0.8	0.9	127		
	多摩川	富士川	富士川	A	1.1	1.3	128		
	多摩川	富士川	富士川	A	0.7	0.8	124		
	多摩川	富士川	富士川	A	0.6	<0.5	125		
	多摩川	荒川	横川	未	1.4	2.1	6	-	
多摩川	荒川	荒川	AA	0.6	0.6	4	-		
多摩川	荒川	荒川	AA	0.6	0.6	1	-		
多摩川	荒川	荒川	AA	0.5	0.5	3	-		
多摩川	荒川	荒川	AA	0.6	0.6	2	-		
多摩川	荒川	大石川	未	1.0	1.2	5	-		
多摩川	阿賀野川	阿賀野川	A	0.8	0.8	9			
多摩川	阿賀野川	阿賀野川	A	1.0	0.9	11			
多摩川	阿賀野川	阿賀野川	A	0.7	0.8	7			
多摩川	阿賀野川	阿賀野川	A	0.8	0.9	13			
多摩川	阿賀野川	阿賀野川	A	0.9	1.0	14			
多摩川	阿賀野川	阿賀野川	A	0.9	1.0	12			
多摩川	阿賀野川	阿賀野川	AA	0.8	1.0	15			
多摩川	阿賀野川	湯川	B	2.1	2.6	8			
多摩川	阿賀野川	日橋川	A	0.7	0.8	10			
多摩川	信濃川	間屋分水路	未	1.3	1.2	41	-		
多摩川	信濃川	魚野川	A	0.7	0.7	29			
多摩川	信濃川	魚野川	A	0.7	0.7	30			
多摩川	信濃川	高瀬川	AA	<0.5	<0.5	52			
多摩川	信濃川	犀川	A	0.9	1.0	23			
多摩川	信濃川	犀川	A	1.5	1.6	21			
多摩川	信濃川	犀川	A	1.1	1.2	22			
多摩川	信濃川	犀川	A	0.8	0.9	19			
多摩川	信濃川	三国川	未	0.5	0.5	31	-		
多摩川	信濃川	信濃川	A	2.8	1.1	32			

- 1) 印を表示している調査地点は、一級河川の全調査地点のうち主要地点として「図-7 平成27年一級河川の水質状況図」に抽出した地点である。
- 2) 表示している数字は、「参考資料7 平成27年一級河川の水質状況図」に記載した調査地点の番号である。
- 3) 印を表示している調査地点は、環境基準を満足した地点である。また、-印を表示している調査地点は、環境基準の類型指定が未設定の地点である。  
報告下限値を0.5mg/lとして集計している。報告下限値を下回る地点は「<0.5」と表示している。  
類型が未指定の地点は類型を「未」と表示している。  
ダム貯水池の地点名は下線を付けて表示している。

参考資料5(1) 一級河川の全調査地点の水質(BOD調査地点) (4/8)

地方	水系名	河川名	地点名	平成27年						
				類型	平均値	75%値	1	2	3	
北	信濃川	信濃川	河口	A	0.8	0.8		40		
	信濃川	信濃川	魚沼橋	A	1.6	1.3		28		
	信濃川	信濃川	十日町橋	A	1.3	1.6		27		
	信濃川	信濃川	庄瀬橋	A	0.9	1.1		37		
	信濃川	信濃川	瑞雲橋	A	1.1	1.2		36		
	信濃川	信濃川	長生橋	A	1.3	1.3		33		
	信濃川	信濃川	平成大橋	A	1.2	1.4		38		
	信濃川	信濃川	与板橋	A	1.1	1.0		34		
	信濃川	信濃川	萬代橋	A	1.1	1.2		39		
	信濃川	千曲川	屋島橋	A	1.3	1.4		24		
	信濃川	千曲川	生田	A	1.2	1.5		17		
	信濃川	千曲川	千曲橋	A	1.4	1.7		18		
	信濃川	千曲川	大関橋	A	1.6	1.7		26		
	信濃川	千曲川	立ヶ花橋	A	1.3	1.4		25		
	信濃川	大津分水路	渡部橋	A	1.4	1.6		35		
	信濃川	奈良井川	島橋	A	2.1	2.5		20		
	信濃川	関川	稲田橋	B	1.3	1.5		42		
	信濃川	関川	春山橋	B	1.3	1.5		43		
	信濃川	関川	直江津橋	B	1.2	1.3		44		
	信濃川	関川	保倉川	B	1.5	1.8		45		
	信濃川	姫川	山本	AA	0.8	0.8		46		
	信濃川	姫川	姫川大橋	AA	0.7	0.8		47		
	信濃川	黒部川	愛本橋	AA	0.5	<0.5		49		
	信濃川	黒部川	宇奈月	AA	<0.5	<0.5		48		
	信濃川	黒部川	下黒部橋	AA	0.6	0.7		50		
	信濃川	黒部川	湖面橋	AA	0.5	0.5		51		
	信濃川	常願寺川	今川橋	A	0.6	0.6		54		
	信濃川	常願寺川	常願寺橋	AA	0.6	0.5		53		
	信濃川	神通川	井田川	B	1.9	2.3		57		
	信濃川	神通川	井田川	A	0.6	0.7		56		
	信濃川	神通川	熊野川	A	1.0	1.0		55		
	信濃川	神通川	神通川	A	0.7	0.7		58		
	信濃川	神通川	神通川	B	1.0	1.0		59		
	信濃川	庄川	庄川	A	0.6	0.5		61		
	信濃川	庄川	雄神橋	AA	0.5	0.5		60		
	信濃川	小矢部川	河口	C	1.3	1.4		64		
	信濃川	小矢部川	国奈橋	A	1.0	1.0		62		
	信濃川	小矢部川	城光寺橋	B	1.2	1.3		63		
	信濃川	手取川	手取川	A	0.5	0.5		68		
	信濃川	手取川	底口橋	A	0.6	0.6		66		
	信濃川	手取川	白山合口堰堤	A	0.6	0.5		65		
	信濃川	手取川	美川大橋	B	0.6	0.5		67		
	信濃川	梯川	梯川	A	0.9	1.1		69		
	信濃川	梯川	石田橋	B	0.8	1.0		71		
	信濃川	梯川	能美大橋	A	0.8	1.0		70		
	中	狩野川	黄瀬川	黄瀬川橋	C	1.2	1.3		6	
狩野川		柿田川	柿田橋	未	<0.5	<0.5		8		
狩野川		狩野川	黒瀬橋	A	0.6	0.6		4		
狩野川		狩野川	千歳橋	A	<0.5	<0.5		2		
狩野川		狩野川	大仁橋	A	0.5	<0.5		1		
狩野川		狩野川	徳倉橋	A	0.7	0.7		3		
狩野川		大場川	塚本橋	B	1.1	1.4		5		
狩野川		狩野川	来光川	A	0.8	0.9		7		
安部川		安部川	安部川橋	A	0.5	<0.5		10		
安部川		安部川	曙橋	AA	<0.5	<0.5		9		
安部川		安部川	牧ヶ谷橋	AA	<0.5	<0.5		11		
大井川		大井川	神座	AA	0.5	<0.5		13		
大井川		大井川	谷口橋	A	1.0	1.2		14		
大井川		大井川	長島ダム貯水池基準点	AA	0.7	0.6		12		
大井川		大井川	富士見橋	A	0.8	0.9		15		
菊川		菊川	加茂橋	A	0.7	0.6		16		
菊川		菊川	高田橋	A	1.0	1.0		17		
菊川		菊川	国安橋	B	0.9	1.0		18		
菊川		牛淵川	鹿島橋	B	1.4	1.6		19		
部		菊川	牛淵川	堂山橋	B	2.0	2.3		20	
		天竜川	三峰川	美和ダム貯水池	A	1.0	1.2		33	
		天竜川	三峰川	竜東橋	A	0.8	1.0		34	
	天竜川	小波川	小波ダム貯水池	AA	1.0	1.4		35		
	天竜川	大入川	新豊根ダム貯水池	未	0.8	0.8		36		
	天竜川	天竜川	つづじ橋	A	1.3	1.5		27		
	天竜川	天竜川	阿島橋	A	1.3	1.4		25		
	天竜川	天竜川	掛塚橋	AA	0.6	0.7		32		
	天竜川	天竜川	吉瀬ダム	A	1.3	1.4		23		
	天竜川	天竜川	宮ヶ瀬橋	A	1.2	1.4		24		
	天竜川	天竜川	鹿島橋	AA	0.6	0.6		31		
	天竜川	天竜川	秋葉ダム	AA	0.6	0.7		30		
	天竜川	天竜川	新樋橋	B	1.9	2.2		21		
	天竜川	天竜川	中央橋	B	1.6	1.9		22		
	天竜川	天竜川	天竜橋	A	1.2	1.4		26		
	天竜川	天竜川	南宮橋	A	1.4	1.6		28		
	豊川	豊川	吉田大橋	B	0.6	0.7		40		
	豊川	豊川	江島橋	A	0.6	0.7		38		
	豊川	豊川	石田	A	0.6	0.5		37		
	豊川	豊川	当古橋	A	0.6	0.6		39		
	豊川	豊川放水路	小坂井大橋	C	1.2	1.6		41		
	矢作川	矢作川	岩津天神橋	B	0.9	1.1		44		
	矢作川	矢作川	中畑橋	B	1.0	1.1		47		
	矢作川	矢作川	米津大橋	B	0.7	0.7		46		
	矢作川	矢作川	明治用水頭首工	A	0.8	1.0		43		
	矢作川	矢作川	木戸	B	0.7	0.7		45		
	矢作川	矢作川	矢作ダム貯水池	AA	0.7	0.9		42		
	庄内川	小里川	小里川ダム貯水池基準	B	1.5	1.9		56		
	庄内川	庄内川	庄内新川橋	D	2.2	2.6		54		
	庄内川	庄内川	城嶺橋	B	1.1	1.5		50		
	庄内川	庄内川	水分橋	D	3.0	3.2		52		
	庄内川	庄内川	多治見橋	B	1.0	0.9		48		
	庄内川	庄内川	大留橋	D	1.3	1.5		51		
	庄内川	庄内川	天ヶ橋	B	1.3	1.5		49		
	庄内川	庄内川	枇杷島橋	D	2.5	2.9		53		
	庄内川	矢田川	天神橋	D	2.9	3.5		55		
	木曾川	阿木川	阿木川ダム	A	1.0	1.2		64		
	木曾川	伊自良川	縁船橋	A	0.6	0.7		73		
	木曾川	伊自良川	竹橋	C	2.1	2.6		74		
	木曾川	杭瀬川	高瀬橋	A	1.1	1.3		86		
木曾川	杭瀬川	野口橋	A	0.6	0.6		85			
木曾川	根尾川	山口	AA	0.5	<0.5		82			
木曾川	新境川	米野	C	1.4	1.5		66			
木曾川	水門川	二水橋	C	3.3	3.4		87			
木曾川	多度川	上之郷	A	1.5	1.6		88			
木曾川	長良川	伊勢大橋	A	1.4	1.9		72			
木曾川	長良川	鏡島大橋	A	0.6	<0.5		68			
木曾川	長良川	長良大橋	A	0.6	<0.5		69			
木曾川	長良川	東海大橋	A	1.0	1.0		71			
木曾川	長良川	南濃大橋	A	1.0	1.2		70			
木曾川	長良川	藍川橋	A	0.5	<0.5		67			
木曾川	馬瀬川	岩屋ダム	AA	0.6	0.7		65			
木曾川	牧田川	檀曾根橋	A	0.6	0.6		83			
木曾川	牧田川	池辺	C	1.5	1.6		84			
木曾川	木曾川	横満蔵	A	1.4	1.6		63			
木曾川	木曾川	丸山ダム貯水池	A	0.5	<0.5		58			
木曾川	木曾川	大山橋	A	0.6	0.6		59			
木曾川	木曾川	東海大橋	A	0.9	0.9		62			
木曾川	木曾川	濃尾大橋	A	0.6	0.6		61			
木曾川	木曾川	木曾川橋	A	0.5	0.5		60			
木曾川	揖斐川	伊勢大橋	A	1.4	1.5		81			
木曾川	揖斐川	岡島橋	AA	0.6	0.6		77			
木曾川	揖斐川	海津橋	A	1.2	1.1		80			
木曾川	揖斐川	鷺田橋	AA	0.5	0.6		78			

- 1) 印を表示している調査地点は、一級河川の全調査地点のうち主要地点として「図-7 平成27年一級河川の水質状況図」に抽出した地点である。
- 2) 表示している数字は、「参考資料7 平成27年一級河川の水質状況図」に記載した調査地点の番号である。
- 3) 印を表示している調査地点は、環境基準を満足した地点である。また、-印を表示している調査地点は、環境基準の類型指定が未設定の地点である。  
報告下限値を0.5mg/lとして集計している。報告下限値を下回る地点は「<0.5」と表示している。  
類型が未指定の地点は類型を「未」と表示している。  
ダム貯水池の地点名は下線を付けて表示している。

参考資料5(1) 一級河川の全調査地点の水質(BOD調査地点) (5/8)

地方	水系名	河川名	地点名	平成27年						
				類型	平均値	75%値	1	2	3	
中部	木曾川	揖斐川	徳山ダム	AA	0.7	0.8	75			
	木曾川	揖斐川	福岡大橋	A	0.9	1.0	79			
	鈴鹿川	安楽川	和泉橋	AA	0.6	<0.5	96			
	鈴鹿川	内部川	河原田橋	A	0.7	0.8	95			
	鈴鹿川	鈴鹿川	勸進橋	AA	<0.5	<0.5	89			
	鈴鹿川	鈴鹿川	高岡橋	A	0.6	0.5	93			
	鈴鹿川	鈴鹿川	小倉橋	A	0.6	0.5	94			
	鈴鹿川	鈴鹿川	庄野橋	A	0.6	0.5	92			
	鈴鹿川	鈴鹿川	中富田	A	0.5	<0.5	91			
	鈴鹿川	鈴鹿川	鈴国橋	AA	0.5	<0.5	90			
	雲出川	雲出川	雲出橋	A	0.8	0.8	98			
	雲出川	雲出川	大仰橋	A	0.6	0.6	97			
	雲出川	中村川	小川橋	AA	0.6	0.5	99			
	柳田川	柳田川	柳田橋	A	0.6	0.6	102			
	柳田川	柳田川	両郡橋	A	0.5	0.5	101			
	柳田川	柳田川	松阪東大橋	A	0.6	0.9	103			
	柳田川	蓮川	蓮ダム貯水池基準点	未	0.8	1.1	100	-		
	宮川	宮川	岩出	AA	0.5	<0.5	104			
	宮川	宮川	度会橋	AA	0.5	<0.5	105			
	宮川	勢田川	勢田大橋	C	3.0	2.6	106			
	近畿	新宮川	熊野川	熊野川河口	A	0.7	0.5	4		
		新宮川	熊野川	熊野大橋	A	0.5	<0.5	2		
		新宮川	市田川	市田川河口	E	2.5	3.5	3		
		新宮川	川原樋川	川原樋川取水口	AA	0.6	<0.5	1		
紀の川		紀の川	岸上橋	A	1.1	1.4	8			
紀の川		紀の川	紀の川大橋	A	1.9	1.6	14			
紀の川		紀の川	御蔵橋	A	0.8	0.6	6			
紀の川		紀の川	三谷橋	A	0.9	1.1	9			
紀の川		紀の川	新六ヶ井堰	A	1.7	2.3	13			
紀の川		紀の川	船戸	A	0.8	1.0	12			
紀の川		紀の川	大川橋	A	0.6	0.6	5			
紀の川		紀の川	太連ダム湖ダムサイト	AA	0.8	1.0	15			
紀の川		紀の川	藤崎井堰	A	0.7	0.8	10			
紀の川		紀の川	恋野橋	A	0.7	0.7	7			
紀の川		高島川	高島橋	A	1.2	1.1	11			
大和川		佐保川	井筒橋	C	3.1	3.4	16			
大和川		佐保川	額田部高橋	C	2.6	2.5	28			
大和川		佐保川	郡界橋	C	2.3	2.3	29			
大和川		初瀬川	上吐田	C	2.6	3.0	17			
大和川		石川	石川橋	B	1.0	1.1	24			
大和川		曾我川	小柳橋	C	1.4	1.6	19			
大和川		曾我川	保橋	C	2.3	2.2	20			
大和川		大和川	遠里小野橋	D	1.7	2.1	27			
大和川		大和川	河内橋	C	1.7	2.1	25			
大和川	大和川	御幸大橋	C	2.7	2.8	21				
大和川	大和川	国豊橋	C	2.2	2.8	23				
大和川	大和川	浅香新取水口	C	1.6	2.0	26				
大和川	大和川	太子橋	C	3.2	3.4	18				
大和川	大和川	藤井	C	2.5	2.9	22				
淀川	淀川	二重ダム	未	1.1	1.2	73	-			
淀川	宇治川	隠元橋	A	0.8	0.9	36				
淀川	宇治川	宇治橋	A	0.7	0.7	35				
淀川	宇治川	宇治川御幸橋	B	1.0	1.2	41				
淀川	宇治川	宇治川大橋	B	0.8	0.8	40				
淀川	宇治川	観月橋	B	0.8	0.8	38				
淀川	宇治川	大橋橋(天ヶ瀬ダム湖)	A	0.8	1.0	34				
淀川	宇陀川	安部田	未	0.8	0.9	50	-			
淀川	宇陀川	高倉橋	A	0.8	0.9	56				
淀川	宇陀川	室生路橋	A	0.7	0.8	58				
淀川	宇陀川	辻堂橋	A	0.8	0.9	57				
淀川	芥川	鷺打橋	A	0.8	0.7	72				
淀川	桂川	羽束師橋	A	1.1	1.2	66				
淀川	桂川	久世橋	A	0.8	0.8	65				
淀川	桂川	宮前橋	A	1.2	1.1	67				
畿内	淀川	桂川	西大橋	A	0.7	0.8	64			
	淀川	桂川	貯水池基準点(日吉ダム)	A	0.6	0.5	62			
	淀川	桂川	渡月橋	A	0.6	0.6	63			
	淀川	最明寺川	最明寺川流末	未	1.1	1.1	76	-		
	淀川	山科川	中野橋	未	2.6	2.3	37	-		
	淀川	瀬田川	洗堰下	A	1.0	1.1	30			
	淀川	瀬田川	唐橋流心	A	0.6	0.5	31			
	淀川	青蓮寺川	青蓮寺ダム湖	未	1.1	1.1	48	-		
	淀川	藻川	中園橋	B	0.8	1.0	82			
	淀川	駄六川	駄六川流末	未	1.2	1.2	79	-		
	淀川	猪名川	銀橋	A	0.8	0.9	74			
	淀川	猪名川	軍行橋	A	0.8	1.0	77			
	淀川	猪名川	呉服橋	A	0.7	0.8	75			
	淀川	猪名川	猪名川橋	D	0.8	1.0	80			
	淀川	猪名川	利倉	D	6.0	7.5	81			
	淀川	東高瀬川	三栖橋	未	0.9	0.9	39	-		
	淀川	内川	内川流末	未	3.0	1.6	78	-		
	淀川	服部川	伊賀上野橋	A	1.0	1.2	44			
	淀川	名張川	家野橋	A	1.0	1.1	52			
	淀川	名張川	高山ダム下流	未	0.9	1.0	55	-		
	淀川	名張川	高山ダム湖	未	1.0	1.0	54	-		
	淀川	名張川	新夏見橋	A	0.8	1.1	49			
	淀川	名張川	比奈知ダム湖	A	0.7	0.7	53			
	淀川	名張川	名張	A	0.9	1.1	51			
淀川	木津川	加茂恭仁大橋	A	0.8	1.0	59				
淀川	木津川	岩倉橋	A	1.1	1.2	45				
淀川	木津川	玉水橋	A	0.8	1.0	60				
淀川	木津川	笹瀬橋	A	1.1	1.3	47				
淀川	木津川	大野木橋	A	0.9	1.0	42				
淀川	木津川	長田橋	A	1.1	1.0	43				
淀川	木津川	鳥ヶ原大橋	A	1.1	1.3	46				
淀川	木津川	木津川御幸橋	A	0.9	1.1	61				
淀川	野洲川	石部	A	0.8	1.1	32				
淀川	野洲川	服部	A	0.8	0.9	33				
淀川	淀川	菅原城北大橋	B	1.0	1.0	70				
淀川	淀川	鳥飼大橋中央	B	1.1	1.2	69				
淀川	淀川	伝法大橋	C	1.7	1.7	71				
淀川	淀川	枚方大橋中央	B	1.0	1.0	68				
加古川	加古川	国包	B	1.3	1.5	85				
加古川	加古川	相生橋	B	1.4	1.2	87				
加古川	加古川	大住橋	B	1.0	1.0	84				
加古川	加古川	池尻	B	1.1	1.4	86				
加古川	加古川	板波	B	0.8	0.9	83				
加古川	東条川	古川橋	未	1.4	1.5	88	-			
加古川	万願寺川	西脇橋	未	1.4	1.4	89	-			
揖保川	揖保川	曲里	A	0.6	0.6	90				
揖保川	揖保川	山崎	A	0.6	0.6	91				
揖保川	揖保川	上川原	B	0.7	0.7	94				
揖保川	揖保川	本町橋	B	0.7	0.8	95				
揖保川	揖保川	龍野	A	0.6	0.7	93				
揖保川	揖保川	齋崎	A	0.6	0.7	92				
揖保川	林田川	榎	未	0.8	0.9	96	-			
九頭竜川	九頭竜川	九頭竜ダム湖	AA	0.6	0.8	97				
九頭竜川	九頭竜川	九頭竜川河口	B	0.9	0.6	104				
九頭竜川	九頭竜川	高屋橋	A	0.6	0.6	100				
九頭竜川	九頭竜川	中角	A	0.6	0.5	99				
九頭竜川	九頭竜川	布施田	B	0.7	0.7	103				
九頭竜川	真名川	真名川ダム湖	未	0.7	0.8	98	-			
九頭竜川	日野川	深谷	B	1.0	1.0	101				
九頭竜川	日野川	日光橋	B	1.4	1.9	102				
北川	北川	高塚	A	0.6	0.7	106				
北川	北川	上中橋	A	0.5	<0.5	105				
北川	北川	西津橋	A	0.6	<0.5	107				
由良川	土師川	土師橋	A	0.6	0.6	108				

- 1) 印を表示している調査地点は、一級河川の全調査地点のうち主要地点として「図-7 平成27年一級河川の水質状況図」に抽出した地点である。
- 2) 表示している数字は、「参考資料7 平成27年一級河川の水質状況図」に記載した調査地点の番号である。
- 3) 印を表示している調査地点は、環境基準を満足した地点である。また、-印を表示している調査地点は、環境基準の類型指定が未設定の地点である。  
報告下限値を0.5mg/lとして集計している。報告下限値を下回る地点は「<0.5」と表示している。  
類型が未指定の地点は類型を「未」と表示している。  
ダム貯水池の地点名は下線を付けて表示している。

参考資料5(1) 一級河川の全調査地点の水質(BOD調査地点) (6/8)

地方	水系名	河川名	地点名	平成27年					
				類型	平均値	75%値	1	2	3
近畿	由良川	由良川	以久田橋	A	0.5	0.6	109		
	由良川	由良川	音無瀬橋	A	0.6	0.6	110		
	由良川	由良川	波美橋	A	0.6	0.6	112		
	由良川	由良川	笠巻橋	A	0.7	0.9	111		
	由良川	由良川	由良川橋	A	0.7	0.7	113		
	円山川	円山川	結和橋	B	2.1	1.9	117		
	円山川	円山川	港大橋	B	1.7	2.0	118		
	円山川	円山川	府市場	A	0.6	0.6	114		
	円山川	円山川	立野	B	1.0	1.1	116		
	円山川	出石川	弘原	未	0.6	0.6	115		
	千代川	旧袋川	秋里	未	1.6	1.8	8	-	
	千代川	旧袋川	浜坂	未	1.5	2.0	12	-	
	千代川	千代川	稲常	AA	0.8	0.8	3		
千代川	千代川	賀露	A	1.0	1.1	6			
千代川	千代川	源太橋	AA	0.8	0.9	4			
千代川	千代川	行徳	A	0.9	1.0	5			
千代川	千代川	佐貫	AA	0.9	0.8	2			
千代川	千代川	用瀬	AA	0.8	0.9	1			
千代川	袋川	宮ノ下	未	0.9	1.1	10	-		
千代川	袋川	谷	未	0.7	0.7	9	-		
千代川	袋川	中郷橋	未	1.2	1.4	7	-		
千代川	袋川	美保橋	未	0.9	0.8	11	-		
天神川	国府川	福光	未	0.5	0.5	20	-		
天神川	小鴨川	河原町	未	<0.5	<0.5	18	-		
天神川	小鴨川	関金	未	0.5	<0.5	17	-		
天神川	小鴨川	巖城	未	0.5	<0.5	19	-		
天神川	天神川	今泉	AA	<0.5	<0.5	13	-		
天神川	天神川	小田	A	0.5	0.5	15	-		
天神川	天神川	大原	AA	0.5	<0.5	14	-		
天神川	天神川	田後	A	0.5	<0.5	16	-		
日野川	印賀川	菅沢ダム	未	1.9	2.4	27	-		
日野川	日野川	皆生	A	0.7	0.7	24			
日野川	日野川	溝口	AA	0.6	0.6	21			
日野川	日野川	車尾	A	0.6	0.6	23			
日野川	日野川	八幡	AA	0.6	0.5	22			
日野川	法勝寺川	福市	未	0.8	1.0	26	-		
日野川	法勝寺川	法勝寺	未	0.7	0.8	25	-		
斐伊川	神戸川	志連ダムダムサイト	未	1.1	1.8	33	-		
斐伊川	神戸川	神戸川河口	A	0.7	0.8	32			
斐伊川	神戸川	馬木	A	0.6	0.7	31			
斐伊川	斐伊川	大津	AA	0.5	0.5	29			
斐伊川	斐伊川	屋敷ダムダムサイト	未	0.8	1.0	30	-		
斐伊川	斐伊川	里熊	AA	0.6	0.5	28			
江の川	江の川	粟屋	A	1.0	1.2	35			
江の川	江の川	吉田	A	0.9	1.0	34			
江の川	江の川	江川橋	A	0.6	0.7	46			
江の川	江の川	桜江大橋	A	0.7	0.8	44			
江の川	江の川	三国橋	A	0.8	0.9	37			
江の川	江の川	川平	A	0.7	0.8	45			
江の川	江の川	川本大橋	A	0.7	0.7	43			
江の川	江の川	都賀大橋	A	0.7	0.7	42			
江の川	江の川	尾関山	A	0.8	1.0	36			
江の川	上下川	灰塚ダムサイト	A	2.0	2.7	39			
江の川	神野瀬川	神野瀬川	A	0.6	0.7	41			
江の川	西城川	三次	A	0.7	0.9	40			
江の川	馬洗川	南畑敷	A	1.0	1.2	38			
高津川	高津川	金地橋	AA	0.5	0.5	48			
高津川	高津川	高角	A	0.6	0.6	49			
高津川	高津川	高津大橋	A	0.6	0.6	50			
高津川	高津川	神田橋	AA	0.6	0.6	47			
佐波川	佐波川	堀	A	0.7	0.7	97			
佐波川	佐波川	佐波川大橋	B	0.8	0.9	101			
佐波川	佐波川	漆尾	A	0.9	1.0	98			
佐波川	佐波川	新橋	A	0.9	0.9	100			
中国	佐波川	佐波川	真尾	A	0.6	0.6	99		
	小瀬川	小瀬川	小川津	AA	0.8	0.9	94		
	小瀬川	小瀬川	大和橋	B	1.0	1.0	96		
	小瀬川	小瀬川	両国橋	A	0.8	0.9	95		
	太田川	旧太田川	舟入橋	A	1.1	1.1	92		
	太田川	元安川	南大橋	A	1.1	1.2	93		
	太田川	古川	東原	B	1.2	1.3	90		
	太田川	根谷川	根の谷橋	B	0.9	1.1	88		
	太田川	三篠川	深川橋	A	0.8	0.9	89		
	太田川	太田川	旭橋	B	1.3	1.6	86		
	太田川	太田川	加計	A	0.8	0.9	80		
	太田川	太田川	玖村	A	0.8	1.1	84		
	太田川	太田川	高山川下流	A	0.7	0.8	81		
	太田川	太田川	柴木川下流	A	0.6	0.6	79		
	太田川	太田川	壬辰橋	A	0.9	1.1	82		
	太田川	太田川	太田川橋	A	0.7	0.8	83		
	太田川	太田川	矢口川上流	A	0.9	1.0	85		
	太田川	滝山川	滝山川河口	A	0.7	0.8	87		
	太田川	天満川	昭和大桥	A	1.2	1.3	91		
	芦田川	芦田川	久佐	A	0.9	1.1	69		
	芦田川	芦田川	山手橋	A	1.7	1.9	74		
	芦田川	芦田川	小水呑橋	B	2.4	2.3	75		
	芦田川	芦田川	上戸手	A	1.1	1.4	72		
	芦田川	芦田川	大渡橋	A	0.9	1.1	70		
	芦田川	芦田川	中津原	A	1.1	1.1	73		
	芦田川	芦田川	府中大橋	A	1.1	1.2	71		
	芦田川	高屋川	横尾	B	2.3	2.5	78		
	芦田川	高屋川	川北	A	2.6	3.3	77		
	芦田川	砂川	中須	未	2.7	2.6	76	-	
	高梁川	高梁川	轟橋	B	1.1	1.1	67		
	高梁川	高梁川	笠井堰	B	0.8	0.8	66		
	高梁川	高梁川	川辺橋	B	0.9	1.0	65		
	高梁川	高梁川	湛井堰	A	0.8	0.8	64		
高梁川	小田川	福松橋	B	1.0	1.2	68			
旭川	旭川	旭川大橋	未	1.9	2.6	62	-		
旭川	旭川	乙井手堰	A	0.8	0.9	59			
旭川	旭川	合同堰	A	0.7	0.8	58			
旭川	旭川	桜橋	B	1.4	1.7	61			
旭川	旭川	相生橋	B	0.9	0.9	60			
旭川	百間川	清内橋	C	2.6	3.3	63			
吉井川	吉井川	永安橋	B	2.5	2.4	56			
吉井川	吉井川	鴨越堰	B	1.0	0.9	55			
吉井川	吉井川	弓削橋	B	0.9	1.1	53			
吉井川	吉井川	熊山橋	B	0.8	0.9	52			
吉井川	吉井川	備前大橋	B	0.9	1.2	54			
吉井川	吉井川	和気橋	未	0.7	0.8	51	-		
吉井川	金剛川	宮橋	A	0.7	0.8	57			
四国	重信川	重信川	重信橋	AA	0.5	<0.5	4		
	重信川	重信川	出合橋	A	1.0	1.2	2		
	重信川	重信川	川口大橋	A	0.8	0.9	1		
	重信川	重信川	中川原橋	A	0.6	0.5	3		
	重信川	重信川	拝志大橋	AA	0.7	0.8	5		
	重信川	石手川	市坪	C	1.4	1.6	6		
	重信川	石手川	石手川ダム	AA	1.1	1.2	7		
	肱川	肱川	祇園大橋	A	0.7	0.9	10		
	肱川	肱川	肱川橋	A	0.6	0.7	11		
	肱川	肱川	大和橋	A	0.6	0.8	9		
	肱川	肱川	長浜大橋	A	0.8	0.8	8		
	肱川	肱川	野村ダム	A	1.2	1.6	13		
	肱川	矢落川	新大橋	A	0.6	0.7	15		
	肱川	矢落川	生々橋	A	1.4	1.6	14		
	渡川	後川	後川橋	A	0.5	0.5	18		
	渡川	四万十川	下田	AA	1.2	1.6	16		
	渡川	四万十川	具同	AA	0.5	0.5	17		

- 1) 印を表示している調査地点は、一級河川の全調査地点のうち主要地点として「図-7 平成27年一級河川の水質状況図」に抽出した地点である。
- 2) 表示している数字は、「参考資料7 平成27年一級河川の水質状況図」に記載した調査地点の番号である。
- 3) 印を表示している調査地点は、環境基準を満足した地点である。また、-印を表示している調査地点は、環境基準の類型指定が未設定の地点である。  
報告下限値を0.5mg/lとして集計している。報告下限値を下回る地点は「<0.5」と表示している。  
類型が未指定の地点は類型を「未」と表示している。  
ダム貯水池の地点名は下線を付けて表示している。

参考資料5(1) 一級河川の全調査地点の水質(BOD調査地点) (7/8)

地方	水系名	河川名	地点名	平成27年						
				類型	平均値	75%値	1	2	3	
四国	渡川	中筋川	山路橋	B	1.1	1.4	19			
	渡川	中筋川	中筋川ダム	B	0.9	1.1	20			
	仁淀川	宇治川	音竹	C	1.4	1.6	27			
	仁淀川	仁淀川	伊野	AA	<0.5	<0.5	24			
	仁淀川	仁淀川	仁西	AA	0.5	0.5	21			
	仁淀川	仁淀川	太渡ダム	AA	0.8	0.9	25			
	仁淀川	仁淀川	中島	AA	0.5	<0.5	22			
	仁淀川	仁淀川	八田堰	AA	0.5	0.5	23			
	仁淀川	波介川	小野橋	B	1.2	1.3	26			
	物部川	物部川	戸板島	A	0.6	0.7	29			
	物部川	物部川	山田堰	A	0.6	0.5	30			
	物部川	物部川	深淵	A	0.6	0.6	28			
	那賀川	桑野川	富岡新橋	B	0.8	0.9	36			
	那賀川	桑野川	領家	B	0.8	0.8	35			
	那賀川	那賀川	長安ロダム	AA	0.9	1.2	34			
	那賀川	那賀川	那賀川橋	A	0.5	<0.5	33			
	吉野川	鮎喰川	鮎喰	未	1.4	1.8	46	-		
	吉野川	吉野川	高瀬橋	A	0.6	0.6	37			
	吉野川	吉野川	池田ダム	A	0.6	0.5	39			
	吉野川	吉野川	脇町潜水橋	A	0.6	0.6	38			
	吉野川	旧吉野川	牛屋島橋	A	0.8	0.8	42			
	吉野川	旧吉野川	市場橋	A	0.7	0.7	43			
	吉野川	旧吉野川	大津橋	B	0.9	0.8	41			
	吉野川	穴吹川	穴吹	未	<0.5	<0.5	47	-		
	吉野川	今切川	加賀須野橋	B	1.0	<1.2	44			
	吉野川	今切川	鯛浜堰上流	C	1.1	1.0	45			
	吉野川	真光川	真光	未	<0.5	<0.5	48	-		
	吉野川	銅山川	富郷ダム	AA	0.6	0.8	51			
	土器川	土器川	丸龜橋	A	1.5	1.6	52			
	土器川	土器川	常包橋	A	0.7	0.8	54			
	土器川	土器川	被川橋	A	0.8	0.9	53			
	九州	遠賀川	遠賀川	芦屋	B	1.3	1.5	5		
		遠賀川	遠賀川	伊佐座	B	1.5	1.6	4		
		遠賀川	遠賀川	川島	B	1.1	1.3	2		
		遠賀川	遠賀川	鶴三緒	B	1.3	1.5	1		
		遠賀川	遠賀川	日の出橋	B	1.1	1.2	3		
		遠賀川	遠賀川	金辺川	A	1.2	1.4	10		
		遠賀川	犬鳴川	粥田橋	B	1.1	1.3	13		
		遠賀川	犬鳴川	春日橋	B	1.1	1.4	12		
		遠賀川	西川	鳥津橋	B	1.8	1.7	14		
遠賀川		中元寺川	皆添橋	B	1.3	1.6	11			
遠賀川		彦山川	今任橋	A	0.8	1.0	7			
遠賀川		彦山川	中島	B	1.2	1.3	9			
遠賀川		彦山川	精橋	B	1.2	1.3	8			
遠賀川		穂波川	東町橋	B	1.1	1.2	6			
松浦川		厳木川	浦の川橋	A	0.5	0.5	142			
松浦川		厳木川	観音橋	A	<0.5	<0.5	141			
松浦川		厳木川	厳木ダムK-1	A	1.0	1.4	150			
松浦川		厳木川	古川橋	A	<0.5	<0.5	140			
松浦川		松浦川	久里橋	A	1.0	1.1	138			
松浦川		松浦川	舞鶴橋	A	1.0	1.5	139			
松浦川		松浦川	牟田部	A	0.6	0.6	137			
松浦川		松浦川	和田山橋	A	0.7	0.8	136			
松浦川		徳須恵川	徳須恵橋	A	0.7	0.7	143			
本明川		半造川	半造橋	未	1.6	1.9	148	-		
本明川		本明川	旭町	B	0.7	0.7	146			
本明川		本明川	鉄道橋	A	0.6	0.6	144			
本明川		本明川	天満公園前	B	0.6	0.6	145			
本明川		本明川	不知火	B	1.1	1.0	147			
六角川		牛津川	羽佐間堰	C	1.2	1.4	134			
六角川		牛津川	砥川大橋	D	2.0	2.6	135			
六角川		牛津川	道祖元橋	A	1.0	1.2	133			
六角川		六角川	住ノ江橋	E	2.0	2.5	132			
六角川		六角川	新橋	D	2.2	2.5	130			
九州		六角川	六角川	潮見橋	A	1.4	1.3	129		
		六角川	六角川	六角橋	D	1.6	1.5	131		
		筑後川	玖珠川	小ヶ瀬	A	0.7	0.7	123		
		筑後川	筑後川	荒瀬	A	0.8	0.9	118		
		筑後川	筑後川	三隈大橋	A	0.6	0.7	115		
		筑後川	筑後川	杖立	AA	0.6	0.5	111		
		筑後川	筑後川	神代橋	A	1.1	1.2	120		
	筑後川	筑後川	瀬ノ下	A	1.1	1.6	121			
	筑後川	筑後川	川下	A	0.8	0.9	117			
	筑後川	筑後川	大宮橋	A	0.7	0.7	114			
	筑後川	筑後川	大山水辺プラザ	A	0.7	0.9	113			
	筑後川	筑後川	片ノ瀬	A	0.9	1.0	119			
	筑後川	筑後川	柚木	A	0.8	0.9	112			
	筑後川	筑後川	六五郎橋	B	1.2	1.8	122			
	筑後川	津江川	下笠ダムS-1	未	1.2	1.2	149	-		
	筑後川	宝満川	酒井東橋	B	0.9	0.9	124			
	矢部川	飯江川	古賀橋	A	1.3	1.5	109			
	矢部川	飯江川	丁字橋	C	1.3	1.6	110			
	矢部川	矢部川	浦島橋	B	0.9	1.0	108			
	矢部川	矢部川	瀬高	A	0.9	0.8	107			
	矢部川	矢部川	船小屋	A	0.5	0.5	106			
	菊池川	岩野川	八幡	未	0.6	0.6	104	-		
	菊池川	菊池川	広瀬	A	0.6	<0.5	97			
	菊池川	菊池川	高瀬	A	0.7	0.9	101			
	菊池川	菊池川	山鹿	A	0.8	0.9	99			
	菊池川	菊池川	中富	A	0.7	0.7	98			
	菊池川	菊池川	白石	A	0.9	0.8	100			
	菊池川	合志川	芦原	A	1.2	1.4	103			
	菊池川	追間川	高田橋	A	0.6	0.6	102			
	菊池川	繁根木川	永徳寺	未	1.0	0.8	105	-		
	白川	白川	小鳥橋	B	0.6	0.6	96			
	白川	白川	小嶺橋	B	0.6	0.5	94			
	白川	白川	代継橋	B	0.6	0.6	95			
	緑川	加勢川	大六橋	A	1.1	1.3	92			
	緑川	御船川	五庵橋	A	0.5	<0.5	91			
	緑川	浜戸川	大曲	B	1.1	1.2	93			
	緑川	緑川	上杉堰	A	1.2	1.4	89			
	緑川	城南	城南	A	0.6	0.6	88			
	緑川	緑川	中甲橋	A	0.6	0.7	87			
	緑川	緑川	平木橋	B	0.8	1.0	90			
球磨川	球磨川	横石	A	0.5	0.5	77				
球磨川	球磨川	金剛橋	A	0.5	0.5	79				
球磨川	球磨川	人吉	A	0.5	0.5	74				
球磨川	球磨川	西瀬橋	A	0.5	0.5	75				
球磨川	球磨川	多良木	A	0.5	0.5	73				
球磨川	球磨川	天狗橋	A	0.7	0.6	76				
球磨川	球磨川	萩原橋	A	0.6	0.6	78				
球磨川	球磨川	元井谷	未	<0.5	<0.5	86	-			
球磨川	川辺川	五木	AA	0.5	<0.5	83				
球磨川	川辺川	五木宮園	AA	<0.5	<0.5	81				
球磨川	川辺川	四浦	A	<0.5	<0.5	84				
球磨川	川辺川	神屋敷	AA	<0.5	<0.5	82				
球磨川	川辺川	柳瀬	A	0.5	<0.5	85				
球磨川	前川	前川橋	A	0.5	0.5	80				
川内川	羽月川	花北	未	0.6	0.7	72	-			
川内川	川内川	亀沢橋	A	0.6	<0.5	65				
川内川	川内川	栗野	A	0.5	0.5	66				
川内川	川内川	小倉	A	0.8	1.1	71				
川内川	川内川	神子	A	0.6	<0.5	68				
川内川	川内川	曾木大橋	A	0.5	0.5	67				
川内川	川内川	中郷	A	0.6	0.7	70				
川内川	川内川	斧淵	A	0.7	0.8	69				
肝属川	始良川	始良橋	未	0.8	0.5	62	-			
肝属川	下谷川	田崎橋	未	1.2	1.6	61	-			

- 1) 印を表示している調査地点は、一級河川の全調査地点のうち主要地点として「図-7 平成27年一級河川の水質状況図」に抽出した地点である。
- 2) 表示している数字は、「参考資料7 平成27年一級河川の水質状況図」に記載した調査地点の番号である。
- 3) 印を表示している調査地点は、環境基準を満足した地点である。また、-印を表示している調査地点は、環境基準の類型指定が未設定の地点である。  
報告下限値を0.5mg/lとして集計している。報告下限値を下回る地点は「<0.5」と表示している。  
類型が未指定の地点は類型を「未」と表示している。  
ダム貯水池の地点名は下線を付けて表示している。

参考資料5(1) 一級河川の全調査地点の水質(BOD調査地点) (8/8)

地方	水系名	河川名	地点名	平成27年					
				類型	平均値	75%値	1	2	3
九州	肝属川	肝属川	河原田橋	B	2.1	2.5		58	
	肝属川	肝属川	第二有明橋	A	1.1	1.2		60	
	肝属川	肝属川	朝日橋	B	1.3	1.6		57	
	肝属川	肝属川	俣瀬	A	1.6	1.6		59	
	肝属川	串良川	串良橋	A	1.1	1.2		64	
	肝属川	高山川	新前田橋	未	0.5	<0.5		63	-
	大淀川	綾北川	入野橋	A	0.5	<0.5		51	
	大淀川	深年川	太田原橋	A	0.6	0.6		55	
	大淀川	大淀川	乙房橋	B	1.0	1.1		45	
	大淀川	大淀川	岳下橋	A	1.0	1.2		43	
	大淀川	大淀川	志比田橋	B	1.2	1.5		44	
	大淀川	大淀川	小戸之橋	A	0.6	0.7		49	
	大淀川	大淀川	相生橋	A	0.7	0.8		48	
	大淀川	大淀川	大ノ丸橋	A	0.8	0.8		47	
	大淀川	大淀川	樋渡橋	A	0.7	0.7		46	
	大淀川	大淀川	宮丸橋	A	0.7	0.8		50	
	大淀川	八重川	番所橋	未	2.0	1.2		56	-
	大淀川	本庄川	本庄橋	A	0.5	<0.5		53	
	大淀川	本庄川	柳瀬橋	A	0.5	0.5		54	
	大淀川	本庄川(綾南川)	綾南川橋	A	0.5	<0.5		52	
	小丸川	宮田川	宮田川水門	B	0.7	0.8		42	
	小丸川	小丸川	高城橋	AA	<0.5	<0.5		40	
	小丸川	小丸川	高鍋大橋	A	0.5	<0.5		41	
	五ヶ瀬川	五ヶ瀬川	三輪	A	0.5	<0.5		35	
	五ヶ瀬川	五ヶ瀬川	松山橋	A	0.5	0.5		36	
	五ヶ瀬川	祝子川	中州合流点	A	0.7	0.9		38	
	五ヶ瀬川	大瀬川	大瀬橋	A	0.5	0.5		37	
	五ヶ瀬川	北川	白石	A	0.6	0.5		39	
	番匠川	堅田川	茶屋ヶ鼻橋	A	0.8	0.8		34	
	番匠川	番匠川	水路橋	A	0.7	0.7		32	
	番匠川	番匠川	番匠橋	A	0.6	0.6		31	
	番匠川	番匠川	番匠川河口	A	0.8	0.9		33	
	大野川	乙津川	海原橋	A	1.2	1.2		30	
	大野川	大野川	家島	A	0.9	0.8		29	
	大野川	大野川	鶴崎橋	A	1.2	1.3		28	
	大野川	大野川	白滝橋	A	0.7	0.7		27	
	大分川	七瀬川	光吉	A	0.8	0.8		26	
	大分川	大分川	広瀬橋	B	1.0	1.1		24	
	大分川	大分川	府内大橋	A	0.8	0.9		23	
	大分川	大分川	弁天大橋	B	0.9	1.0		25	
	大分川	大分川	明礪橋	A	0.9	0.8		22	
	山国川	山移川	耶馬溪ダム(YL-1)	未	1.3	1.3		151	-
	山国川	山国川	下宮永	A	0.7	0.8		18	
	山国川	山国川	下唐原	A	0.7	0.8		17	
	山国川	山国川	柿坂	A	0.6	0.7		15	
	山国川	山国川	山国橋	A	0.6	0.6		19	
	山国川	山国川	小祝	A	1.0	1.1		20	
	山国川	山国川	上曾木	A	0.7	0.8		16	
	山国川	中津川	北門橋	未	0.8	0.9		21	-
	嘉瀬川	嘉瀬川	嘉瀬橋	A	0.7	0.7		127	
	嘉瀬川	嘉瀬川	官人橋	A	0.7	0.8		125	
	嘉瀬川	嘉瀬川	久保田橋	D	1.1	1.3		128	
	嘉瀬川	嘉瀬川	石井樋	A	0.6	0.6		126	

- 1) 印を表示している調査地点は、一級河川の全調査地点のうち主要地点として「図-7 平成27年一級河川の水質状況図」に抽出した地点である。
- 2) 表示している数字は、「参考資料7 平成27年一級河川の水質状況図」に記載した調査地点の番号である。
- 3) 印を表示している調査地点は、環境基準を満足した地点である。また、-印を表示している調査地点は、環境基準の類型指定が未設定の地点である。  
報告下限値を0.5mg/lとして集計している。報告下限値を下回る地点は「<0.5」と表示している。  
類型が未指定の地点は類型を「未」と表示している。  
ダム貯水池の地点名は下線を付けて表示している。

参考資料5(2) 一級河川の全調査地点の水質(COD調査地点)

地方	水系名	河川名	地点名	類型	平成27年				
					平均値	75%値	地図	2	3
北海道	網走川	網走湖	ST.1(流入口沖50m)	A	4.8	4.9		79	
	網走川	網走湖	ST.2(湖心)	A	5.3	6.5		80	
	網走川	網走湖	ST.3(湖心方位30°±250m)	A	5.3	6.7		81	
	網走川	網走湖	ST.4(流出口沖100m)	A	5.5	7.0		82	
東	阿武隈川	白石川	七ヶ宿ダム	A	1.9	2.4		126	
	名取川	磐石川	釜房ダム	AA	2.9	2.9		127	
	北上川	猿ヶ石川	田瀬ダム貯水池	A	2.7	3.4		130	
	北上川	江合川	鳴子ダム	AA	1.9	2.2		132	
	北上川	磐石川	御所ダム貯水池	A	1.6	2.0		129	
	北上川	北上川	四十四田ダム貯水池	A	2.2	2.4		128	
	北上川	和賀川	湯田ダム貯水池	A	2.2	2.1		131	
	高瀬川	高瀬川	河口	A	3.2	3.5		138	
	高瀬川	高瀬川	高瀬橋	A	2.9	3.1		137	
	高瀬川	高瀬川	小川原湖(No.A)	A	3.3	3.5		133	
	高瀬川	高瀬川	小川原湖(No.C)	A	3.2	3.3		134	
	高瀬川	高瀬川	小川原湖(No.G)	A	11.1	12.8		135	
	高瀬川	高瀬川	小川原湖(No.H)	A	3.8	4.2		136	
	岩木川	浅瀬石川	浅瀬石川ダム	A	2.3	2.5		139	
最上川	寒河江川	寒河江ダム	A	1.6	1.8		140		
関	利根川	霞ヶ浦	掛馬沖	A	7.2	8.1		147	
	利根川	霞ヶ浦	牛込沖	A	7.0	7.3		149	
	利根川	霞ヶ浦	玉造沖	A	7.6	8.6		146	
	利根川	霞ヶ浦	湖心	A	7.1	7.9		150	
	利根川	霞ヶ浦	高崎沖	A	7.9	9.6		145	
	利根川	霞ヶ浦	西の湖沖	A	7.0	8.1		151	
	利根川	霞ヶ浦	麻生沖	A	7.8	8.5		152	
	利根川	霞ヶ浦	木原沖	A	7.0	7.7		148	
	利根川	鬼怒川	川治ダム	A	1.5	1.6		164	
	利根川	鬼怒川	川俣ダム	A	1.4	1.5		163	
	利根川	手賀川	布佐下	B	6.5	7.5		144	
	利根川	常陸利根川	外浪逆浦	A	8.0	8.9		154	
	利根川	常陸利根川	息衝	A	7.9	9.0		155	
	利根川	常陸利根川	潮来	A	8.0	9.0		153	
東	利根川	常陸利根川	波崎	A	7.9	8.5		156	
	利根川	神流川	下久保ダム	A	1.5	1.6		143	
	利根川	赤谷川	相模ダムC(ダム湖)	A	1.4	1.6		161	
	利根川	渡良瀬川	草木ダム	A	1.5	1.7		142	
	利根川	渡良瀬川	渡良瀬貯水池	A	5.3	5.0		25	
	利根川	利根川	奈良保ダム	A	2.3	2.4		141	
	利根川	利根川	片品川	A	1.8	2.1		162	
	利根川	利根川	釜谷沖	A	8.1	9.1		158	
	利根川	利根川	神宮橋	A	9.0	10.0		159	
	利根川	利根川	武井沖	A	7.9	9.0		157	
	利根川	利根川	須田貝ダム	A	2.0	2.3		166	
	利根川	利根川	藤原ダムC(ダム湖)	A	1.6	1.6		160	
	利根川	利根川	矢木沢ダム	A	1.6	1.7		140	
	利根川	利根川	荒川貯水池(彩湖)	A	4.5	4.8		171	
利根川	利根川	二瀬ダム	A	1.6	1.6		167		
利根川	利根川	中津川	ダムサイト(宮ヶ瀬ダム)	A	1.3	1.3		168	
北陸	阿賀野川	大川ダム	大川ダム湖心	A	2.1	2.4		16	
中部	天竜川	天竜川	佐久間ダム	A	2.3	2.6		29	
	木曾川	木曾川	味噌川ダム	A	0.9	1.0		57	
	木曾川	木曾川	横山ダム貯水池	A	1.0	1.2		76	
	熊野川	熊野川	猿谷ダム湖中央	A	1.6	1.9		119	
近畿	淀川	宇陀川	豊富水運取水口付近	A	3.0	3.2		169	
	淀川	宇陀川	室生ダム湖	A	2.7	3.1		168	
	淀川	琵琶湖	ほうらい沖	AA	2.2	2.3		142	
	淀川	琵琶湖	ほうらい沖中央	AA	2.4	2.6		143	
	淀川	琵琶湖	愛知川沖	AA	2.5	2.7		150	
	淀川	琵琶湖	粟津沖中央	AA	3.1	3.2		120	
	淀川	琵琶湖	安曇川沖	AA	2.1	2.1		154	
	淀川	琵琶湖	安曇川沖中央	AA	2.4	2.7		155	
	淀川	琵琶湖	伊佐々川沖	AA	3.4	3.9		129	
	淀川	琵琶湖	外ヶ浜沖	AA	2.2	2.4		157	
	淀川	琵琶湖	外ヶ浜沖中央	AA	2.2	2.4		158	
	淀川	琵琶湖	吉川港沖	AA	2.5	2.6		141	
	淀川	琵琶湖	堅田沖	AA	2.7	2.9		136	
	淀川	琵琶湖	堅田沖中央	AA	2.6	2.9		137	
淀川	琵琶湖	今津沖	AA	2.3	2.6		160		
淀川	琵琶湖	今津沖中央	AA	2.3	2.7		161		
淀川	琵琶湖	三保ヶ崎沖	AA	3.1	3.5		121		
淀川	琵琶湖	山田港沖	AA	2.8	3.1		126		
淀川	琵琶湖	姉川沖	AA	2.2	2.4		162		

地方	水系名	河川名	地点名	類型	平成27年				
					平均値	75%値	地図	2	3
近	淀川	琵琶湖	志那沖	AA	2.8	3.1		132	
	淀川	琵琶湖	新杉江港沖	AA	3.6	4.0		135	
	淀川	琵琶湖	石寺沖	AA	2.3	2.5		153	
	淀川	琵琶湖	早崎港沖	AA	2.2	2.4		166	
	淀川	琵琶湖	大宮川沖	AA	2.7	2.8		130	
	淀川	琵琶湖	大宮川沖中央	AA	2.3	2.4		131	
	淀川	琵琶湖	大溝沖	AA	2.0	2.2		151	
	淀川	琵琶湖	大溝沖中央	AA	2.2	2.3		152	
	淀川	琵琶湖	丹出川沖	AA	2.3	2.5		139	
	淀川	琵琶湖	丹出川沖中央	AA	2.3	2.5		140	
	淀川	琵琶湖	知内川沖	AA	2.1	2.4		164	
	淀川	琵琶湖	知内川沖中央	AA	2.1	2.3		165	
	淀川	琵琶湖	長浜沖	AA	2.6	2.8		163	
	淀川	琵琶湖	長命寺沖	AA	2.4	2.5		147	
畿	淀川	琵琶湖	天野川沖	AA	2.2	2.5		159	
	淀川	琵琶湖	唐崎沖	AA	3.2	3.6		127	
	淀川	琵琶湖	唐崎沖中央	AA	2.7	2.9		128	
	淀川	琵琶湖	南比良沖	AA	2.2	2.4		145	
	淀川	琵琶湖	南比良沖中央	AA	2.4	2.6		146	
	淀川	琵琶湖	日野川沖	AA	2.4	2.6		144	
	淀川	琵琶湖	彦根港沖	AA	2.1	2.3		156	
	淀川	琵琶湖	浜大津沖	AA	2.9	3.0		122	
	淀川	琵琶湖	浜大津沖中央	AA	2.6	2.7		123	
	淀川	琵琶湖	北小松沖	AA	2.4	2.7		148	
	淀川	琵琶湖	北小松沖中央	AA	2.2	2.4		149	
	淀川	琵琶湖	木ノ浜沖	AA	2.8	2.7		138	
	淀川	琵琶湖	柳ヶ崎沖	AA	3.1	3.3		124	
	淀川	琵琶湖	柳ヶ崎沖中央	AA	2.5	2.7		125	
中	淀川	琵琶湖	雄琴沖	AA	2.7	2.9		133	
	淀川	琵琶湖	雄琴沖中央	AA	2.6	2.7		134	
	淀川	琵琶湖	布目川	A	3.6	4.1		167	
	斐伊川	境水道	境水道中央部	A	2.5	2.7		115	
	斐伊川	六道湖	六道湖No.1	A	4.2	4.5		102	
	斐伊川	六道湖	六道湖No.3	A	4.2	4.7		103	
	斐伊川	六道湖	六道湖No.5	A	4.0	4.8		104	
	斐伊川	大橋川	矢田	A	3.8	3.9		105	
	斐伊川	中海	大橋川河口地先	A	3.8	4.1		106	
	斐伊川	中海	意東鼻沖地先	A	3.7	4.1		107	
	斐伊川	中海	飯梨川河口地先	A	3.4	3.8		110	
	斐伊川	中海	安来港地先	A	3.6	4.1		111	
	斐伊川	中海	羽入川河口地先	A	3.7	4.1		108	
	斐伊川	中海	中海湖心	A	3.4	3.8		109	
斐伊川	中海	長海町地先	A	3.4	3.9		116		
斐伊川	中海	上宇部尾町地先	A	3.6	4.0		118		
斐伊川	中海	霞津地先	A	2.5	2.9		113		
斐伊川	中海	米子湾中央部	A	4.4	4.9		112		
斐伊川	中海	渡町地先	A	2.7	3.1		114		
斐伊川	中海	本庄	A	3.5	4.1		117		
江の川	江の川	土師ダム湖心	A	2.6	3.0		119		
佐波川	島地川	島地川ダム	A	3.3	3.7		123		
小瀬川	小瀬川	弥栄ダム貯水池No.1	AA	1.4	1.5		122		
太田川	滝山川	温井ダム堰堤	A	1.5	1.7		121		
芦田川	芦田川	八田原ダム基準点	A	2.3	2.5		120		
四	那賀川	那賀川	鹿野川湖堰堤	B	2.5	2.7		12	
	那賀川	那賀川	JR那賀川鉄橋	A	1.8	2.0		32	
	那賀川	那賀川	富岡水門	A	1.6	1.7		31	
	吉野川	吉野川	早明浦ダム	A	1.2	1.2		40	
	吉野川	銅山川	新宮ダム	A	2.0	2.3		49	
	吉野川	銅山川	柳瀬ダム	A	2.2	2.5		50	
九	筑後川	佐田川	寺内ダムダムサイト	A	1.7	1.8		159	
	筑後川	筑後川	松原ダムM-1	A	1.7	2.0		157	
	筑後川	筑後川	松原ダムM-3	A	1.6	1.9		158	
	菊池川	追間川	権門ダム(ダム基準地点)	A	1.6	1.8		155	
	菊池川	追間川	権門ダム(副基準地点)	A	1.7	1.7		156	
	緑川	緑川	緑川ダムSt.2	A	1.7	1.9		154	
	川内川	川内川	基準点1(St- )	A	2.0	2.1		152	
	川内川	川内川	St-	A	1.9	2.0		153	
	川内川	川内川	鶴田ダムSt-	-	-	-	-	-	
	川内川	川内川	鶴田ダム監視点-イ	-	-	-	-	-	
川内川	川内川	鶴田ダム監視点-ロ	-	-	-	-	-		

- 1) 印を表示している調査地点は、一級河川の全調査地点のうち主要地点として「図-7 平成27年一級河川の水質状況図」に抽出した地点である。
- 2) 表示している数字は、「参考資料7 平成27年一級河川の水質状況図」に記載した調査地点の番号である。
- 3) 印を表示している調査地点は、環境基準を満足した地点である。  
値は全層平均値である。  
報告下限値を0.5mg/lとして集計している。報告下限値を下回る地点は「<0.5」と表示している。  
類型が未指定の地点は類型を「未」と表示している。  
JR那賀川鉄橋及び富岡水門のみ海域類型である。他は全て湖沼類型である。  
川内川水系川内川の鶴田ダムSt-、鶴田ダム監視点-イ、鶴田ダム監視点-ロにおいて、平成27年は未観測である。

参考資料5(3) 一級河川の全調査地点の水質  
(河川類型指定ダム貯水池のCOD値)

地方	水系名	河川名	地点名	平成27年		
				類型	平均値	75%値
北海道	天塩川	天塩川	岩尾内ダム	AA	1.9	2.0
	留萌川	チバベリ川	留萌ダム	未	4.6	5.6
	石狩川	幾春別川	桂沢ダム	A	5.4	8.4
	石狩川	漁川	漁川ダム	未	1.8	2.1
	石狩川	空知川	金山ダム	AA	2.6	3.0
	石狩川	空知川	滝里ダム	A	2.7	3.2
	石狩川	小樽内川	定山溪ダム	未	2.0	2.0
	石狩川	石狩川	大雪ダム	AA	2.3	2.6
	石狩川	忠別川	忠別ダム	A	1.3	1.5
	石狩川	豊平川	豊平峡ダム	A	1.8	1.9
	後志利別川	後志利別川	美利河ダム	AA	1.2	1.5
	沙流川	沙流川	二風谷ダム	B	2.1	2.6
	十勝川	札内川	札内川ダム	AA	1.5	1.6
	十勝川	十勝川	十勝ダム	AA	2.2	2.5
	常呂川	常呂川	鹿ノ子ダム	A	4.1	4.4
	東北	阿武隈川	摺上川	摺上川ダム	A	2.1
阿武隈川		大滝根川	三春ダム	A	4.8	5.1
北上川		胆沢川	胆沢ダム貯水池	A	1.5	1.6
米代川		小又川	森吉山ダム	未	2.4	2.9
雄物川		玉川	玉川ダム	AA	0.9	0.9
最上川		置賜白川	白川ダム	A	2.4	2.6
最上川		置賜野川	長井ダム	A	2.1	2.7
赤川		梵字川	月山ダム	A	1.8	1.9
関東	利根川	男鹿川	五十里ダム	AA	1.7	1.8
	利根川	湯西川	貯水池(湯西川ダム)	AA	1.8	1.9
	荒川	浦山川	浦山ダム	未	1.6	1.9
	荒川	中津川	滝沢ダム	未	2.1	2.3
北陸	荒川	横川	横川ダム湖心	未	3.8	4.5
	荒川	大石川	大石ダムダムサイト	未	2.8	3.5
	信濃川	高瀬川	大町ダムダムサイト	AA	1.3	1.4
	信濃川	三国川	三国川ダム貯水池湖心	未	1.5	1.7
	黒部川	黒部川	湖面橋	AA	1.6	1.6
	手取川	手取川	手取川ダム湖心	A	1.7	1.8
中部	大井川	大井川	長島ダム 貯水池基準点	AA	1.7	2.0
	天竜川	三峰川	美和ダム貯水池	A	1.1	1.1
	天竜川	小波川	小波ダム貯水池	AA	1.8	1.8
	天竜川	大入川	新豊根ダム貯水池	未	2.1	2.4
	矢作川	矢作川	矢作ダム 貯水池	AA	1.5	1.6
	庄内川	小里川	小里川ダム 貯水池基準	B	3.6	4.5
	木曽川	阿木川	阿木川ダム	A	1.9	1.9
	木曽川	馬瀬川	岩屋ダム	AA	1.2	1.3
	木曽川	木曽川	丸山ダム貯水池	A	1.8	2.0
	木曽川	揖斐川	徳山ダム	AA	2.1	2.3
柳田川	蓮川	蓮ダム貯水池基準点	未	1.1	1.2	
畿	紀の川	紀の川	大滝ダム湖ダムサイト	AA	1.6	1.7
	淀川	一庫大踏次川	一庫ダム	未	2.2	2.4
	淀川	宇治川	大峰橋(天ヶ瀬ダム湖)	A	2.7	2.9
	淀川	桂川	貯水池基準点(日吉ダム)	A	1.8	2.0
	淀川	青蓮寺川	青蓮寺ダム湖	未	2.0	2.3
	淀川	名張川	高山ダム湖	未	3.1	3.2
	淀川	名張川	比奈知ダム湖	A	1.9	2.0
	九頭竜川	九頭竜川	九頭竜ダム湖	AA	1.2	1.3
	九頭竜川	真名川	真名川ダム湖	未	1.2	1.3
中国	日野川	印賀川	菅沢ダム	未	2.9	3.7
	斐伊川	神戸川	志津見ダムダムサイト	未	1.8	1.8
	斐伊川	斐伊川	尾原ダムダムサイト	未	9.0	9.9
	江の川	上下川	灰塚ダムサイト	A	3.7	4.4
四国	重信川	石手川	石手川ダム	AA	3.7	3.6
	肱川	肱川	野村ダム	A	2.5	2.7
	渡川	中筋川	中筋川ダム	B	1.5	1.6
	仁淀川	仁淀川	大渡ダム	AA	1.5	1.7
	那賀川	那賀川	長安口ダム	AA	1.3	1.5
	吉野川	吉野川	池田ダム	A	1.3	1.3
九州	吉野川	銅山川	富郷ダム	AA	1.2	1.3
	松浦川	厳木川	厳木ダムK-1	A	2.2	2.5
	筑後川	津江川	下笠ダムS-1	未	1.8	2.0
山国川	山移川	耶馬溪ダム(VL-1)	未	3.9	4.5	

環境省告示により、「貯水量が1,000万立方メートル以上であり、かつ、水の滞留時間が4日間以上である人工湖」は湖沼として類型指定されることとなっており、ダム貯水池であっても河川としての類型指定を受けている地点が存在する。本報告では、河川として類型指定されているダム湖については、BODで環境基準を満足しているかどうかを判断し、その他の整理については湖沼として判定・整理をしている。

値は全層平均値である。

報告下限値を0.5mg/lとして集計している。報告下限値を下回る地点は「<0.5」と表示している。

類型が未指定の地点は類型を「未」と表示している。

参考資料6 水系別コイヘルペス発生状況(1/3)

地方	水系名	平成 15年	平成 16年	平成 17年	平成 18年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年
北海道	天塩川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	留萌川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	石狩川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	尻別川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	後志利別川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	鶴川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	沙流川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	十勝川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	釧路川	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	網走川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	常呂川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	湧別川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	渚滑川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	東北	阿武隈川	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
名取川		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鳴瀬川		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
北上川		0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
馬淵川		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高瀬川		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
岩木川		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
米代川		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雄物川		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
子吉川		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
最上川		0	9	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
赤川		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
関東	久慈川	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	那珂川	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	利根川	0	16	1	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0
	荒川	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多摩川	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	鶴見川	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	相模川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	富士川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
北陸	阿賀野川	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	信濃川	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	関川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	姫川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	黒部川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	常願寺川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	神通川	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	庄川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小矢部川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	手取川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	荒川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
梯川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

参考資料6 水系別コイヘルペス発生状況(2/3)

地方	水系名	平成 15年	平成 16年	平成 17年	平成 18年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年
中部	狩野川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	安倍川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大井川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	菊川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	天竜川	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	豊川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	矢作川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	庄内川	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	木曽川	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	鈴鹿川	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	雲出川	0	4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	櫛田川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	宮川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	近畿	新宮川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
紀の川		0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大和川		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
淀川		16	6	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
加古川		0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
揖保川		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
九頭竜川		0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
北川		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
由良川		1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
円山川		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中国	千代川	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	天神川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
	日野川	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	斐伊川	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	江の川	0	0	0	0	11	5	0	0	0	0	0	0	0
	高津川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	佐波川	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小瀬川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	太田川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	芦田川	0	0	11	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	高粱川	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	旭川	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
	吉井川	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
四国	重信川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	肱川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	渡川	0	0	0	13	0	2	0	0	0	0	0	0	0
	仁淀川	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	物部川	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	那賀川	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	吉野川	0	0	17	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	土器川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

参考資料6 水系別コイヘルペス発生状況(3/3)

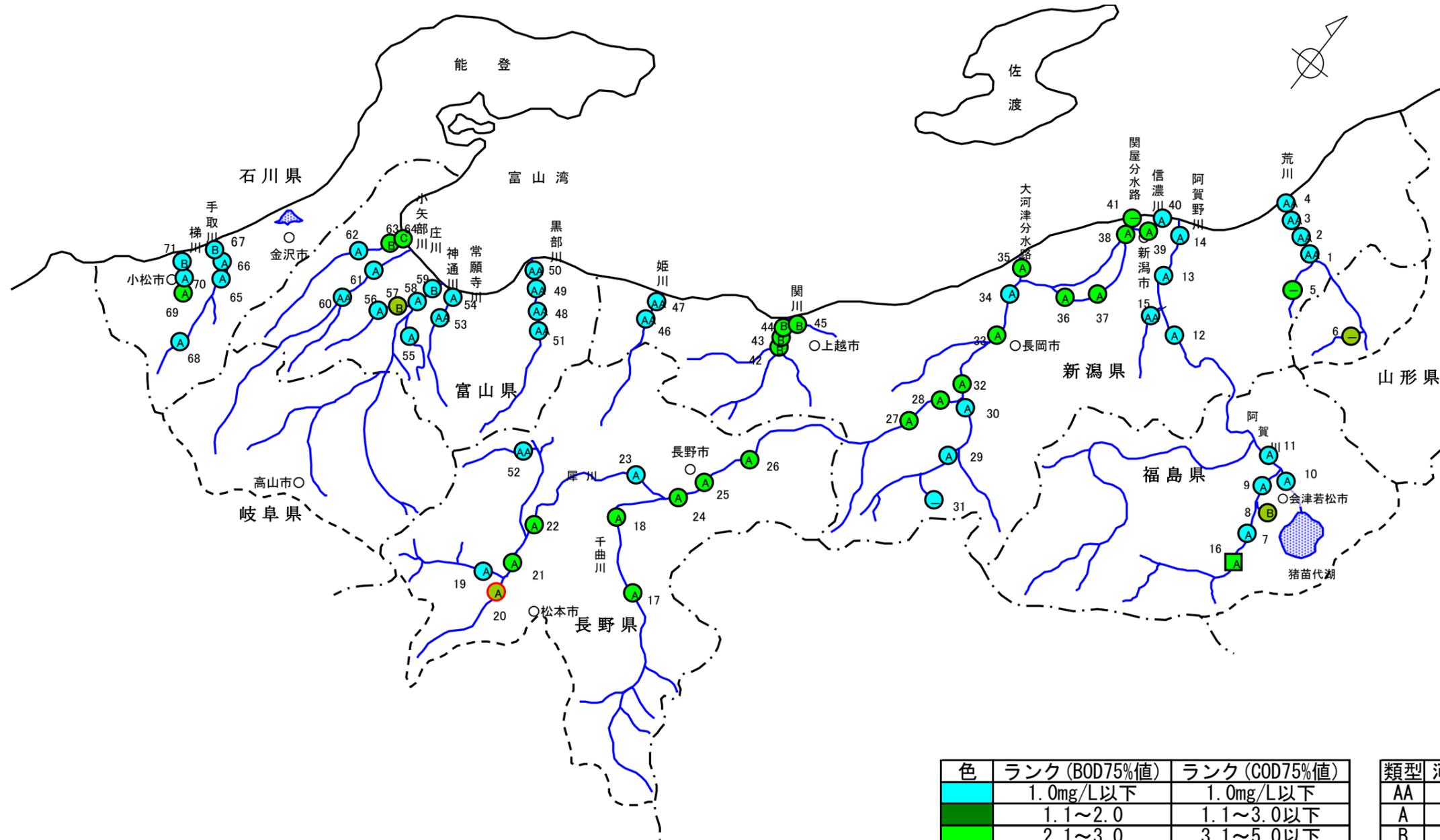
地方	水系名	平成 15年	平成 16年	平成 17年	平成 18年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年
九州	遠賀川	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	松浦川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	本明川	0	0	0	11	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	六角川	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	筑後川	0	14	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	矢部川	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	菊池川	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	白川	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	緑川	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	球磨川	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	川内川	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	肝属川	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大淀川	1	12	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
	小丸川	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	五ヶ瀬川	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
	番匠川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大野川	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大分川	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	山国川	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	嘉瀬川	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		26	118	63	37	13	12	2	4	4	4	1	2	0







参考資料 7 (4) 平成27年一級河川の水質状況図 (北陸)



色	ランク (BOD75%値)	ランク (COD75%値)
青	1. 0mg/L以下	1. 0mg/L以下
緑	1. 1~2.0	1. 1~3.0以下
黄緑	2. 1~3.0	3. 1~5.0以下
黄	3. 1~5.0	5. 1~8.0以下
オレンジ	5. 1~8.0	8. 1以上
赤	8. 1~10.0	
紫	10. 1以上	

類型	河川 (BOD)	湖沼 (COD)
AA	1mg/L以下	1mg/L以下
A	2mg/L以下	3mg/L以下
B	3mg/L以下	5mg/L以下
C	5mg/L以下	8mg/L以下
D	8mg/L以下	
E	10mg/L以下	
—	類型未指定	

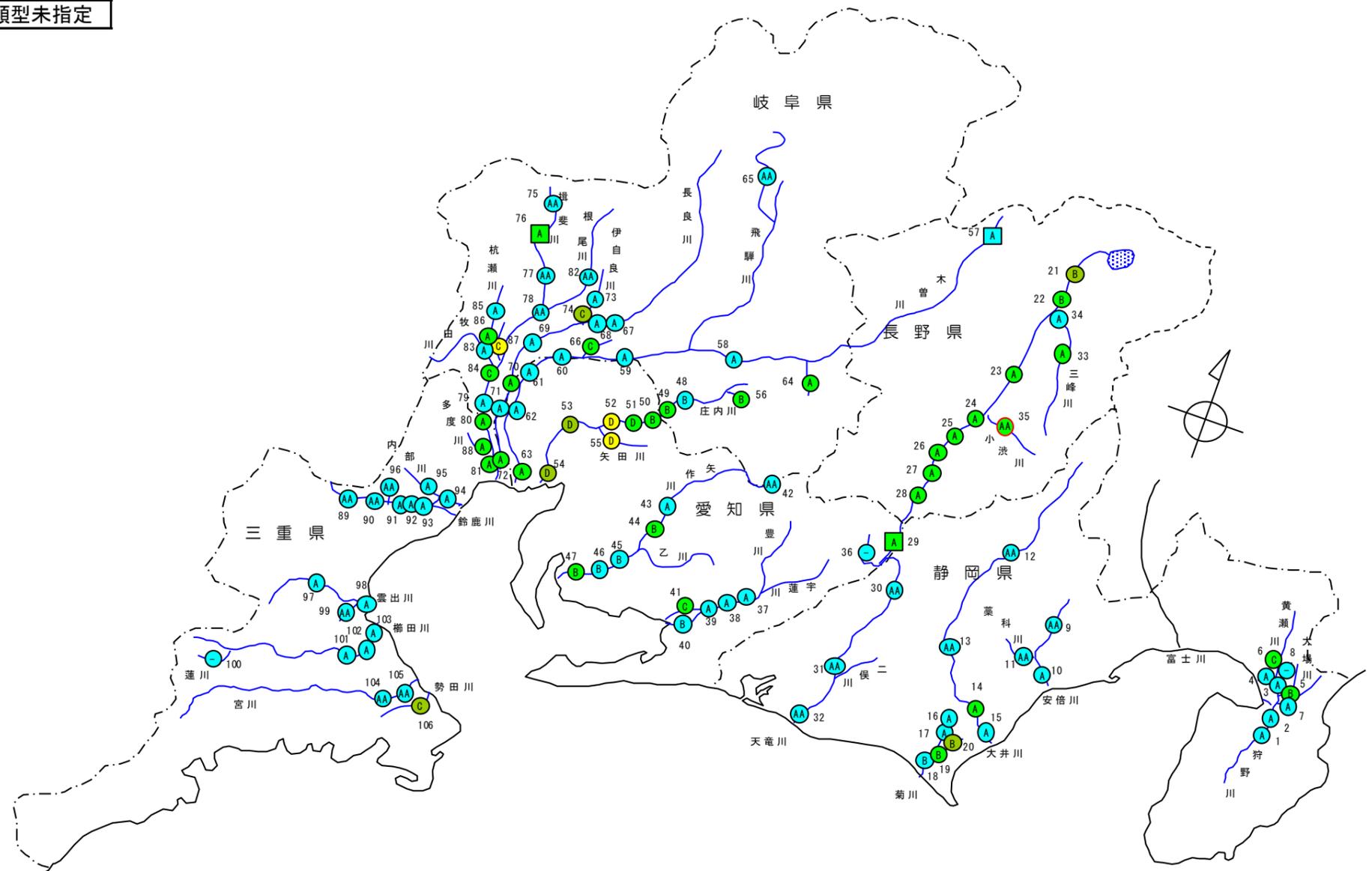
- 内の色はBOD75%値のランクを指す。
- 内の色はCOD75%値のランクを指す。
- 及び□内の記号は、環境基準の類型である。
- 及び□は環境基準を満足していない地点である。
- 数字は参考資料5に示す調査地点である。

参考資料 7 (5) 平成27年一級河川の水質状況図 (中部)

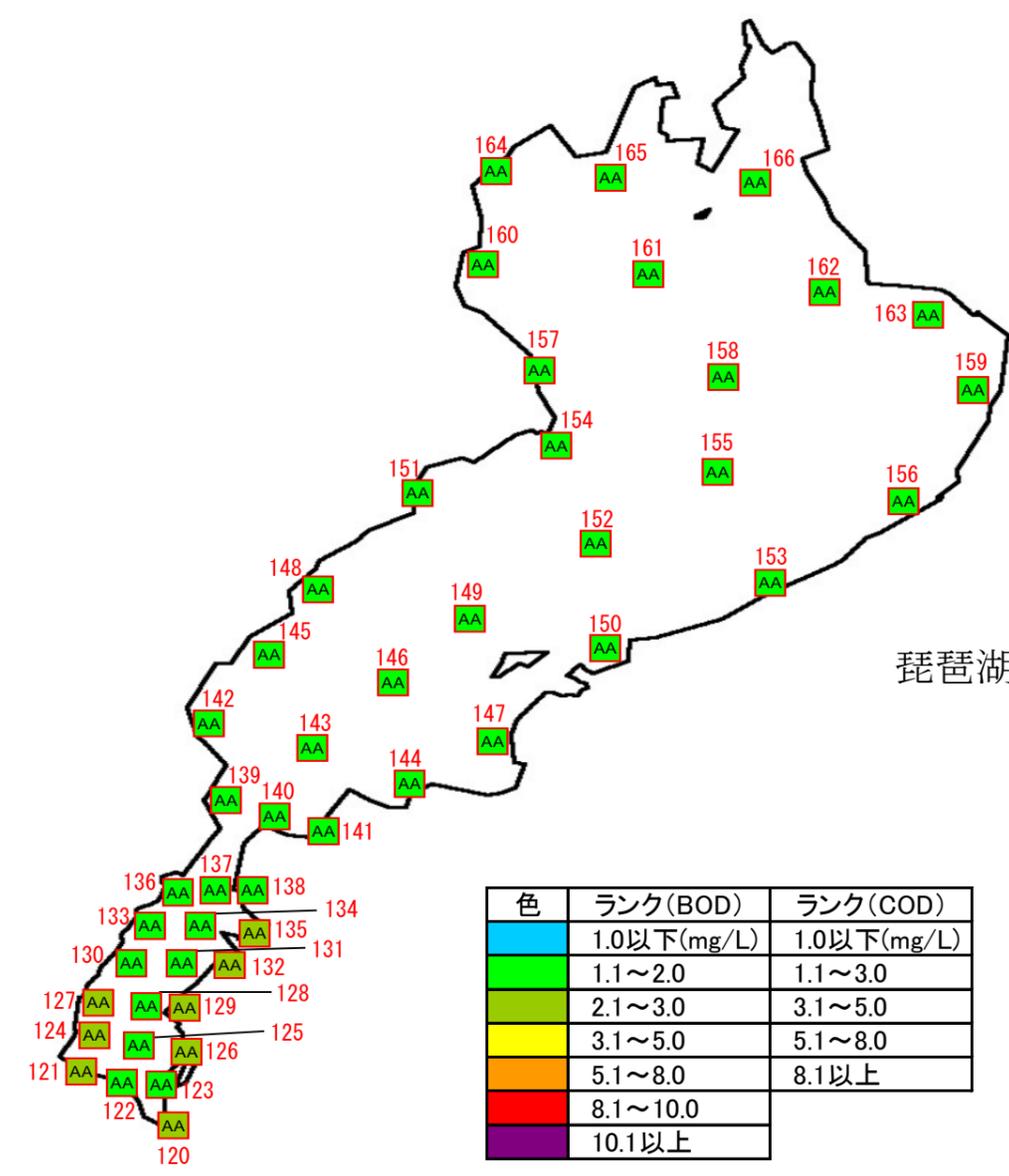
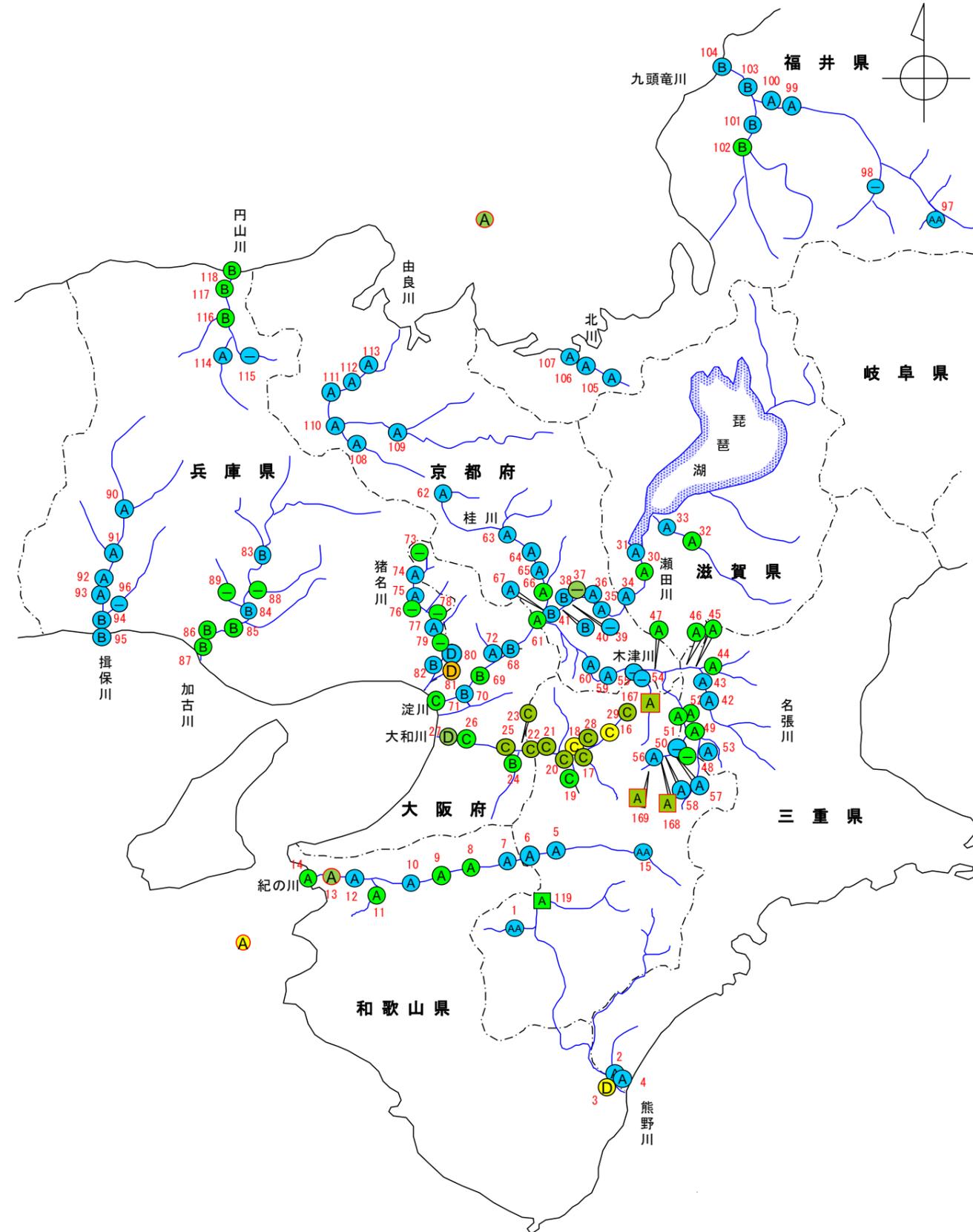
色	ランク (BOD75%値)	ランク (COD75%値)
■	1.0mg/L以下	1.0mg/L以下
■	1.1~2.0	1.1~3.0
■	2.1~3.0	3.1~5.0
■	3.1~5.0	5.1~8.0
■	5.1~8.0	8.1以上
■	8.1~10.0	
■	10.1以上	

類型	河川 (BOD)	湖沼 (COD)
AA	1mg/L以下	1mg/L以下
A	2mg/L以下	3mg/L以下
B	3mg/L以下	5mg/L以下
C	5mg/L以下	8mg/L以下
D	8mg/L以下	
E	10mg/L以下	
—	類型未指定	

- 内の色はBOD75%値のランクを指す。
- 内の色はCOD75%値のランクを指す。
- 及び□内の記号は、環境基準の類型である。
- 及び□は環境基準を満足していない地点である。
- 数字は参考資料5に示す調査地点である。



参考資料 7 (6) 平成27年一級河川の水質状況図 (近畿)

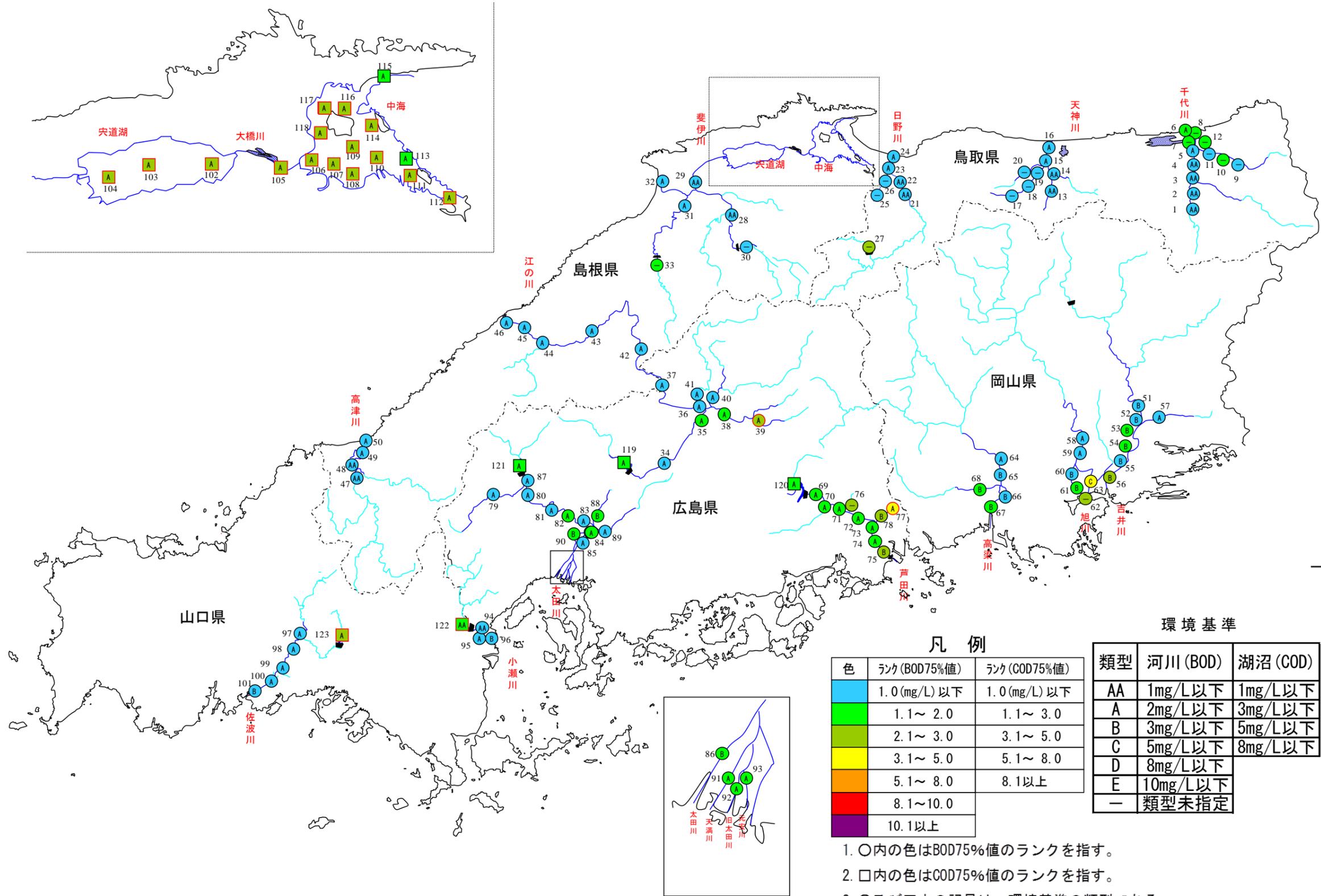


色	ランク(BOD)	ランク(COD)
青	1.0以下(mg/L)	1.0以下(mg/L)
緑	1.1~2.0	1.1~3.0
黄緑	2.1~3.0	3.1~5.0
黄	3.1~5.0	5.1~8.0
赤	5.1~8.0	8.1以上
紫	8.1~10.0	
	10.1以上	

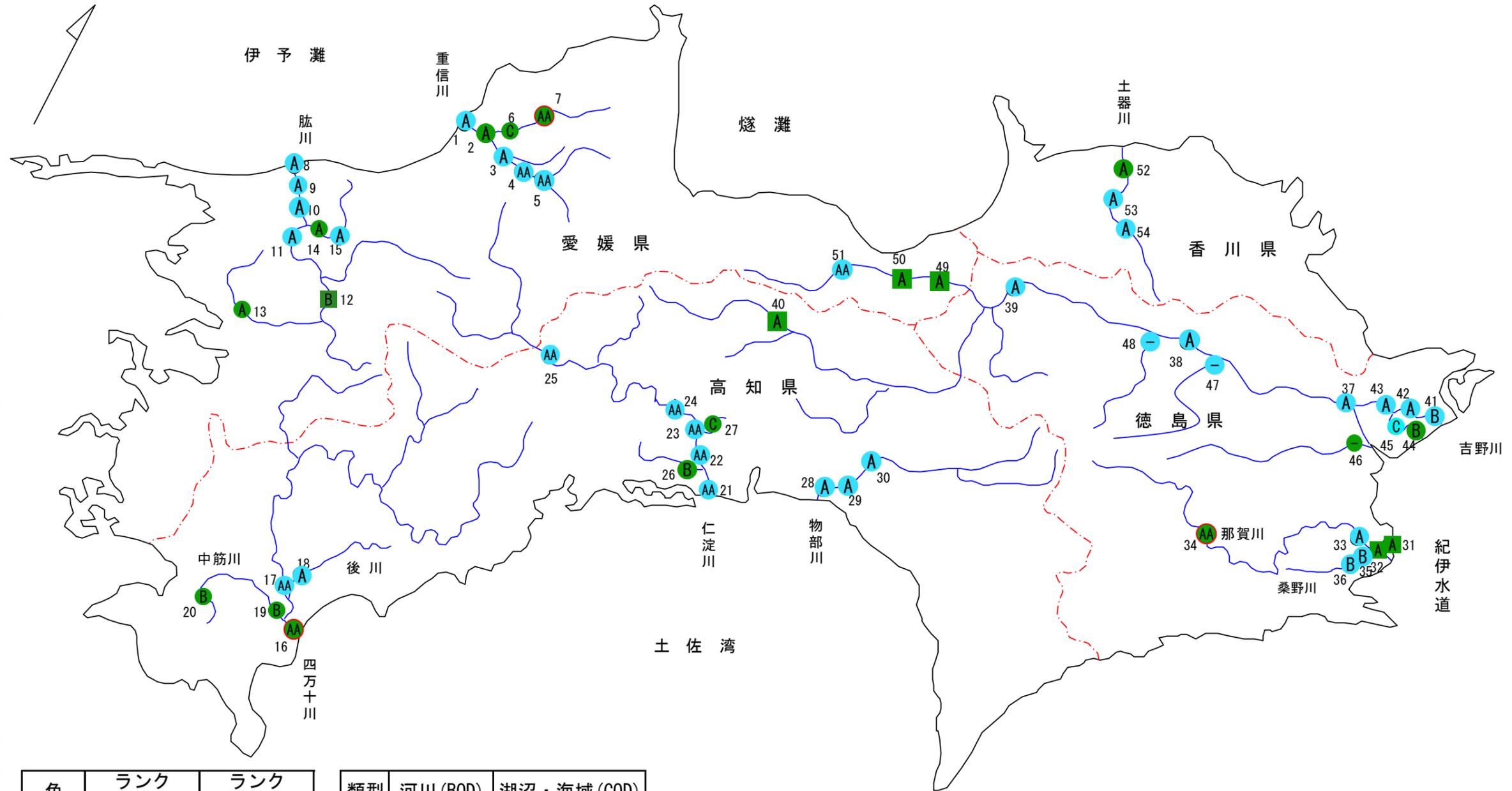
類型	河川(BOD)	湖沼(COD)
AA	1mg/L以下	1mg/L以下
A	2mg/L以下	3mg/L以下
B	3mg/L以下	5mg/L以下
C	5mg/L以下	8mg/L以下
D	8mg/L以下	類型未指定
E	10mg/L以下	
—	類型未指定	

- 内の色はBOD75%値のランクを指す。
- 内の色はCOD75%値のランクを指す。
- 及び□内の記号は、環境基準の類型である。
- 及び□は環境基準を満足していない地点である。
- 数字は参考資料5に示す調査地点である。

参考資料 7 (7) 平成27年一級河川の水質状況図 (中国)



参考資料 7 (8) 平成27年一級河川の水質状況図 (四国)

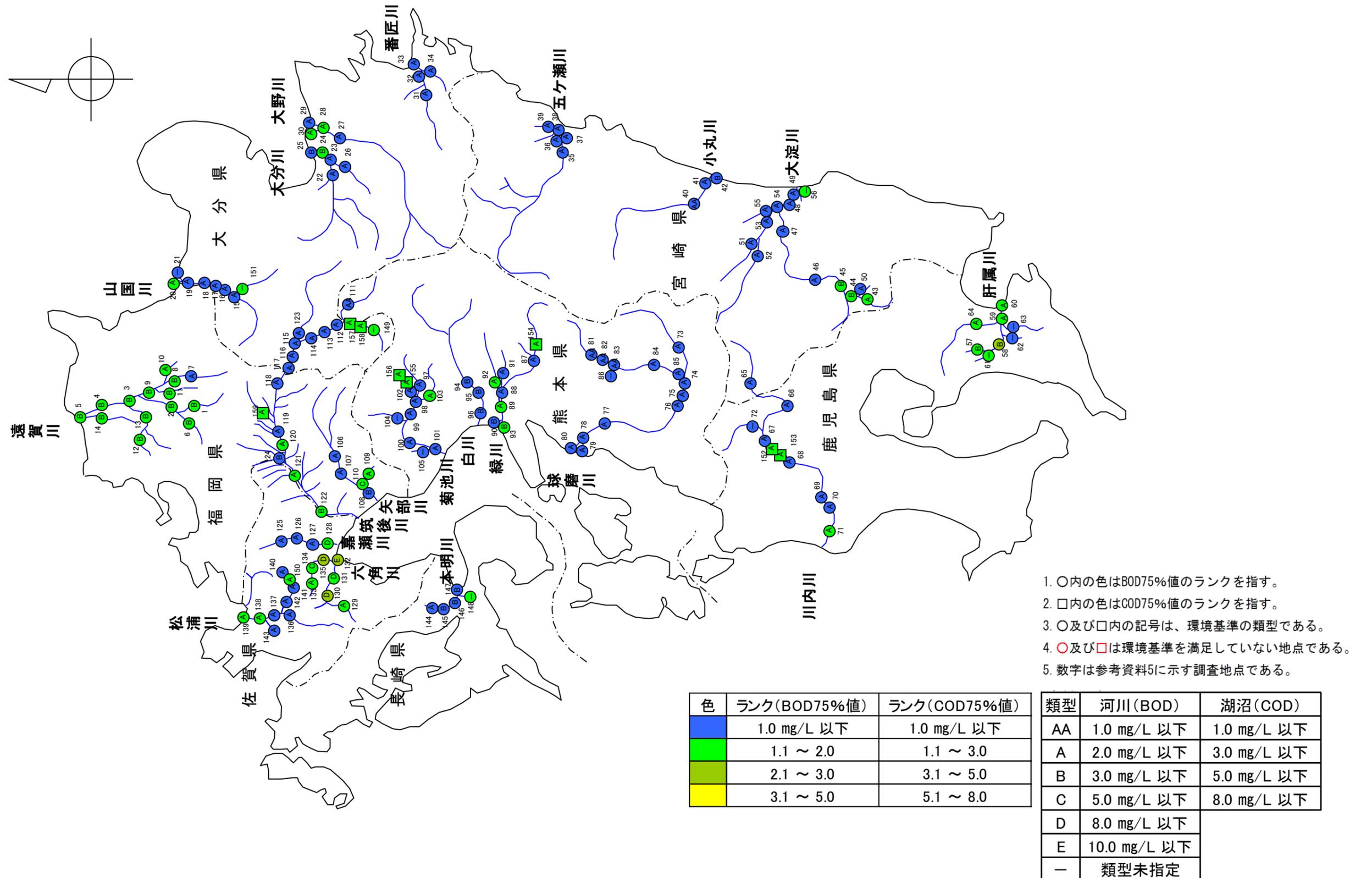


色	ランク (BOD75%値)	ランク (COD75%値)
青	1. 0mg/L以下	1. 0mg/L以下
緑	1. 1~2. 0	1. 1~3. 0
黄緑	2. 1~3. 0	3. 1~5. 0
黄	3. 1~5. 0	5. 1~8. 0
橙	5. 1~8. 0	8. 1以上
赤	8. 1~10. 0	
紫	10. 1以上	

類型	河川 (BOD)	湖沼・海域 (COD)
AA	1mg/L以下	1 (-)mg/L以下
A	2mg/L以下	3 (2)mg/L以下
B	3mg/L以下	5 (3)mg/L以下
C	5mg/L以下	8mg/L以下
D	8mg/L以下	( )は海域
E	10mg/L以下	
-	類型未指定	

- 内の色はBOD75%値のランクを指す。
- 内の色はCOD75%値のランクを指す。
- 及び□内の記号は、環境基準の類型である。
- 及び□は環境基準を満足していない地点である。
- 数字は参考資料5に示す調査地点である。

参考資料 7 (9) 平成27年一級河川の水質状況図 (九州)



参考資料 8 (1) 新しい水質指標(河川)による年間の総合評価(1/7)

地整局 開発局	水系名	河川名	地点名	年間の総合評価ランク			
				人と河川 の 豊かな ふれあい	豊かな 生態系	利用しや すい 水質	
北海道	天塩川	天塩川	土別橋上流	C	A	-	
			中土別橋	-	-	A	
			名寄大橋	-	-	A	
		名寄川	日進橋上流	B	A	-	
			真敷別頭首工	-	-	A	
		雄信内川	間寒別川kp8.6	C	A	-	
	雄信内川kp2.0		B	A	-		
	渚滑川	渚滑川	ウツツ橋	C	A	A	
	湧別川	湧別川	遠軽橋	A	A	-	
	常呂川	常呂川	若松橋	B	A	-	
			金比羅橋	-	-	A	
	網走川	網走川	大正橋	A	A	-	
	留萌川	留萌川	橋橋	B	A	-	
			幌糠水辺の楽校	D	A	-	
	石狩川	雨童川	沼田大橋下流	C	A	-	
			漁川	B	A	-	
		空知川	空知大橋下流	C	-	-	
			空知大橋	-	-	A	
		石狩川	永山橋	B	A	A	
			納内橋上流	B	B	-	
		千歳川	新江別橋	-	-	C	
		忠別川	神楽岡公園	B	A	-	
			東神楽橋	-	-	A	
		豊平川	幌平橋下流	夕張川	B	A	-
	馬追橋			-	-	A	
	尻別川	尻別川	豊国橋下流(ランラン公園地先)	B	A	-	
			名駒	-	-	-	
	後志利別川	後志利別川	花石	A	-	-	
			兜野橋(河口)	B	A	-	
			今金橋	A	A	-	
			住吉	A	A	-	
	鶴川	鶴川	穂別橋	B	A	-	
	沙流川	沙流川	長知内橋	A	A	-	
	釧路川	釧路川	標茶水辺の楽校	B	A	-	
			愛国浄水場取水口	-	-	C	
	十勝川	札内川	札内橋	A	A	-	
			南帯橋	-	-	A	
			十勝大橋	B	A	-	
	東北	岩木川	岩木川	弘前水辺プラザ	C	-	-
				乾橋	-	-	C
				上岩木橋	-	-	A
		馬淵川	馬淵川	水辺の楽校	C	-	-
		北上川	江合川	桜の目橋	-	-	-
				北上川	藤橋	B	A
			北上川	紫波橋	D	A	-
				南大橋	-	-	-
				金ヶ崎橋	-	-	A
北上大橋				-	-	-	
朝日橋		-	-	A			
鳴瀬川		吉田川	高田橋	-	-	-	
名取川		名取川	名取川鉄道橋	C	B	-	
			阿武隈川	天神橋	C	-	-
阿武隈川		阿武隈川	丸森橋	C	A	-	
			阿久津	-	-	C	
			丸森	-	-	B	
			黒岩	-	-	C	
			米代川	米代川	栄地内	B	A
米代川		米代川	稗川原	B	A	-	
			大林地区	B	A	-	
			十二所	-	-	A	
			二ッ井	-	-	A	
			雄物川	雄物川	雄物川橋	-	-
最上川		金山川	岳見橋	-	-	-	
			最上川	水辺の楽校	C	A	-
		最上川	平柳橋下流	C	A	-	
			長井橋上流	B	A	-	
			本合海	C	A	-	
		砂越	-	-	B		
		鮭川	戸沢橋	C	A	-	
丹生川		丹生川大橋	C	A	-		

参考資料 8 (1) 新しい水質指標(河川)による年間の総合評価(2/7)

地整局 開発局	水系名	河川名	地点名	年間の総合評価ランク		
				人と河川 の 豊かな ふれあい	豊かな 生態系	利用しや すい 水質
東北	最上川	立谷沢川	東雲橋	C	A	-
		赤川	羽黒橋	C	A	-
関東	久慈川	久慈川	富岡橋	A	B	A
		山田川	東橋	C	B	-
		里川	機初橋	B	A	-
	那珂川	那珂川	那珂川大橋下流	C	A	-
			野口	A	-	A
			那珂川町小川地先(新那珂橋跡)	B	B	-
			下国井	-	-	A
	利根川	綾瀬川	内匠橋	-	C	-
			岩倉橋	D	B	A
			岩鼻	-	-	-
			高松	-	-	-
		碓氷川	高松	C	B	B
			新川島国道橋	A	A	-
		江戸川	運河橋	-	-	-
			関宿橋	-	-	-
			東西線鉄橋下	-	-	-
			野田橋	-	-	-
			流山橋	-	-	A
			江戸川水門(上)	-	-	-
			新葛飾橋	-	-	A
			矢切取水場	-	-	A
			小貝川	中郷	C	-
		三谷橋		B	B	-
		神流川		神流川橋	B	B
		神流川	藤武橋	B	B	A
			坂本沢合流後	A	A	-
		男鹿川	高砂橋	-	C	-
			潮止橋	-	C	-
			八条橋	-	-	C
			飯塚橋	-	-	C
		渡良瀬川	葉鹿橋(右岸)	B	A	-
			赤岩用水取水口	B	A	A
		利根運河	運河橋	B	-	-
		利根川	河口堰	-	A	-
	木下		-	B	-	
	金江津		-	B	-	
	水郷大橋		C	B	C	
	須賀		-	B	-	
	銚子大橋		D	A	-	
	取手		C	-	-	
布川	C		B	C		
流水保全水路	ふれあい松戸川	C	-	-		
荒川	越辺川	落合橋(越)	C	-	C	
	荒川	開平橋	C	-	B	
		久下橋	B	-	-	
		御成橋	C	-	-	
		治水橋	C	-	-	
		正喜橋	A	-	B	
		秋ヶ瀬橋堰(上)	C	-	B	
	高麗川	高麗川大橋	A	-	-	
	小畔川	とげ橋	B	-	C	
	都幾川	東松山橋	B	-	-	
	入間川	入間大橋	C	-	C	
		落合橋(入)	B	-	A	
	多摩川	浅川	鶴巻橋	C	B	-
高幡橋			B	B	-	
多摩川		調布橋	A	A	A	
		永田橋	B	B	-	
		拝島橋	B	A	B	
		多摩川原橋	C	C	-	
		多摩水道橋	C	D	B	
		新二子橋	C	B	-	
鶴見川	鶴見川	亀の子橋	C	D	-	
相模川	相模川	神川橋	B	D	-	
富士川	笛吹川	鶉飼橋	-	-	-	
	富士川	富山橋	-	-	-	
		富士川橋	D	A	-	
		南部	A	C	-	

参考資料 8 (1) 新しい水質指標(河川)による年間の総合評価(3/7)

地整局 開発局	水系名	河川名	地点名	年間の総合評価ランク				
				人と河川 の 豊かな ふれあい	豊かな 生態系	利用しや すい 水質		
関東 北陸	富士川	富士川	富士橋	-	-	C		
	荒川	荒川	温泉橋	-	-	-		
			荒川橋	-	-	-		
			荒川取水堰	-	-	-		
			馬越橋	-	-	A		
	阿賀野川	阿賀野川	馬下	-	-	-		
	信濃川	魚野川	小出橋	A	B	-		
			犀川	-	-	B		
			信濃川	C	B	-		
			長生橋	D	B	-		
			十日町橋	D	B	-		
			平成大橋	-	-	B		
			信濃川下流	信濃川取水塔	-	-	B	
			千曲川	屋島橋	C	A	-	
			生田	-	-	B		
	関川	関川	今池橋	B	A	-		
	姫川	姫川	濁澄川合流点	B	A	-		
	黒部川	黒部川	下黒部橋	A	A	-		
	常願寺川	常願寺川	常願寺大橋	A	A	-		
	神通川	神通川	神通大橋	B	A	-		
	庄川	庄川	大門大橋	A	A	-		
	小矢部川	小矢部川	国条橋	B	C	-		
	手取川	手取川	水辺の楽校(西部拠点)	B	A	-		
			辰口橋	-	-	-		
	梯川	梯川	中海大橋下流	B	A	-		
			鴨浦橋	-	-	-		
中部	狩野川	黄瀬川	黄瀬川橋	C	-	-		
			柿田川	柿田橋	-	-	A	
			狩野川	黒瀬橋	-	A	-	
				大仁橋	B	-	A	
				千歳橋	B	-	-	
	来光川	来光川	蛇ヶ橋	-	-	-		
			安倍川	B	A	-		
			曙橋	-	-	A		
	蘆科川	牧ヶ谷橋	A	A	-			
	大井川	大井川	神座	C	A	-		
	天竜川	虻川	新虻川橋	A	A	-		
			横川川	A	A	-		
			三峰川	B	A	-		
			松川	A	A	-		
			前沢川	A	A	-		
			太田切橋	A	A	-		
			天竜川	伊那路橋	伊那路橋	B	A	-
					駒見大橋	B	A	-
					天の中川橋	B	A	-
					天竜橋	C	A	-
					平成大橋	B	A	-
					明神橋	C	A	-
	豊川	豊川	当古橋	B	B	A		
			吉田大橋	B	B	-		
			江島	B	B	-		
			江島橋	-	-	A		
			石田	-	-	A		
	矢作川	矢作川	明治頭首工	B	B	-		
			岩津天神橋	B	A	A		
			木戸	B	B	-		
			明治用水頭首工	-	-	A		
			中畑橋	-	-	-		
			米津	-	-	-		
	庄内川	庄内川	大留橋	-	-	-		
			天ヶ橋	-	-	-		
			枇杷島橋	-	-	-		
			多治見	-	-	-		
	木曾川	伊自良川	天神橋	C	-	-		
			繰船橋	B	-	-		
			竹橋	B	-	-		
			杭瀬川	B	-	-		
			根尾川	A	-	-		
			多度川	-	-	-		
	長良川	鏡島大橋	A	-	-			

参考資料 8 (1) 新しい水質指標(河川)による年間の総合評価(4/7)

地整局 開発局	水系名	河川名	地点名	年間の総合評価ランク			
				人と河川 の 豊かな ふれあい	豊かな 生態系	利用しや すい 水質	
中部	木曾川	長良川	長良大橋	B	-	-	
			東海大橋	-	-	-	
			南濃大橋	-	-	-	
			藍川橋	A	A	A	
			忠節橋	A	B	-	
			伊勢大橋	-	-	A	
		木曾川	犬山橋	B	-	A	
			東海大橋	-	-	-	
			濃尾大橋	B	-	A	
			木曾川橋	B	-	-	
			犬山頭首工	A	A	-	
			平成川島橋	A	B	-	
		揖斐川	岡島橋	A	A	-	
			海津橋	-	-	-	
			鷺田橋	A	A	-	
	福岡大橋		-	-	-		
	鈴鹿川	安楽川	中富田	A	-	-	
			和泉橋	A	B	-	
		内部川	河原田橋	B	A	-	
			新矢矧橋	B	D	-	
		鈴鹿川	勸進橋	A	A	-	
			高岡橋	A	-	-	
			山下橋	B	A	-	
			小倉橋	C	B	-	
			庄野橋	A	B	-	
			鈴国橋	A	-	-	
			亀山橋	B	A	-	
			雲出川	C	-	A	
		雲出川	雲出川	雲出橋	C	-	A
				小戸木橋	B	A	-
	大仰橋			B	-	A	
	小野江頭首工			C	A	-	
	雲出川ラブリバー公園			D	D	-	
	榊田川	榊田川	小川橋	-	-	-	
			榊田橋	B	-	-	
			両郡橋	A	B	A	
			庄町	A	B	-	
			新屋敷取水堰	B	A	-	
		佐奈川	JR佐奈川橋梁	C	B	-	
		宮川	宮川	岩出	A	-	-
	度会橋			A	B	A	
	五十鈴川			B	A	-	
	近畿	九頭竜川	九頭竜川	福井大橋下流	B	A	-
				和泉支所前	A	A	-
				天池河川公園前	B	A	-
				鳴鹿橋上流	A	A	-
				九頭竜川上流	A	A	-
				中角	-	-	-
				石徹白川	前坂キャンプ場(前坂家族旅行村)	A	A
		北川	北川	高塚橋	B	A	-
三宅橋				B	A	-	
天徳寺橋				B	A	-	
高塚				-	-	-	
淀川		宇治川	宇治橋	B	B	A	
			宇治川御幸橋	-	-	A	
		桂川	渡月橋	C	B	A	
			宮前橋	-	-	B	
		瀬田川	信楽川・瀬田川合流点	B	A	A	
		猪名川	こんにやく橋	C	B	-	
			桑津橋	C	B	-	
			池田床岡下流	B	B	-	
			銀橋	-	-	A	
			軍行橋	-	-	A	
		木津川	木津川	恭仁大橋	B	B	-
				加茂恭仁大橋	-	-	A
				木津川御幸橋	-	-	A
		野洲川	野洲川大橋	B	B	A	
		淀川	淀川	鳥飼大橋	B	B	-
				鳥飼大橋(左岸)	-	-	A
菅原城北大橋	-			-	B		

参考資料 8 (1) 新しい水質指標(河川)による年間の総合評価(5/7)

地整局 開発局	水系名	河川名	地点名	年間の総合評価ランク			
				人と河川 の 豊かな ふれあい	豊かな 生態系	利用しや すい 水質	
近畿	大和川	大和川	河内橋	D	-	-	
			御幸大橋	C	C	-	
			浅香	C	-	-	
			藤井	C	-	-	
	紀の川	千手川	観音橋	C	B	-	
	新宮川	相野谷川	出世不動明王	A	A	-	
相野谷橋下流			A	A	-		
中国	千代川	千代川	行徳	-	-	-	
			袋河原	-	-	-	
	天神川	袋川	大杵	-	-	-	
			国府川	A	A	-	
			小鴨川	A	A	-	
	天神川	小鴨川	上小鴨水辺の楽校	A	A	-	
			小鴨橋	B	A	-	
			小田橋	B	A	-	
	日野川	日野川	竹田橋	B	A	-	
			伯耆橋	-	A	-	
			車尾堰下流	B	A	-	
	斐伊川	斐伊川	車尾	-	-	A	
			八幡	-	-	A	
			木次町水辺の楽校	A	B	-	
	江の川	江の川	祝橋下流	C	A	-	
			川戸	A	A	-	
			三島	A	B	-	
			都賀西	A	B	-	
			馬洗川	C	A	-	
	高津川	高津川	江の川	-	-	A	
			桜江大橋	-	-	A	
	吉井川	吉井川	神田	A	A	-	
			熊山橋	B	B	A	
			備前大橋	B	B	A	
			和気橋	C	A	A	
			金剛川	C	B	A	
	旭川	旭川	吉井川	-	-	A	
			弓削橋	-	-	A	
			坂根堰	-	-	A	
			新大原橋	B	B	-	
			乙井手堰	-	-	A	
	高梁川	高梁川	合同堰	-	-	A	
			相生橋	-	-	A	
			川辺橋	C	B	B	
			湛井堰	C	B	B	
			小田川	C	B	A	
	芦田川	芦田川	高梁川	-	-	A	
			霞橋	-	-	A	
			笠井堰	-	-	B	
			山手橋	B	B	-	
			小水呑橋	C	A	-	
			大井手頭首工	-	B	-	
			中津原取水堰	B	-	-	
			府中新橋	B	B	-	
			府中大渡橋	B	-	-	
			福戸橋	C	-	-	
		高屋川	高屋川	掛の橋	D	-	-
				出原橋	C	-	-
				鶴ヶ橋	D	-	-
				白鷺橋	-	C	-
砂川		砂川	中須大橋	C	-	-	
			瀬戸川	C	-	-	
太田川		太田川	瀬戸川	-	-	-	
			壬辰橋	B	A	-	
			矢口川上流	A	B	A	
			両国橋	A	A	A	
佐波川	佐波川	漆尾	B	A	A		
		新橋	B	A	A		
		堀	B	A	A		
		小野水辺の楽校	B	A	A		
四国	吉野川	鮎喰川	鮎喰	-	A	-	

参考資料 8 (1) 新しい水質指標(河川)による年間の総合評価(6/7)

地整局 開発局	水系名	河川名	地点名	年間の総合評価ランク			
				人と河川 の 豊かな ふれあい	豊かな 生態系	利用しや すい 水質	
四国	吉野川	吉野川	学島橋下流	B	A	-	
			高瀬橋	-	-	A	
			第十堰貯水池内	-	A	-	
			脇町潜水橋	-	-	-	
			牛屋島橋	-	-	-	
		旧吉野川	市場橋	-	-	A	
			大津橋	-	B	-	
			穴吹川	穴吹	-	-	-
		今切川	加賀須野橋	-	B	-	
			鯛浜堰上流	-	-	-	
	貞光川	貞光	-	-	-		
	土器川	土器川	丸亀大橋	C	A	-	
			高速道路橋	A	A	-	
			祓川橋	B	A	-	
			丸亀橋	-	-	A	
			常包橋	-	-	-	
	重信川	重信川	重信橋	B	B	-	
			出合橋	C	C	-	
			拝志大橋	B	C	-	
			中川原橋	C	C	-	
			山之内	A	A	-	
	渡川	後川	後川橋	B	A	A	
		四万十川	具同	A	A	A	
		中筋川	九樹橋	B	B	A	
九州	遠賀川	遠賀川	溝堀	C	B	-	
			笹尾川	笹尾川水辺の楽校	C	C	-
			彦山川	中島	-	-	C
	山国川	山国川	下唐原	B	B	A	
			柿坂	B	B	-	
			城井橋	B	B	-	
			上曾木	A	B	-	
			下宮永	A	B	-	
	跡田川	跡田川	A	A	-		
	筑後川	筑後川	台霧の瀬	B	A	-	
			大山水辺プラザ	A	A	-	
			三隈大橋	-	-	A	
			瀬ノ下	-	-	A	
			島内堰	-	-	A	
	宝満川	酒井東橋	-	-	A		
	矢部川	矢部川	船小屋	B	A	-	
	松浦川	厳木川	町切堰	B	A	-	
			厳木コミュニティーセンター	B	A	-	
			大黒堰	C	B	-	
	松浦川	松浦川	桃の川親水公園	B	B	-	
			久里橋	-	-	A	
			六角川	ほたる川	B	A	-
	六角川	ほたる川	ほたる川	B	A	-	
			妙見橋	C	A	-	
		牛津川	羽佐間堰	-	-	B	
			武雄川	武雄川	C	A	-
			六角川	神六川	B	B	-
	嘉瀬川	嘉瀬川	潮見橋	-	-	A	
	嘉瀬川	嘉瀬川	石井橋	B	B	-	
			嘉瀬橋	-	-	B	
			官人橋	-	-	B	
	本明川	本明川	四面橋	C	A	-	
			公園橋	C	A	-	
			裏山橋	C	A	-	
	菊池川	菊池川	中富	B	A	-	
			白石	-	-	A	
	白川	白川	子飼橋	C	-	-	
			代継橋	C	-	-	
	緑川	緑川	中甲橋	B	A	-	
			津志田	A	A	-	
球磨川	芋川	吐合橋	A	A	-		
		球磨川	球磨大橋上流	C	A	-	
	球磨川	中川原公園	A	A	-		
		横石	-	-	A		
	山田川	五十鈴橋	C	A	-		
	川辺川	構造改善センター横	A	A	-		
油谷川	油谷川合流前	A	A	-			

参考資料 8 (1) 新しい水質指標(河川)による年間の総合評価(7/7)

地整局 開発局	水系名	河川名	地点名	年間の総合評価ランク			
				人と河川 の 豊かな ふれあい	豊かな 生態系	利用しや すい 水質	
九州	大分川	大分川	府内大橋	C	A	A	
	大野川	大野川	乙津川	水辺の楽校	C	B	-
			白滝橋	B	B	A	
	番匠川	番匠川	笠掛水辺の楽校	B	-	-	
			上岡	B	A	-	
			森下橋	A	-	-	
			池船スポーツ公園	B	B	-	
			番匠公園	C	A	-	
			番匠橋	-	-	A	
			五ヶ瀬川	五ヶ瀬川	三輪	C	A
	五ヶ瀬川	五ヶ瀬川	松山橋	-	-	-	
			祝子川	桑平橋	A	A	-
			小川	永代橋	B	A	-
			大瀬川	大瀬橋	B	A	-
			友内川	リバーパル	-	-	-
	小丸川	小丸川	竹鳩橋下流	A	A	-	
			高城橋上流	B	A	-	
			高城橋	-	-	A	
	大淀川	大淀川	浦ノ名合流点	C	B	-	
			相生橋	-	-	A	
		本庄川	本庄橋下流	B	B	-	
			本庄橋	-	-	A	
	川内川	えんず川	きらら温泉付近	B	A	-	
			高城川	妹瀬橋下流	C	B	-
		川内川	斧淵	-	-	A	
		長江川	加久藤中学校付近	B	A	-	
		白川川	永池橋下流	B	B	-	
	肝属川	始良川	鶴峰橋	B	A	-	
			肝属川	鹿屋小前	C	C	-
		高山川	大脇床止	B	A	-	
木須川			木須川	C	B	-	

参考資料 8 (2) 新しい水質指標 (湖沼) による年間の総合評価

地整局 開発局	水系名	湖沼名	調査地点名	年間の総合評価ランク			
				人と湖沼の 豊かな ふれあい	豊かな生態系		利用しやすい 水質
					水質	生物	
北海道	網走川	網走湖	女満別キャンプ場	C	A	C	-
東北	高瀬川	小川原湖	小川原湖No.H	-	D	-	-
			高瀬橋	-	-	-	-
	阿武隈川	三春ダム	基準地点	-	A	-	C
		摺上川ダム	基準地点	-	A	-	C
岩木川	浅瀬石川ダム	ダムサイト	-	-	-	A	
関東	利根川	手賀川 霞ヶ浦	布佐下	C	-	-	C
			沖宿	B	A	-	C
			西の州沖	-	-	-	C
			釜谷沖	-	-	-	C
			神宮橋	-	-	-	C
中部	都田川	佐鳴湖	①漕艇場	C	A	D	-
			②入野漁協船着場	C	A	B	-
			③接触酸化施設	C	A	B	-
			④佐鳴八景歌碑	C	A	B	-
			⑤西岸時計塔前	C	A	B	-
近畿	真名川	真名川ダム湖	中島公園 (麻那姫青少年 旅行村)	-	-	-	-
中国	斐伊川	宍道湖	斐川なぎさ公園	B	-	-	-
		中海	本庄水辺の楽校	B	-	-	-
九州	山国川	耶馬溪ダム	YL-1	A	C	-	-
	菊池川	斑蛇口湖	ポート場艇庫	A	-	-	-
	松浦川	さよの湖 (厳木ダム)	K-1	A	A	-	A
			K-2	A	A	-	-
	川内川	大鶴湖	基準点1	-	A	-	-
			基準点3	-	A	-	-